

男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

令和元年 11 月
昭島市

はじめに

昭島市では、性別や世代を超え、一人ひとりがいきいきと輝く男女共同参画社会の実現を目指して、さまざまな取組を進めています。

平成 15 年 1 月 1 日に昭島市男女共同参画都市宣言をおこない、平成 23 年に、本市としては第 3 期目となる「昭島市男女共同参画プラン」を策定し、ワーク・ライフ・バランスの推進とDV被害者支援対策の強化のほか、地域における男女共同参画の推進を重点事項として、市民の皆様とともに、一人ひとりがいきいきと暮らせるまちづくりを進めています。

また、国におきましては、平成 27 年に女性の採用・登用・能力開発等のための行動計画の策定を事業主に義務付ける、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（平成 27 年法律第 64 号。「女性活躍推進法」）が成立し、男女共同参画の実現に向けた取組は新たな段階に入っています。

こうした中、「昭島市男女共同参画プラン」の計画期間が令和 2 年度に満了しますことから、これまでの取組を更に充実させるとともに、令和 3 年度以降の新たなプラン策定の基礎資料とするために「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施いたしました。調査の結果は、次期プランの策定及び今後、施策を推進していく上で有効に活用してまいりたいと考えています。

最後になりましたが、本調査にご協力をいただきました市民の皆様に、心からお礼申し上げます。

令和元年 11 月

昭島市長 臼 井 伸 介

目次

第1章 調査の概要.....	1
1. 調査実施の目的.....	3
2. 調査方法と回収状況.....	3
3. 調査項目	3
4. 調査結果を見る上での注意事項.....	3
第2章 調査結果の詳細.....	5
1. 回答者の属性.....	7
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 職業 回答者本人	7
(4) 結婚状況	8
(5) 職業 配偶者・パートナー	8
(6) 子どもの有無	8
(7) 家族構成	9
(8) 同居要介護者の有無	9
2. 家庭生活と社会生活の両立について.....	10
(1) 家庭生活の優先度（希望）	10
(2) 家庭生活の優先度（現状）	12
(3) 生活にかかる時間.....	14
(4) 男女ともに「ワーク・ライフ・バランス」を実現するために重要なこと	17
3. 家庭生活について	19
(1) 男女の仕事・家事・育児の望ましい役割分担	19
(2) 現在の家事分担の実態	21
4. 子育て・介護について	31
(1) 子育て・教育をしている人.....	31
(2) 育児休業取得の有無	32
(3) 安心して子どもを生み育てられる社会にするために必要なこと.....	34
(4) 少子化の原因	37
(5) 男女共同参画社会の実現に向け学校に望むこと	40
(6) 介護している人.....	42
(7) 介護休業取得の有無	44
5. 就労について	46
(1) 勤務先の職場環境.....	46
(2) 現在の勤務形態を選んだ理由	50
(3) 女性の理想の働き方	52
(4) 女性が働く上での障害	55

(5) 再就職の際に役立つと思うもの	59
(6) 男女がともに働きやすい環境をつくるために重要なこと	62
6. 地域活動について	66
(1) 参加している・したことのある活動	66
(2) 地域活動における男女共同参画をすすめるために必要なこと	69
7. 人権について	71
(1) セクシュアル・ハラスメントの被害の内容	71
(2) パートナーからの暴力の有無	78
(3) 暴力についての相談の有無・相談相手・相談しなかった理由	86
(4) 暴力の防止や被害者の支援のために必要な対策	89
(5) 女性の生涯を通じた健康に関して大切なこと	91
(6) 自身や身近な人の性に関する悩みについて	93
(7) 性の悩みに関しての相談の有無・相談相手・相談しなかった理由	95
(8) 性的マイノリティの人権を守るために必要な施策	97
8. 男女共同参画事業について	99
(1) 男女共同参画事業の進捗状況	99
(2) 男女共同参画に関する法律や用語の認知状況	105
(3) 昭島市の事業の認知状況	110
(4) 男女共同参画センターで重点的に行うべきこと	113
(5) 男女共同参画社会の実現のために市に推進してもらいたいこと	115
(6) 男女平等や男女共同参画に関する意見、要望	118

第3章 調査票	123
---------------	-----

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

男女平等に関する意識と実態を総合的に把握し、次期男女共同参画プランを策定並びに男女共同参画施策を検討する上での基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査方法と回収状況

調査地域：昭島市全域

調査対象：昭島市在住の満 18 歳以上の男女

標 本 数：2,000 人（男女各 1,000 人）

抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出（層化二段無作為抽出法）

調査方法：郵送配布－郵送回収

調査期間：令和元年 7 月 29 日（月）～ 8 月 14 日（水）

回収結果

発送数	回収数	回収率
2,000 件	865 件	43.3%

3. 調査項目

1. 回答者属性
2. 家庭生活と社会生活の両立について
3. 家庭生活について
4. 子育て・介護について
5. 就労について
6. 地域活動について
7. 人権について
8. 男女共同参画事業について

4. 調査結果を見る上での注意事項

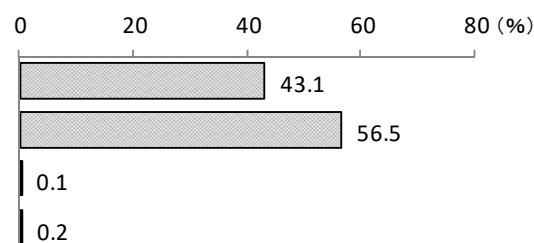
- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位まで表示した。従って、単数回答（1 つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて 100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2 つ以上選んでよい問）においては、%の合計が 100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が 30 未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向をみるにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査結果の詳細

1. 回答者の属性

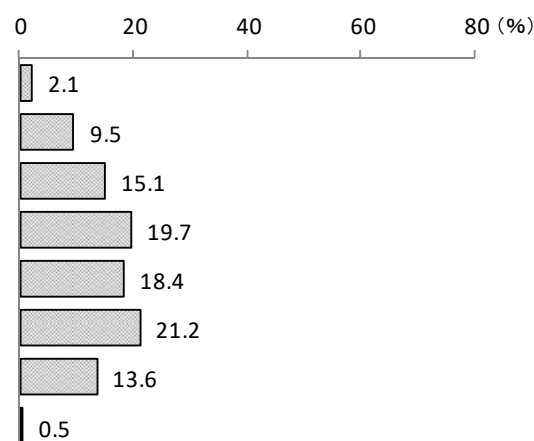
(1) 性別

	基数	構成比
男性	373	43.1%
女性	489	56.5%
上記以外	1	0.1%
無回答	2	0.2%
全体	865	100.0%



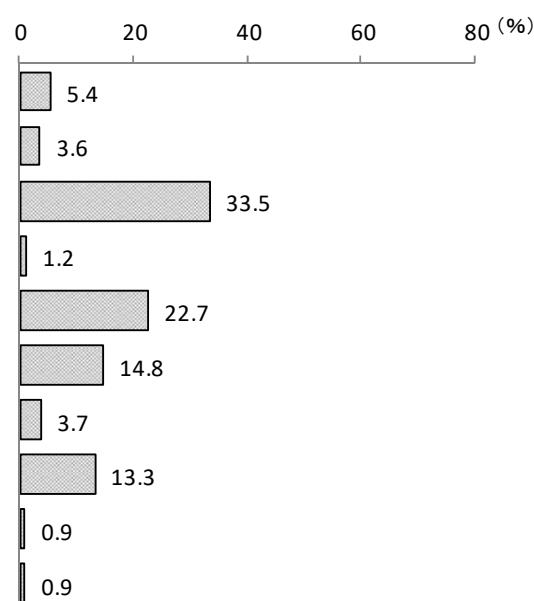
(2) 年齢

	基数	構成比
10代	18	2.1%
20代	82	9.5%
30代	131	15.1%
40代	170	19.7%
50代	159	18.4%
60代	183	21.2%
70歳以上	118	13.6%
無回答	4	0.5%
全体	865	100.0%



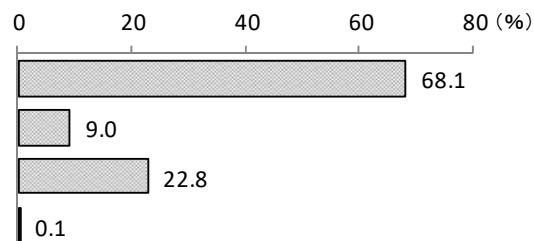
(3) 職業 回答者本人

	基数	構成比
自営業・家族従業員	47	5.4%
会社役員、団体役員	31	3.6%
正社員、正職員	290	33.5%
労働者派遣事業所の派遣社員	10	1.2%
パート、アルバイト、契約社員（学生は除く）	196	22.7%
専業主婦・主夫	128	14.8%
学生	32	3.7%
無職	115	13.3%
その他	8	0.9%
無回答	8	0.9%
全体	865	100.0%



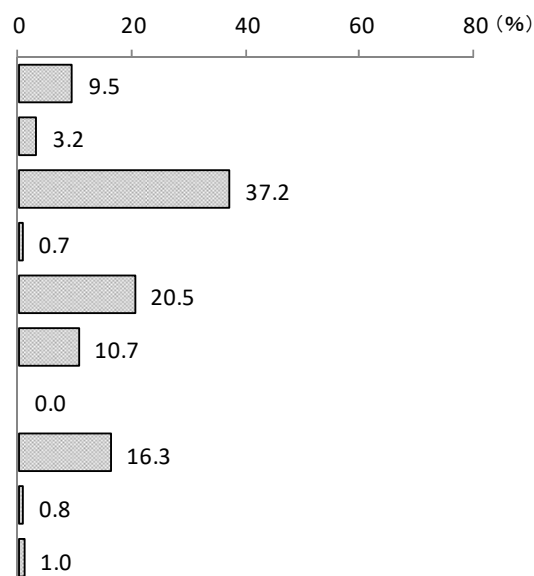
(4) 結婚状況

	基数	構成比
している（事実婚含む）	589	68.1%
していた（離別・死別）	78	9.0%
していない（未婚）	197	22.8%
無回答	1	0.1%
全体	865	100.0%



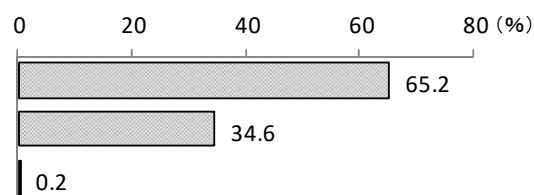
(5) 職業 配偶者・パートナー

	基数	構成比
自営業・家族従業員	56	9.5%
会社役員、団体役員	19	3.2%
正社員、正職員	219	37.2%
労働者派遣事業所の派遣社員	4	0.7%
パート、アルバイト、契約社員（学生は除く）	121	20.5%
専業主婦・主夫	63	10.7%
学生	0	0.0%
無職	96	16.3%
その他	5	0.8%
無回答	6	1.0%
全体	589	100.0%



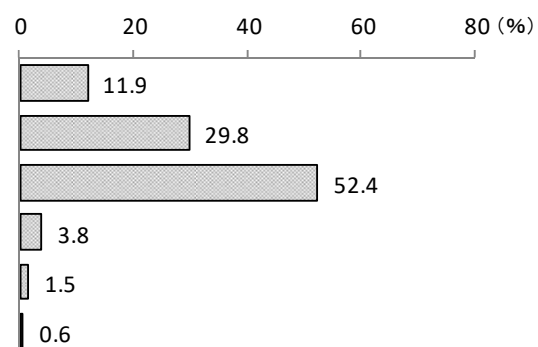
(6) 子どもの有無

	基数	構成比
いる	564	65.2%
いない	299	34.6%
無回答	2	0.2%
全体	865	100.0%



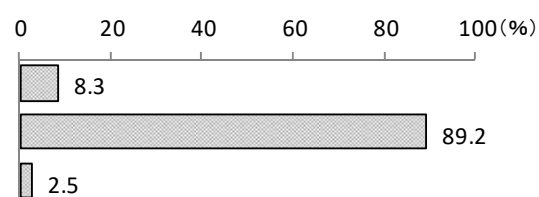
(7) 家族構成

	基数	構成比
単身世帯（ひとり住まい）	103	11.9%
1世代世帯（夫婦や事実婚）	258	29.8%
2世代世帯（親＋子ども）	453	52.4%
3世代世帯（親＋子ども＋孫）	33	3.8%
その他	13	1.5%
無回答	5	0.6%
全体	865	100.0%



(8) 同居要介護者の有無

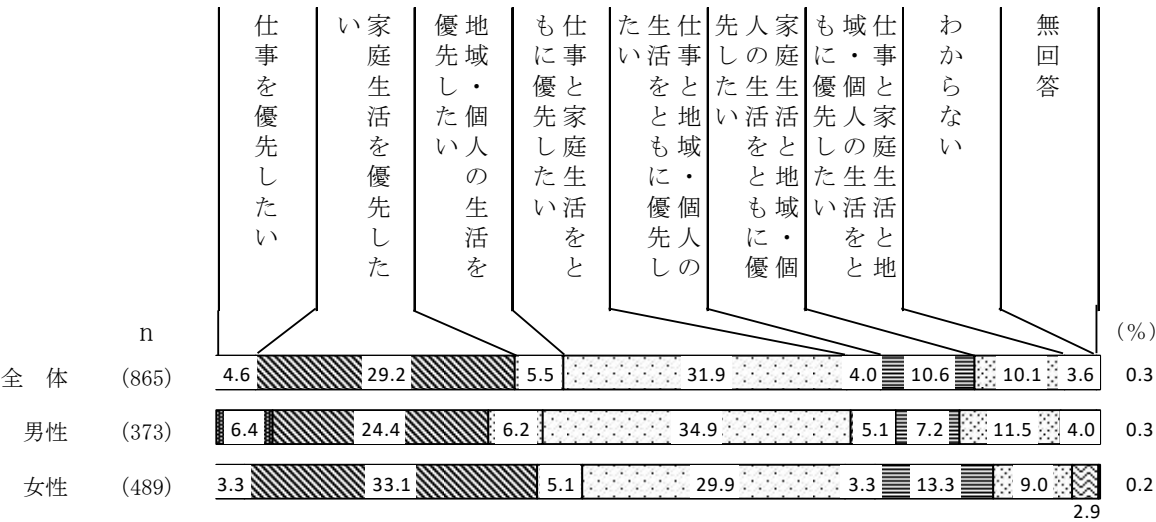
	基数	構成比
いる	63	8.3%
いない	675	89.2%
無回答	19	2.5%
全体	757	100.0%



2. 家庭生活と社会生活の両立について

(1) 家庭生活の優先度（希望）

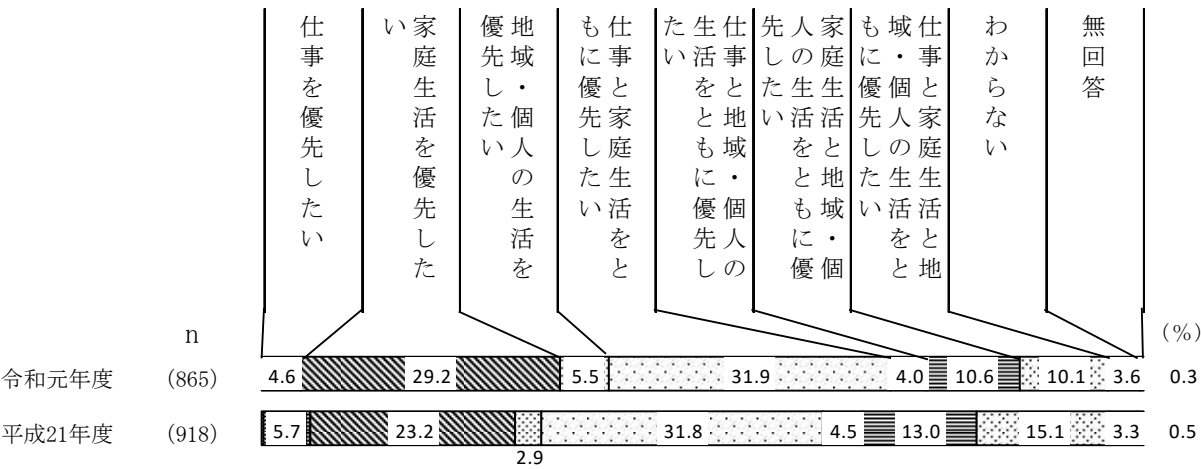
問1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活において、あなたが優先させたいものを1つ選んでください。



家庭生活の優先度（希望）について尋ねたところ、「仕事と家庭生活をともに優先したい」が31.9%で最も多い。次いで、「家庭生活を優先したい」が29.2%、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が10.6%となっている。

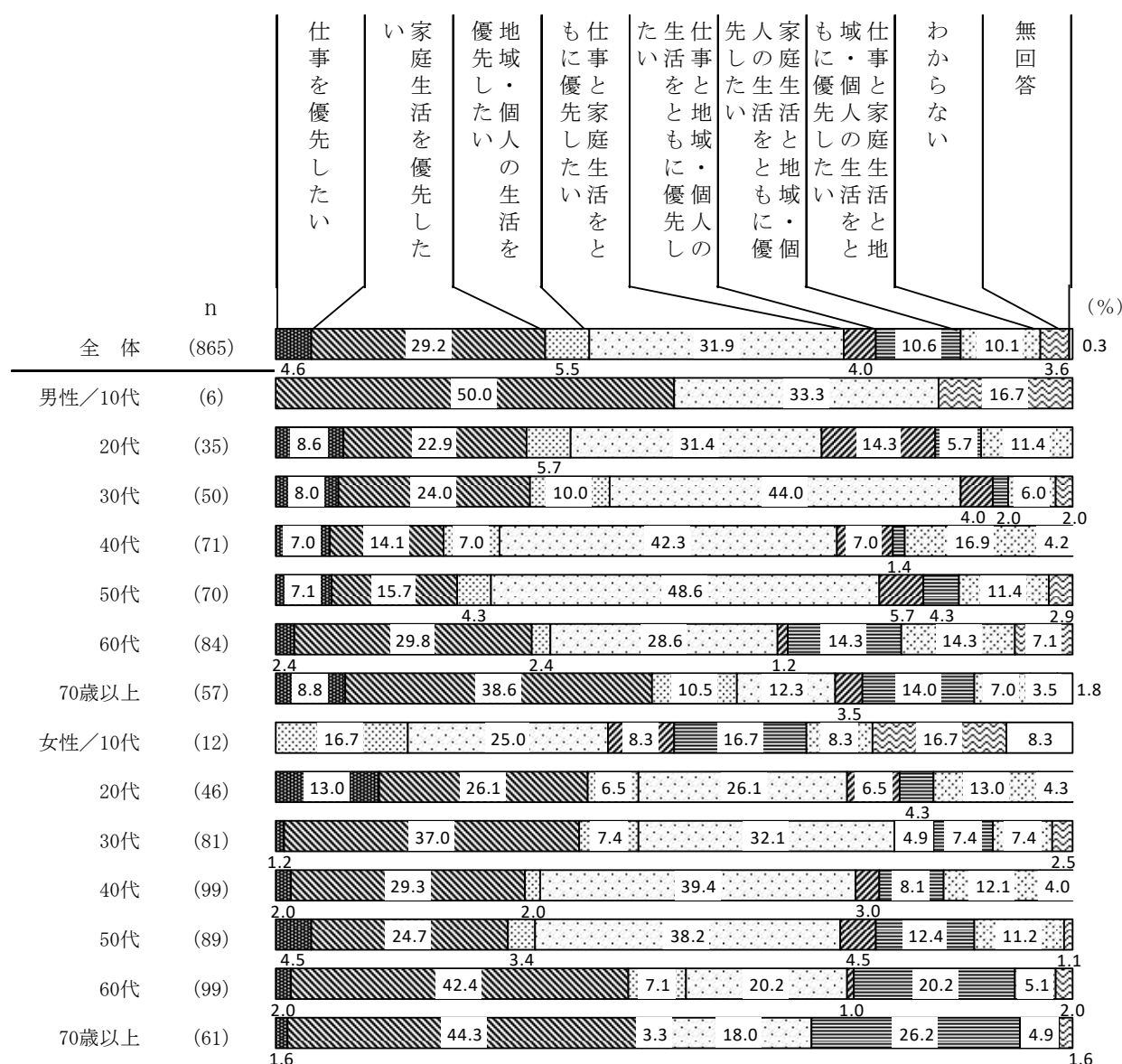
性別でみると、女性では「家庭生活を優先したい」が33.1%と、男性の24.4%を上回っている。また、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が13.3%と、男性の7.2%を上回っている。

経年比較



平成21年度の調査と比較すると、「家庭生活を優先したい」が増加しており、「仕事を優先したい」は1.1ポイント減少している。

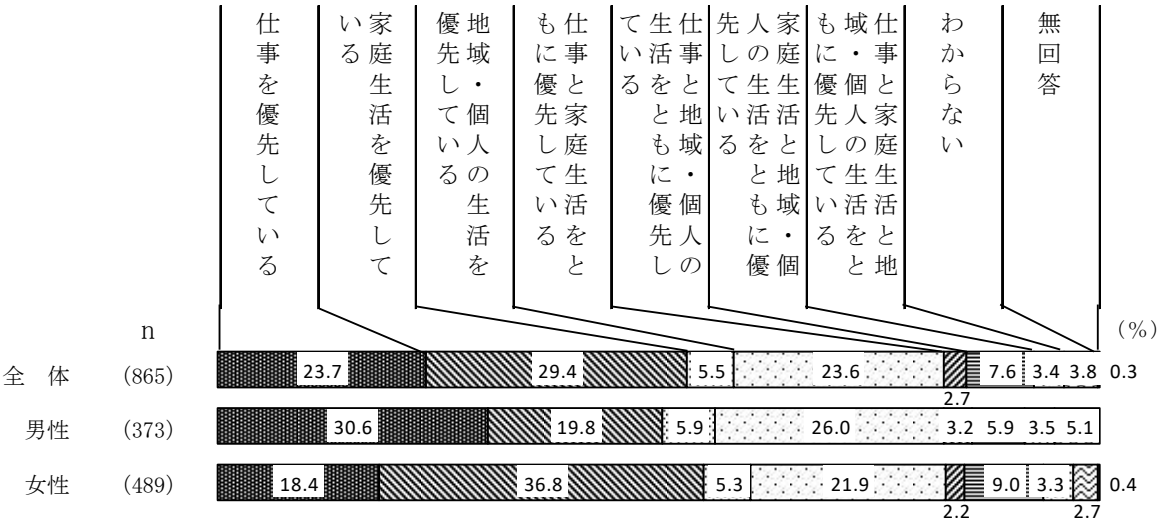
家庭生活の優先度（希望）



性／年齢別でみると、「仕事と家庭生活をともに優先したい」は男性の30代、40代、50代で4割台となっている。「家庭生活を優先したい」は女性の60代、70歳以上で4割台、男性の70歳以上、女性の30代で3割台となっている。「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」は男性、女性ともに60歳以上で多く、女性の60代と70歳以上で2割台となっている。「仕事を優先したい」は20代女性で13.0%と最も多くなっている。

(2) 家庭生活の優先度（現状）

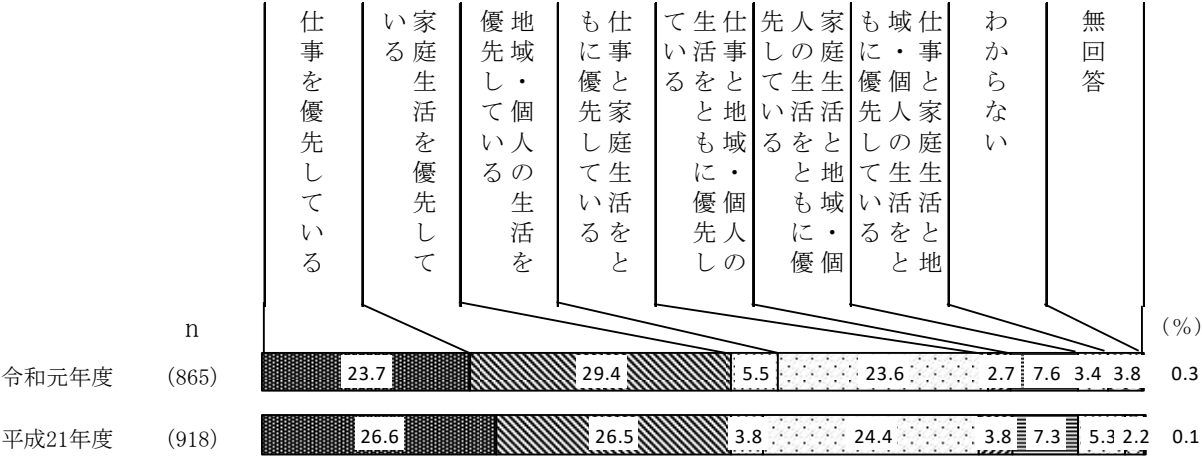
問2 あなたの現実（現状）に近いものを1つ選んでください。



家庭生活の優先度（現状）について尋ねたところ、「家庭生活を優先している」が 29.4%で最も多い。次いで、「仕事を優先している」が 23.7%、「仕事と家庭生活をともに優先している」が 23.6%となっている。

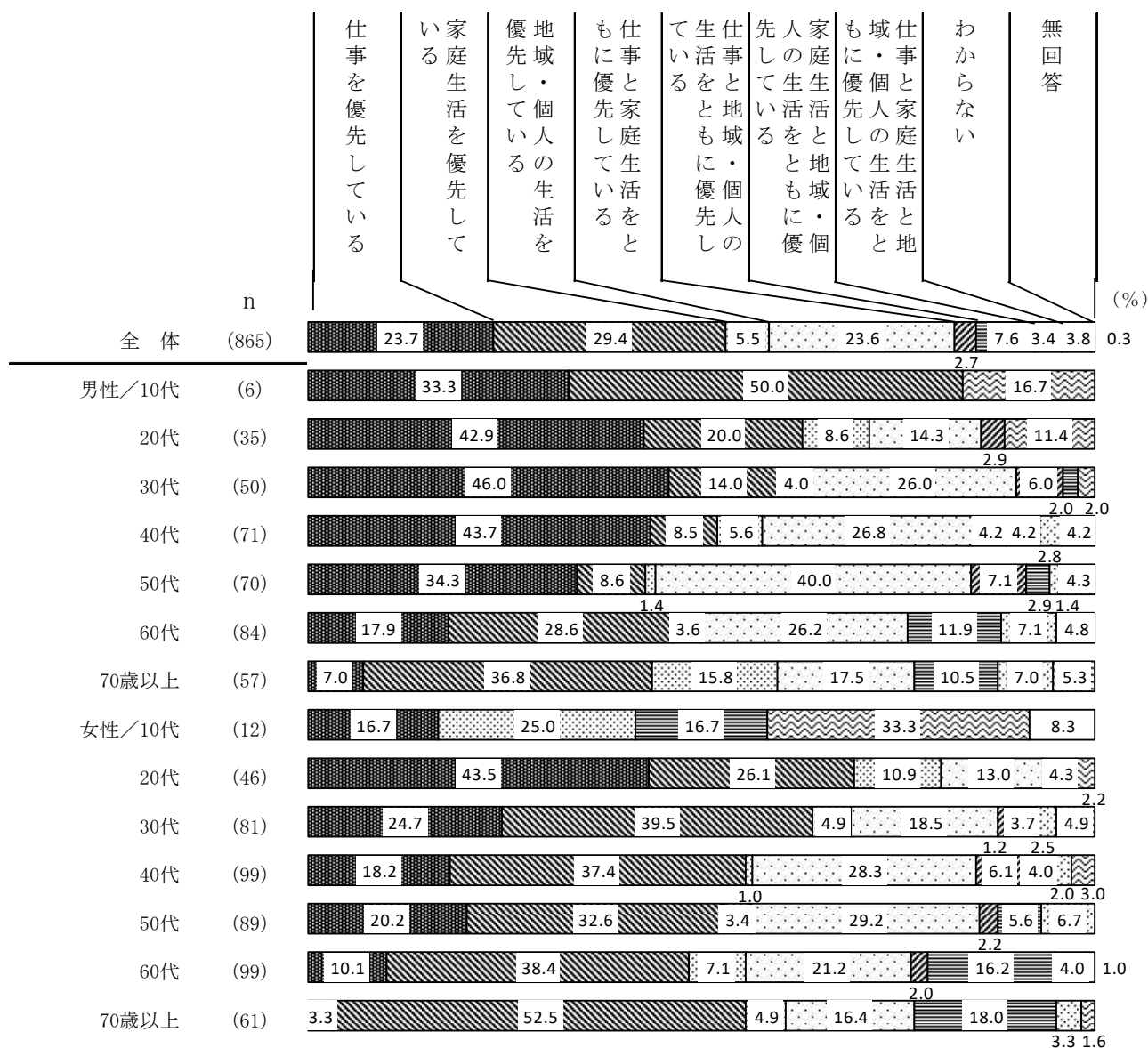
性別でみると、男性では「仕事を優先している」が 30.6%と、女性の 18.4%を上回っている。一方、女性では「家庭生活を優先している」が 36.8%と、男性の 19.8%を上回っている。

経年比較



平成 21 年度の調査と比較して、特筆すべき差異は見られなかったが、仕事より家庭生活を優先している人の割合が微増している。

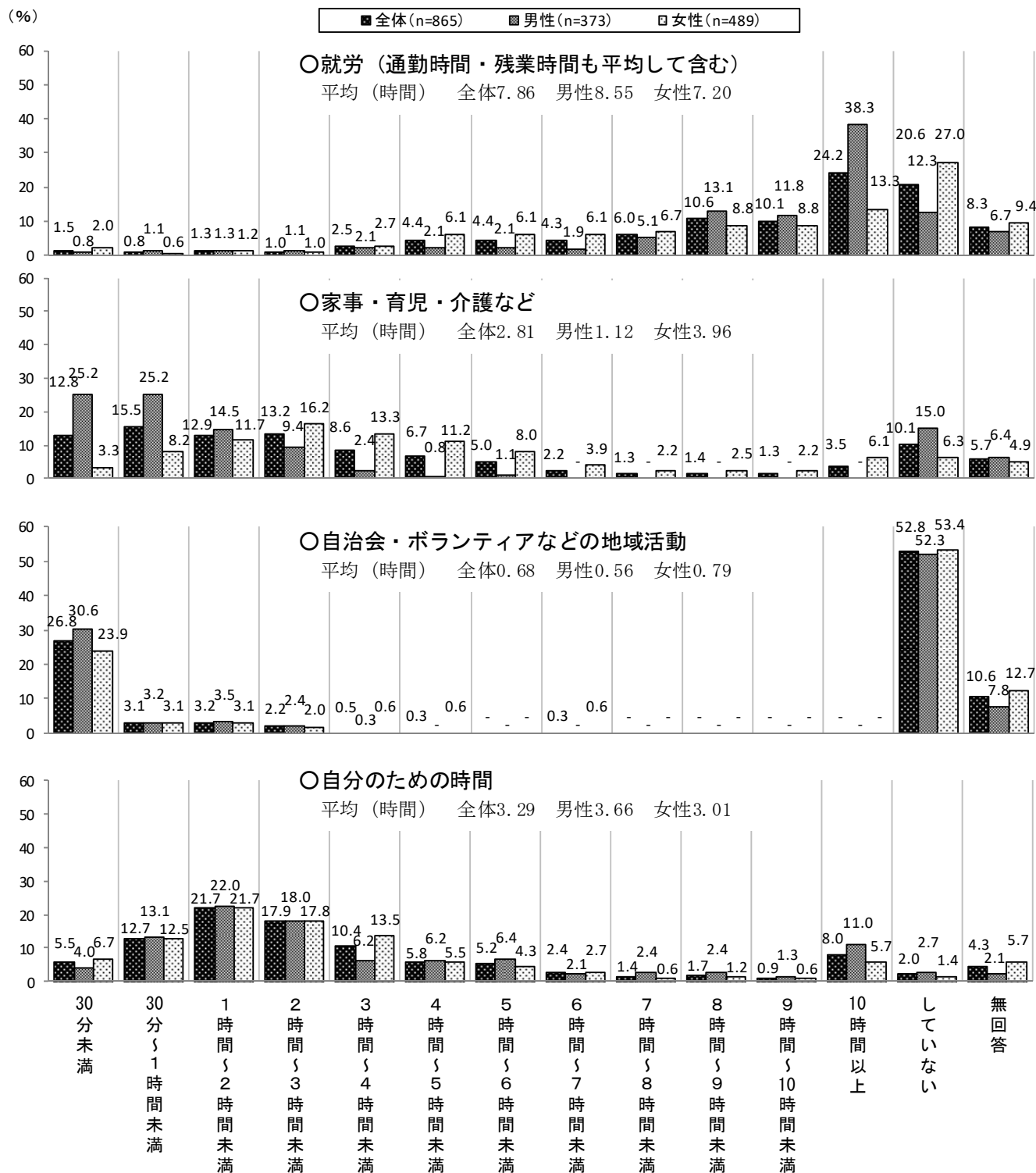
家庭生活の優先度（現状）



性／年齢別でみると、「仕事を優先している」は男性の20代、30代、40代、女性の20代で4割台となっている。「家庭生活を優先している」は女性の70歳以上で5割台、男性の70歳以上、女性の30代、40代、50代、60代で3割台となっている。「仕事と家庭生活をともに優先している」は男性の50代で4割となっている。

(3) 生活にかかる時間

問3 あなたが1日のうち次のことにどのくらい時間をかけているか、項目ごとに1つ選んで○をつけてください。



生活（就労や家事など）にかかる時間について尋ねてみた。

平均（時間）は、「していない」、「無回答」を除いた各選択肢の階級値（階級の中央の値）から算出した。

就労（通勤時間・残業時間も平均して含む）については、全体として「10 時間以上」が 24.2%、「8 時間～9 時間未満」が 10.6%と多く、「していない」が 20.6%となっている。性別でみると、男性では「10 時間以上」が 38.3%、女性では「していない」が 27.0%で最も多く、平均は、男性が 8.55 時間と、女性の 7.20 時間を上回っている。

家事・育児・介護などについては、全体として「30 分～1 時間未満」が 15.5%、「1 時間～2 時間未満」が 12.9%と多くなっている。性別でみると、男性では「30 分未満」と「30 分～1 時間未満」が 25.2%、女性では「2 時間～3 時間未満」が 16.2%と最も多くなっている。平均では、女性が 3.96 時間と、男性の 1.12 時間を上回っている。

自治会・ボランティアなどの地域活動については、全体として「30 分未満」が 26.8%で多く、「していない」が 52.8%と半数以上となっている。性別でみると、男性では「30 分未満」が 30.6%と、女性の 23.9%を上回っている。

自分のための時間については、全体として「1 時間～2 時間未満」が 21.7%、「2 時間～3 時間未満」が 17.9%と多くなっている。性別でみると、男性では「10 時間以上」が 11.0%と、女性の 5.7%を上回っている。一方、女性では「3 時間～4 時間未満」が 13.5%と、男性の 6.2%を上回っている。

生活にかかる時間（平均時間）

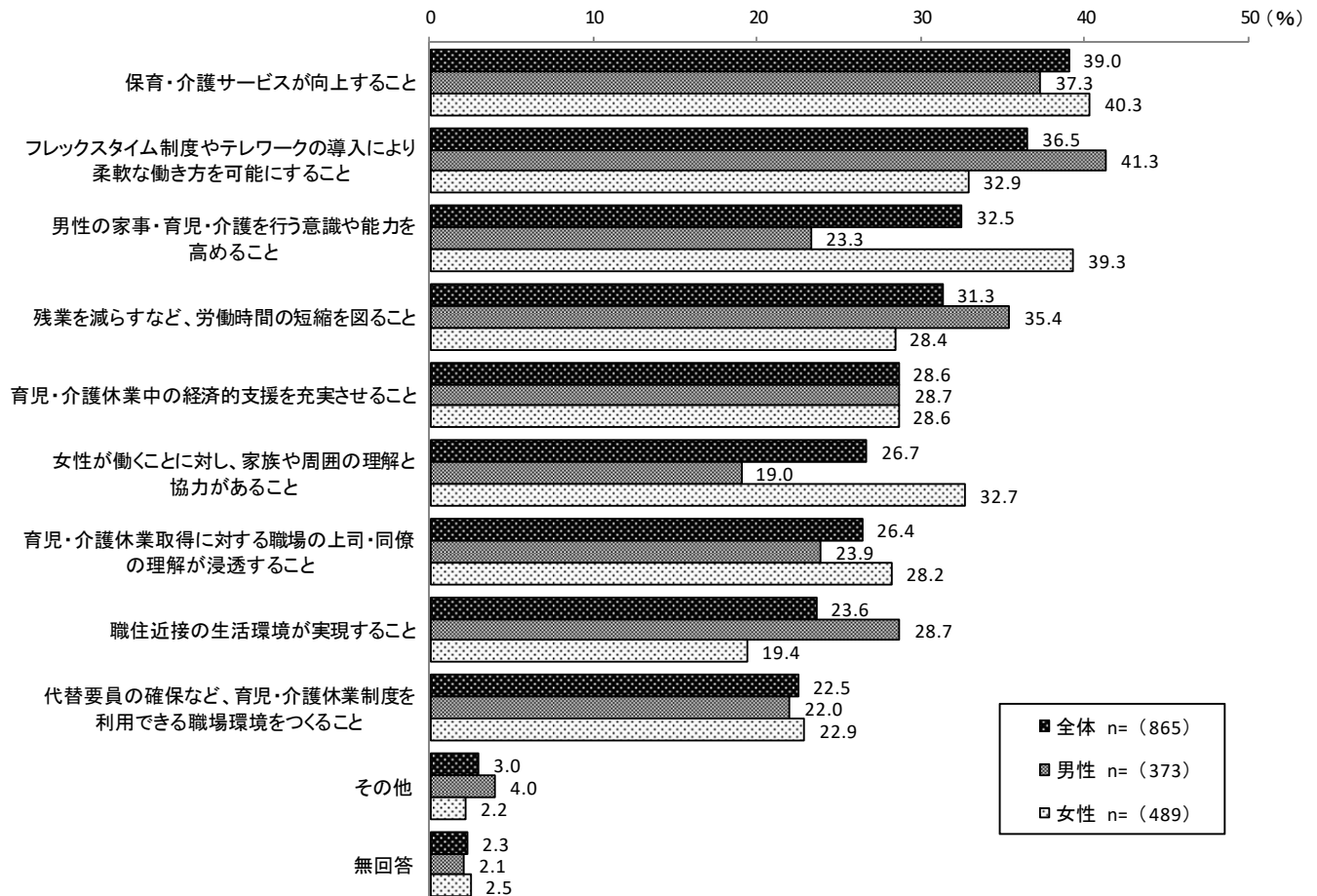
(時間)					
	n	就労（通勤時間・ 残業時間も平均し て含む）	家事・育児・介護 など	自治会・ボラン ティアなどの地域 活動	自分のための時間
全体	(865)	7.86	2.81	0.68	3.29
男性／10代	(6)	5.30	0.63	0.25	6.83
20代	(35)	8.37	0.85	0.57	3.78
30代	(50)	9.32	1.28	0.34	2.29
40代	(71)	9.13	1.20	0.37	2.70
50代	(70)	9.41	0.87	0.49	2.91
60代	(84)	7.87	1.24	0.62	4.22
70歳以上	(57)	5.41	1.27	0.94	5.83
女性／10代	(12)	4.79	1.69	1.63	4.18
20代	(46)	8.33	2.42	0.97	3.81
30代	(81)	7.73	5.08	0.39	2.60
40代	(99)	7.37	4.23	0.60	2.23
50代	(89)	7.12	3.99	0.71	2.64
60代	(99)	6.51	3.58	1.05	3.43
70歳以上	(61)	5.00	4.02	1.28	3.97
既婚／男性	(254)	8.66	1.18	0.58	3.06
女性	(334)	6.75	4.69	0.82	2.58
離死別／男性	(20)	7.90	1.04	0.82	5.08
女性	(58)	7.33	2.82	0.96	3.49
未婚／男性	(99)	8.37	0.98	0.43	4.91
女性	(97)	8.39	1.44	0.58	4.19

性／年齢別でみると、「就労（通勤時間・残業時間も平均して含む）」は男性の30代、40代、50代で9時間を超えている。また、男性、女性ともに20代で8時間を超えている。「家事・育児・介護など」は女性の30代で5.08時間、40代で4.23時間と多い。「自治会・ボランティアなどの地域活動」は女性の60代、70歳以上で1時間を超えている。「自分のための時間」は男性の60代が4.22時間、70歳以上が5.83時間と多い。

性／結婚状況別でみると、「就労（通勤時間・残業時間も平均して含む）」は既婚と未婚の男性、未婚の女性で8時間を超えている。既婚の女性では6.75時間となっている。「家事・育児・介護など」は既婚の女性で4.69時間と、既婚の男性の1.18時間を上回っている。「自治会・ボランティアなどの地域活動」は離死別の女性が0.96時間、既婚の女性と離死別の男性が0.82時間と多い。「自分のための時間」は未婚の男性で4.91時間、女性で4.19時間と多く、既婚の男性の3.06時間、既婚の女性の2.58時間をそれぞれ上回っている。

(4) 男女ともに「ワーク・ライフ・バランス」を実現するために重要なこと

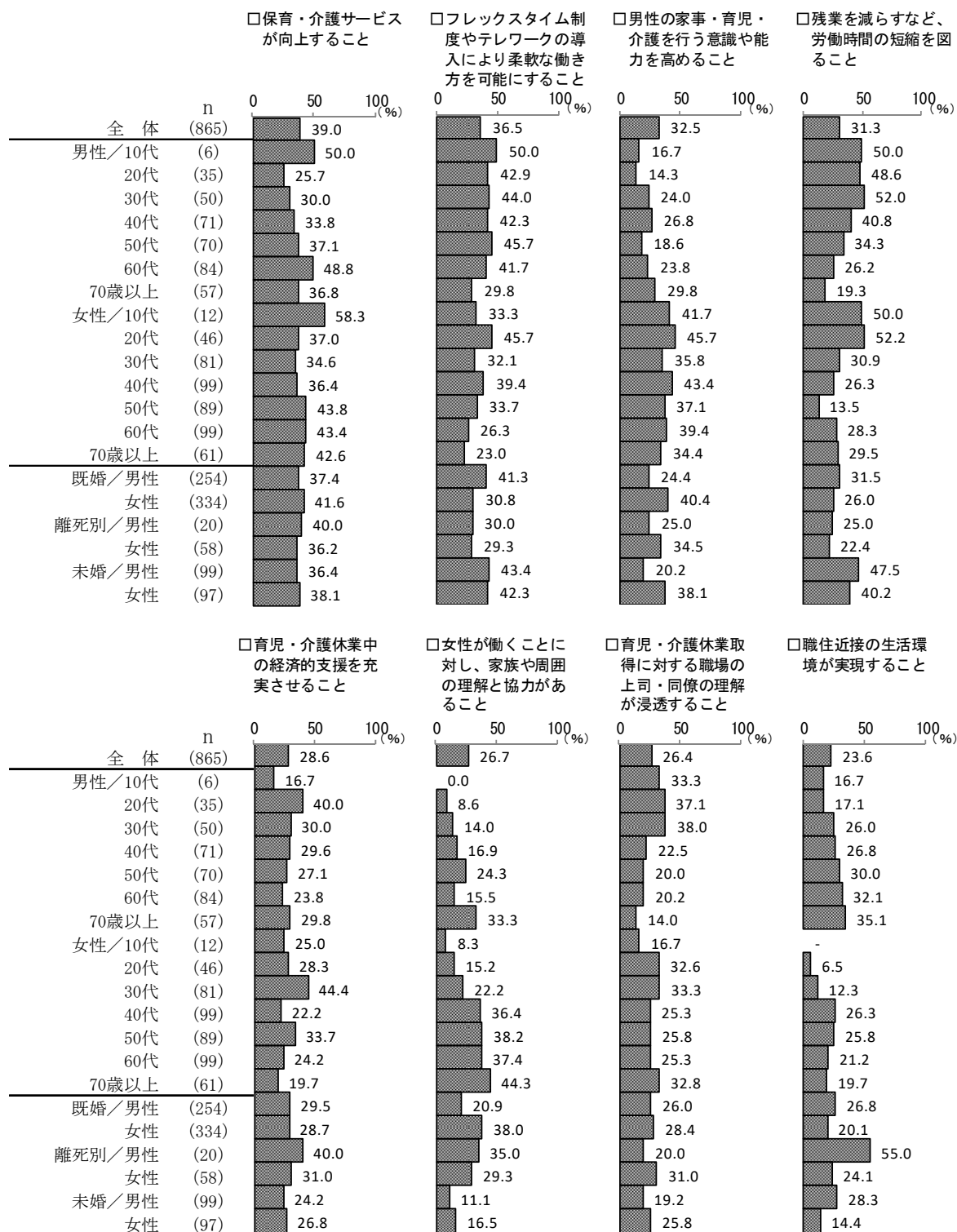
問4 男性と女性がともに仕事と家事・育児・介護などの家庭生活、地域生活等のバランスを取り、生きがいを持って暮らせる「ワーク・ライフ・バランス」を実現するための環境づくりにおいて、重要だと思うことを3つまで選んでください。



「ワーク・ライフ・バランス」を実現するために重要なことについて尋ねたところ、男女あわせた全体では「保育・介護サービスが向上すること」が39.0%で最も多い。次いで、「フレックスタイム制度やテレワークの導入により柔軟な働き方を可能にすること」が36.5%、「男性の家事・育児・介護を行う意識や能力を高めること」が32.5%となっている。

性別でみると、男性では「フレックスタイム制度やテレワークの導入により柔軟な働き方を可能にすること」が41.3%と最も多く、女性の32.9%を上回っている。女性では「保育・介護サービスが向上すること」が40.3%と最も多い。次いで、「男性の家事・育児・介護を行う意識や能力を高めること」が39.3%と多く、男性の23.3%を上回っている。また、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が女性で32.7%と、男性の19.0%を上回っている。

男女ともに「ワーク・ライフ・バランス」を実現するために重要なこと（上位8項目）



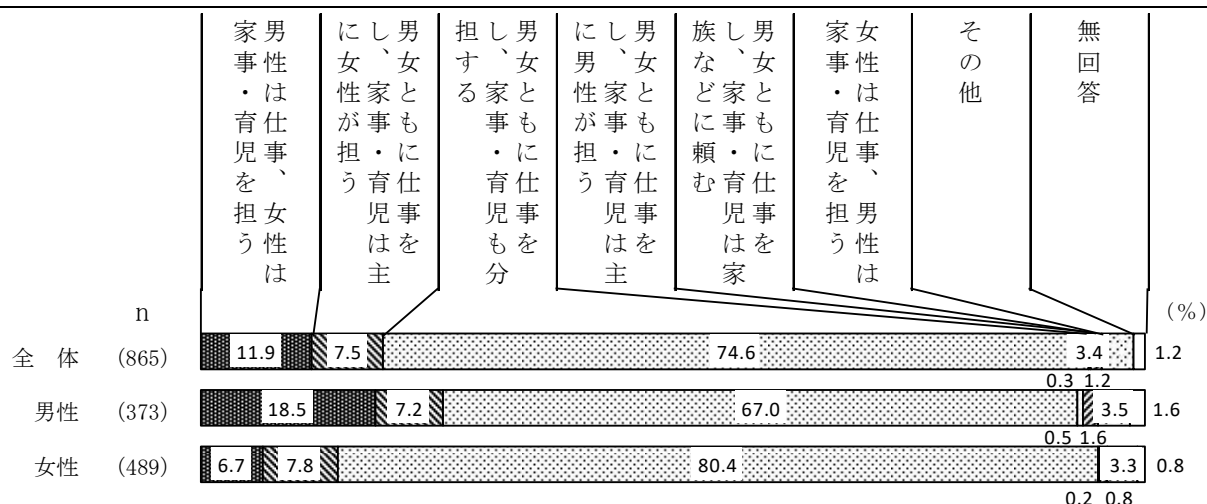
性／年齢別でみると、「残業を減らすなど、労働時間の短縮を図ること」は男性の30代、女性の20代で5割台となっている。「育児・介護休業中の経済的支援を充実させること」は男性の20代、女性の30代で4割台となっている。

性／結婚状況別でみると、「フレックスタイム制度やテレワークの導入により柔軟な働き方を可能にすること」は既婚と未婚の男性、未婚の女性で4割台、「残業時間を減らすなど、労働時間の短縮を図ること」は未婚の男性、女性ともに4割台となっている。また、「男性の家事・育児・介護を行う意識や能力を高めること」が既婚、未婚ともに女性が男性を上回っている。

3. 家庭生活について

(1) 男女の仕事・家事・育児の望ましい役割分担

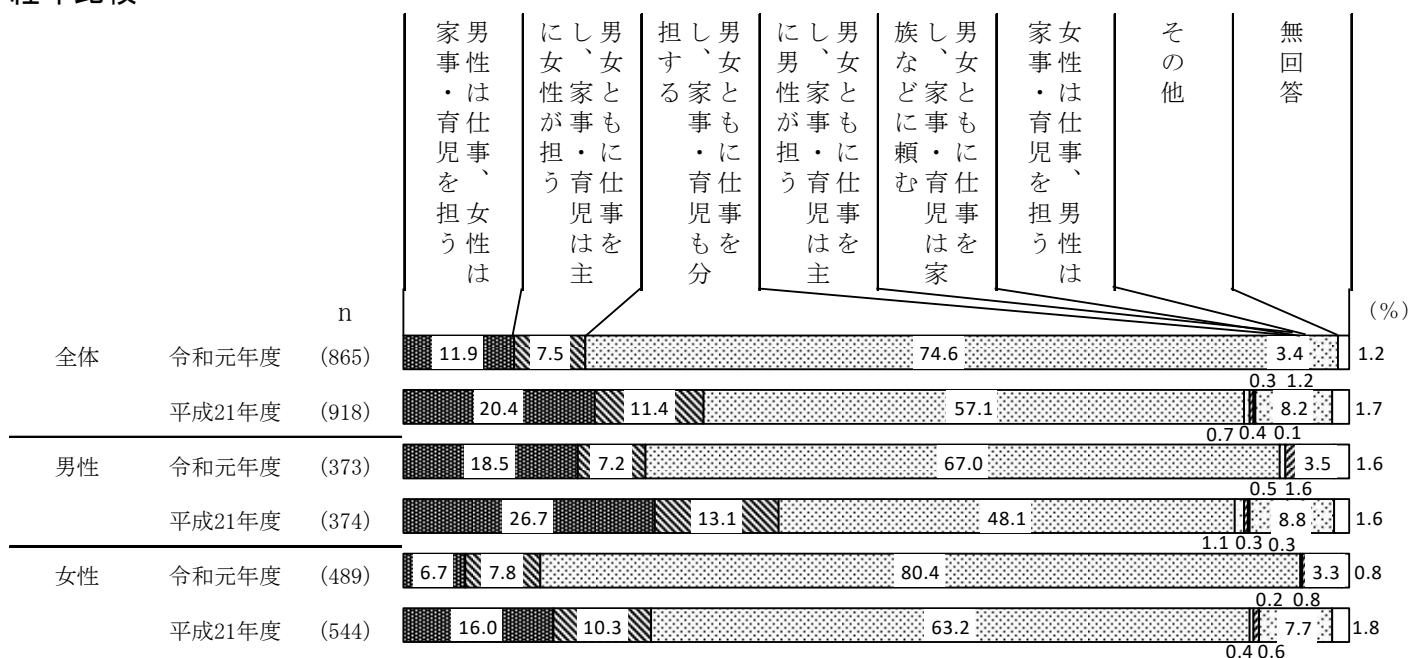
問5 男女の役割分担についてあなたの考えに近いものを1つ選んでください。



男女の仕事・家事・育児の望ましい役割分担について尋ねたところ、「男女ともに仕事をし、家事・育児も分担する」が74.6%である。

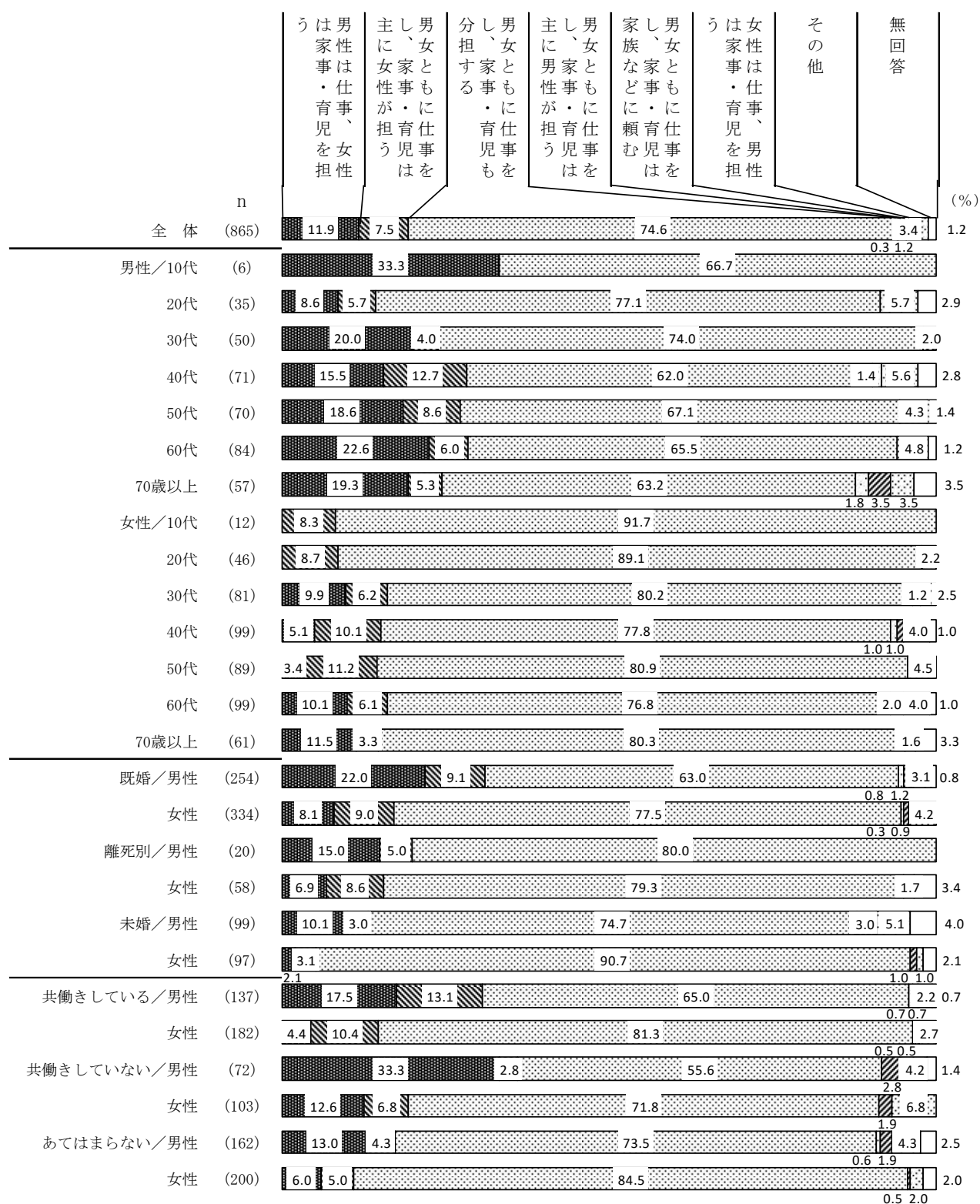
性別でみると、男性では「男性は仕事、女性は家事・育児を担う」が18.5%と、女性の6.7%を上回っている。一方、女性では「男女ともに仕事をし、家事・育児も分担する」が80.4%と、男性の67.0%を上回っている。

経年比較



平成21年度調査と比較すると、「男性は仕事、女性は家事・育児を担う」が20.4%から11.9%に減少し、「男女ともに仕事をし、家事・育児も分担する」が57.1%から74.6%に増加している。

男女の仕事・家事・育児の望ましい役割分担



※共働きの有無は、夫婦のいずれも現在収入を伴う仕事をしている方を『共働きしている』、夫婦のいずれか片方だけ現在収入を伴う仕事をしている方を『共働きしていない』、夫婦のいずれも現在収入を伴う仕事をしていない、またはその他の方および離死別・未婚の方を『あてはまらない』とした。

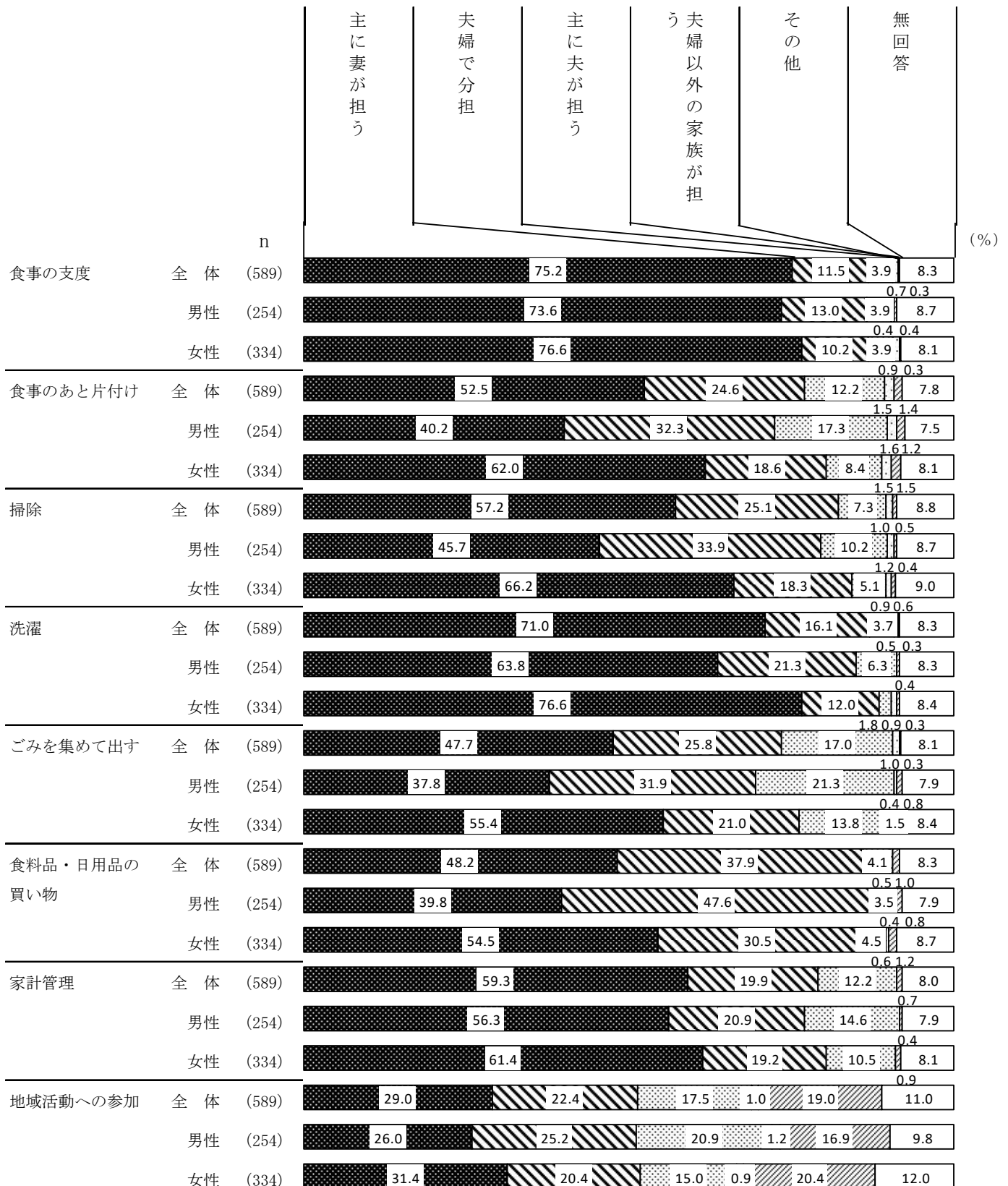
性／年齢別でみると、「男女ともに仕事をし、家事・育児も分担する」は男性の20代、30代、女性の40代、60代で7割台、女性の20代、30代、50代、70歳以上で8割を超え、最も多くなっている。

性／結婚状況別でみると、「男性は仕事、女性は家事・育児を担う」は既婚の男性で22.0%と最も多く、性／共働きの有無別でみると、「男性は仕事、女性は家事・育児を担う」は共働きをしていない男性で33.3%と最も多くなっている。

(2) 現在の家事分担の実態

【結婚（事実婚含む）している方（F4で「1」とお答えの方）に伺います】

問6 あなたのご家庭で、次にあげることをしている方を項目ごとに1つ選んで○をつけてください。



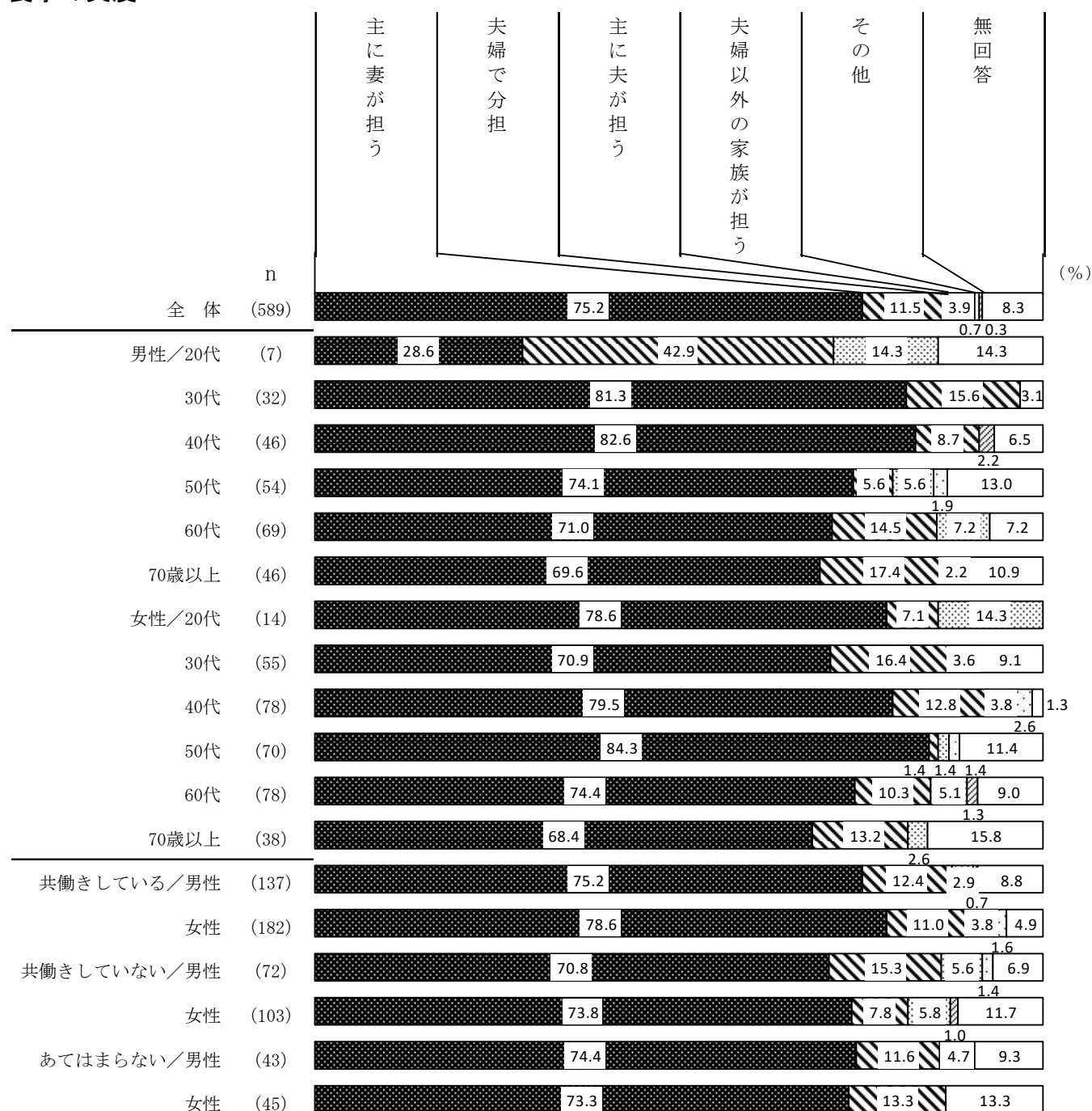
第2章 調査結果の詳細

結婚をしている方に、現在の家事分担の実態について尋ねたところ、「主に妻が担う」は全ての項目において最も多い。＜食事の支度＞で75.2%、＜洗濯＞で71.0%と多く、＜食事のあと片付け＞、＜掃除＞、＜家計管理＞でも5割を超えている。「夫婦で分担」は＜食料品・日用品の買い物＞で3割台、＜食事のあと片付け＞、＜ごみを集めて出す＞で2割台となっている。

「主に夫が担う」は＜食事のあと片付け＞、＜ごみを集めて出す＞、＜家計管理＞、＜地域活動への参加＞で1割台となっている。

性別でみると、男性では「夫婦で分担」が全ての項目で女性を上回っており、特に＜食料品・日用品の買い物＞で17.1ポイント差、＜掃除＞で15.6ポイント差、＜食事のあと片付け＞で13.7ポイント差、＜ごみを集めて出す＞で10.9ポイント差となっている。一方、女性では「主に妻が担う」が全ての項目で男性を上回っており、特に＜掃除＞で20.5ポイント差、＜ごみを集めて出す＞で17.6ポイント差、＜食料品・日用品の買い物＞で14.7ポイント差、＜洗濯＞で12.8ポイント差、＜食事のあと片付け＞で21.8ポイント差となっている。

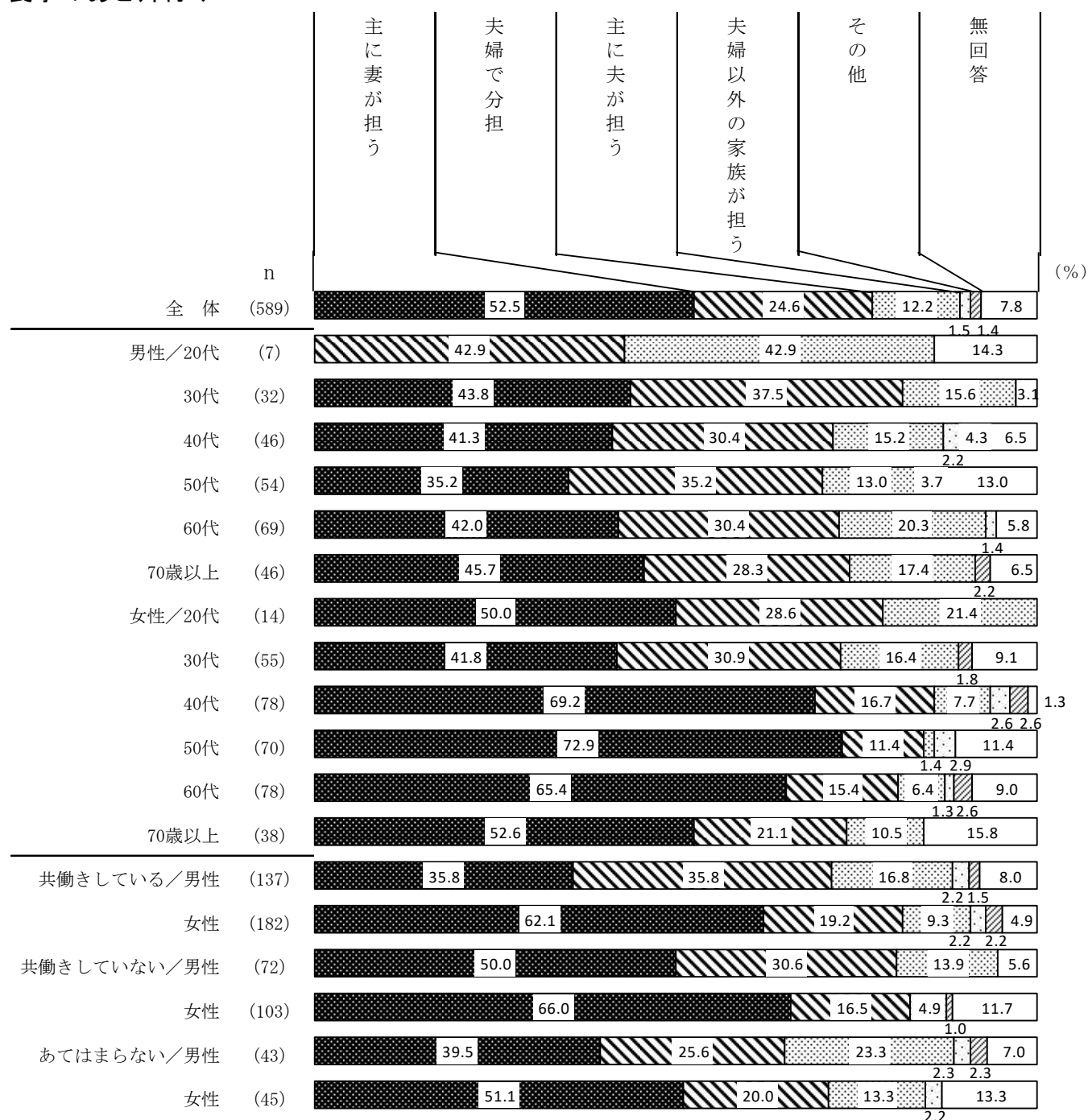
食事の支度



性／年齢別でみると、「主に妻が担う」は男性の30代、40代、女性の50代で8割を超えている。

性／共働きの有無別でみると、「主に妻が担う」は共働きしている、していない男女ともに7割台となっている。

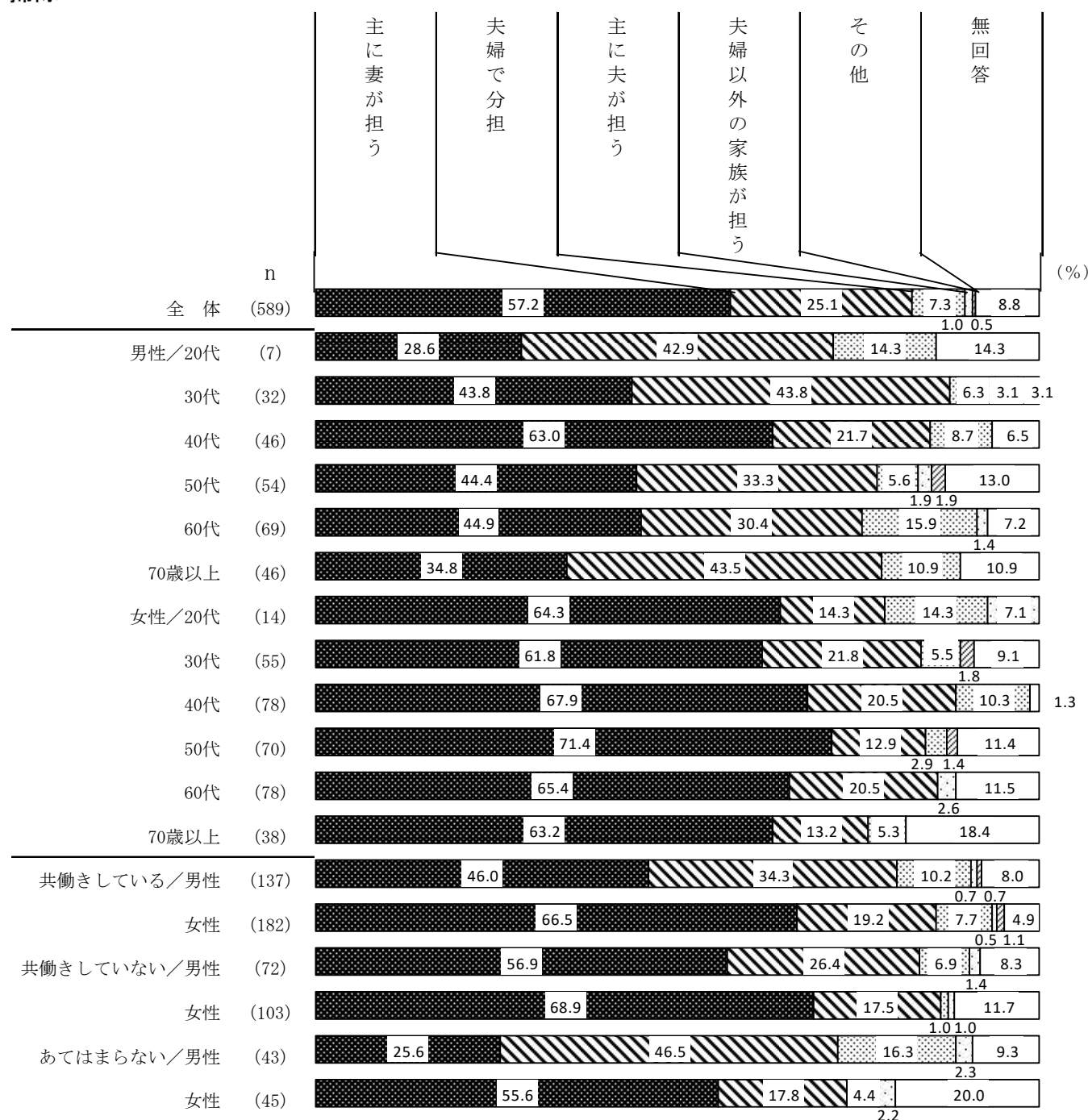
食事のあと片付け



性／年齢別でみると、「主に妻が担う」は女性の50代で7割台、女性の40代、60代で6割台となっている。「夫婦で分担」は男性の30代、40代、50代、60代、女性の30代で3割台となっている。

性／共働きの有無別でみると、「主に妻が担う」は共働きしている、していないともに女性で6割を超えており、それぞれ男性を上回っている。

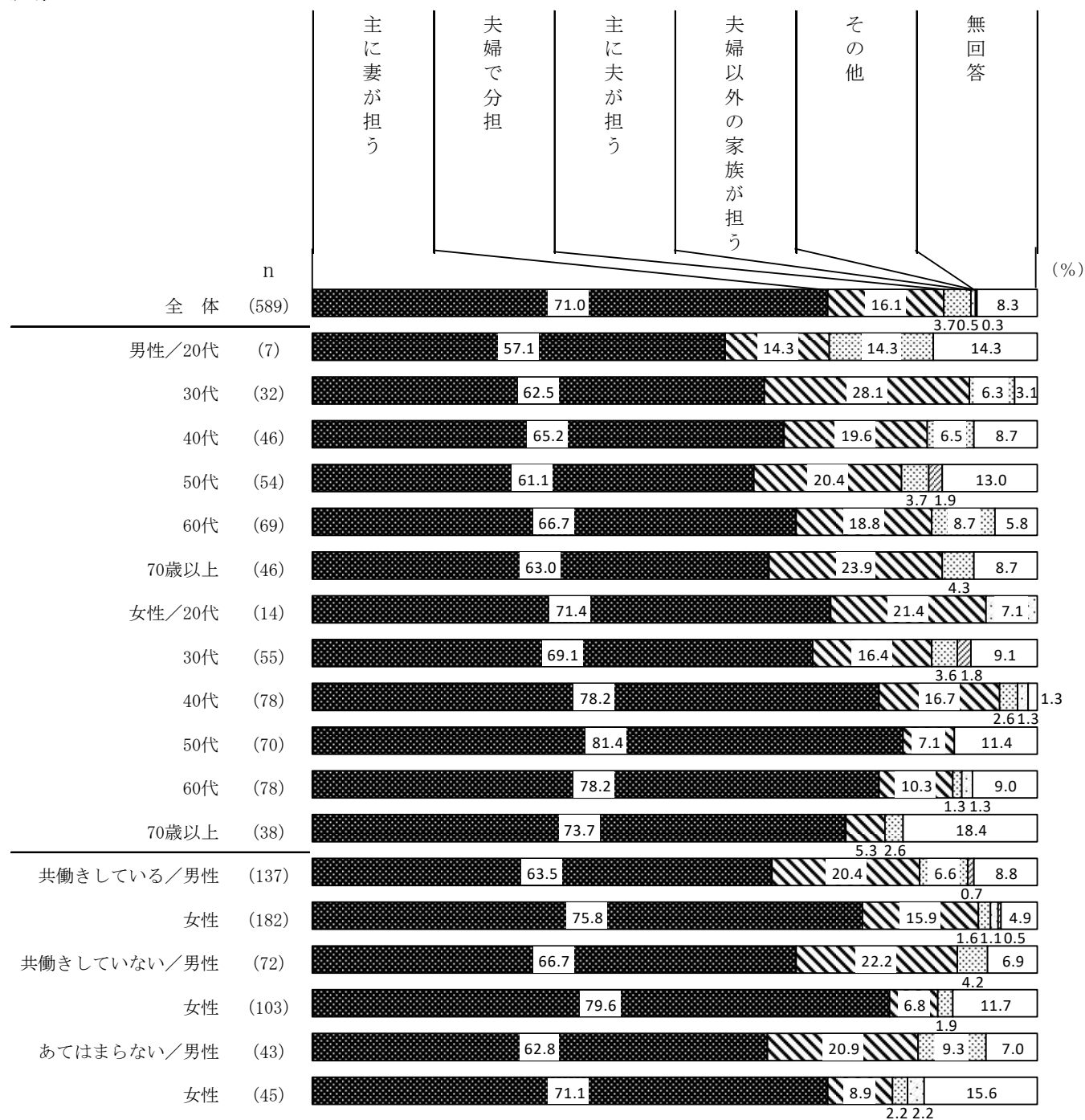
掃除



性／年齢別でみると、「主に妻が担う」は女性の50代で7割台、男性の40代、女性の30代、40代、60代、70歳以上で6割台となっている。「夫婦で分担」は男性の30代、70歳以上で4割を超えている。

性／共働きの有無別でみると、「主に妻が担う」は共働きしている、していないとも女性で6割を超えており、それぞれ男性を上回っている。

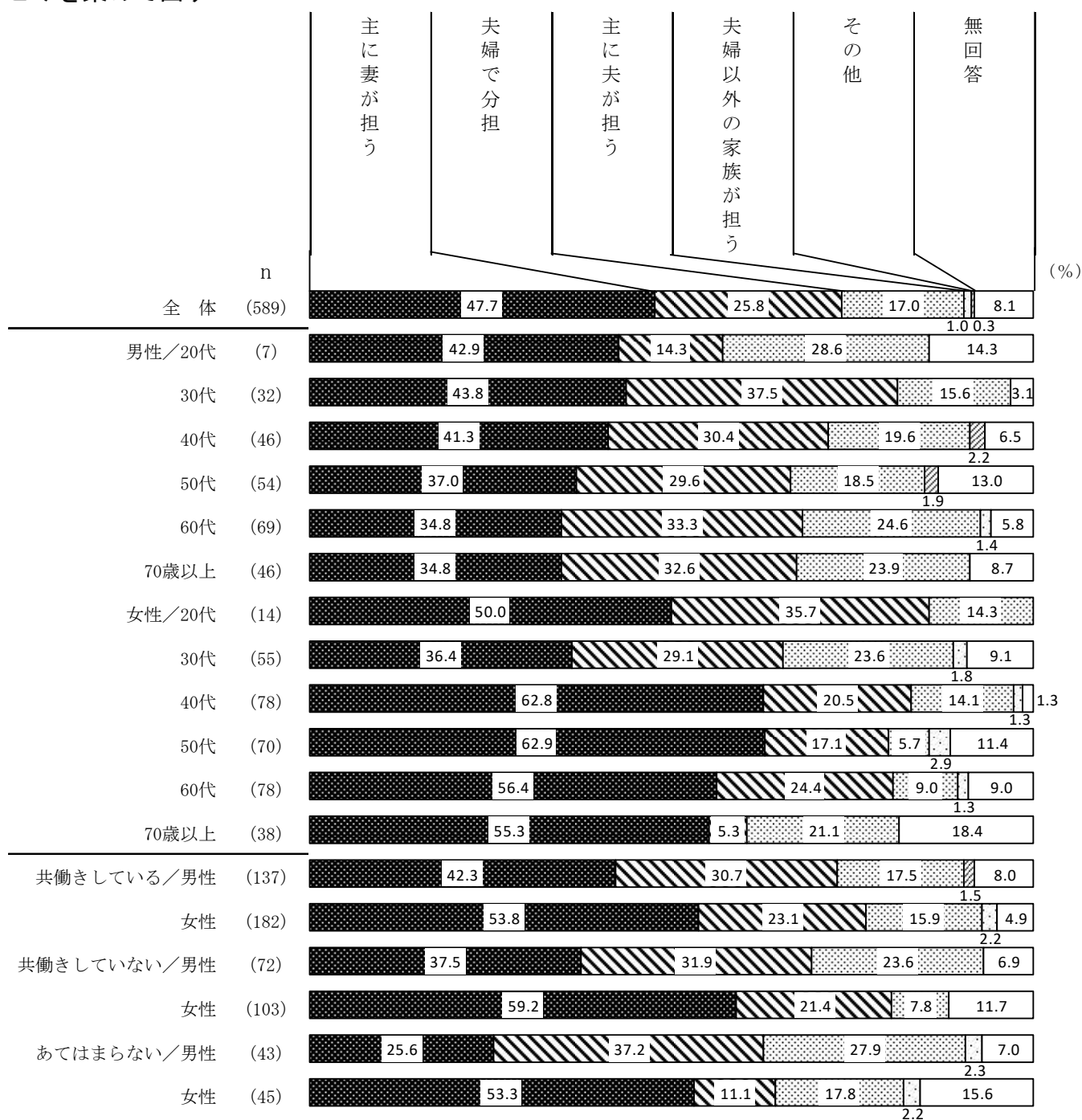
洗濯



性／年齢別でみると、「主に妻が担う」は女性の50代で8割台、女性の40代、60代、70歳以上で7割台となっている。「夫婦で分担」は男性の30代で2割後半となっている。

性／共働きの有無別でみると、「主に妻が担う」は共働きしている、していないとも女性で7割を超えており、それぞれ男性を上回っている。

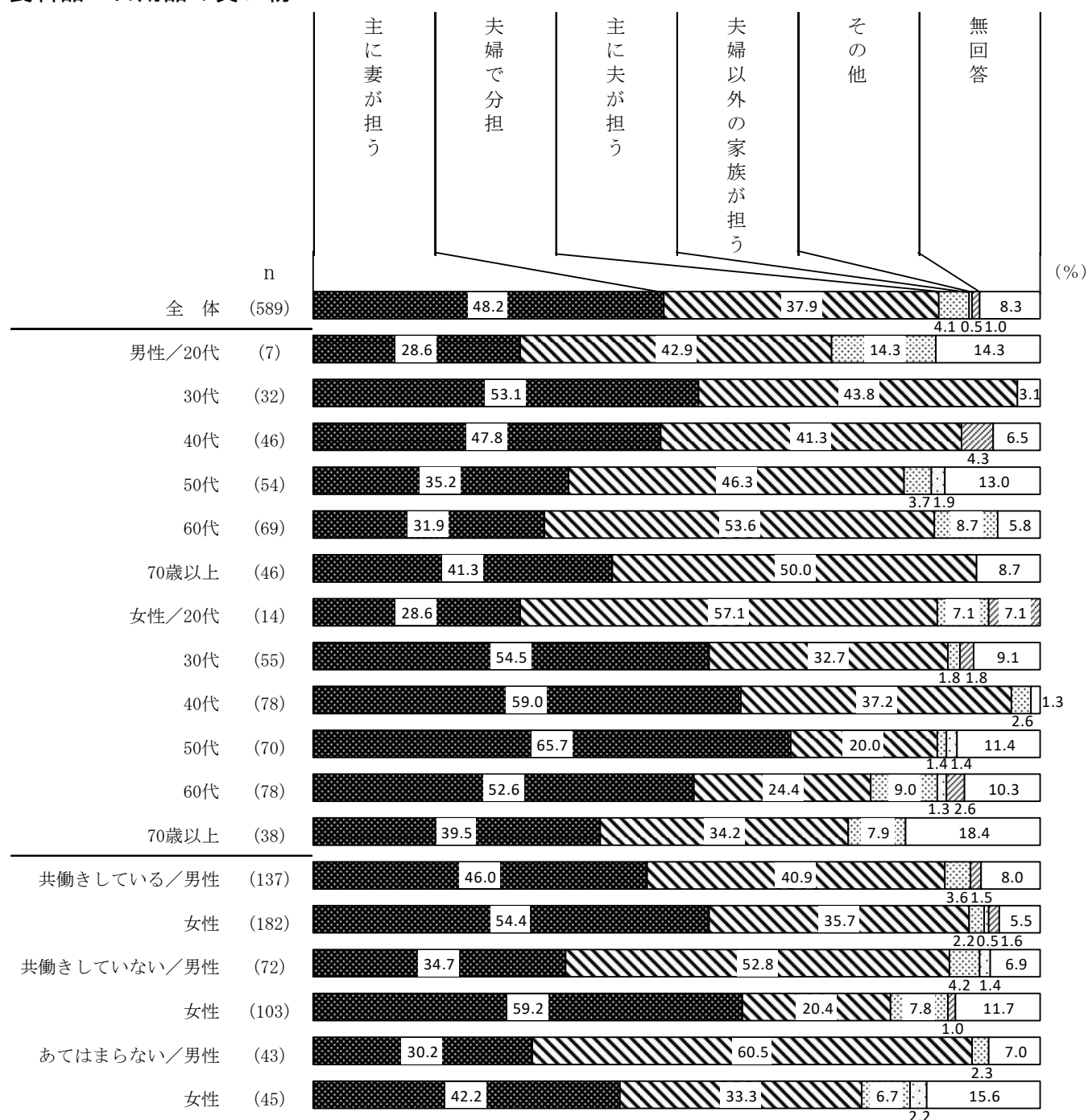
ごみを集めて出す



性／年齢別でみると、「主に妻が担う」は女性の40代、50代で6割台、女性の60代、70歳以上で5割台となっている。「夫婦で分担」は男性の30代、40代、60代、70歳以上で3割台となっている。「主に夫が担う」は男性の60代、70歳以上、女性の30代、70歳以上で2割台となっている。

性／共働きの有無別でみると、「主に妻が担う」は共働きしている、していないとも女性で5割を超えており、それぞれ男性を上回っている。「夫婦で分担」は共働きしている、していないとも男性で3割台となっている。

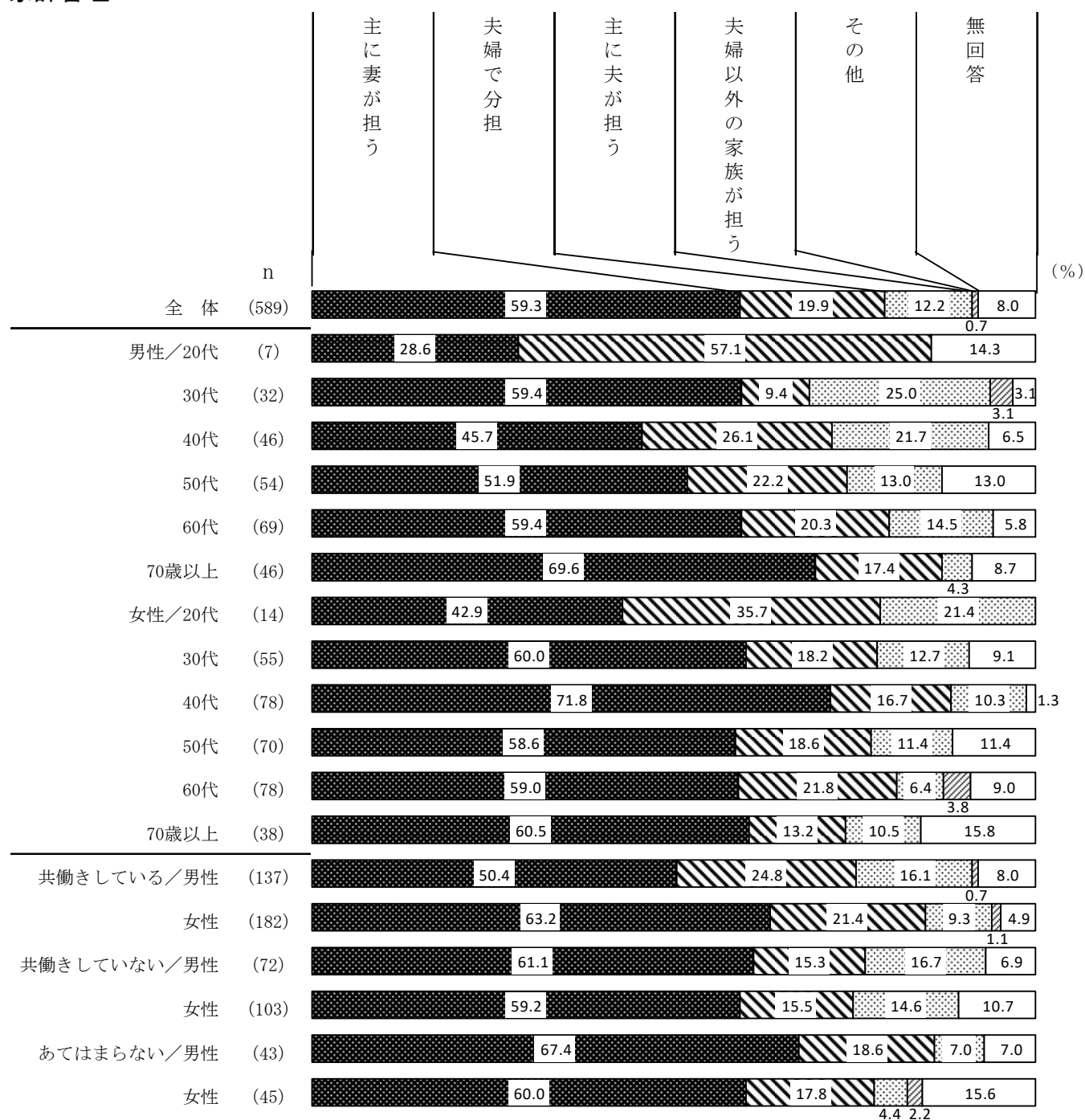
食料品・日用品の買い物



性／年齢別でみると、「主に妻が担う」は女性の50代で6割台、男性の30代、女性の30代、40代、60代で5割台となっている。「夫婦で分担」は男性の60代、70歳以上で5割台、男性の30代、40代、50代で4割台となっている。

性／共働きの有無別でみると、「主に妻が担う」は共働きしている、していないとも女性で5割を超えており、それぞれ男性を上回っている。「夫婦で分担」は共働きをしていない男性で5割を超えている。

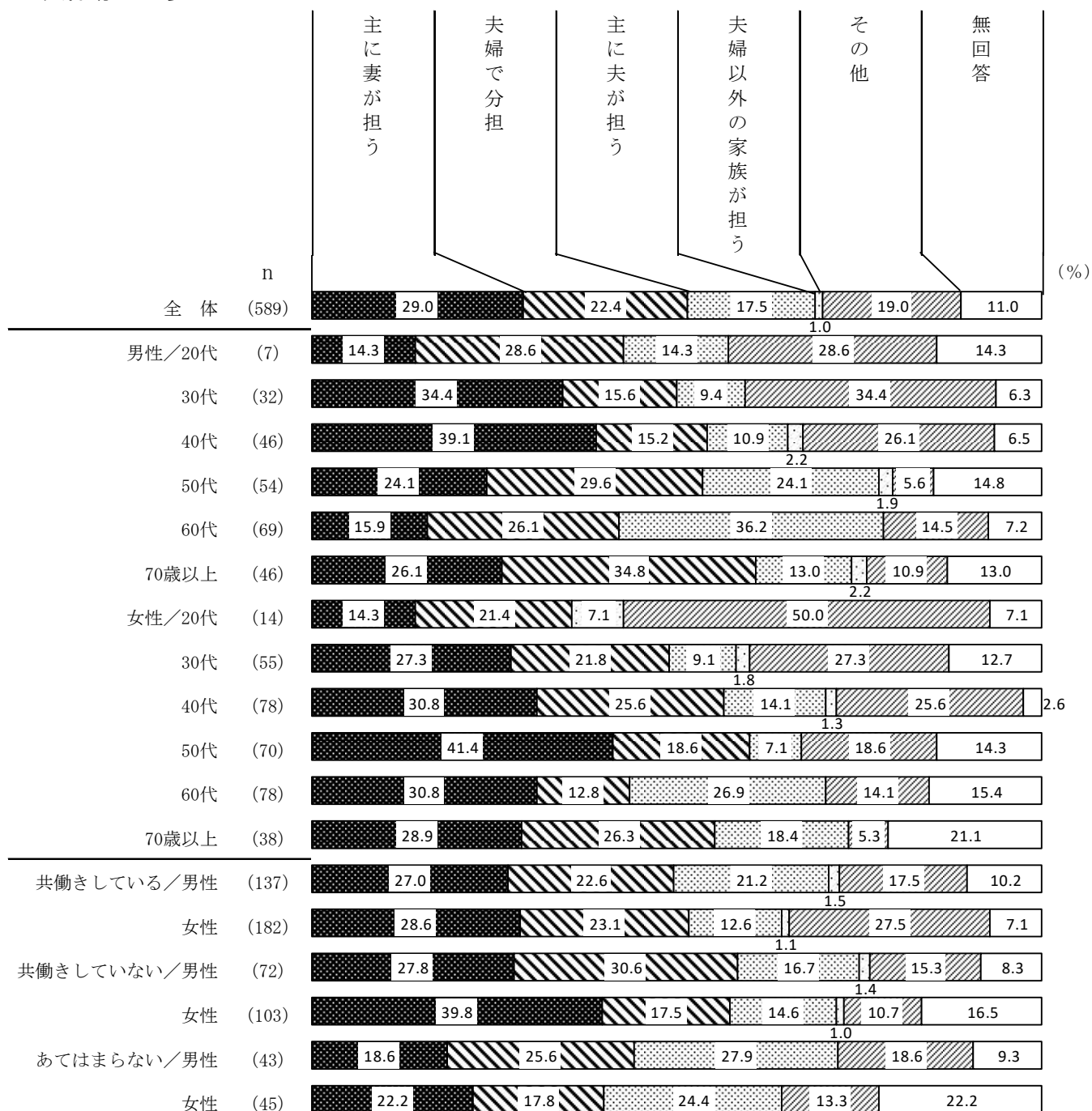
家計管理



性／年齢別でみると、「主に妻が担う」は女性の40代で7割台、70歳以上の男性、女性ともに6割台となっている。「主に夫が担う」が男性の30代、40代で2割台となっている。

性／共働きの有無別でみると、「主に妻が担う」は共働きしている女性が6割台と、共働きしている男性を上回っている。

地域活動への参加



性／年齢別でみると、「主に妻が担う」は女性の50代で4割台、男性の30代、40代、女性の40代、60代が3割台となっている。「夫婦で分担」は男性の70歳以上で3割台となっている。「主に夫が担う」は男性の60代で3割台となっている。

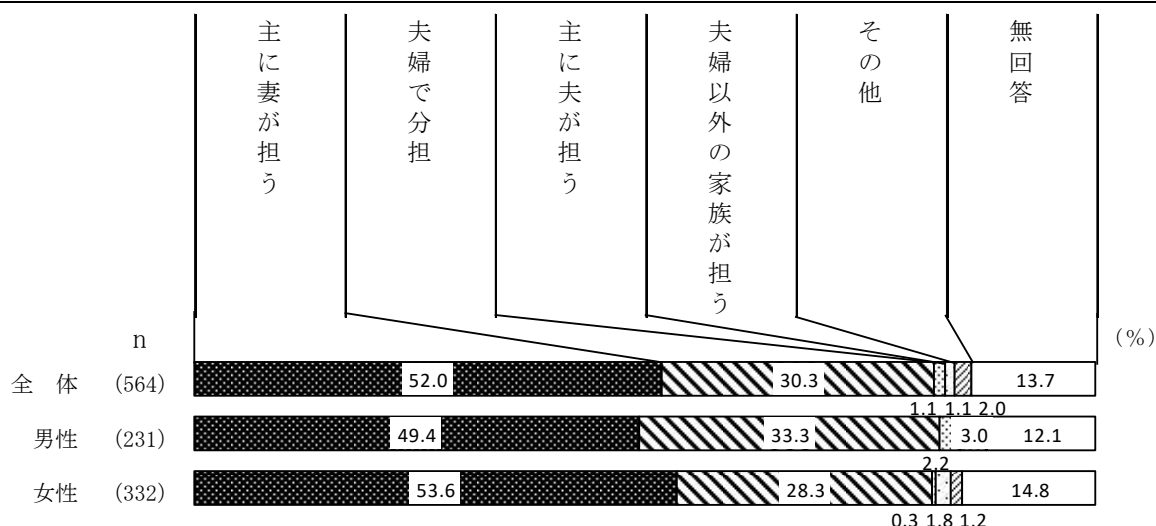
性／共働きの有無別でみると、「主に妻が担う」は共働きしていない女性が約4割と、共働きしていない男性を上回っている。

4. 子育て・介護について

(1) 子育て・教育をしている人

【お子さんがいる方（F5で「1」とお答えの方）に伺います】

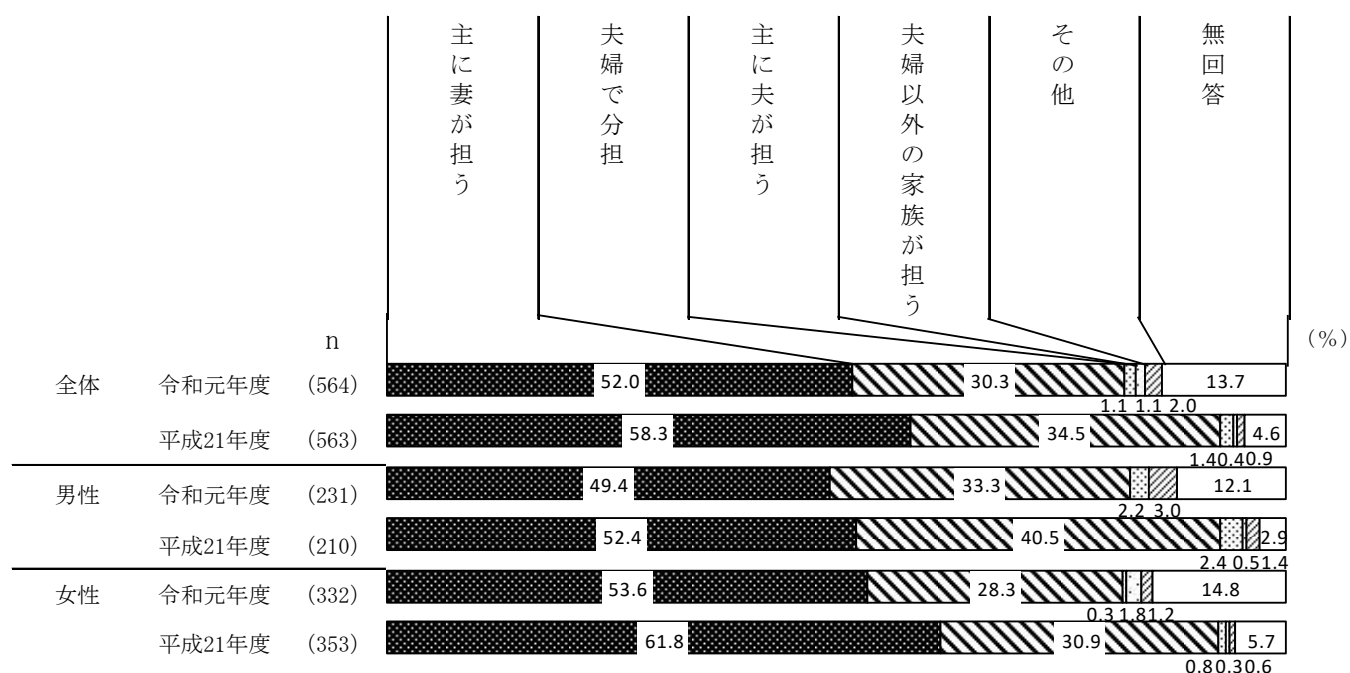
問7 あなたのご家庭で子育ておよび子どもの教育を主にしている（していた）方を1つ選んでください。



お子さんがいる方に、子育て・教育をしている人について尋ねたところ、「主に妻が担う」が52.0%と半数以上である。

性別において、特筆すべき差異は見られなかった。

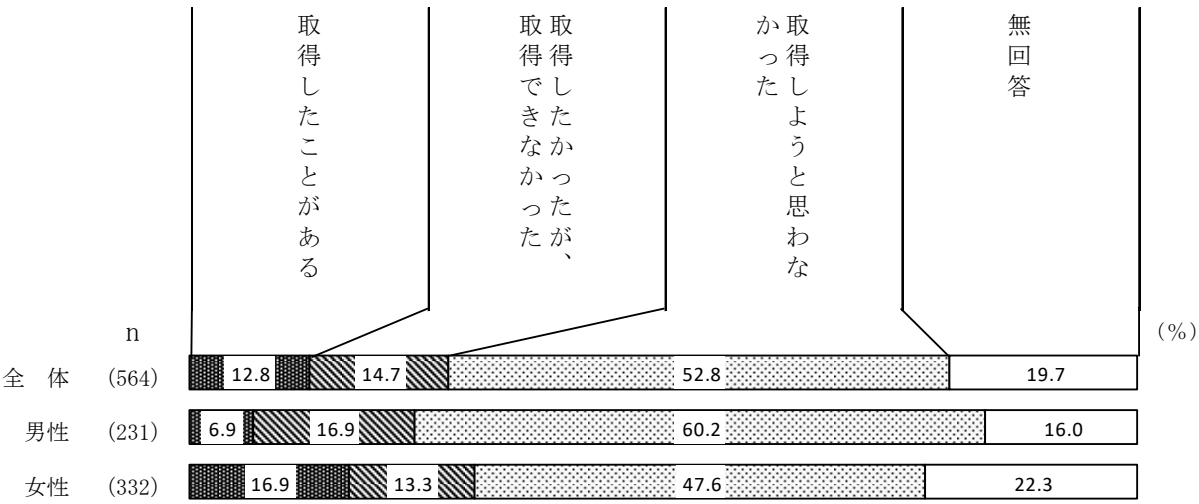
経年比較



平成21年度の調査結果と比較すると、全体的に「主に妻が担う」が減少している。

(2) 育児休業取得の有無

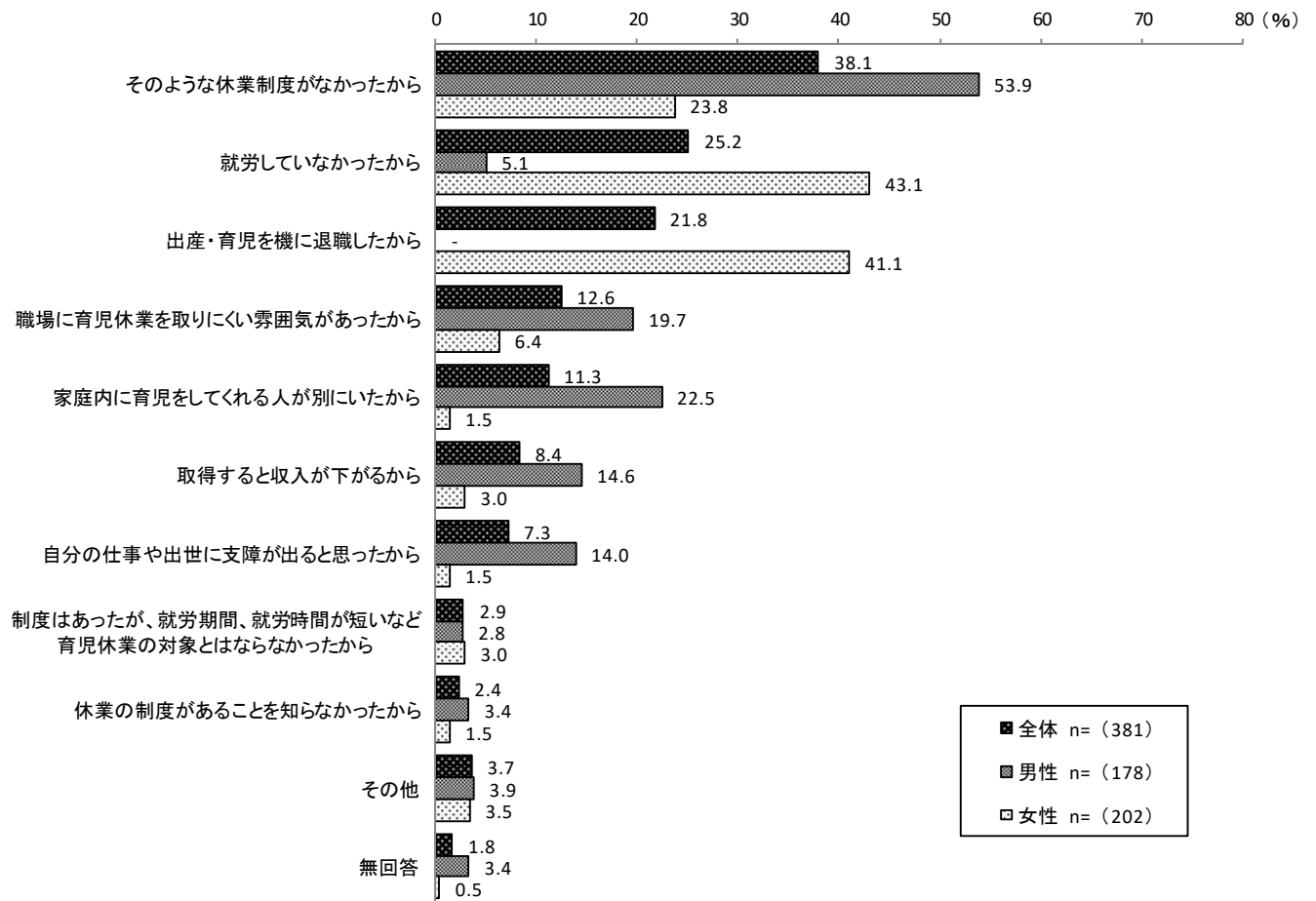
問8 あなたは育児休業を取得したことがありますか。
育児休業を取得しなかった理由を全て選んでください。



お子さんがいる方に、育児休業取得の有無について尋ねたところ、「取得しようと思わなかった」が52.8%で半数以上である。

性別でみると、男性では「取得しようと思わなかった」が60.2%と、女性の47.6%を上回っている。一方、女性では「取得したことがある」が16.9%と、男性の6.9%を上回っている。

育児休業を取得しなかった理由

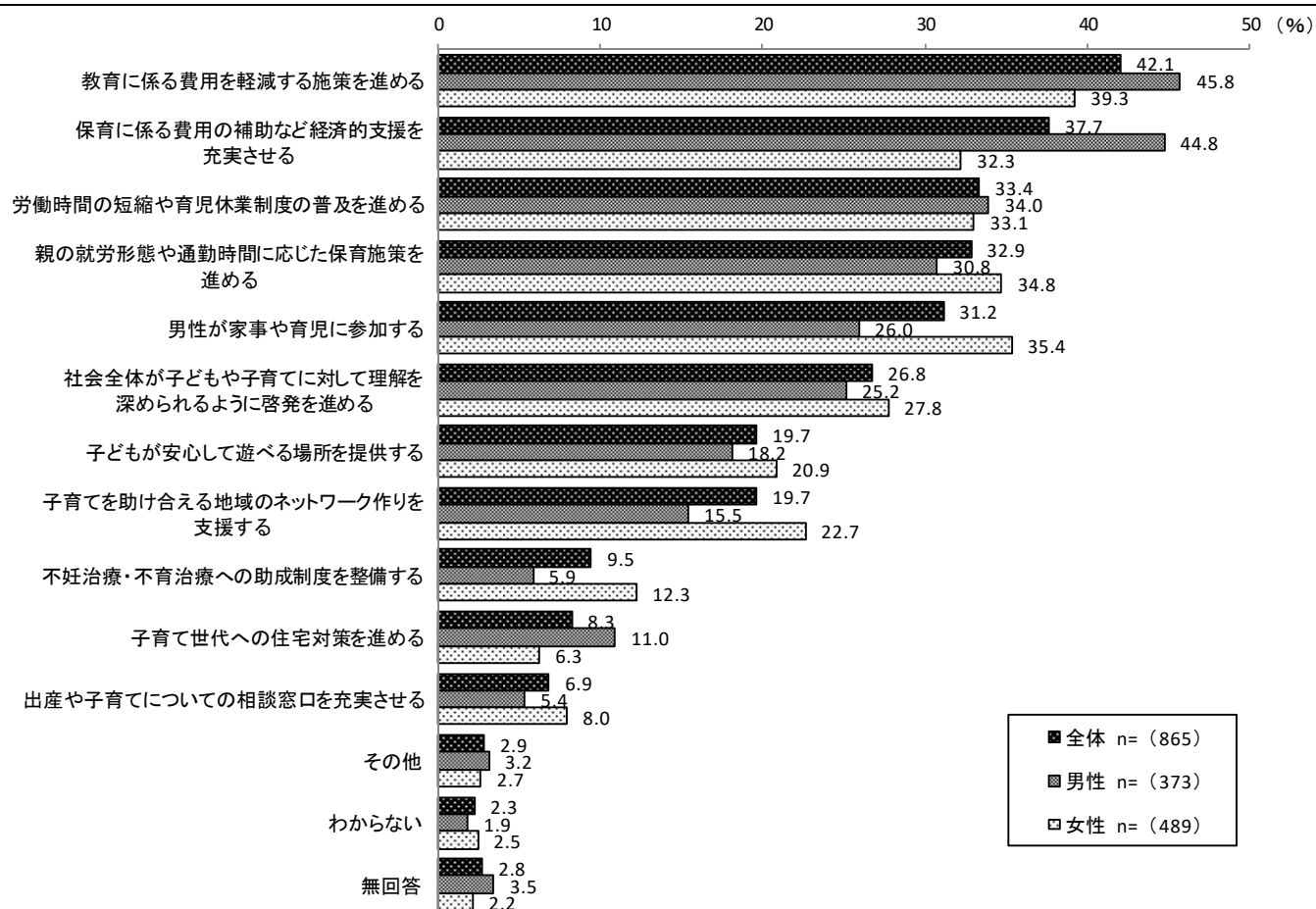


育児休業を取得できなかった、または取得しようと思わなかった方に、その理由を尋ねたところ「そのような休業制度がなかったから」が38.1%で最も多い。次いで、「就労していなかったから」が25.2%、「出産・育児を機に退職したから」が21.8%となっている。

性別でみると、男性では「そのような休業制度がなかったから」53.9%、次いで、「家庭内に育児をしてくれる人が別にいたから」22.5%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったから」19.7%、「取得すると収入が下がるから」14.6%、「自分の仕事や出世に支障がでると思ったから」14.0%と続き、それぞれ女性を上回っている。一方、女性では「就労していなかったら」43.1%、「出産・育児を機に退職したから」41.1%が、それぞれ男性を上回っている。

(3) 安心して子どもを生み育てられる社会にするために必要なこと

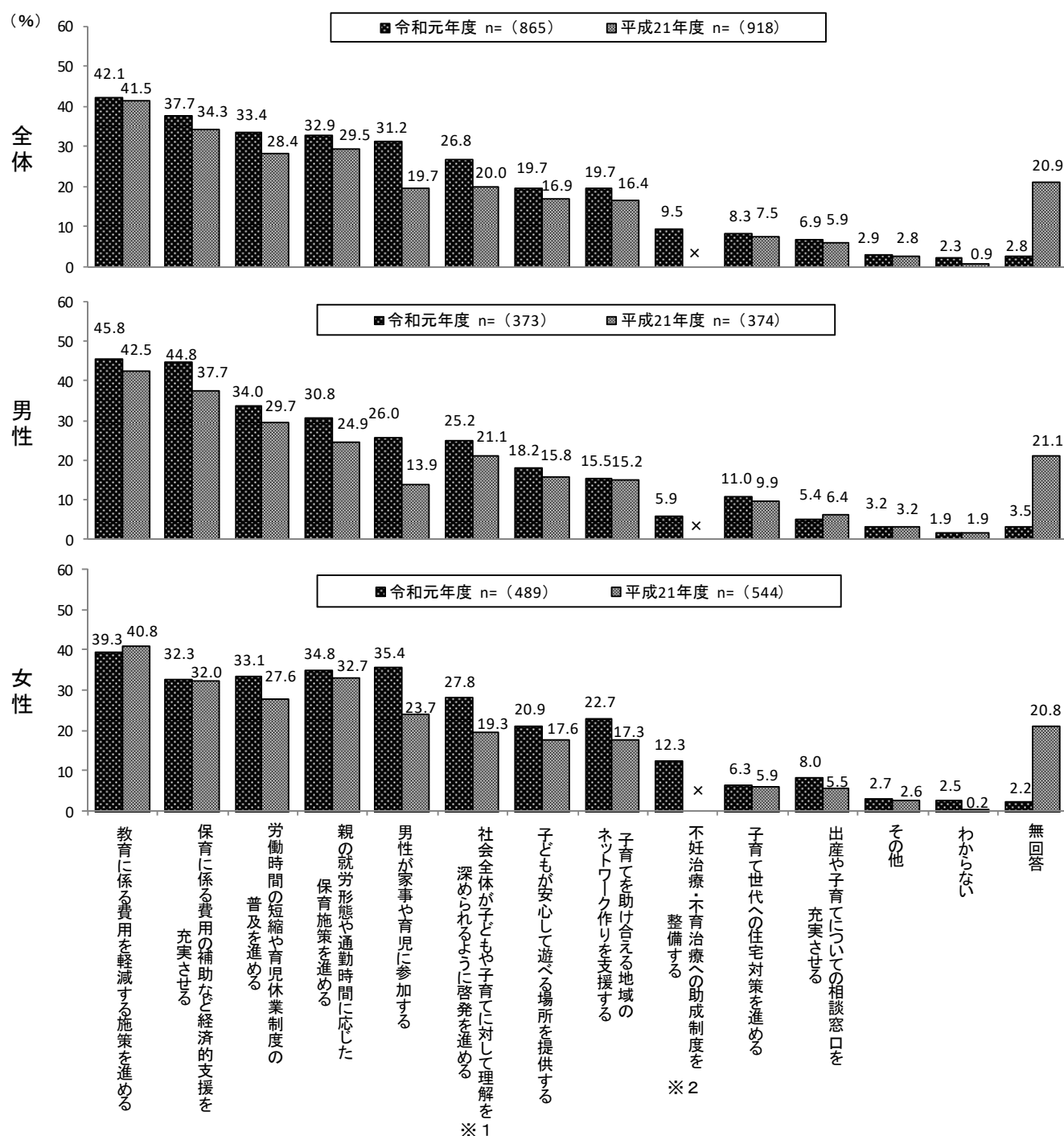
問9 安心して子どもを生み育てられる社会にするために、必要なことを3つまで選んでください。



安心して子どもを生み育てられる社会にするために必要なことについて尋ねたところ、「教育に係る費用を軽減する施策を進める」が42.1%で最も多い。性別でも、男女とも最も多い値となっている。次いで、「保育に係る費用の補助など経済的支援を充実させる」が37.7%、「労働時間の短縮や育児休業制度の普及を進める」が33.4%となっている。

性別でみると、男性では「保育に係る費用の補助など経済的支援を充実させる」が44.8%と、女性の32.3%を上回っている。一方、女性では「男性が家事や育児に参加する」が35.4%と、男性の26.0%を上回っている。また、「子育てを助け合える地域のネットワーク作りを支援する」が22.7%と、男性の15.5%を上回っている。

安心して子どもを生み育てられる社会にするために必要なこと 経年比較



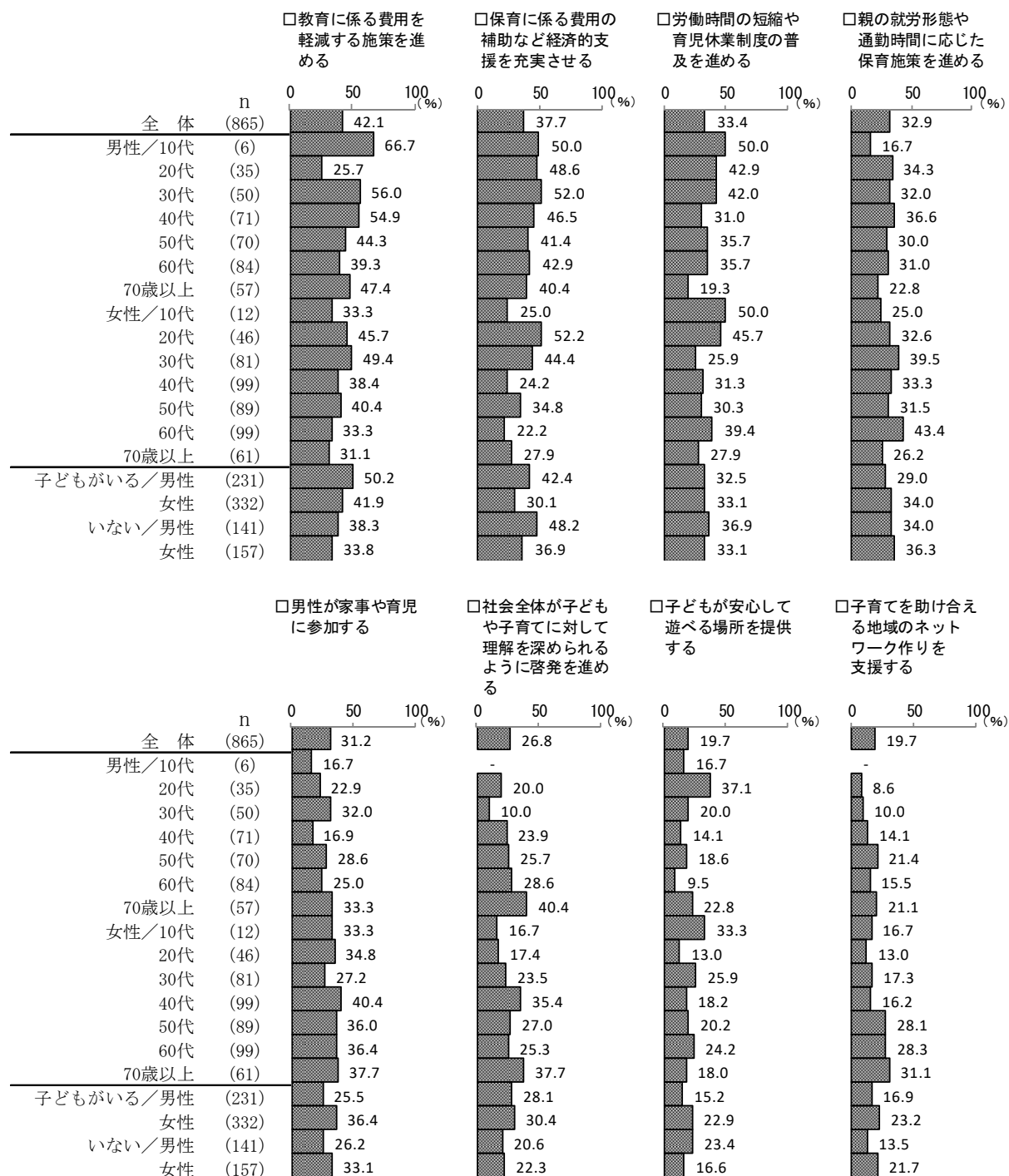
※1 平成21年度においては「社会全体が子どもや子育てに対して理解を深める啓発活動をする」である。

※2 令和元年度に追加した選択肢である。

平成21年度の調査と比較すると、「男性が家事や育児に参加する」の増加が際立っている。これは性別でみても男女とも増加が著しい状況にある。

性別でみると、男性では「保育に係る費用の補助などの経済的支援を充実させる」が7.1ポイント増加している。女性では「社会全体が子どもや子育てに対して理解を深められるように啓発を進める」が8.5ポイント増加している。

安心して子どもを生み育てられる社会にするために必要なこと（上位8項目）

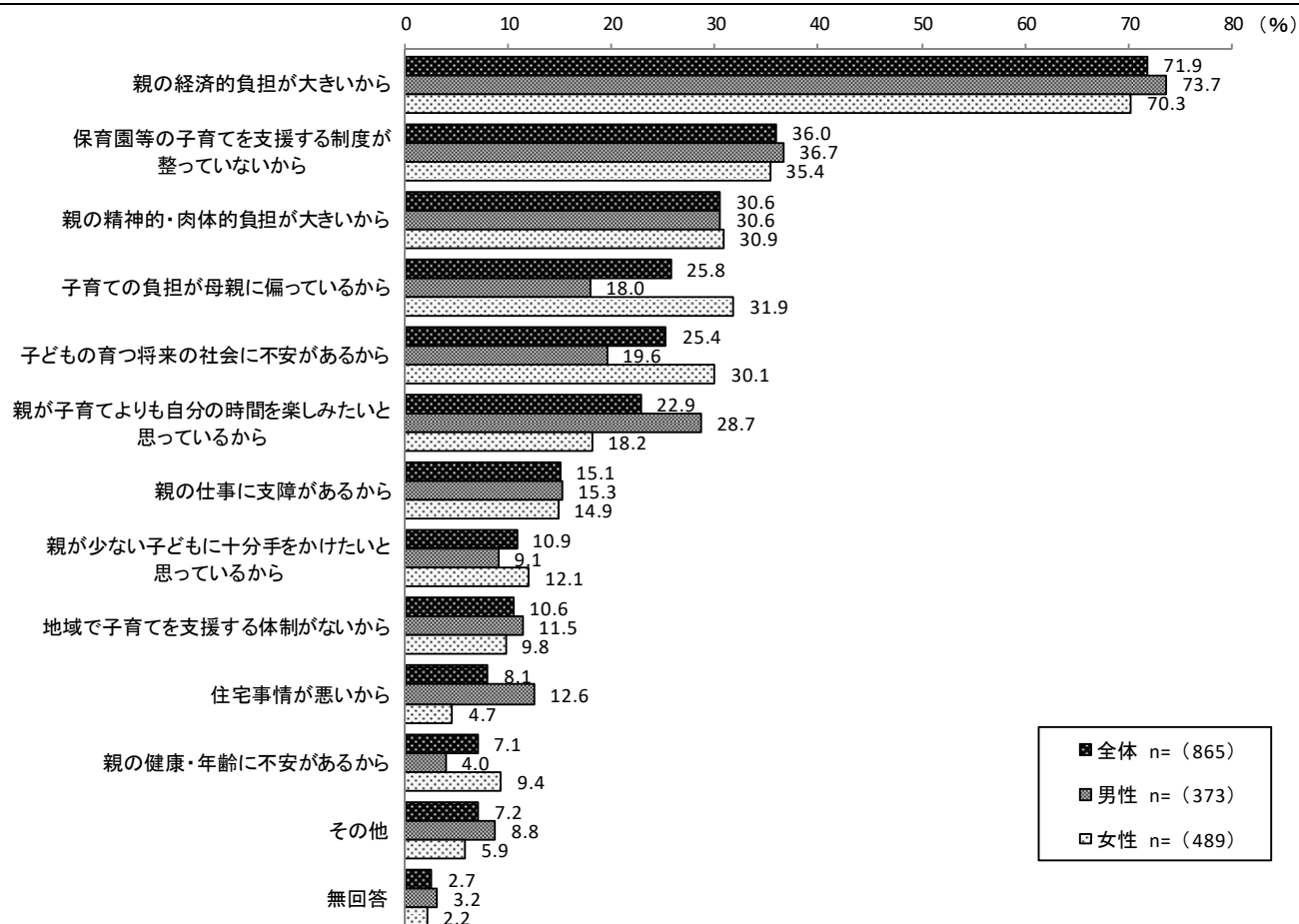


性／年齢別でみると、「教育に係る費用を軽減する施策を進める」は男性の30代、40代で5割を超え、「保育に係る費用の補助など経済的支援を充実させる」は男性の30代、女性の20代で5割を超えている。「社会全体が子どもや子育てに対して理解を深められるように啓発を進める」は男性の70歳以上で約4割となっている。

性／子どもの有無別でみると、「教育に係る費用を軽減する施策を進める」は子どもがいる男性で約5割である。「保育に係る費用の補助など経済的支援を充実させる」は子どもがいる、いないともに男性で4割を超えており、それぞれ女性を上回っている。「男性が家事や育児に参加する」は子どもがいる、いないともに女性が3割を超えており、それぞれ男性を上回っている。

(4) 少子化の原因

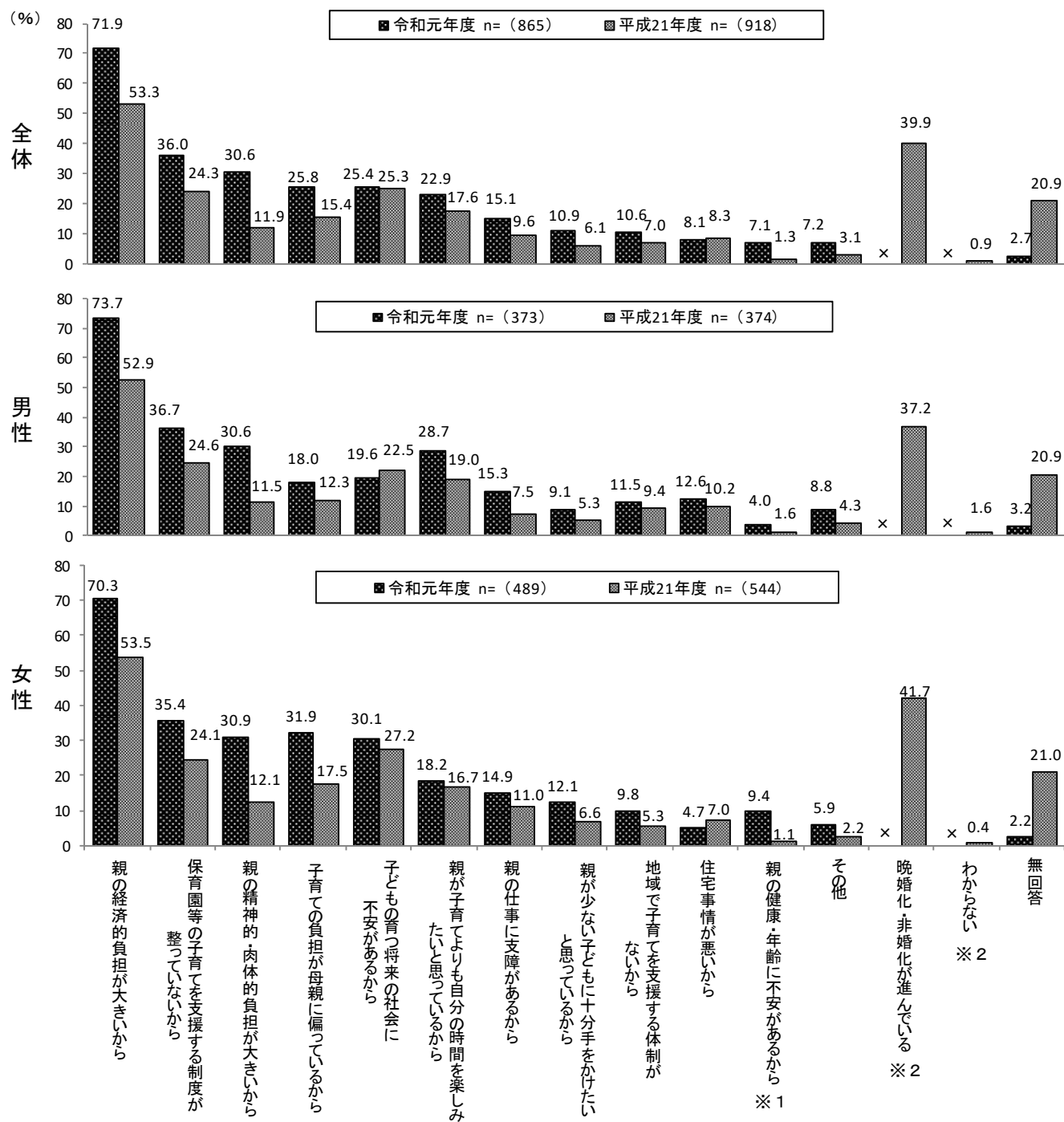
問 10 少子化の原因として考えられることを3つまで選んでください。



少子化の原因について尋ねたところ、「親の経済的負担が大きいから」が71.9%で最も多く、性別にみても、男女とも最も多い数値となっている。次いで、「保育園等の子育てを支援する制度が整っていないから」が36.0%、「親の精神的・肉体的負担が大きいから」が30.6%となっている。

性別でみると、男性では「親が子育てよりも自分の時間を楽しみたいと思っているから」が28.7%と、女性の18.2%を上回っている。一方、女性では「子育ての負担が母親に偏っているから」が31.9%と、男性の18.0%を上回っている。また、「子どもの育つ将来の社会に不安があるから」が30.1%と、男性の19.6%を上回っている。

少子化の原因 経年比較



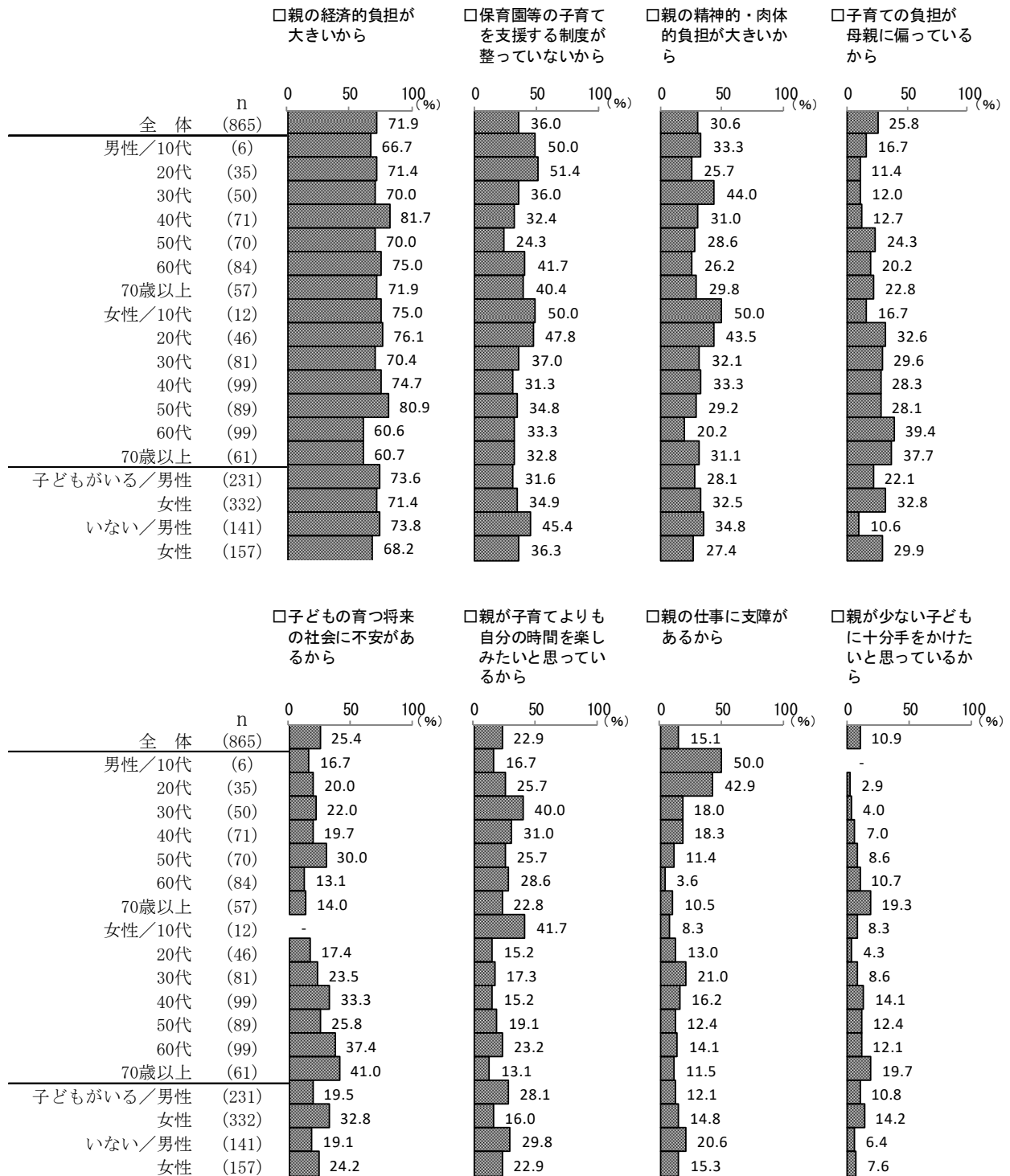
※1 平成21年度においては「親の健康・体力に不安がある」である。

※2 令和元年度では削除した選択肢である。

平成21年度の調査と比較すると、「親の経済的負担が大きいから」、「保育園等の子育てを支援する制度が整っていないから」、「親の精神的・肉体的負担が大きいから」、「子育ての負担が母親に偏っているから」の割合の増加が著しい。

性別でみると、男性では「親が子育てよりも自分の時間を楽しみたいと思っているから」が増加している。女性では「子育ての負担が母親に偏っているから」が増加している。

少子化の原因（上位8項目）



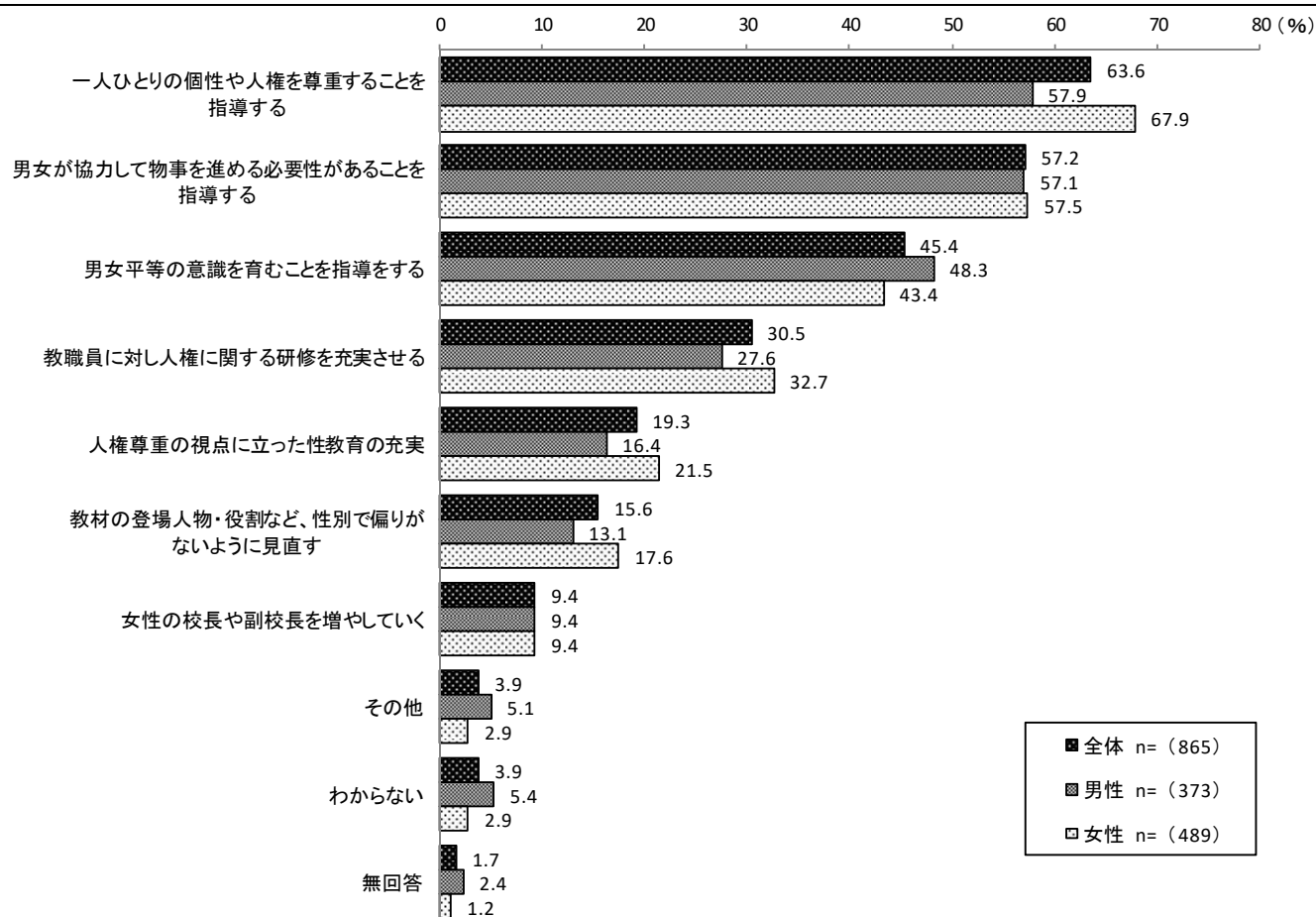
性／年齢別でみると、「親の経済的負担が大きいから」が男性の40代、女性の50代で8割を超えている。

「保育園等の子育てを支援する制度が整っていないから」は男性の20代で5割台、女性の20代で4割台となっている。「親の精神的・肉体的負担が大きいから」は男性の30代、女性の20代で4割台となっている。

性／子どもの有無別でみると、「保育園等の子育てを支援する制度が整っていないから」は子どもがいない男性で4割台となっている。「子育ての負担が母親に偏っているから」、「子どもの育つ将来の社会に不安があるから」は子どもがいる、いないともに女性が男性をそれぞれ上回っている。

(5) 男女共同参画社会の実現に向け学校に望むこと

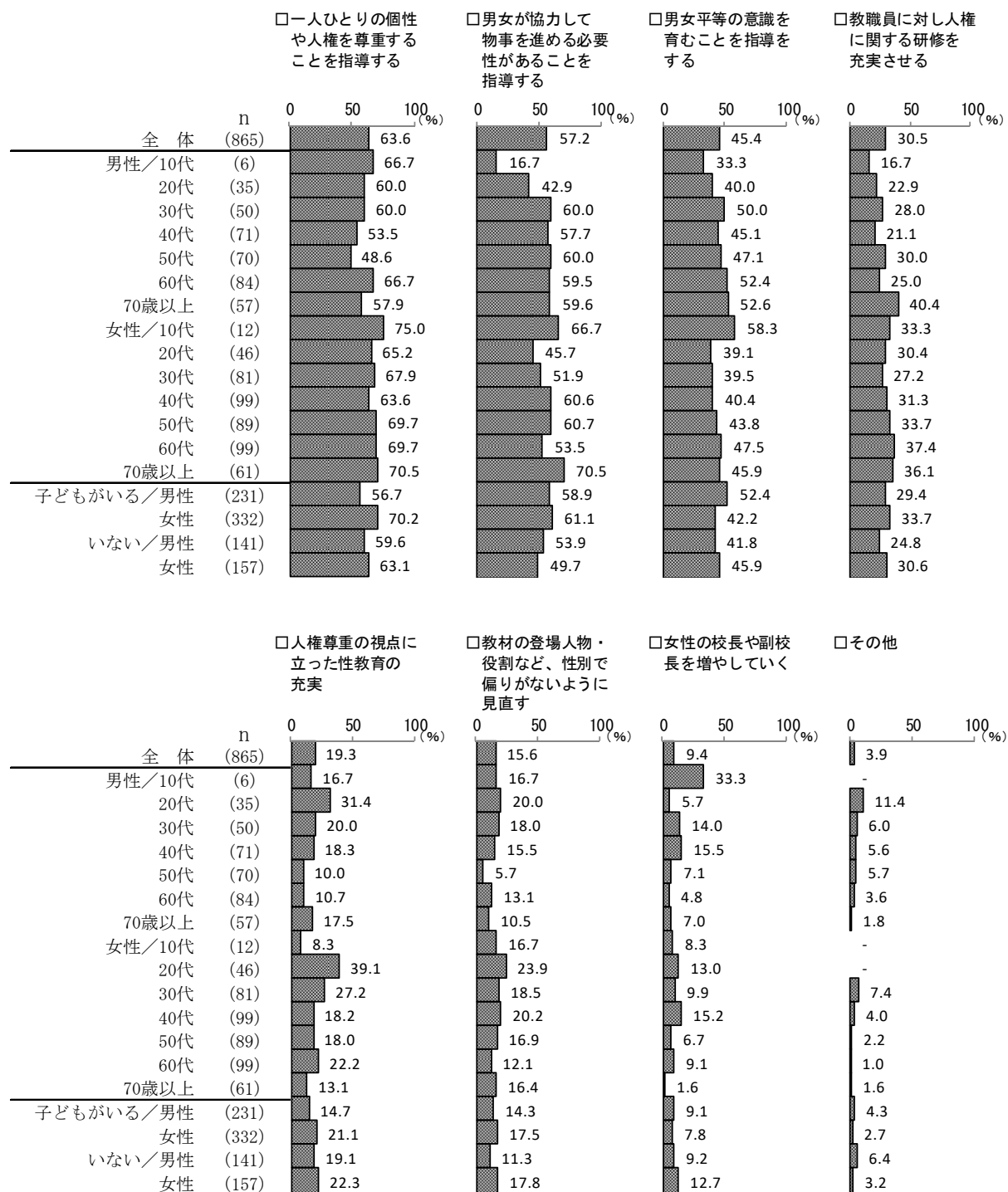
問 11 男女共同参画社会を実現するために学校で取り入れてほしいことを3つまで選んでください。



男女共同参画社会の実現に向け学校に望むことについて尋ねたところ、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを指導する」が63.6%で最も多く、次いで、「男女が協力して物事を進める必要性があることを指導する」が57.2%、「男女平等の意識を育むことを指導する」が45.4%となっている。

性別でも、同傾向となっている。

男女共同参画社会の実現に向け学校に望むこと（上位8項目）



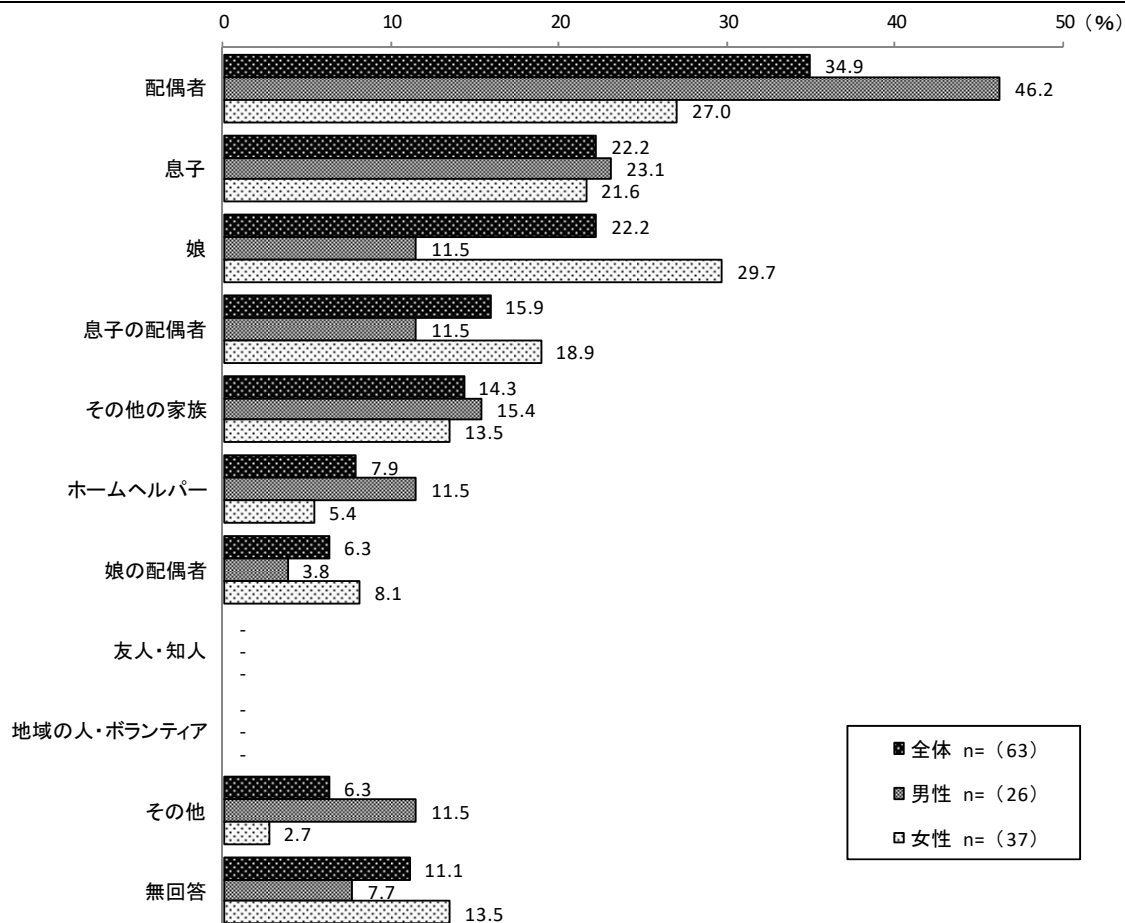
性/年齢別でみると、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを指導する」、「男女が協力して物事を進める必要性があることを指導する」は女性の70歳以上で約7割となっている。「人権尊重の視点に立った性教育の充実」は男女ともに20代で3割台となっている。

性/子どもの有無別でみると、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを指導する」は子どもがいる女性で7割を超え、最も多い数値となっている。

(6) 介護している人

【介護を要する方と同居している方（F7で「1」とお答えの方）に伺います】

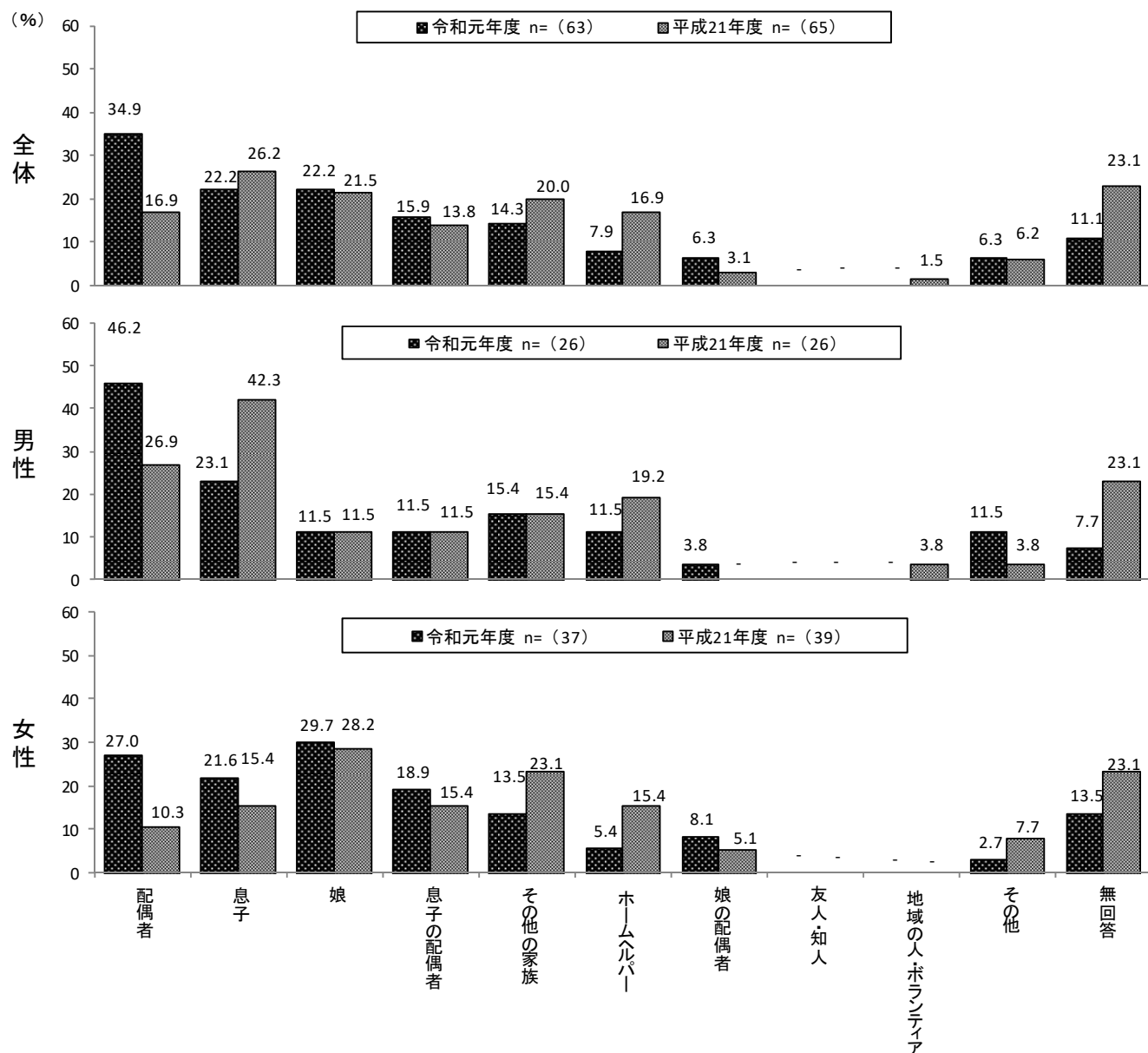
問12 現在、介護をしている方は被介護者（介護を要する方）からみて誰かお答えください。
複数で介護している場合は3人までお答えください。



介護を要する方と同居している方に、介護している人について尋ねたところ、「配偶者」が34.9%で最も多い。次いで、「息子」が22.2%、「娘」が22.2%となっている。

性別にみると、男性では「配偶者」が46.2%と最も多い一方で、女性では「娘」が29.7%と、最も多くなっている。

介護している人 経年比較

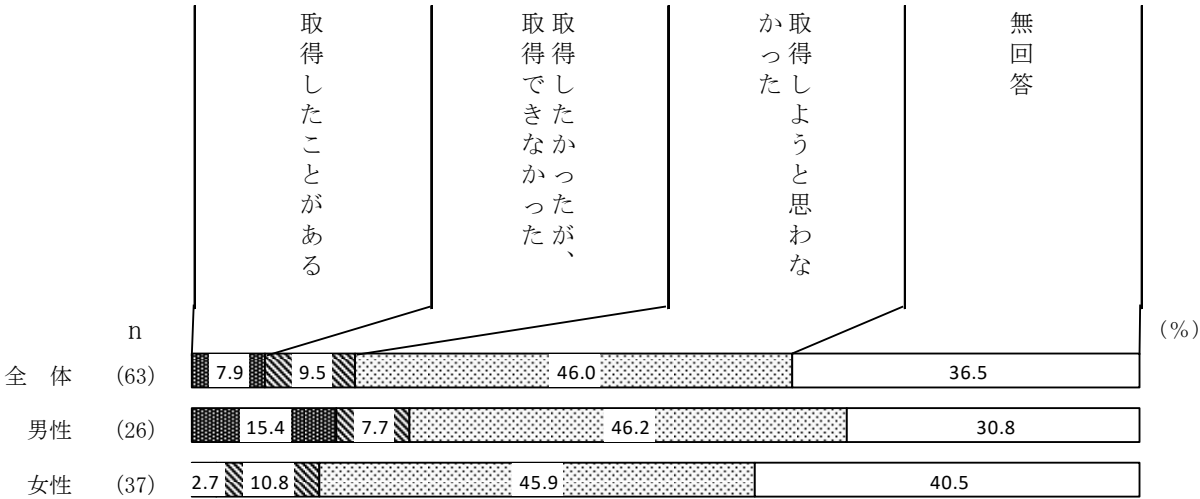


平成21年度の調査と比較すると、「配偶者」の増加が著しい一方で、「ホームヘルパー」の減少が顕著である。

性別でみると、男性では「息子」が減少している。反面、女性では「息子」が増加している。

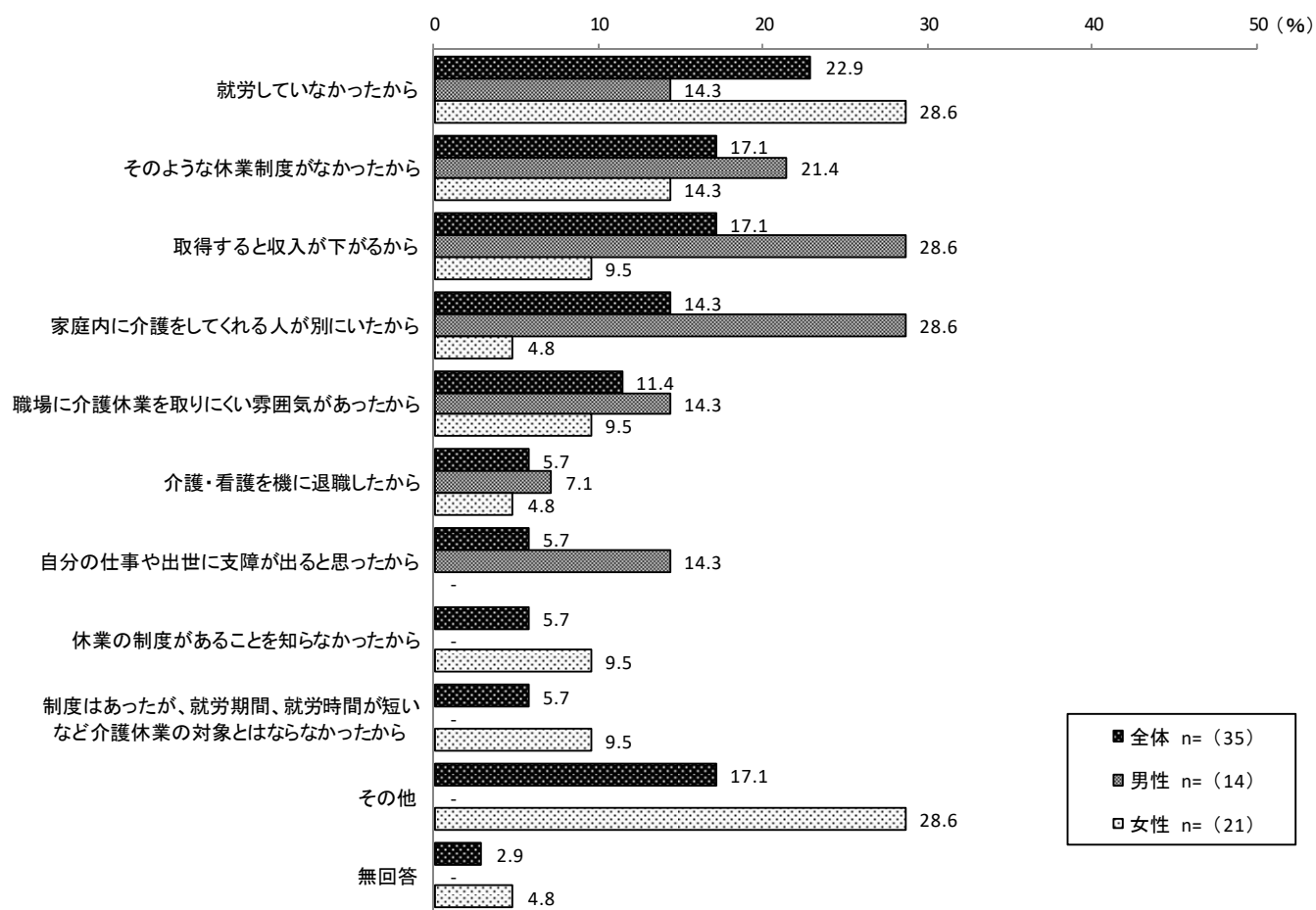
(7) 介護休業取得の有無

問 13 あなたは介護休業を取得したことがありますか。
介護休業を取得しなかった理由を全て選んでください。



介護を要する方と同居している方に、介護休業取得の有無について尋ねたところ、「取得しようと思わなかった」が46.0%で最も多い。

介護休業を取得しなかった理由



介護休業を取得できなかった、または取得しようと思わなかった方に、その理由を尋ねたところ「就労していなかったから」が22.9%で最も多く、次いで、「そのような休業制度がなかったから」が17.1%、「取得すると収入が下がるから」が17.1%となっている。

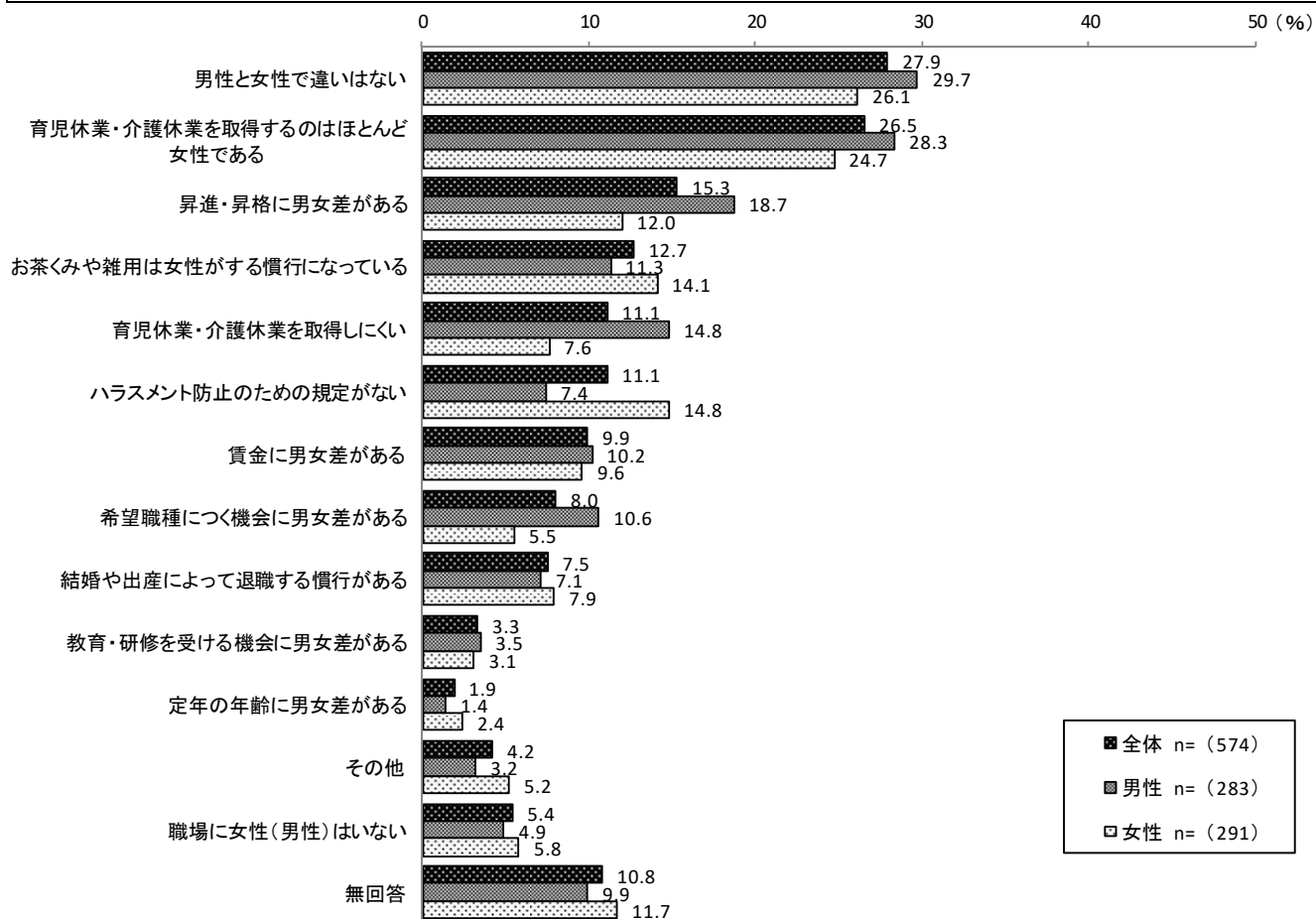
性別でみると「家庭内に介護をしてくれる人が別にいたから」、「取得すると収入が下がるから」はそれぞれ、男性で28.6%となっている。

5. 就労について

(1) 勤務先の職場環境

【現在収入を伴う仕事をしている方（F3で「1～5」とお答えの方）に伺います】

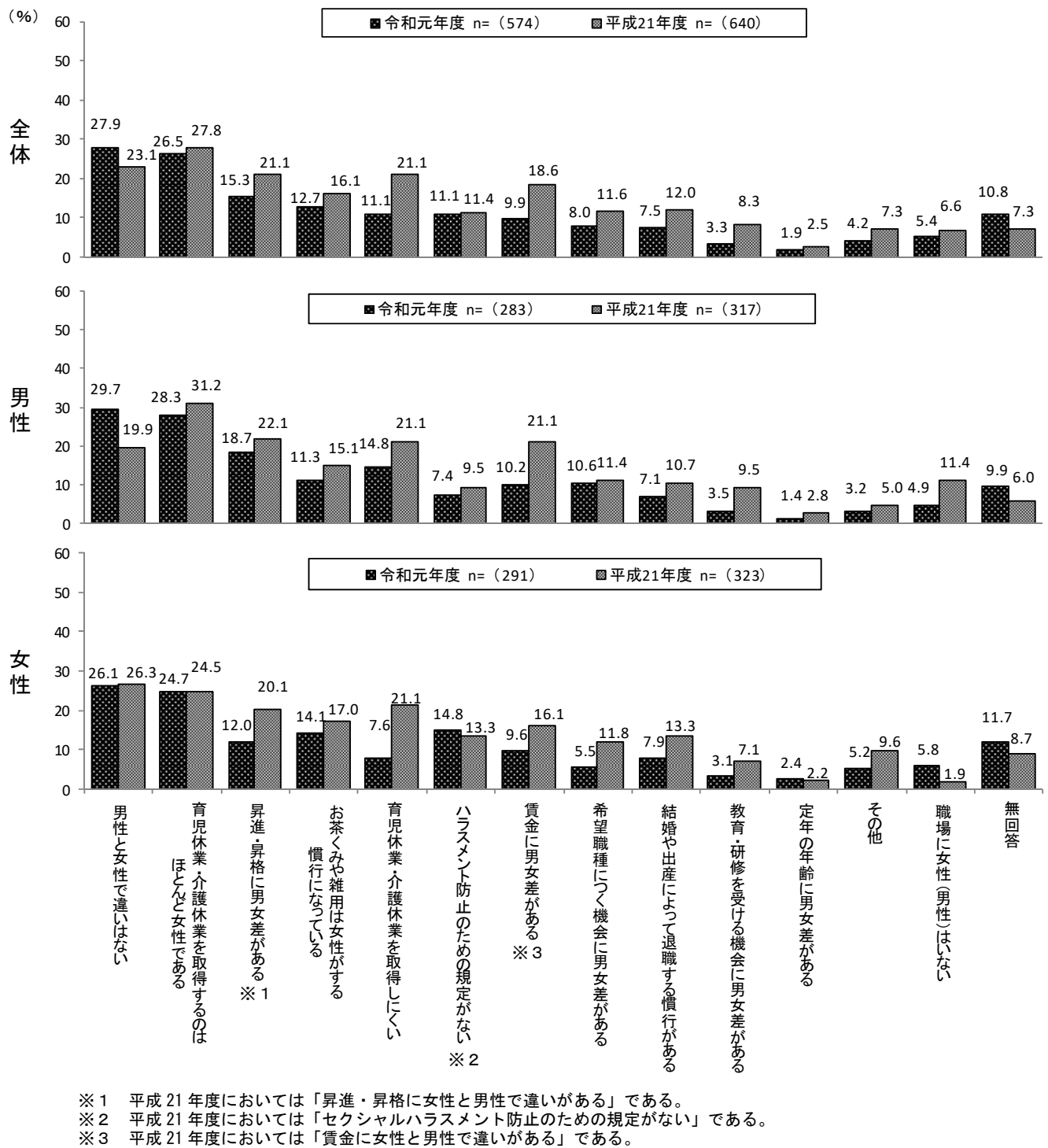
問 14 あなたの職場では次のようなことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。



現在、回答者ご自身が収入を伴う仕事をしている方に、勤務先の職場環境について尋ねたところ、「男性と女性で違いはない」が27.9%で最も多い。次いで、「育児休業・介護休業を取得するのはほとんど女性である」が26.5%、「昇進・昇格に男女差がある」が15.3%、「お茶くみや雑用は女性がする慣行になっている」が12.7%となっている。

性別でみると、男性では「育児休業・介護休業を取得しにくい」が14.8%と、女性の7.6%と比較し高くなっている。女性では「ハラスメント防止のための規定がない」が14.8%と、男性の7.4%を上回っている。

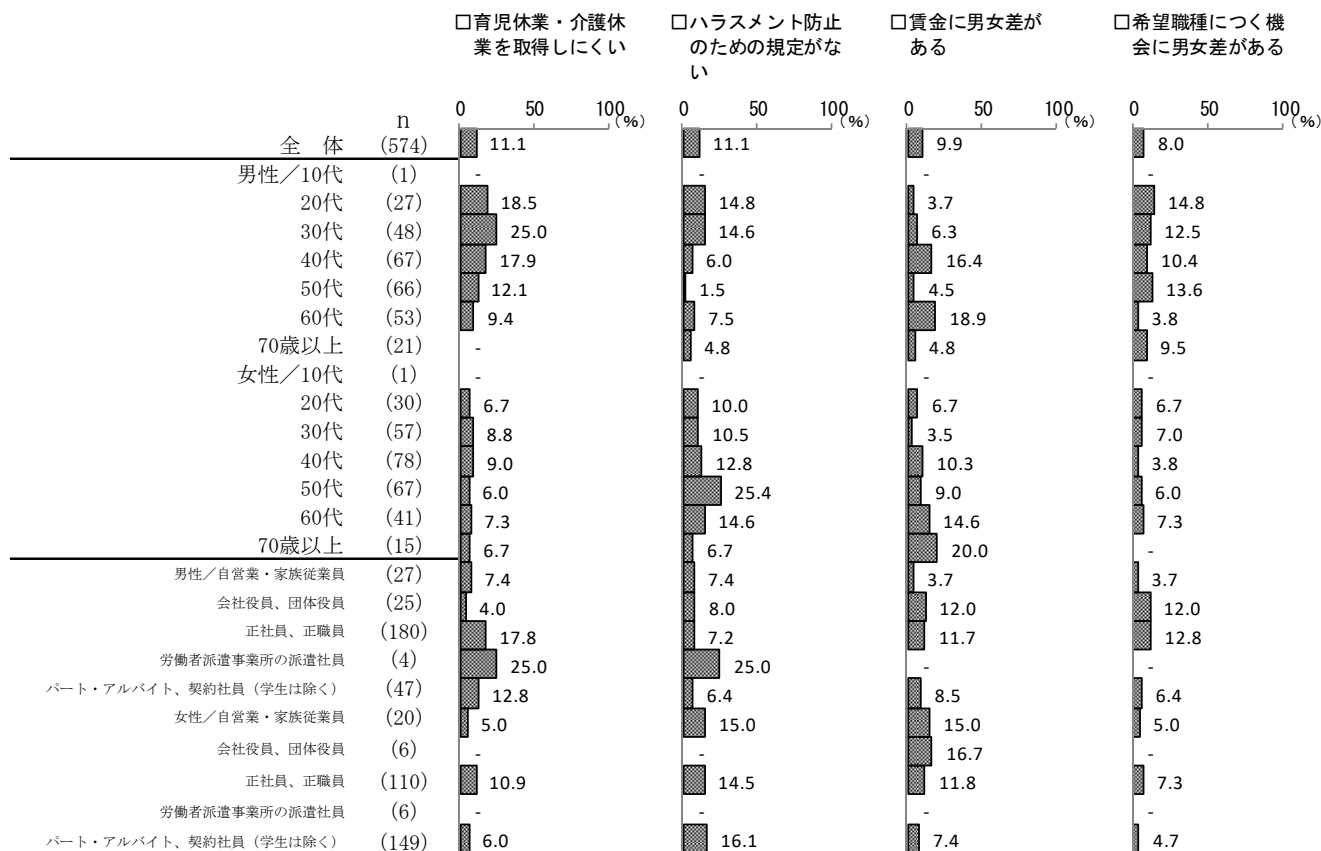
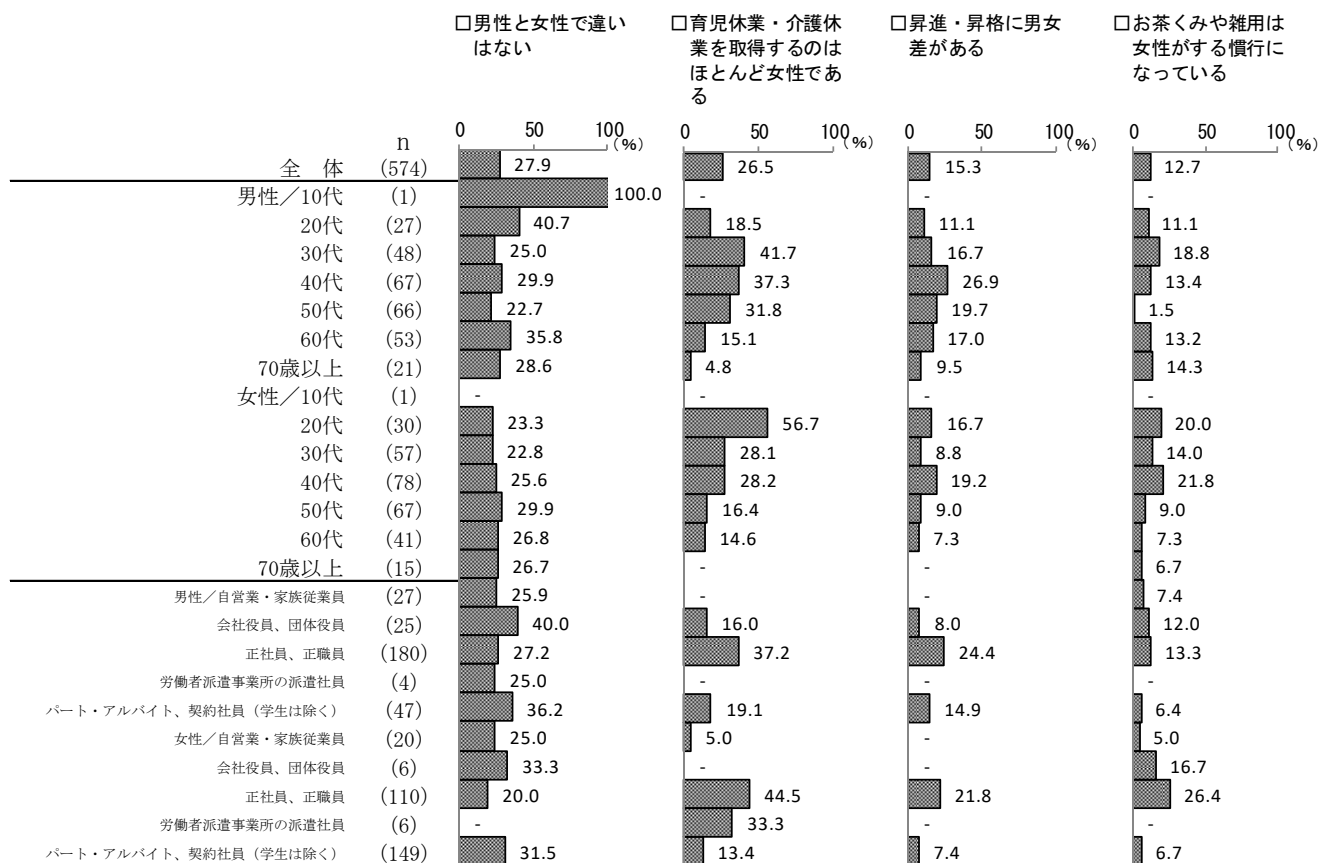
勤務先の職場環境 経年比較



平成21年度の調査と比較すると、「昇進・昇格に男女差がある」、「育児休業・介護休業を取得しにくい」、「賃金に男女差がある」の減少が顕著にみられる。

性別でみると、男性では「男性と女性で違いはない」が9.8ポイント増加しているが、女性では大きな変化は見られない。

勤務先の職場環境（上位8項目）

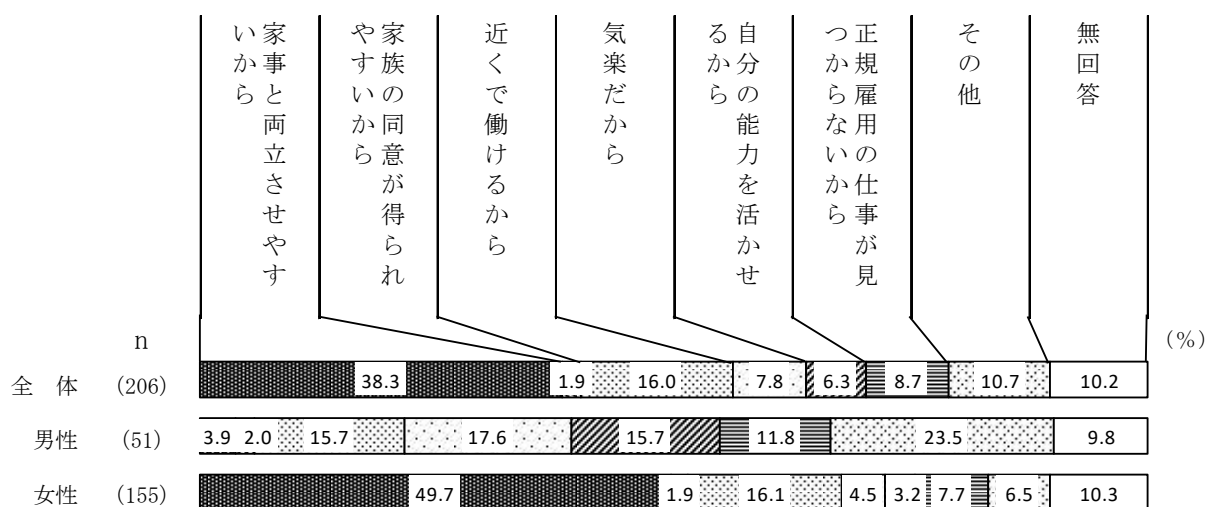


性／年齢別でみると、「育児休業・介護休業を取得するのはほとんど女性である」は女性の20代で5割後半、男性の30代で4割前半である。「昇進・昇格に男女差がある」は男性の40代で、「育児休業・介護休業を取得しにくい」は男性の30代で2割台となっている。「ハラスメント防止のための規定がない」は女性の50代で2割台となっている。

性／職業別にみると「育児休業・介護休業を取得するのはほとんど女性である」は女性の正社員・正職員で4割半ば、男性の正社員・正職員で3割後半となっている。

(2) 現在の勤務形態を選んだ理由

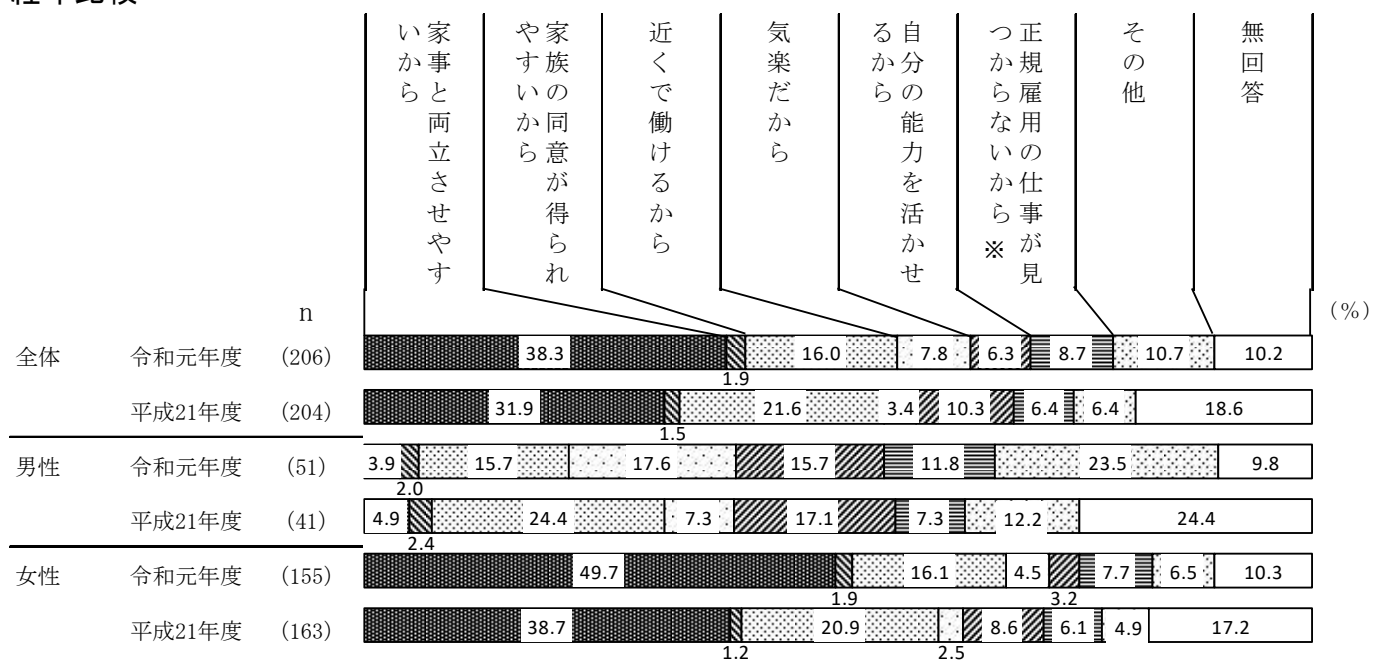
【現在、非正規の雇用形態で仕事をしている方（F3で「4～5」とお答えの方）に伺います】
 問 15 現在の勤務形態を選んだ理由を1つ選んでください。



現在、非正規の雇用形態で仕事をしている方に、現在の勤務形態を選んだ理由について尋ねたところ、「家事と両立させやすいから」が38.3%で最も多く、次いで、「近くで働けるから」が16.0%、「正規雇用の仕事が見つからないから」が8.7%となっている。

性別でみると、女性では「家事と両立させやすいから」が49.7%と、男性の3.9%を大幅に上回っている。

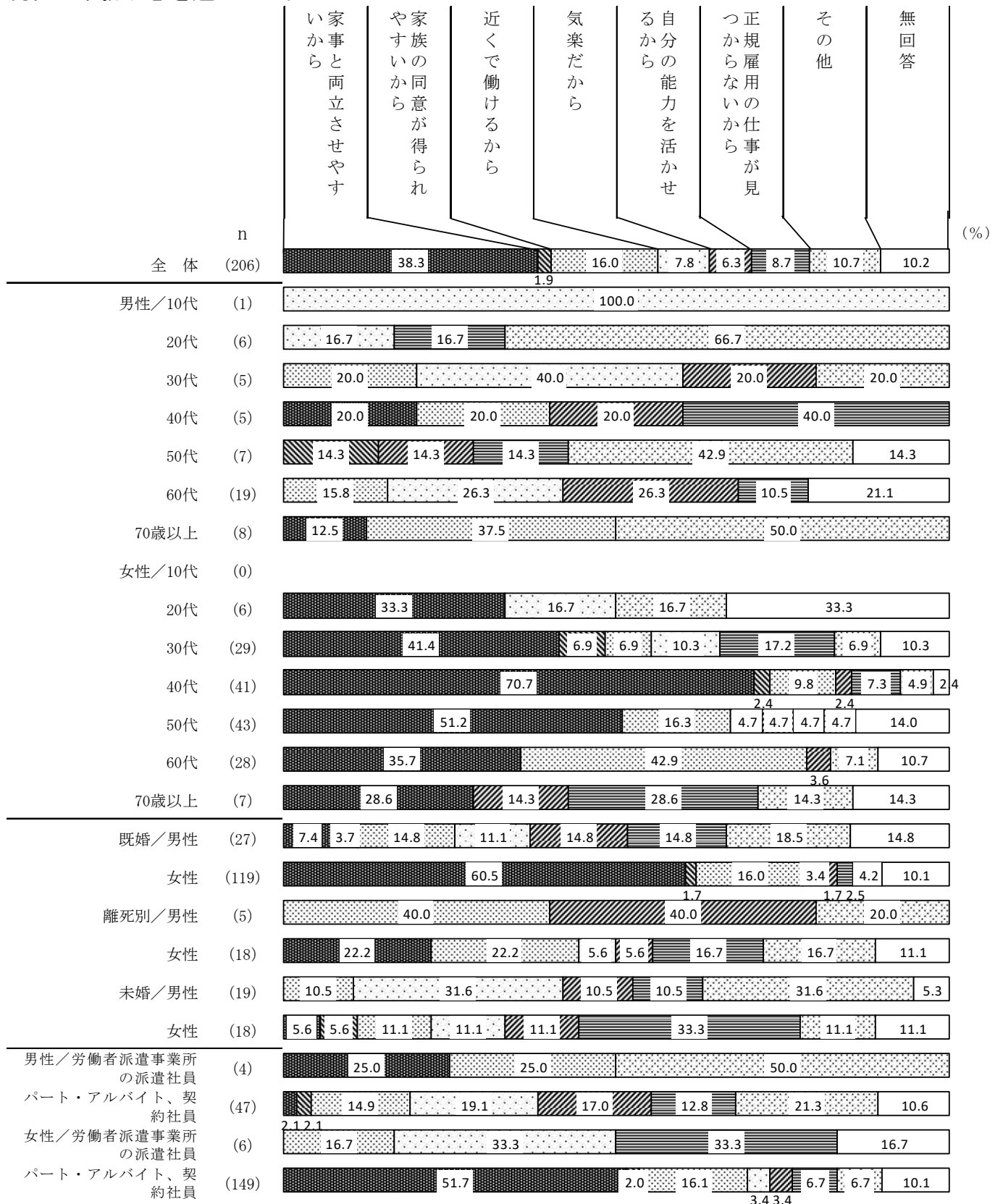
経年比較



※ 平成21年度においては「フルタイムの仕事が見つからないから」である

平成21年度の調査と比較すると、男性では「近くで働けるから」が減少し、「気楽だから」が増加している。女性では「家事と両立させやすいから」が11.0ポイント増加している。

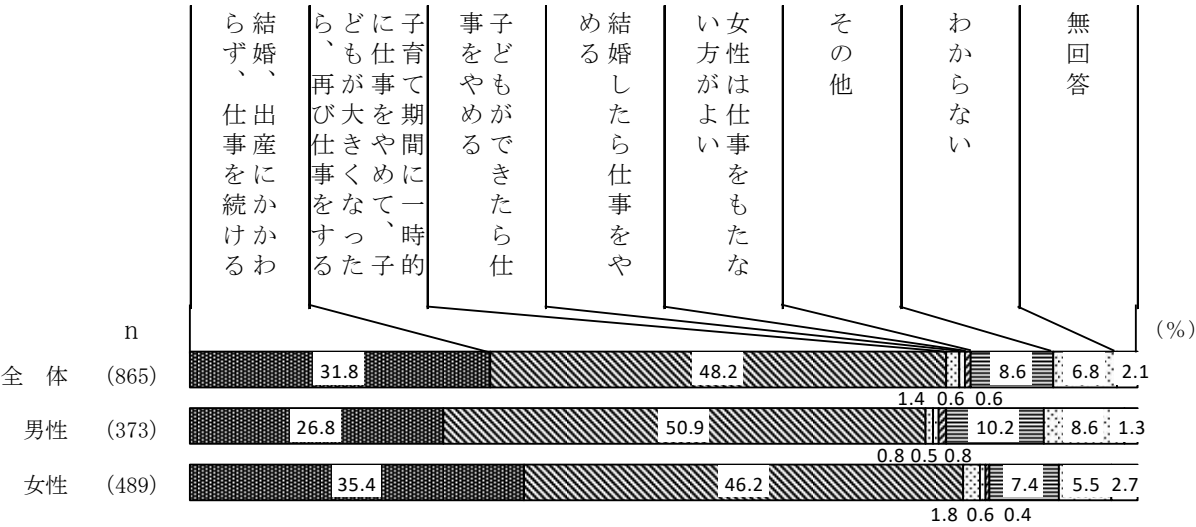
現在の業務形態を選んだ理由



性／年齢別および、性／結婚状況別、性／職業別では、回答者数が少ないため、傾向を見るにとどめ、参考扱いとする。

(3) 女性の理想の働き方

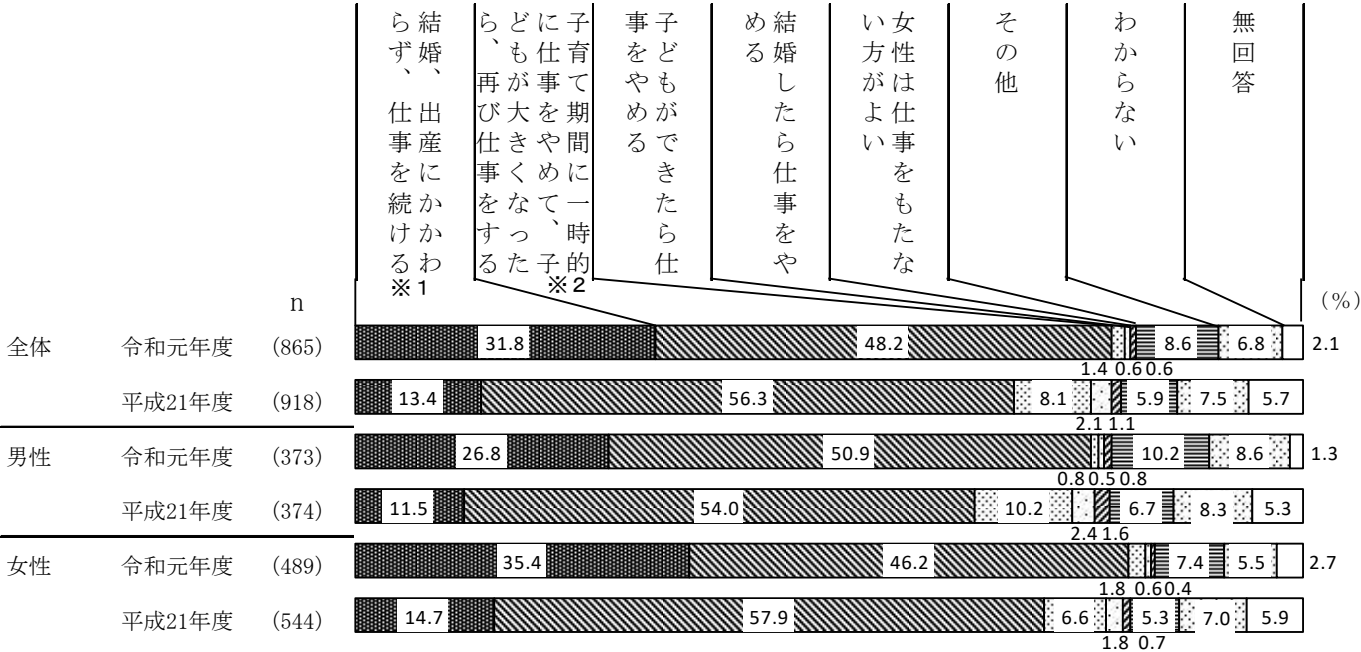
問 16 女性の働き方について望ましいものを1つ選んでください。



女性の理想の働き方について尋ねたところ、「子育て期間に一時的に仕事をやめて、子どもが大きくなったら、再び仕事をする」が48.2%で最も多く、次いで、「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける」が31.8%となっている。

性別でみると、女性では「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける」が35.4%と、男性の26.8%を上回っている。

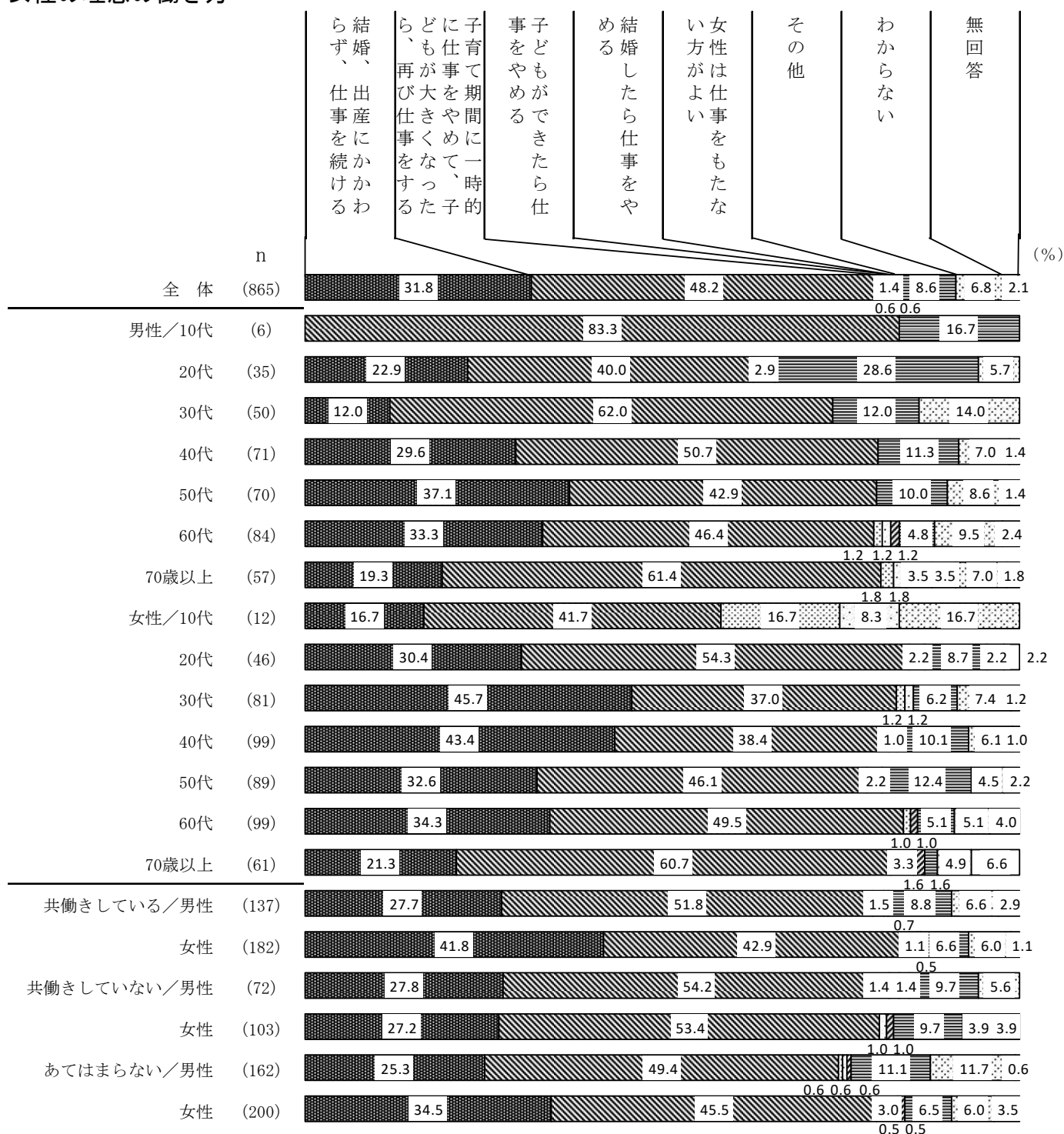
経年比較



※1 平成21年度においては「結婚、出産にかかわらずずっと仕事をする」である
※2 平成21年度においては「子育ての時だけ一時的に仕事をやめて、その後はまた仕事をする」である。

平成21年度の調査と比較すると、「子どもができたから仕事をやめる」が減少し、「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける」が大幅に増加している。性別でみても、同傾向となっている。

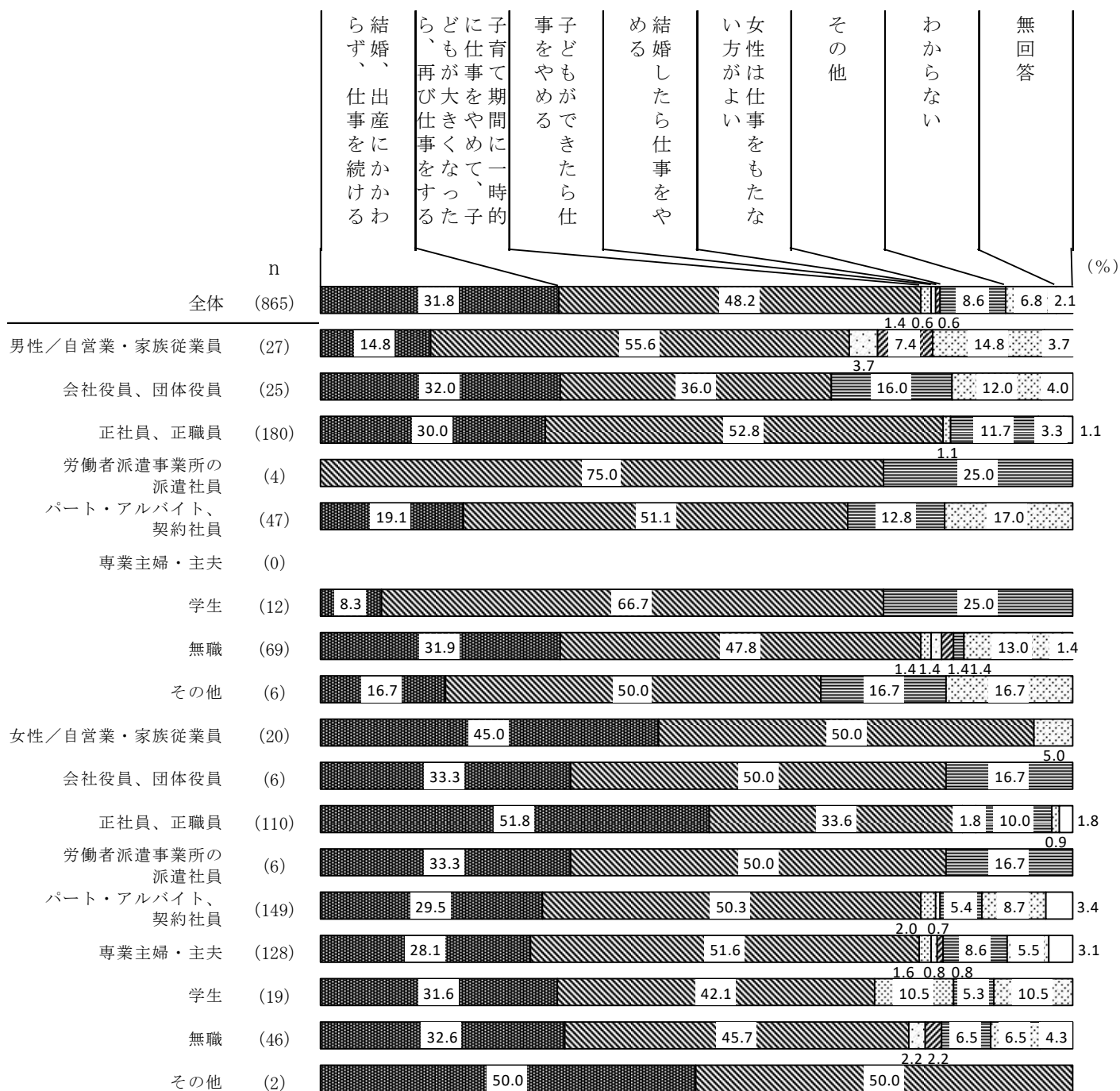
女性の理想の働き方



性／年齢別でみると、「子育て期間に一時的に仕事をやめて、子どもが大きくなったら再び仕事をする」は男性の30代、70歳以上、女性の70歳以上で6割台となっている。「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける」は女性の30代、40代で4割を超えている。

性／共働きの有無別でみると、「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける」は共働きしている女性で41.8%と、男性の27.7%を上回っている。

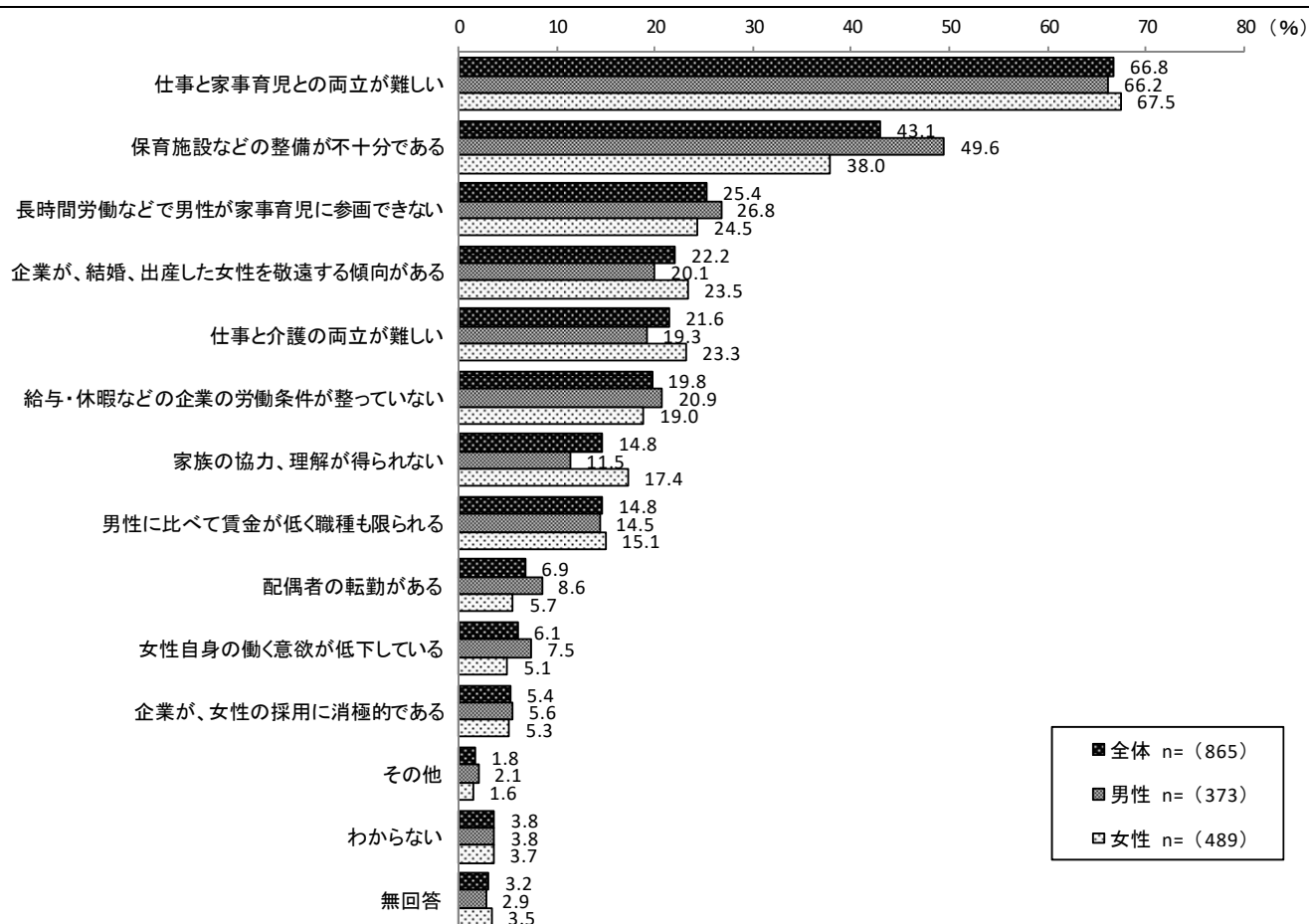
女性の理想の働き方



性／職業別でみると、「子育て期間に一時的に仕事をやめて、子どもが大きくなったら再び仕事をする」は男性の正社員、正職員、女性のパート・アルバイト、契約社員（学生は除く）、専業主婦・主夫で5割を超えている。女性の正社員、正職員では「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける」が51.8%と最も多い。

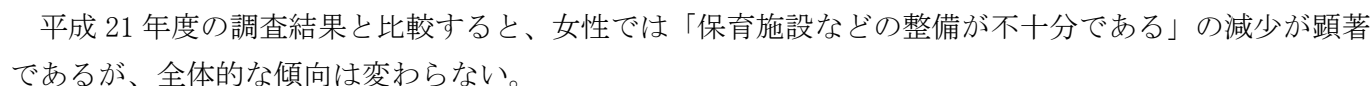
(4) 女性が働く上での障害

問 17 女性が仕事を続けたり、一度やめて再就職しようとするうえで、障害となると思うものを3つまで選んでください。

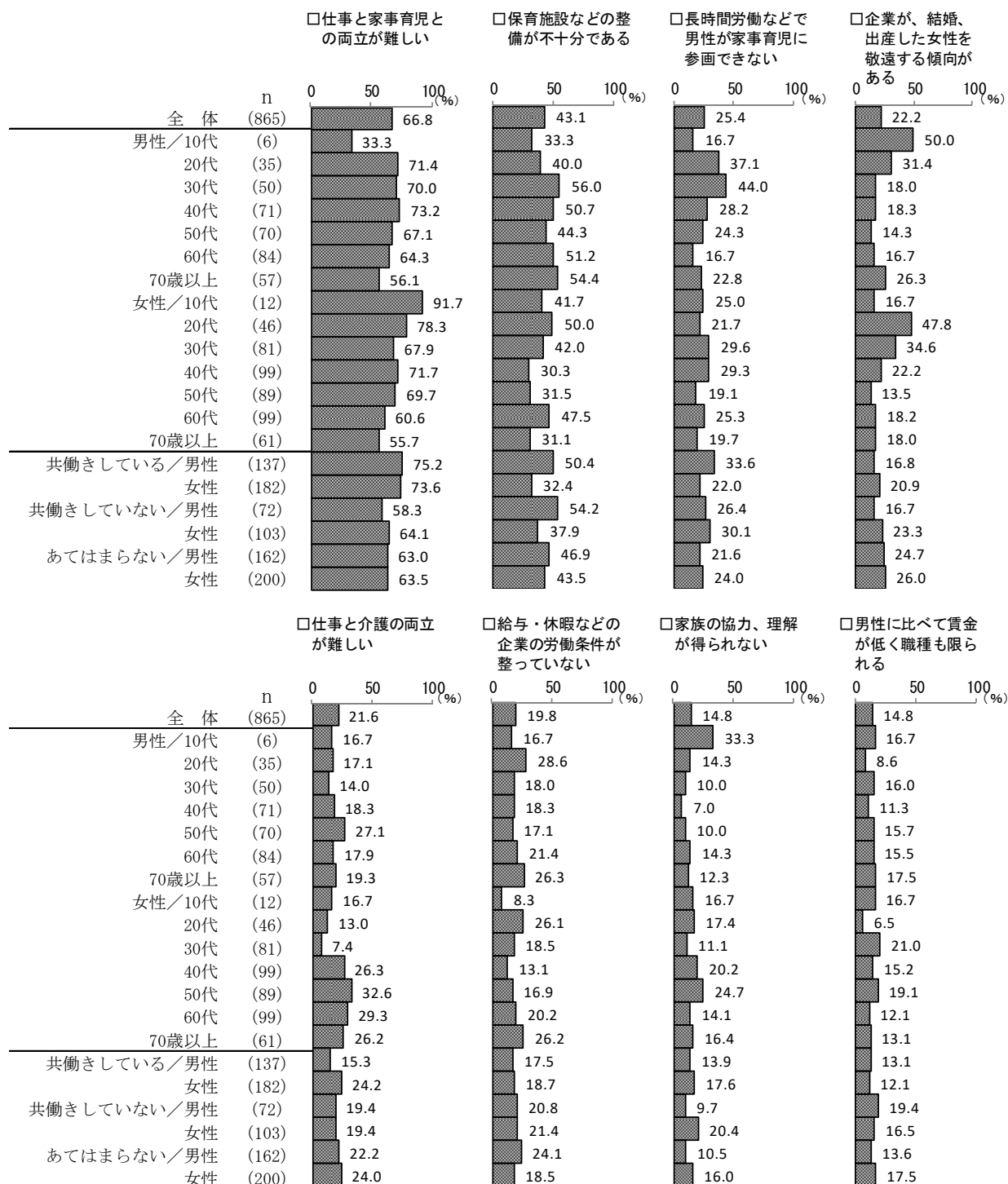


女性が働く上での障害について尋ねたところ、「仕事と家事育児との両立が難しい」が66.8%で最も多い。次いで、「保育施設などの整備が不十分である」が43.1%、「長時間労働などで男性が家事育児に参画できない」が25.4%となっている。

性別でみると、男性では「保育施設などの整備が不十分である」が49.6%と、女性の38.0%を上回っている。



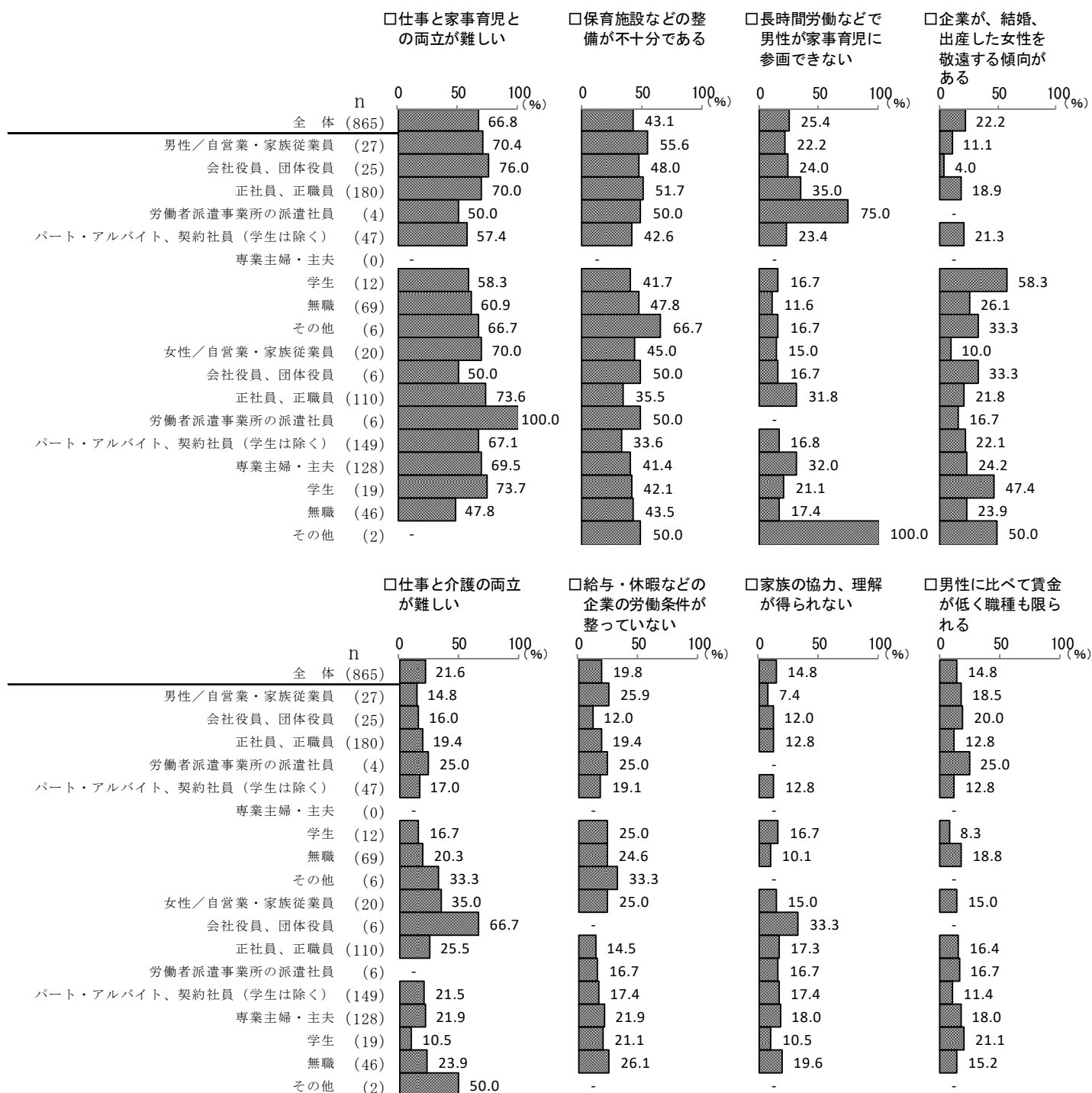
女性が働く上での障害（上位8項目）



性／年齢別でみると、「仕事と家事育児との両立が難しい」は男性の20代、30代、40代、女性の20代、40代で7割を超えており、女性の10代では91.7%となっている。「保育施設などの整備が不十分である」は男性の30代、40代、60代、70歳以上、女性の20代で5割台となっている。「長時間労働などで男性が家事育児に参画できない」は男性の30代で4割台、「企業が、結婚、出産した女性を敬遠する傾向がある」が女性の20代で4割後半となっている。

性／共働きの有無別でみると、「仕事と家事育児との両立が難しい」は共働きしている男女で7割台となっている。「保育施設などの整備が不十分である」は共働きしている、していないともに男性が5割台となっている。

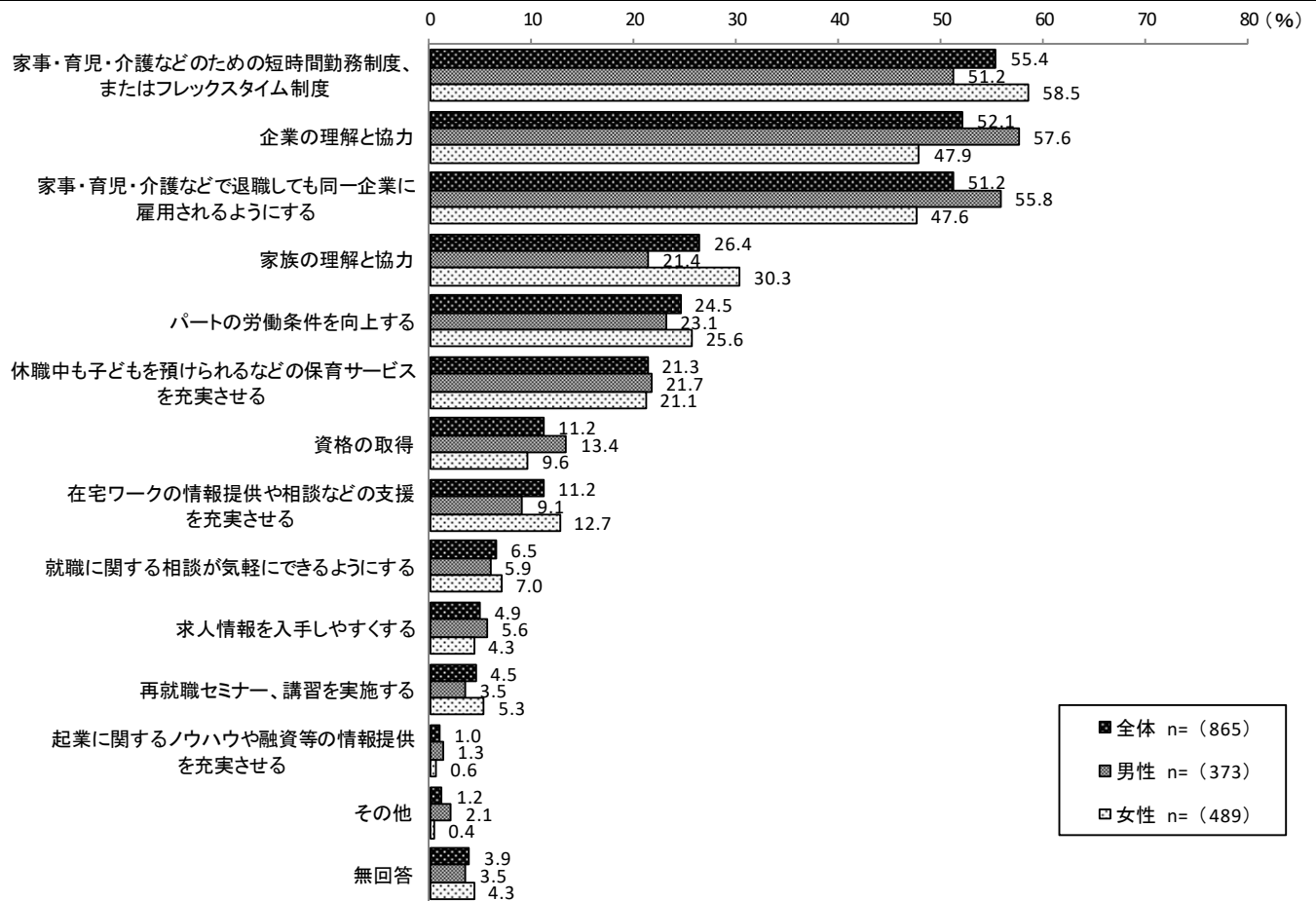
女性が働く上での障害



性／職業別でみると、「仕事と家事育児の両立が難しい」は正社員、正職員で男女ともに7割台、女性の専業主婦・主夫、パート・アルバイト、契約社員で6割後半である。「保育施設などの整備が不十分である」は正社員、正職員の男性で5割台となっている。「長時間労働などで男性が家事育児に参画できない」は女性の専業主婦・主夫と正社員、正職員の男女ともに3割台となっている。

(5) 再就職の際に役立つと思うもの

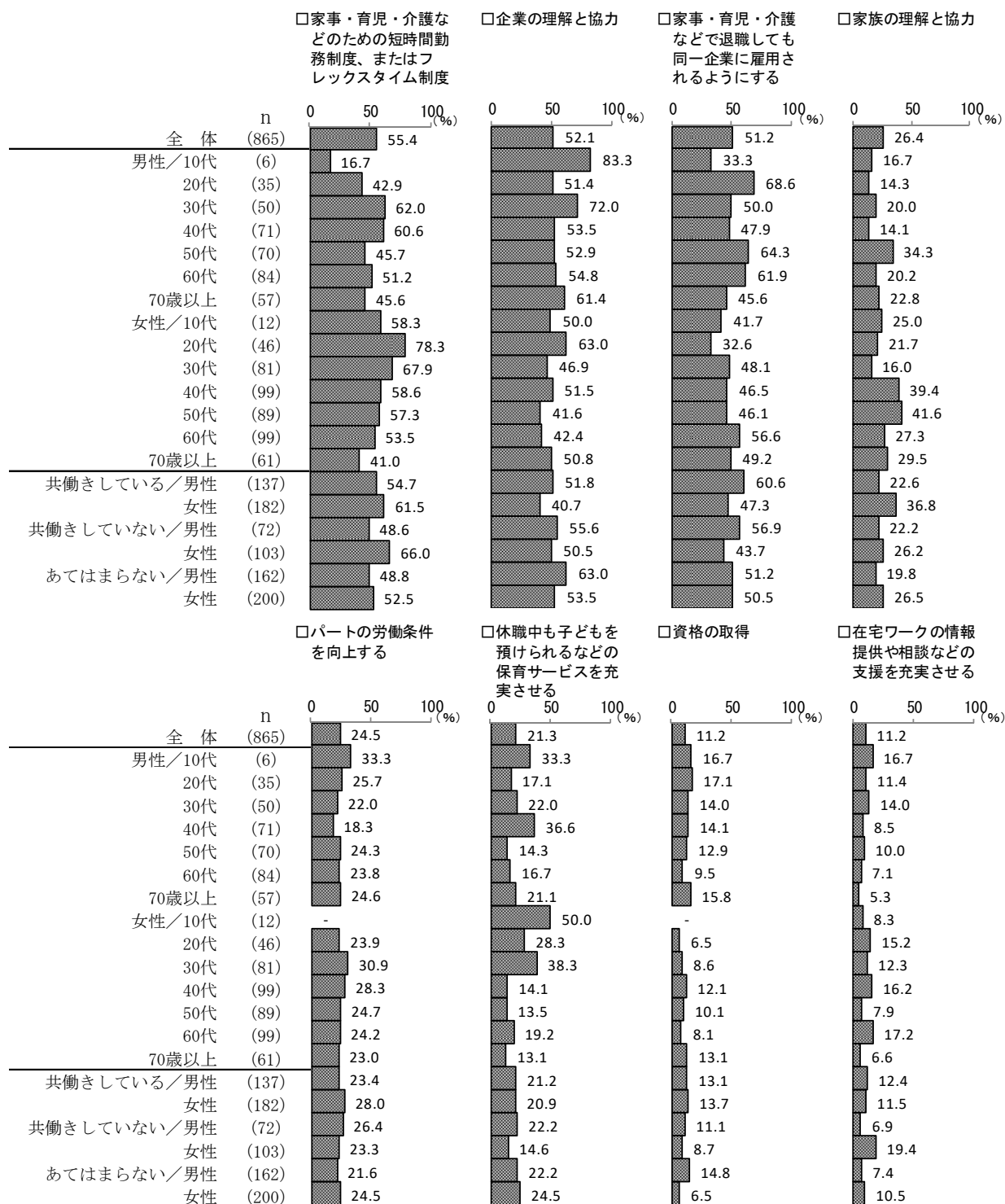
問 18 家事・育児・介護などのために一時的に仕事をやめた人が再就職を希望する場合、役立つと思うものを3つまで選んでください。



一時的な離職をした人が再就職を希望する際に役立つと思うものについて尋ねたところ、「家事・育児・介護などのための短時間勤務制度、またはフレックスタイム制度」が55.4%で最も多い。次いで、「企業の理解と協力」が52.1%、「家事・育児・介護などで退職しても同一企業に雇用されるようにする」が51.2%となっている。

性別でみると、男性では「企業の理解と協力」が57.6%と、女性の47.9%を上回っている。また、「家事・育児・介護などで退職しても同一企業に雇用されるようにする」が55.8%と、女性の47.6%を上回っている。一方、女性では「家事・育児・介護などのための短時間勤務制度、またはフレックスタイム制度」が58.5%と、男性の51.2%を上回っている。また、「家族の理解と協力」が30.3%と、男性の21.4%を上回っている。

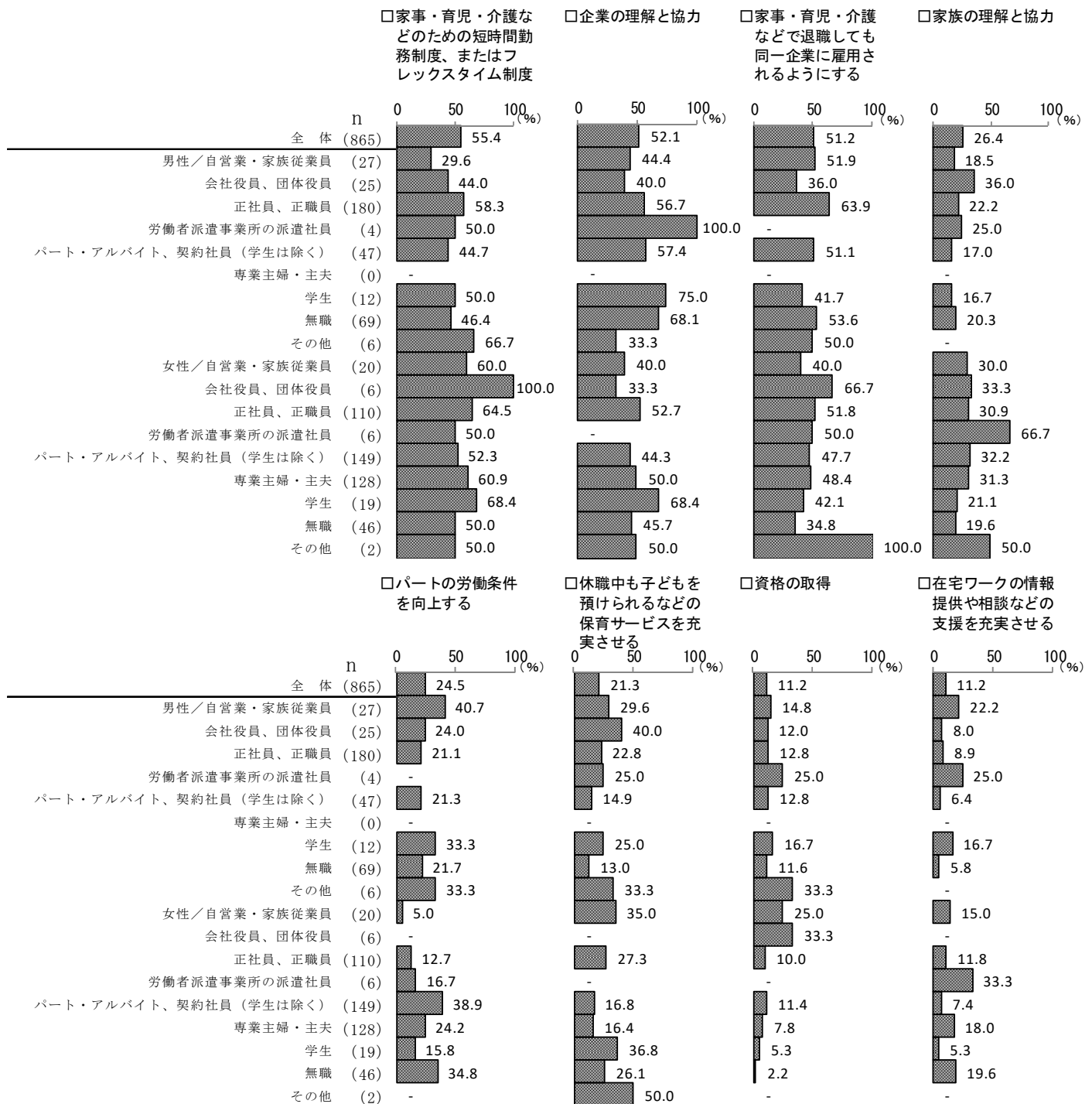
再就職の際に役立つと思うもの（上位8項目）



性／年齢別でみると、「家事・育児・介護などのための短時間勤務制度、またはフレックスタイム制度」は女性の20代で7割後半、男性の30代、40代、女性の30代で6割台となっている。「企業の理解と協力」は男性の30代で7割前半、男性の70歳以上、女性の20代で6割前半となっている。「家事・育児・介護などで退職しても同一企業に雇用されるようにする」は男性の20代、50代、60代で6割台である。

性／共働きの有無別でみると、「家事・育児・介護などのための短時間勤務制度、またはフレックスタイム制度」は共働きしている、していないともに女性で6割台である。「家事・育児・介護などで退職しても同一企業に雇用されるようにする」は共働きしている男性で6割台、共働きしていない男性で5割台である。「家族の理解と協力」は共働きしている女性で3割台となっている。

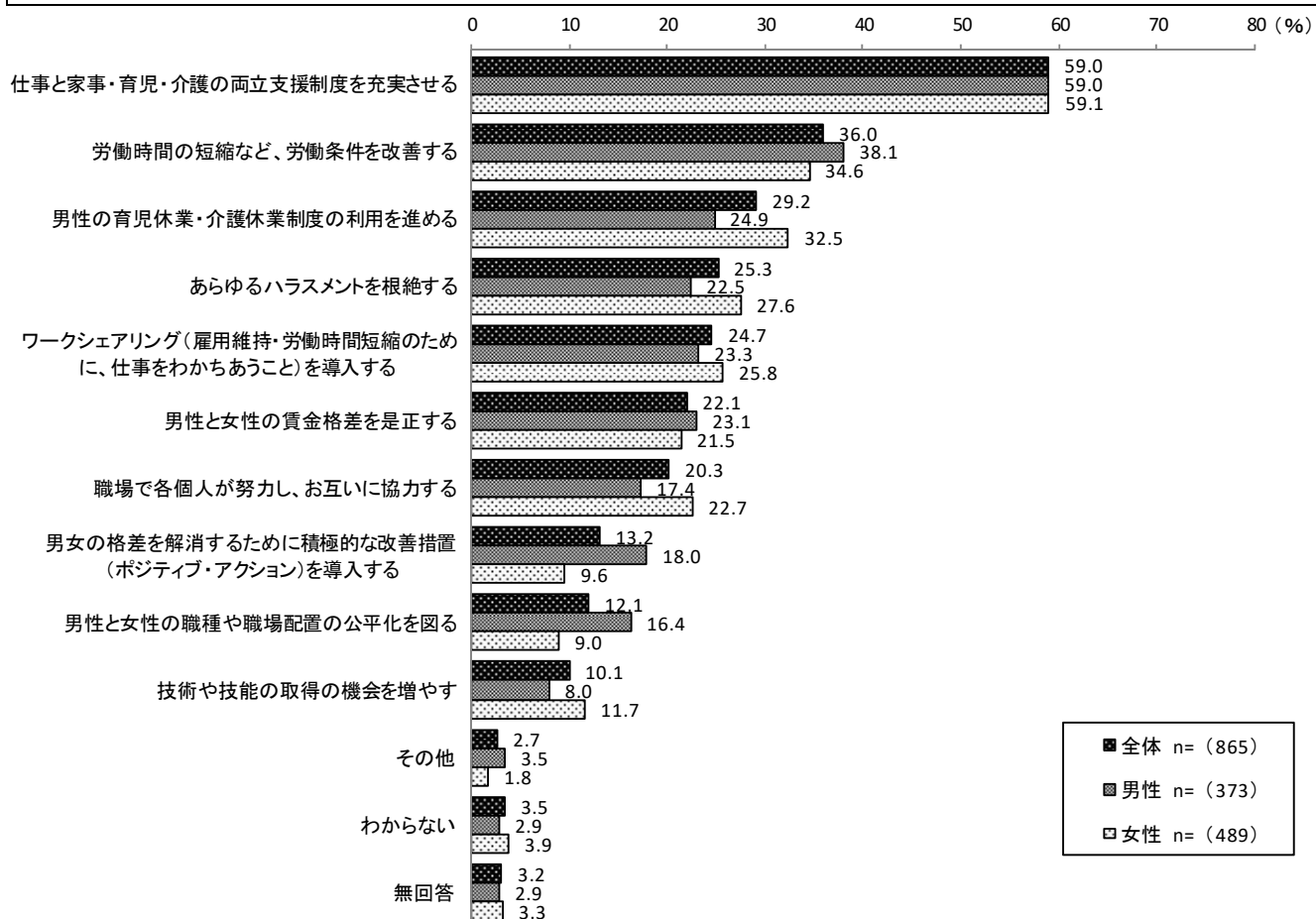
再就職の際に役立つと思うもの（上位8項目）



性／職業別でみると、「家事・育児・介護などのための短時間勤務制度、またはフレックスタイム制度」は女性の正社員、正職員、専業主婦・主夫で6割台、男性の正社員、正職員、女性のパート・アルバイト、契約社員（学生は除く）で5割台となっている。「企業の理解と協力」は男性の無職で6割台、男性の正社員、正職員、パート・アルバイト、契約社員（学生は除く）、女性の正社員、正職員、専業主婦・主夫で5割台である。「家事・育児・介護などで退職しても同一企業に雇用されるようにする」は男性の正社員、正職員で6割台である。

(6) 男女がともに働きやすい環境をつくるために重要なこと

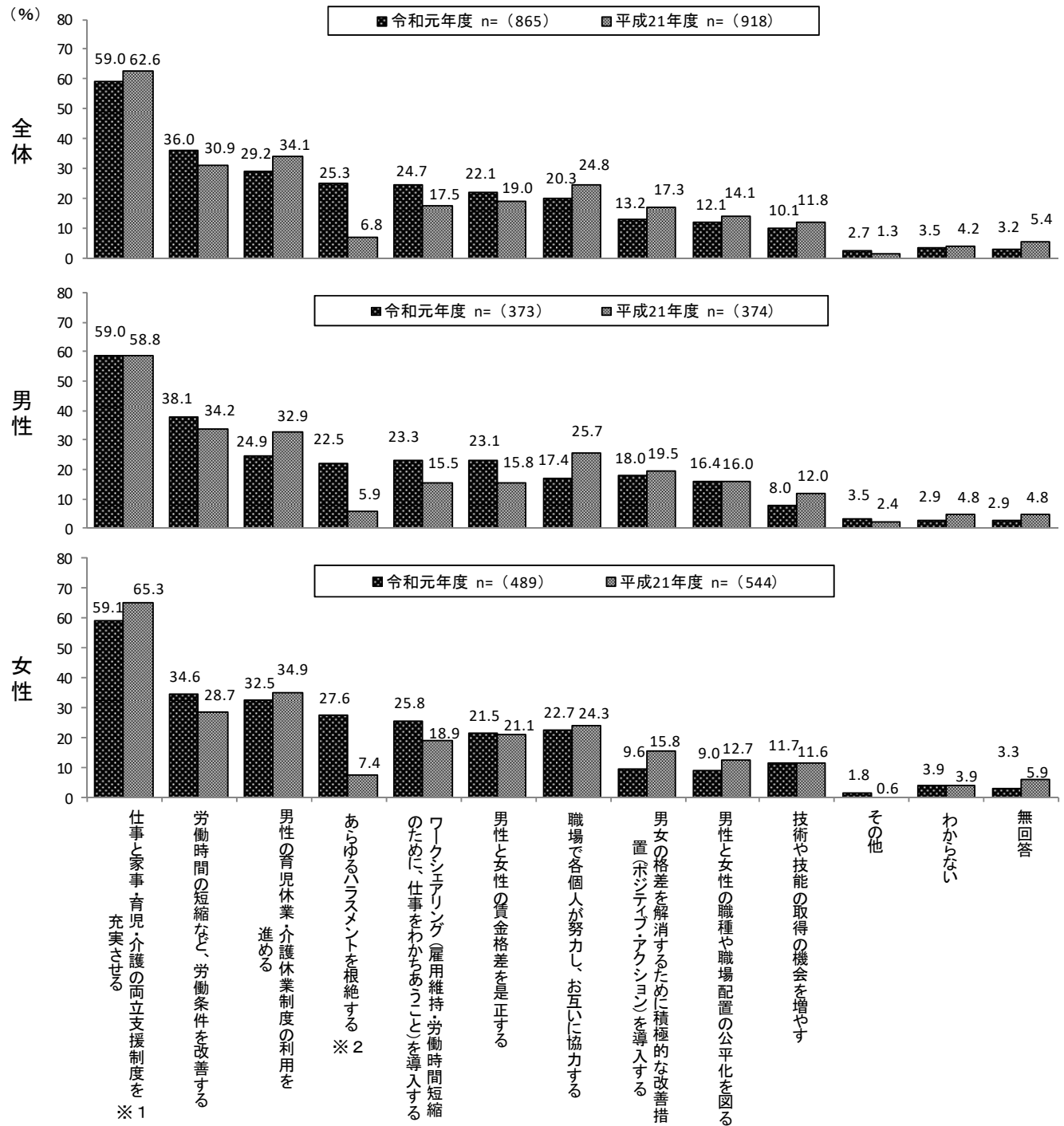
問 19 男性と女性がともに働きやすく活躍できる環境を作るために重要だと思うことを3つまで選んでください。



男女がともに働きやすい環境をつくるために重要なことについて尋ねたところ、「仕事と家事・育児・介護の両立支援制度を充実させる」が59.0%で最も多い。次いで、「労働時間の短縮など、労働条件を改善する」が36.0%、「男性の育児休業・介護休業制度の利用を進める」が29.2%となっている。

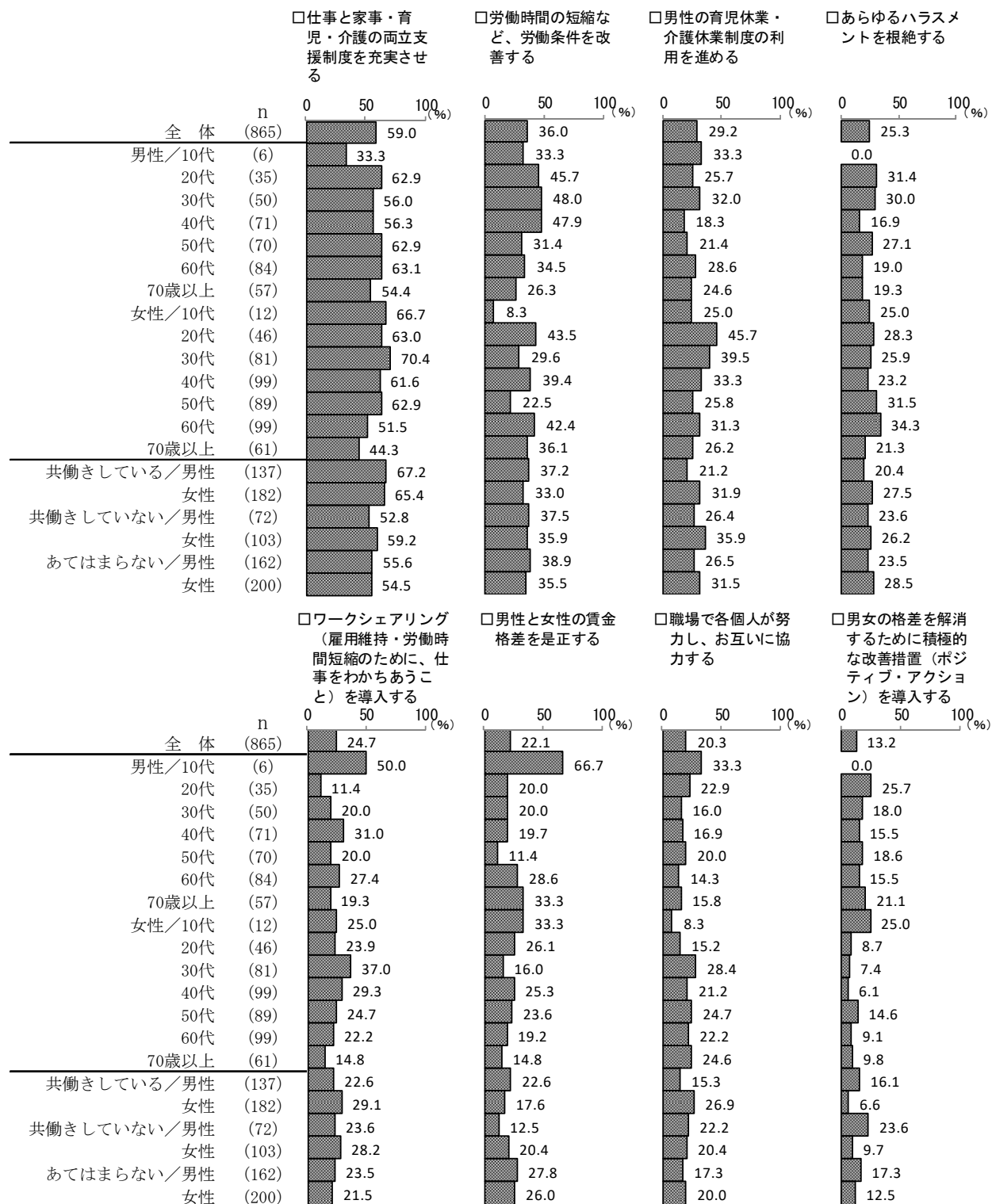
性別でみると、男性では「男女の格差を解消するために積極的な改善措置(ポジティブ・アクション)を導入する」が18.0%と、女性の9.6%を上回っている。一方、女性では「男性の育児休業・介護休業制度の利用を進める」が32.5%と、男性の24.9%を上回っている。

男女がともに働きやすい環境をつくるために重要なこと 経年比較



平成21年度の調査結果と比較すると、「ワークシェアリング（雇用維持・労働時間短縮のために、仕事をわかちあうこと）を導入する」が増加している。一方、「職場で各個人が努力し、お互いに協力する」は微減している。

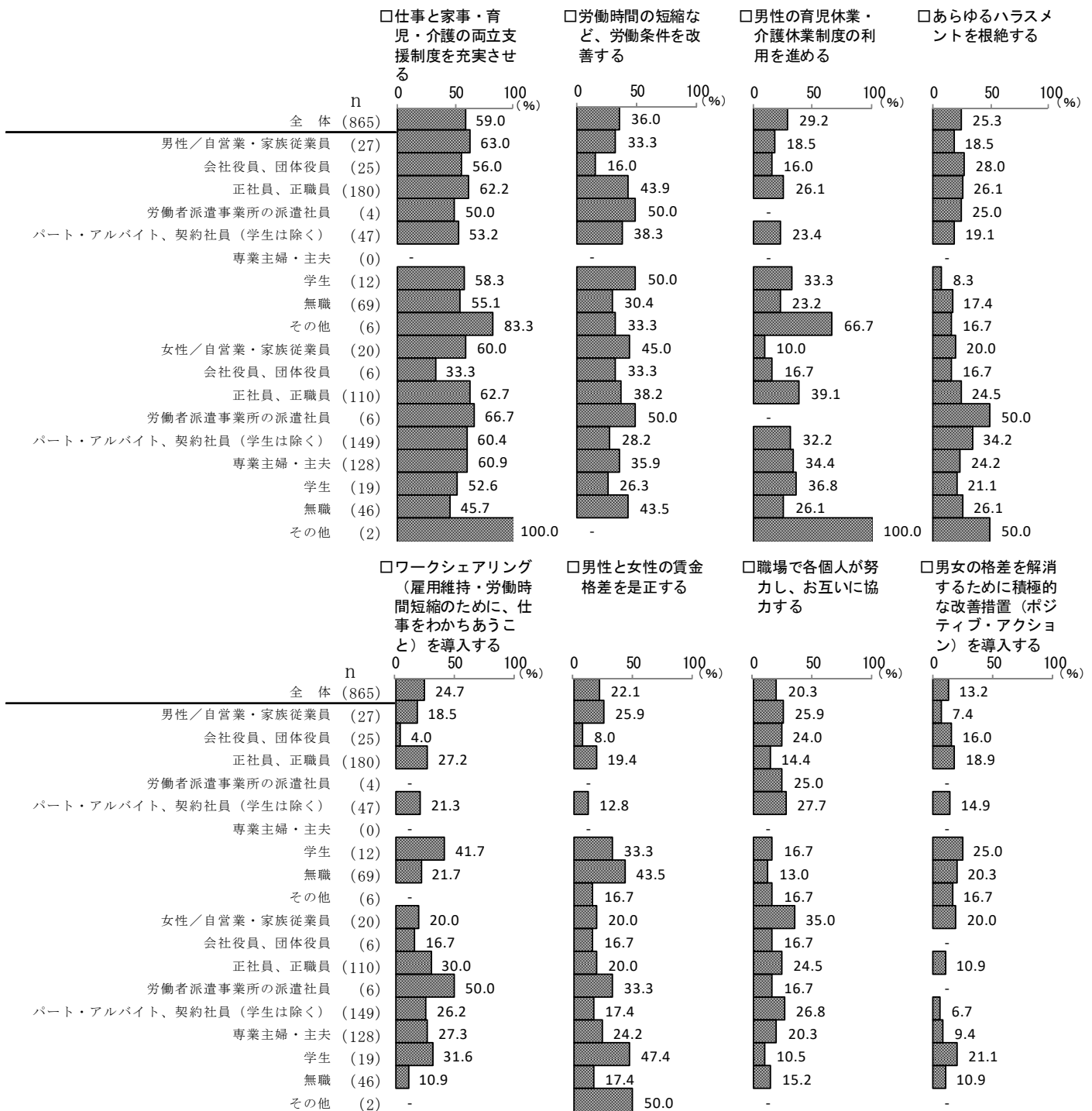
男女がともに働きやすい環境をつくるために重要なこと（上位8項目）



性／年齢別でみると、「仕事と家事・育児・介護の両立支援制度を充実させる」は女性の30代で約7割、男性の20代、50代、60代、女性の20代、40代、50代で6割台となっている。「労働時間の短縮など、労働条件を改善する」は男性の20代、30代、40代、女性の20代、60代で4割台である。

性／共働きの有無別でみると、「仕事と家事・育児・介護の両立支援制度を充実させる」は共働きしている男女で6割台である。

男女がともに働きやすい環境をつくるために重要なこと（上位8項目）

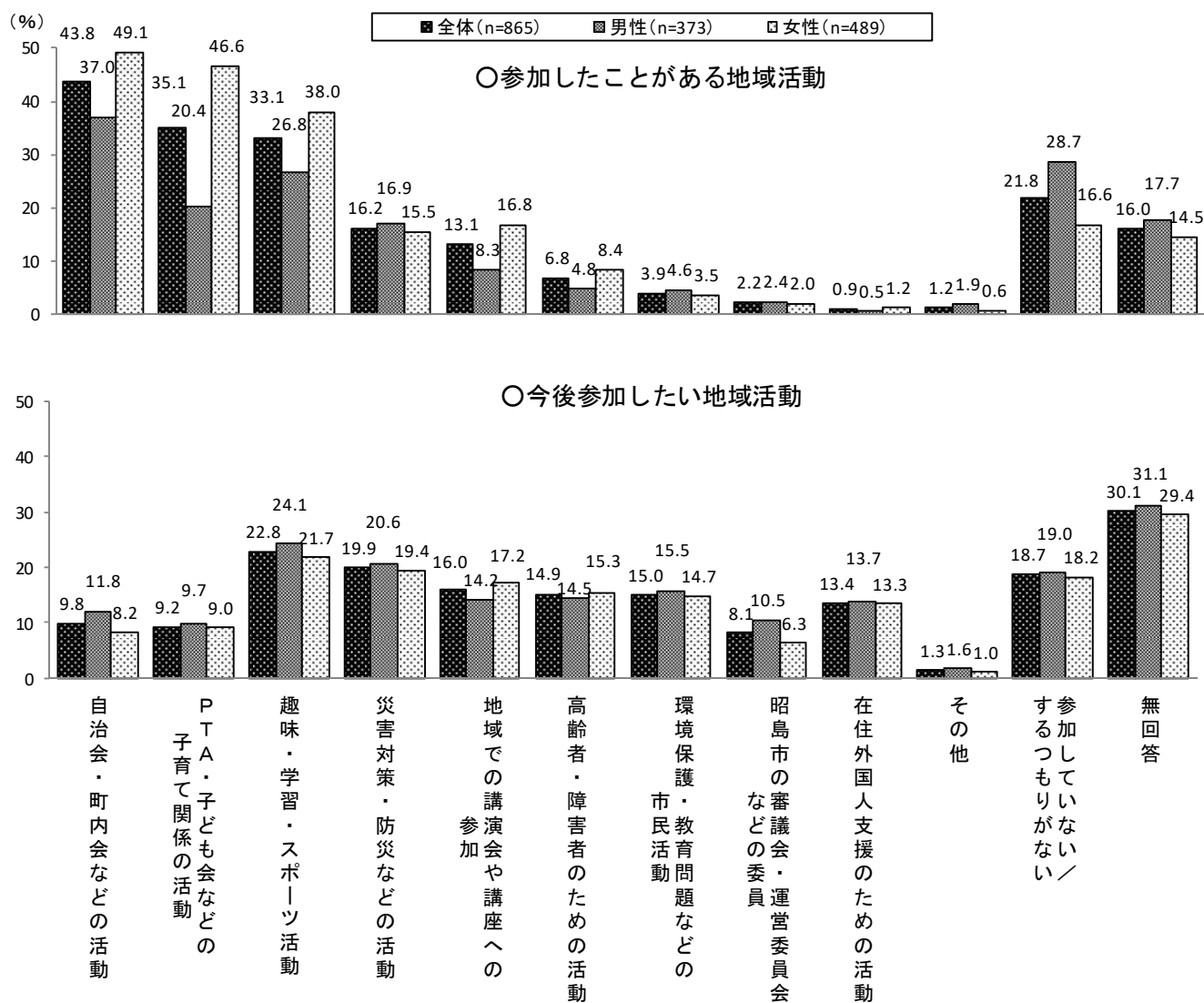


性／職業別でみると、「仕事と家事・育児・介護の両立支援制度を充実させる」は男性の正社員、正職員、女性の正社員、正職員、パート・アルバイト、契約社員、専業主婦・主夫で6割台である。「労働時間の短縮など、労働条件を改善する」は男性の正社員、正職員、女性の無職で4割台である。

6. 地域活動について

(1) 参加している・したことのある活動

問 20 あなたは現在（またはこれまでに）どのような地域活動に参加していますか。また、今後、どのような地域活動に参加したいと思いますか。それぞれあてはまるもの全てに○をつけてください。

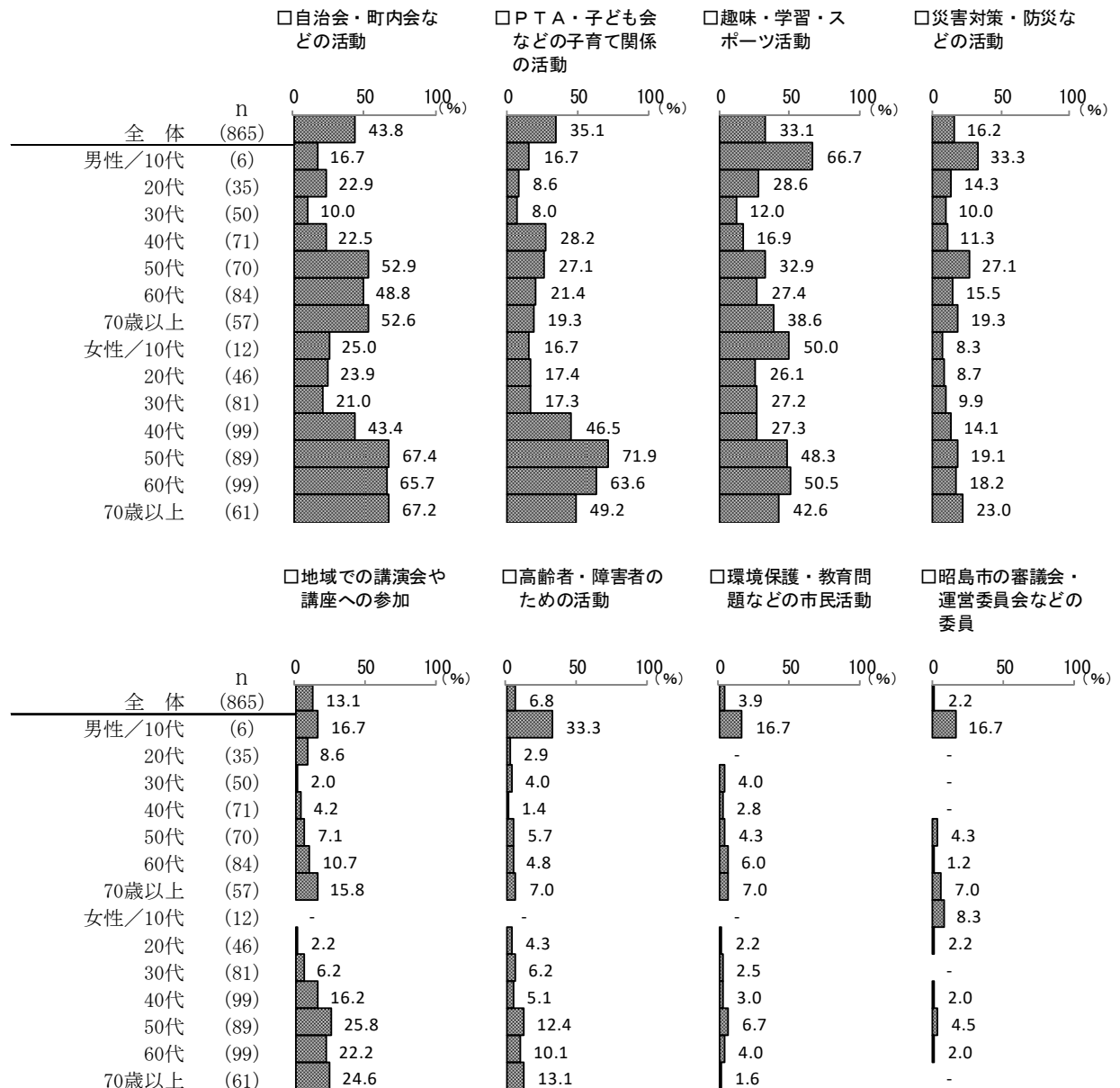


参加したことがある地域活動について尋ねたところ、「自治会・町内会などの活動」が43.8%で最も多く、次いで「P T A・子ども会などの子育て関係の活動」が35.1%、「趣味・学習・スポーツ活動」が33.1%となっている。「参加していない」は21.8%である。

性別でみると、「自治会・町内会などの活動」、「P T A・子ども会などの子育て関係の活動」は女性で4割後半と、男性を上回っている。「参加していない」は男性が28.7%と、女性の16.6%を上回っている。

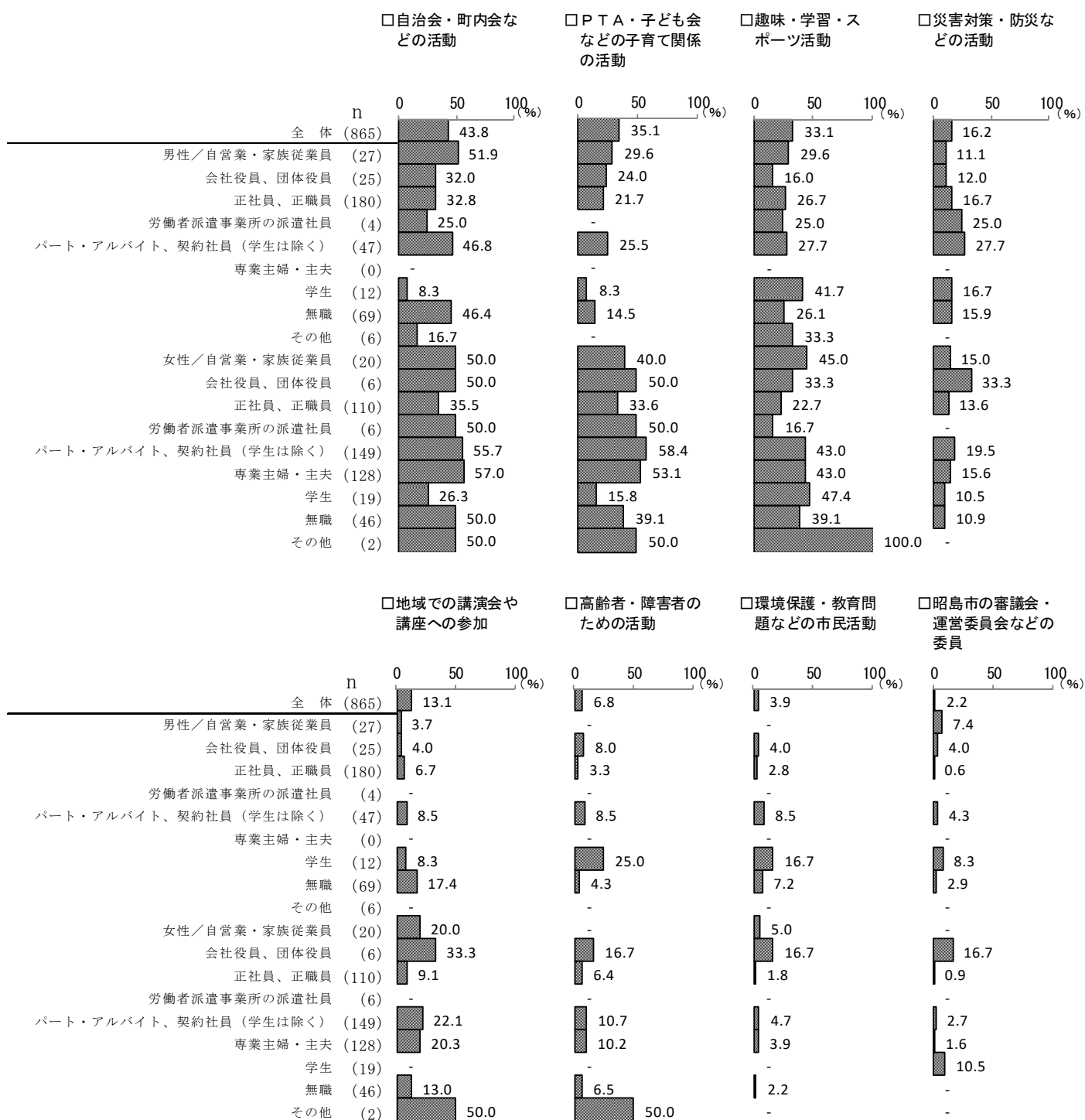
また、今後参加したい地域活動について尋ねたところ、「趣味・学習・スポーツ活動」が22.8%で最も多く、次いで「災害対策・防災などの活動」が19.9%、「地域での講演会や講座への参加」が16.0%となっている。「参加するつもりがない」は18.7%である。

参加したことがある活動（上位8項目）



性/年齢別にみると、「自治会・町内会などの活動」は女性の50代、60代、70歳以上で6割台、男性の50代、70歳以上で5割台と年齢が高い世代で半数を超えている。「PTA・子ども会などの子育て関係の活動」は女性の50代で7割台、女性の60代で6割台、女性の40代、70歳以上で4割台である。「趣味・学習・スポーツ活動」は女性の60代で約5割、女性の50代、70歳以上で4割台となっている。

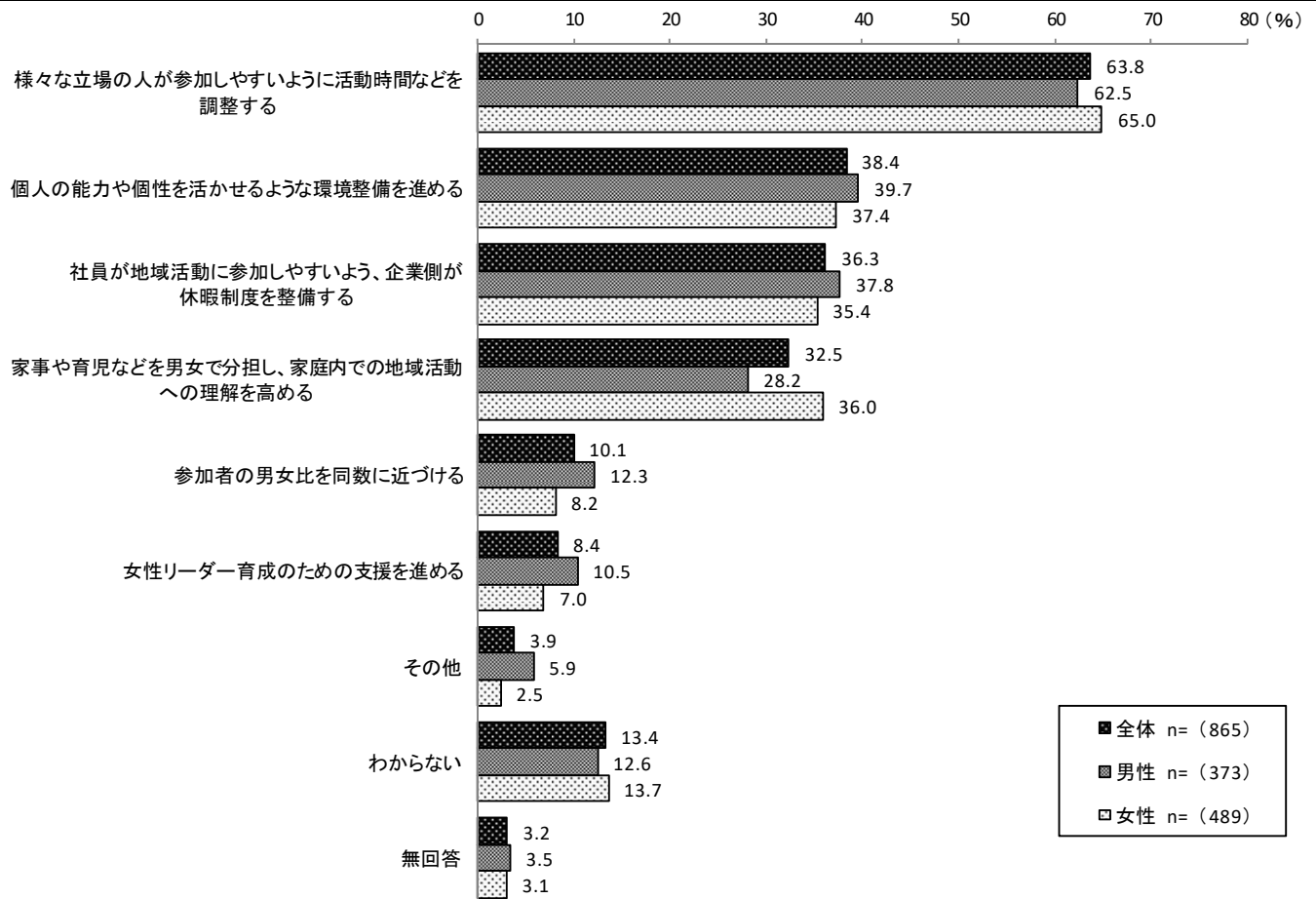
参加したことがある活動（上位8項目）



性／職業別でみると、「自治会・町内会などの活動」は女性のパート・アルバイト、契約社員（学生は除く）、専業主婦・主夫、無職で5割台、男性のパート・アルバイト、契約社員（学生は除く）、無職で4割台となっている。「PTA・子ども会などの子育て関係の活動」は女性のパート・アルバイト、契約社員（学生は除く）、専業主婦・主夫で5割台となっている。「趣味・学習・スポーツ活動」は女性のパート・アルバイト、契約社員（学生は除く）、専業主婦・主夫で4割台となっている。

(2) 地域活動における男女共同参画をすすめるために必要なこと

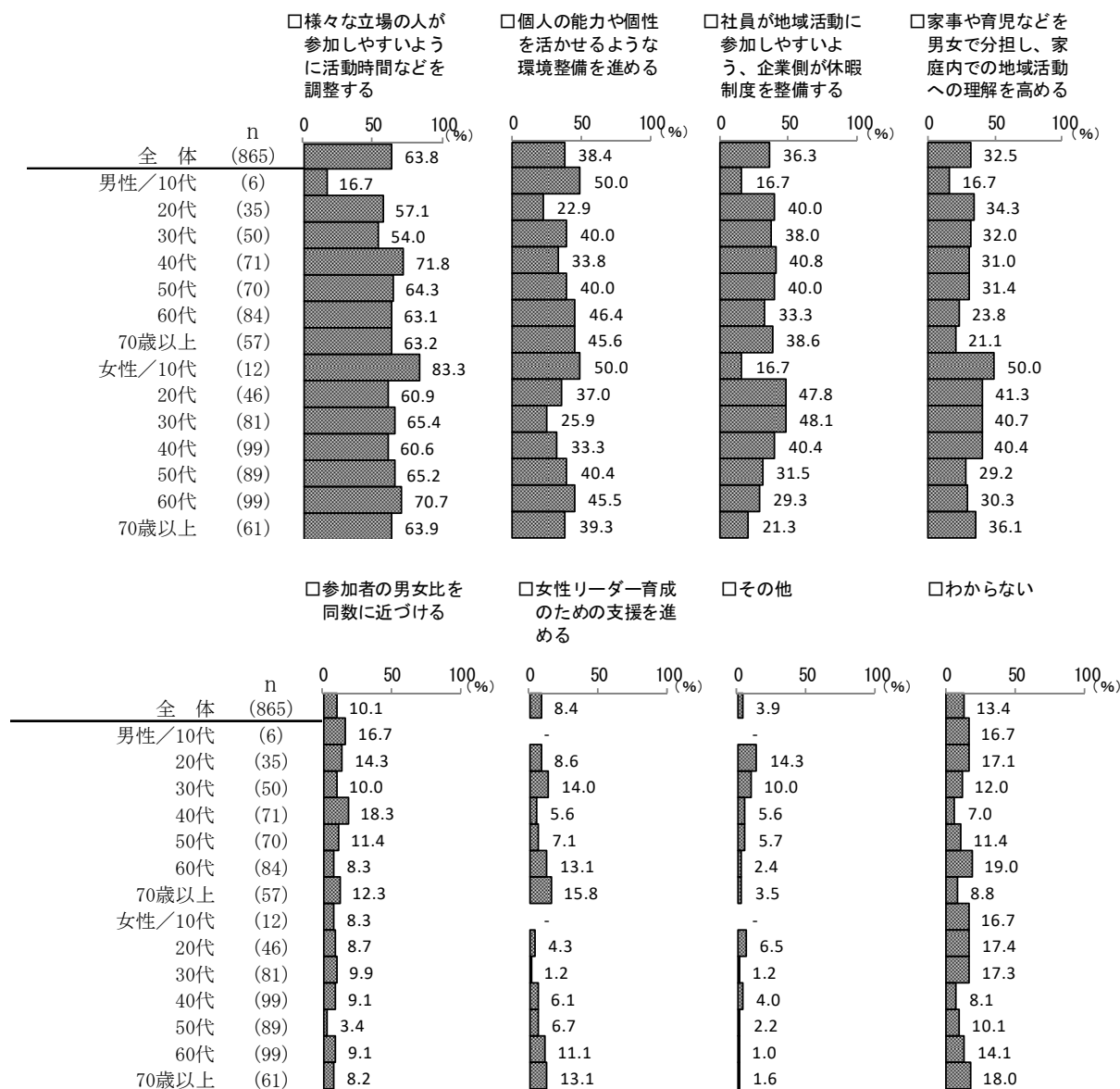
問 21 男性と女性がともに地域で活躍できる社会をつくるために、地域活動への参加を促進する必要があります。そのために必要なことを3つまで選んでください。



地域活動における男女共同参画をすすめるために必要なことについて尋ねたところ、「様々な立場の人が参加しやすいように活動時間などを調整する」が63.8%で最も多い。次いで、「個人の能力や個性を活かせるような環境整備を進める」が38.4%、「社員が地域活動に参加しやすいよう、企業側が休暇制度を整備する」が36.3%となっている。

性別でみると、女性では「家事や育児などを男女で分担し、家庭内での地域活動への理解を高める」が36.0%と、男性の28.2%を上回っている。

地域活動における男女共同参画をすすめるために必要なこと

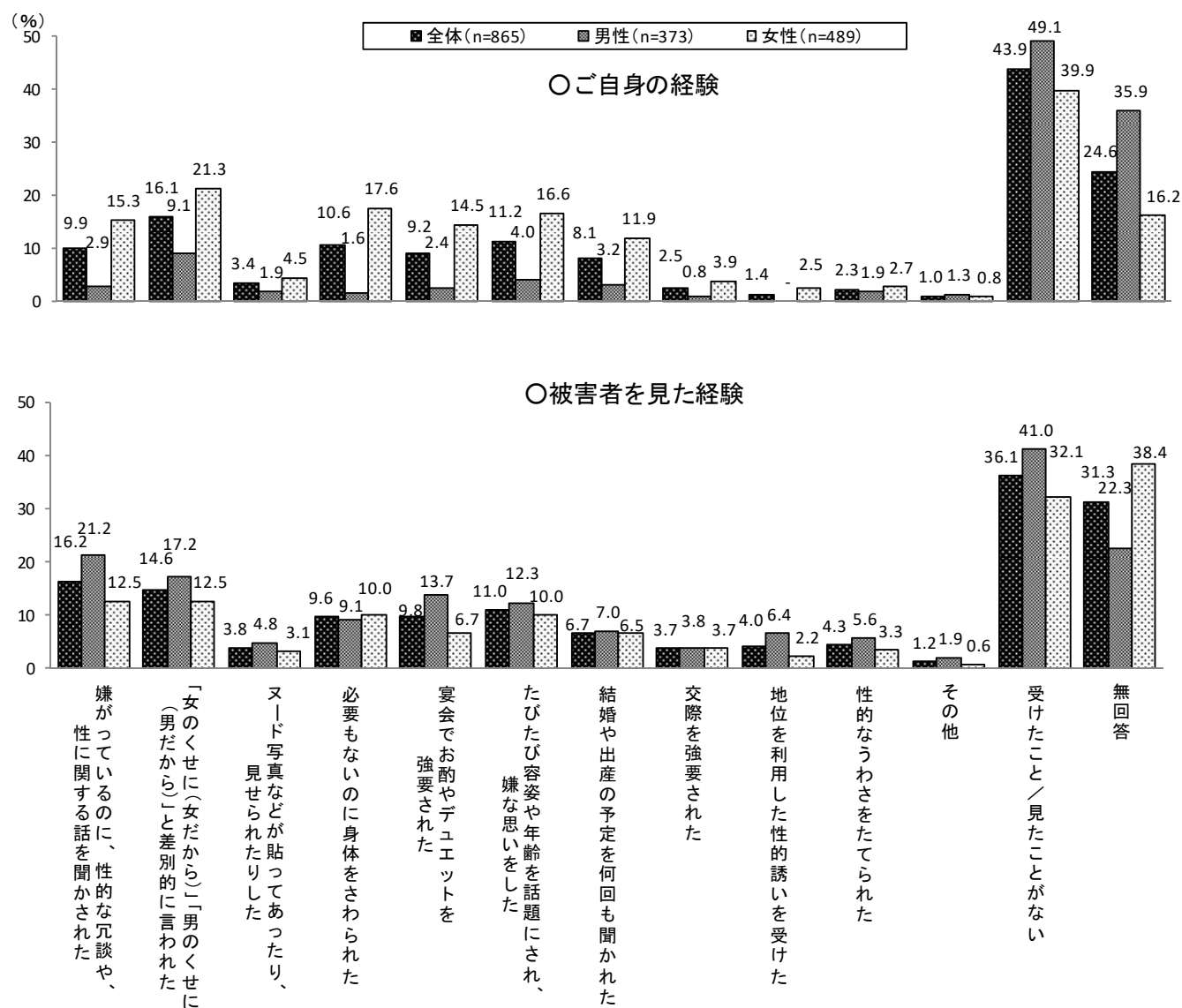


性／年齢別でみると、「様々な立場の人が参加しやすいように活動時間などを調整する」は男性の 40 代、女性の 60 代で 7 割を超えている。

7. 人権について

(1) セクシュアル・ハラスメントの被害の内容

問 22 セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)を受けたり、被害にあっている人を見たりしたことがありますか。それぞれあてはまるもの全てに○をつけてください。



第2章 調査結果の詳細

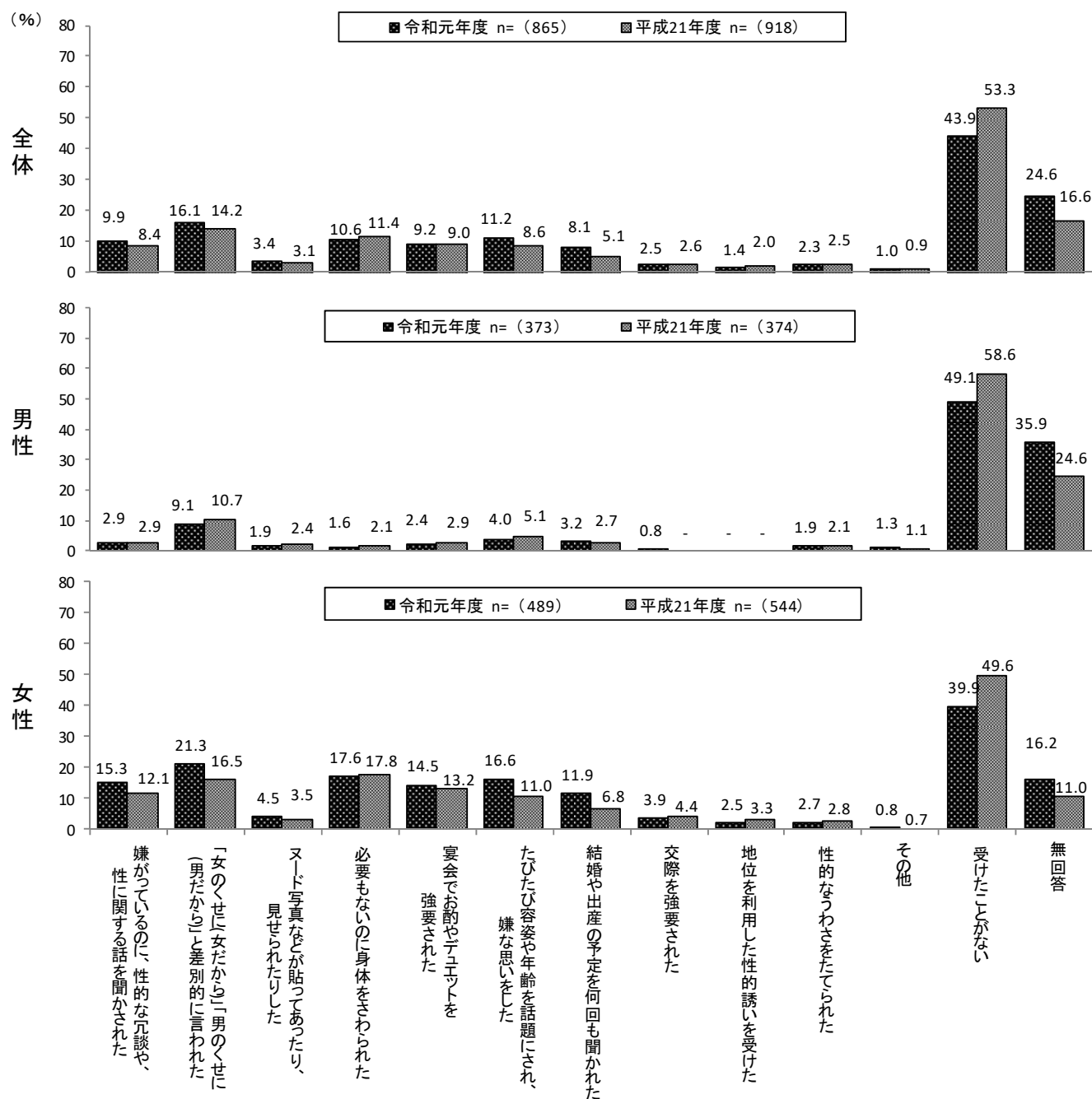
セクシャル・ハラスメントの被害の内容を尋ねたところ、回答者ご自身の経験は、「「女のくせに（女だから）」「男のくせに（男だから）」と差別的に言われた」が16.1%で最も多く、次いで「たびたび容姿や年齢を話題にされ、いやな思いをした」が11.2%、「必要もないのに身体をさわられた」が10.6%、「嫌がっているのに、性的な冗談や、性に関する話を聞かされた」が9.9%、「宴会でお酌やデュエットを強要された」が9.2%、「結婚や出産の予定を何回も聞かれた」が8.1%となっている。

性別でみると、男性では「受けたことがない」が49.1%と、女性の39.9%を上回っている。一方、女性では、ほとんどの項目で男性を上回っており、特に「必要もないのに身体をさわられた」が16.0ポイント差、「たびたび容姿や年齢を話題にされ、いやな思いをした」が12.6ポイント差、「嫌がっているのに、性的な冗談や、性に関する話を聞かされた」が12.4ポイント差、「「女のくせに（女だから）」「男のくせに（男だから）」と差別的に言われた」が12.2ポイント差、「宴会でお酌やデュエットを強要された」が12.1ポイント差、「結婚や出産の予定を何回も聞かれた」が8.7ポイント差となっている。

被害者を見た経験は、「嫌がっているのに、性的な冗談や、性に関する話を聞かされた」が16.2%で最も多く、次いで「「女のくせに（女だから）」「男のくせに（男だから）」と差別的に言われた」が14.6%、「たびたび容姿や年齢を話題にされ、いやな思いをした」が11.0%、「宴会でお酌やデュエットを強要された」が9.8%、「必要もないのに身体をさわられた」が9.6%となっている。

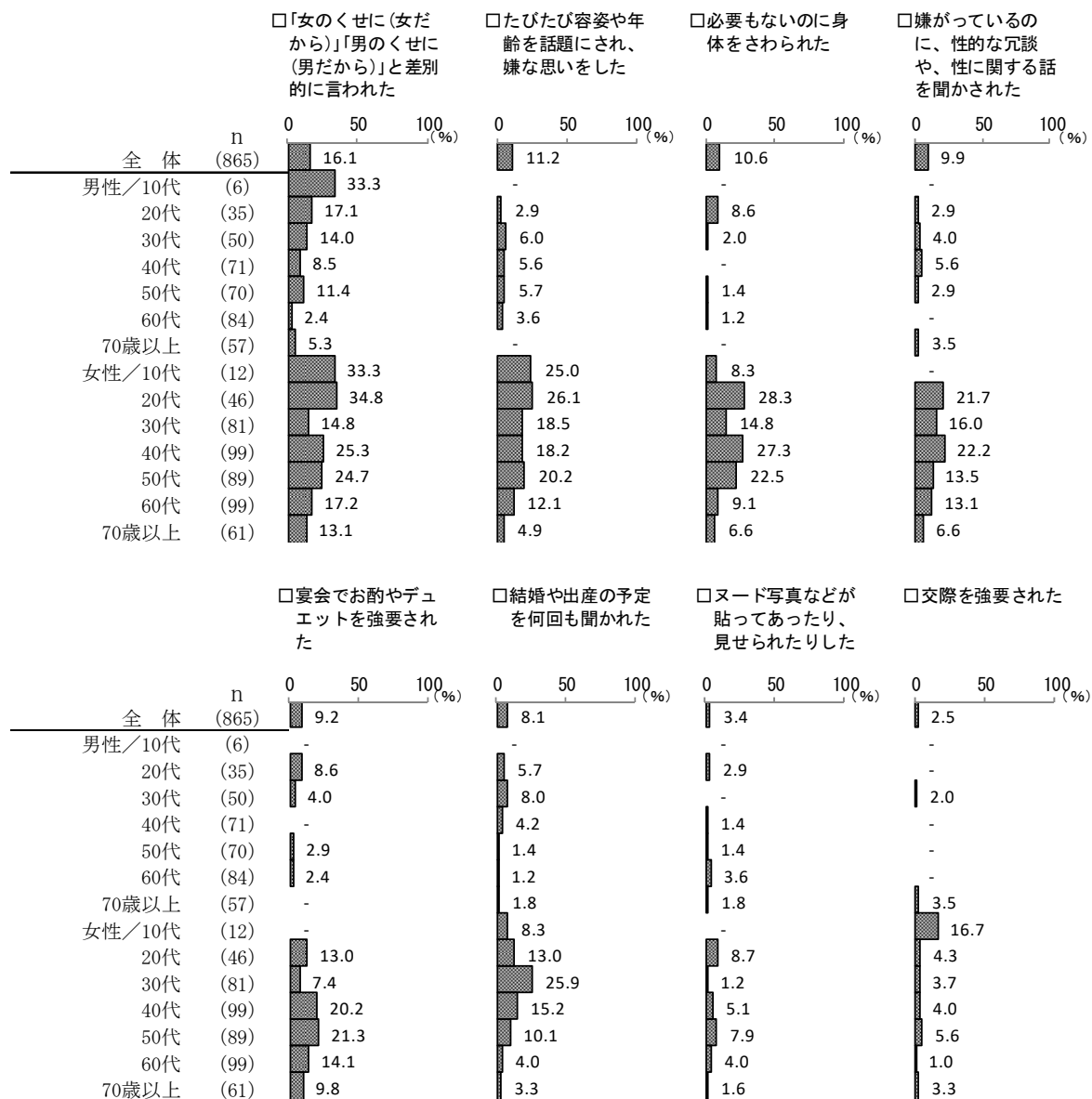
性別でみると、男性では「見たことがない」が41.0%と、女性の32.1%を上回っている。また、「嫌がっているのに、性的な冗談や、性に関する話を聞かされた」、「宴会でお酌やデュエットを強要された」においても男性が女性を上回っている。

セクシュアル・ハラスメントの被害（ご自身の経験） 経年比較



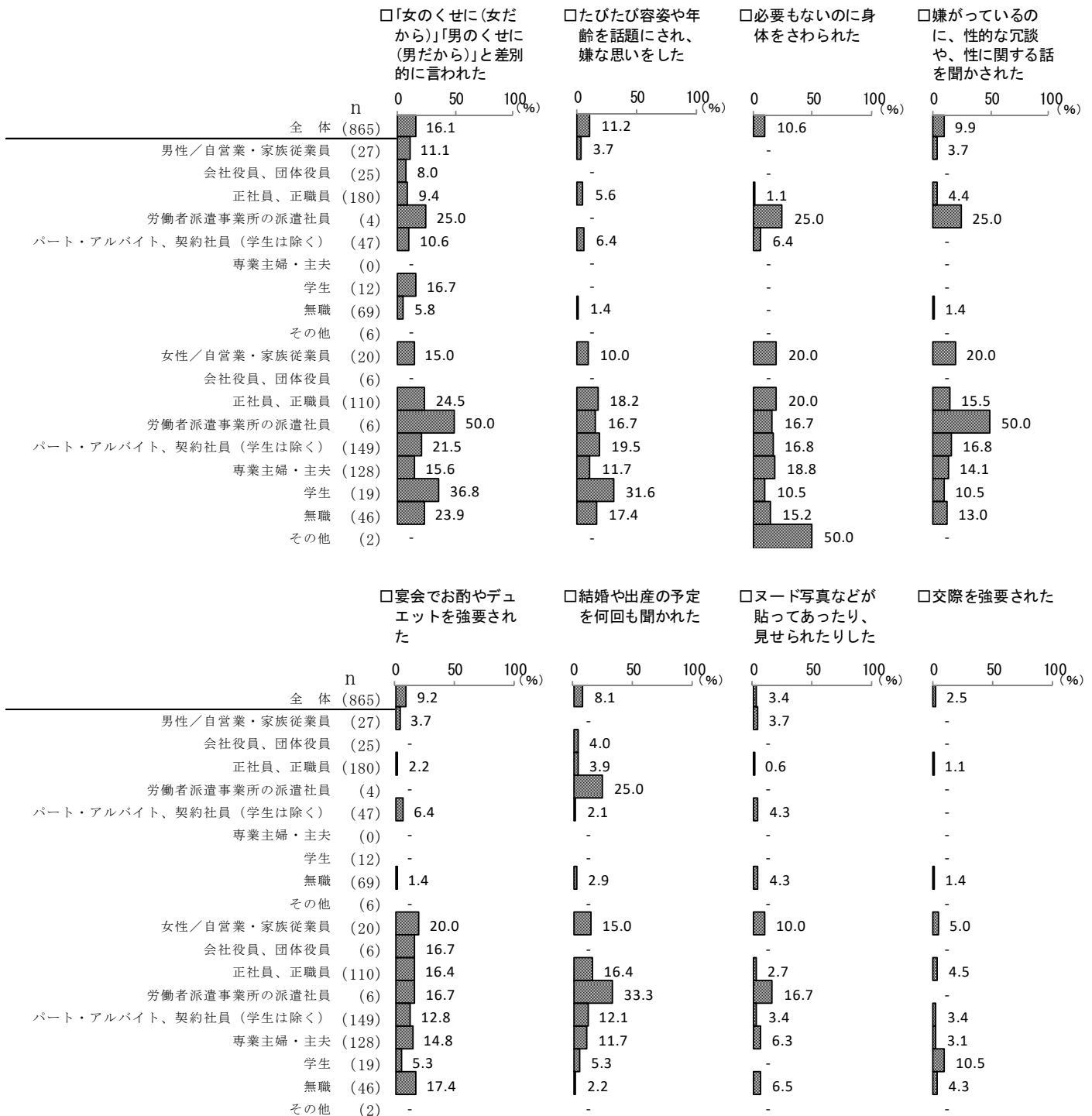
平成21年度の調査結果と比較して、「受けたことがない」が減少している。女性では「女のくせに（女だから）」「男のくせに（男だから）」と差別的に言われた、「たびたび容姿や年齢を話題にされ、嫌な思いをした」、「結婚や出産の予定を何回も聞かれた」が増加している。

セクシュアル・ハラスメントの被害（ご自身の経験）（8項目）



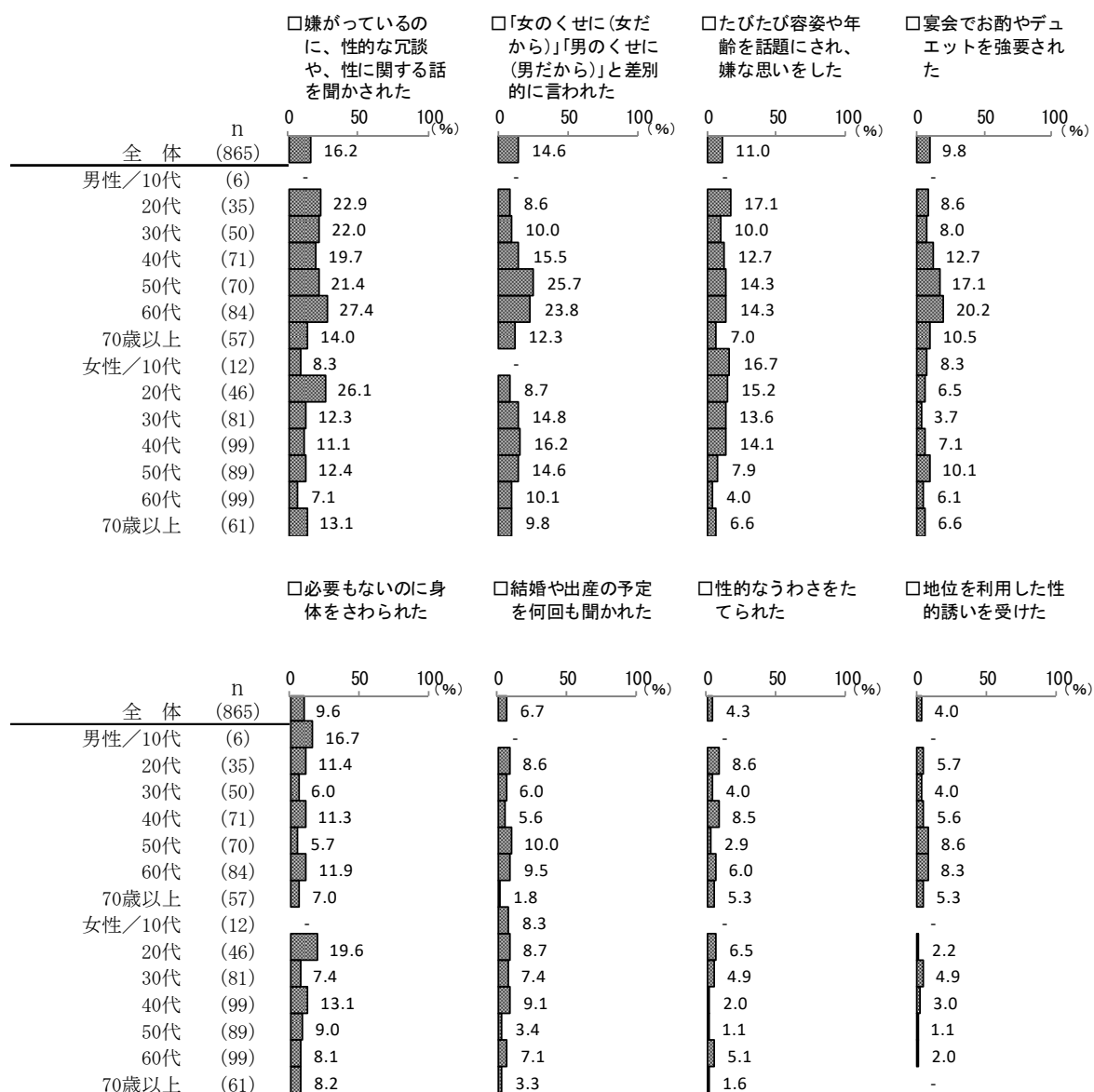
性／年齢別でみると、「女のくせに（女だから）」「男のくせに（男だから）」と差別的に言われた」は女性の20代で3割前半、女性の40代、50代で2割台となっている。「たびたび容姿や年齢を話題にされ、いやな思いをした」は、女性の20代、50代で2割台、女性の30代、40代で1割後半となっている。「必要もないのに身体をさわられた」は女性の20代、40代、50代で2割台となっている。「嫌がっているのに、性的な冗談や、性に関する話を聞かされた」は女性の20代、40代で2割台となっている。

セクシュアル・ハラスメントの被害（ご自身の経験）（8項目）



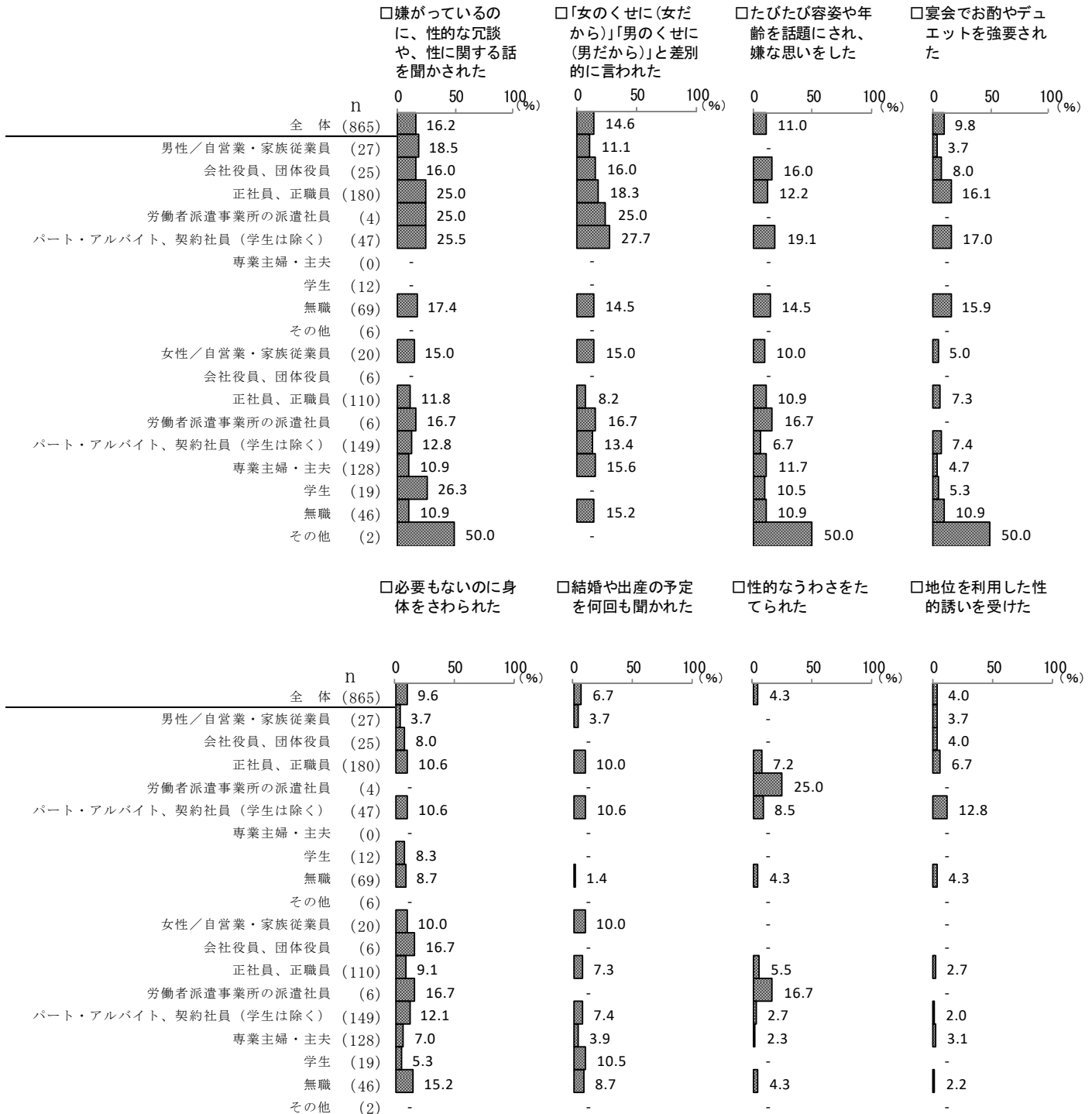
性／職業別でみると、「女のくせに（女だから）」「男のくせに（男だから）」と差別的に言われた」は女性の正社員、正職員、パート・アルバイト、契約社員（学生は除く）、無職で2割台となっている。「たびたび容姿や年齢を話題にされ、いやな思いをした」は、女性の正社員、正職員、パート・アルバイト、契約社員（学生は除く）、無職で1割後半となっている。

セクシュアル・ハラスメントの被害（被害者を見た経験）（8項目）



性／年代別でみると、「嫌がっているのに、性的な冗談や、性に関する話を聞かされた」は男性の20代、30代、50代、60代、女性の20代で2割台となっている。「女のくせに(女だから)」「男のくせに(男だから)」と差別的に言われた」は男性の50代、60代で2割台となっている。

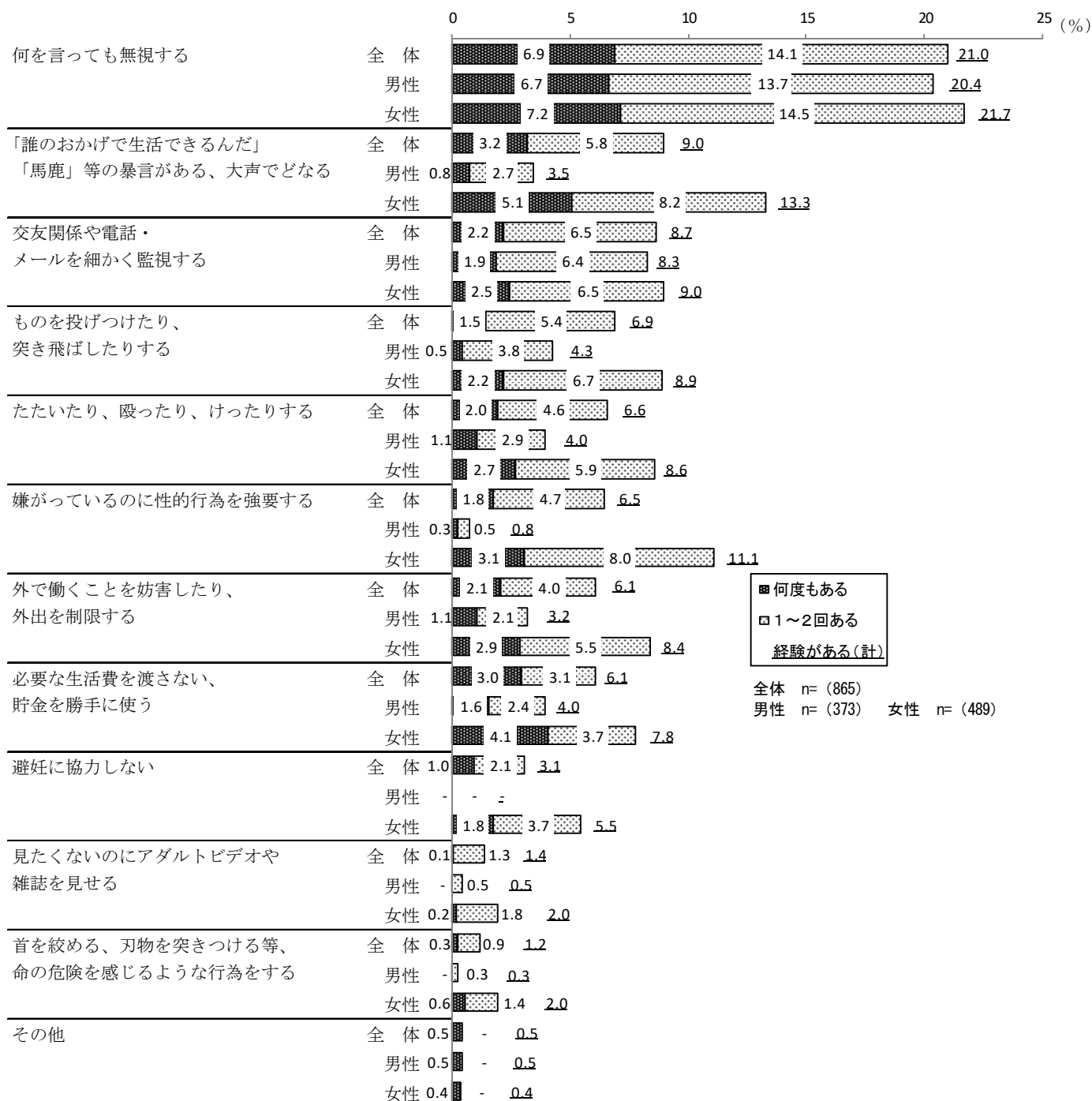
セクシュアル・ハラスメントの被害（被害者を見た経験）（8項目）



性／職業別でみると、「嫌がっているのに、性的な冗談や、性に関する話を聞かされた」は男性の正社員、正職員、パート・アルバイト、契約社員（学生は除く）で2割台となっている。「女のくせに（女だから）」「男のくせに（男だから）」と差別的に言われた」は男性のパート・アルバイト、契約社員（学生は除く）で2割台となっている。

(2) パートナーからの暴力の有無

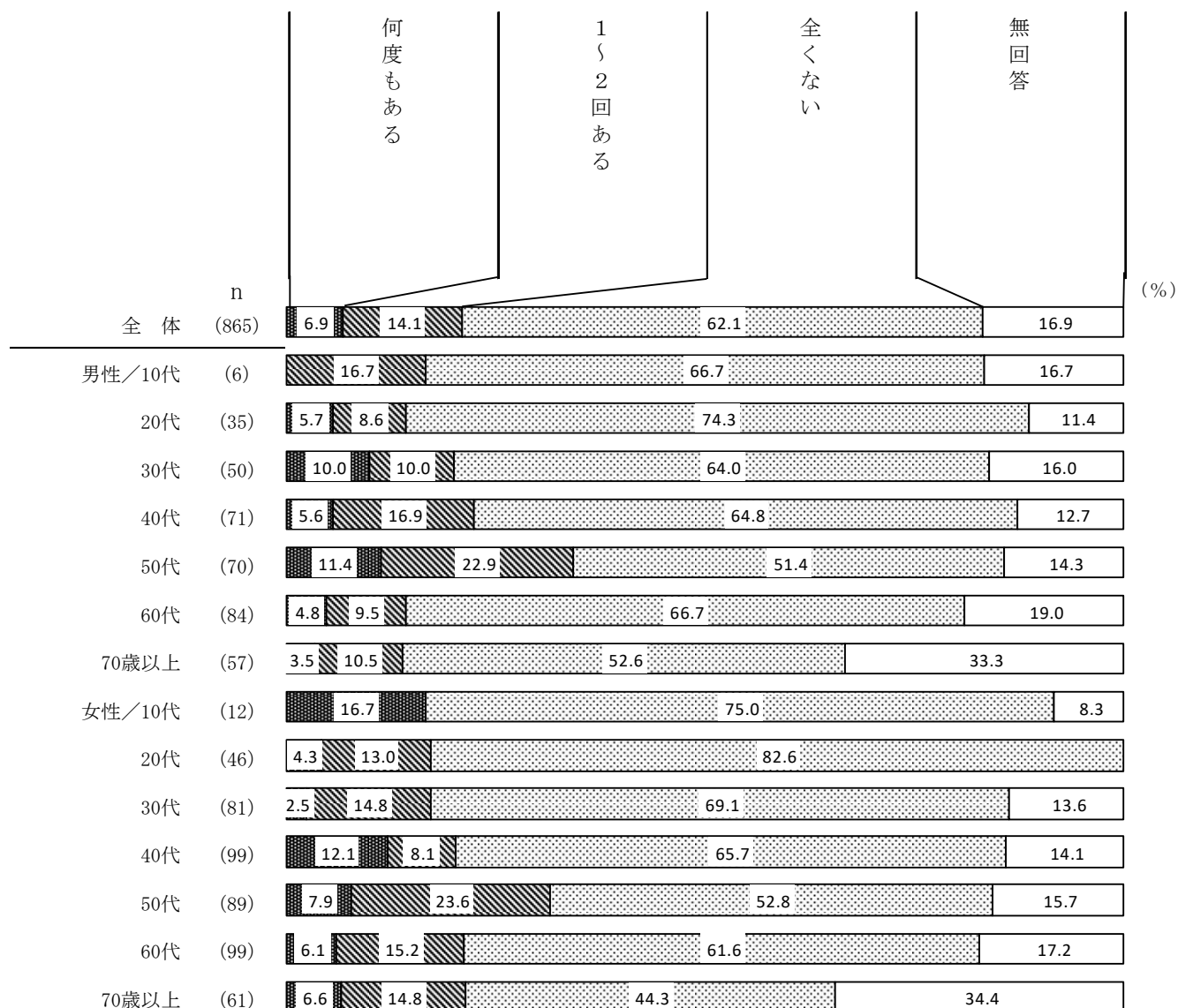
問 23 配偶者やパートナー・恋人などから次のような行為を受けたことがありますか。当てはまるところに○をつけてください。



パートナーからの暴力の有無について尋ねたところ、「何度もある」と「1～2回ある」を合計した《経験がある（計）》は＜何を言っても無視する＞で21.0%と最も多く、次いで＜「誰のおかげで生活できるんだ」「馬鹿」等の暴言がある、大声でどなる＞が9.0%、＜交友関係や電話・メールを細かく監視する＞で8.7%となっている。また、「何度もある」は＜何を言っても無視する＞で6.9%となっている。

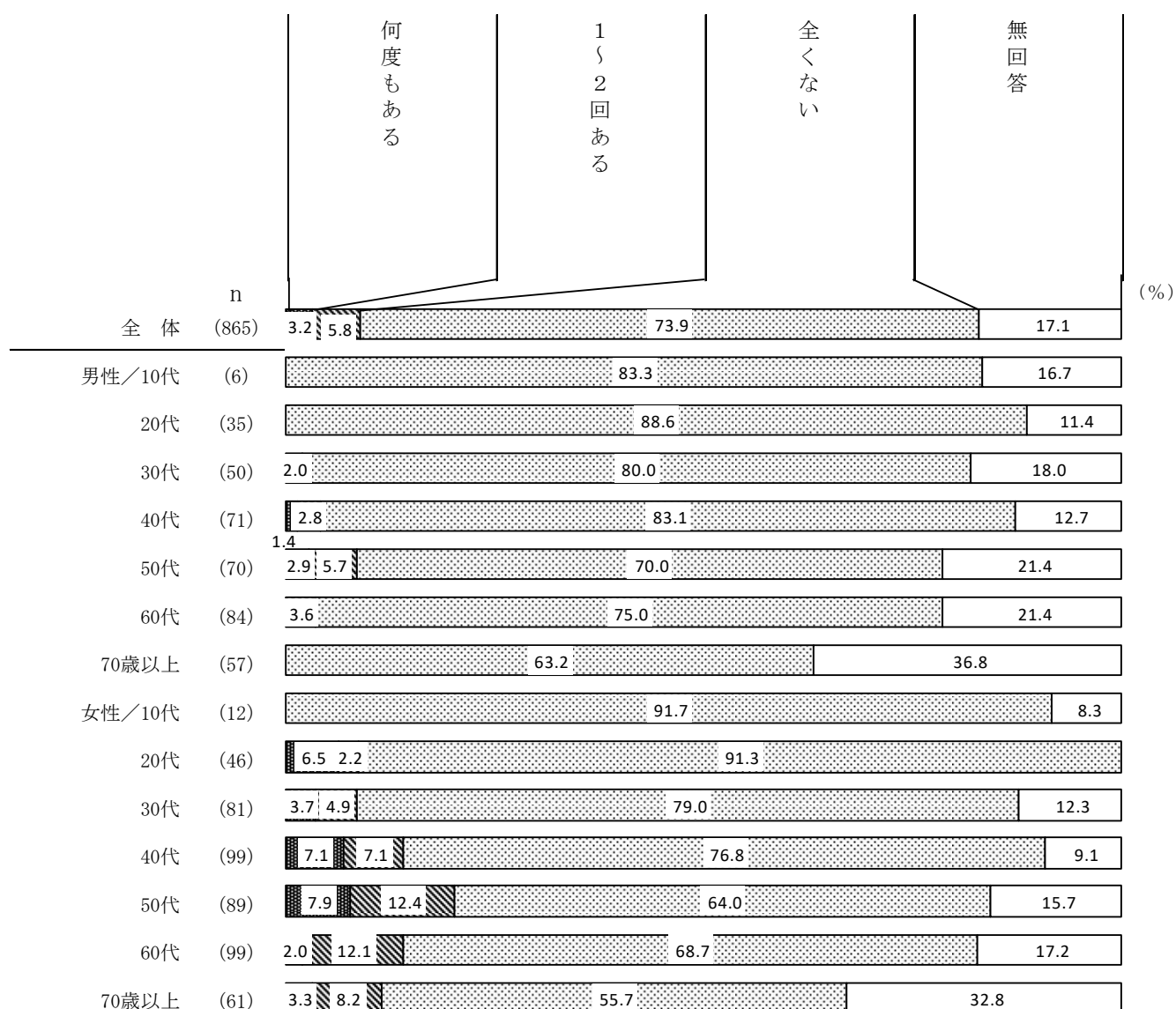
性別でみると、男性では《経験がある（計）》は＜何を言っても無視する＞で20.4%と多く、次いで＜交友関係や電話・メールを細かく監視する＞で8.3%となっており、「何度もある」は＜何を言っても無視する＞で6.7%となっている。一方、女性では＜何を言っても無視する＞で21.7%と多く、次いで＜「誰のおかげで生活できるんだ」「馬鹿」等の暴言がある、大声でどなる＞で13.3%、＜嫌がっているのに性的行為を強要する＞で11.1%、＜交友関係や電話・メールを細かく監視する＞で9.0%となっており、「何度もある」は＜何を言っても無視する＞で7.2%、＜「誰のおかげで生活できるんだ」「馬鹿」等の暴言がある、大声でどなる＞で5.1%、＜必要な生活費を渡さない、貯金を勝手に使う＞で4.1%となっている。

何を言っても無視する



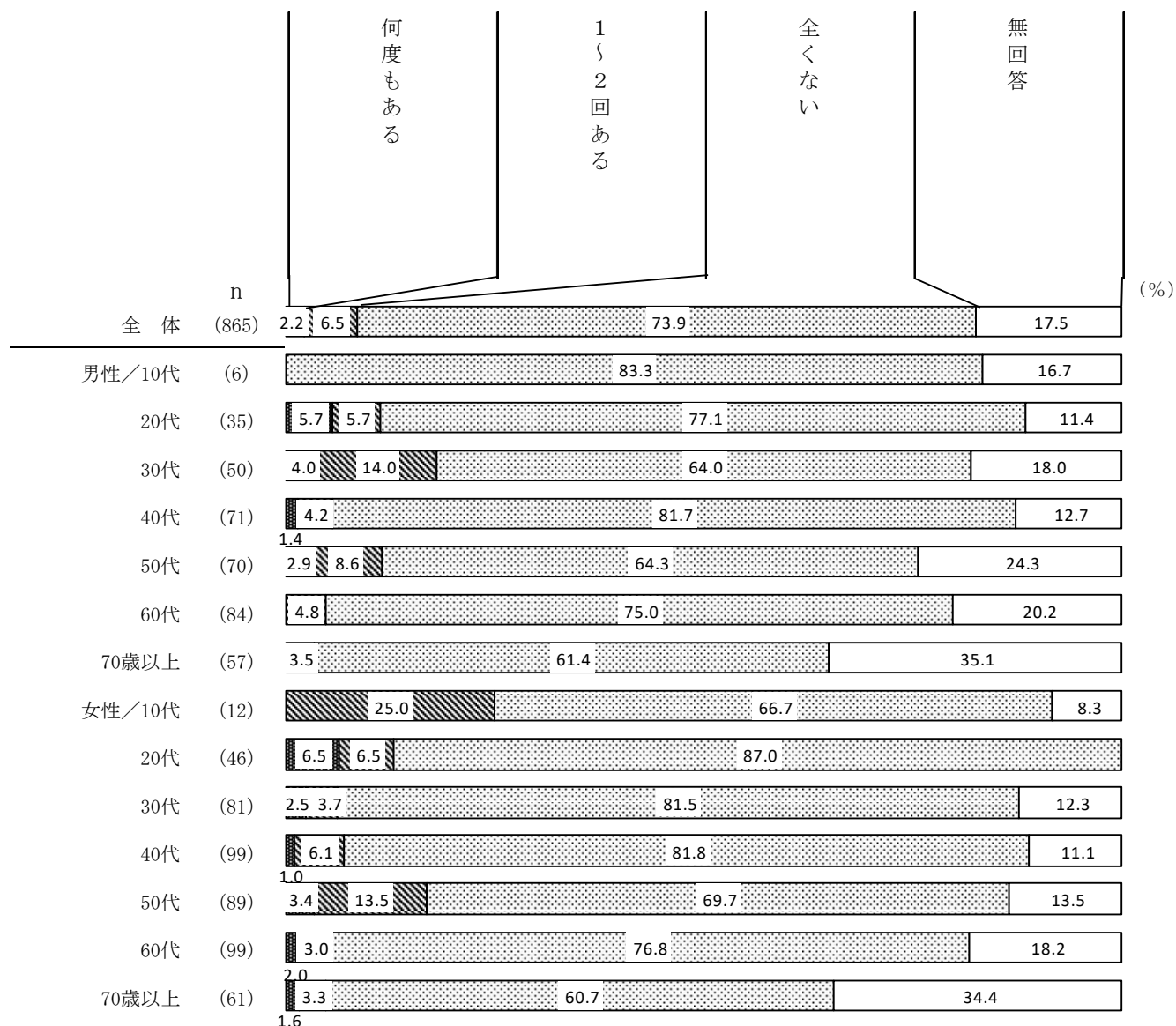
性／年齢別でみると、「経験がある（計）」は男性では50代で3割前半と最も多く、30代、40代で2割台である。女性では50代が3割前半で最も多く、40代、60代、70歳以上で2割台である。

「誰のおかげで生活できるんだ」「馬鹿」等の暴言がある、大声でどなる



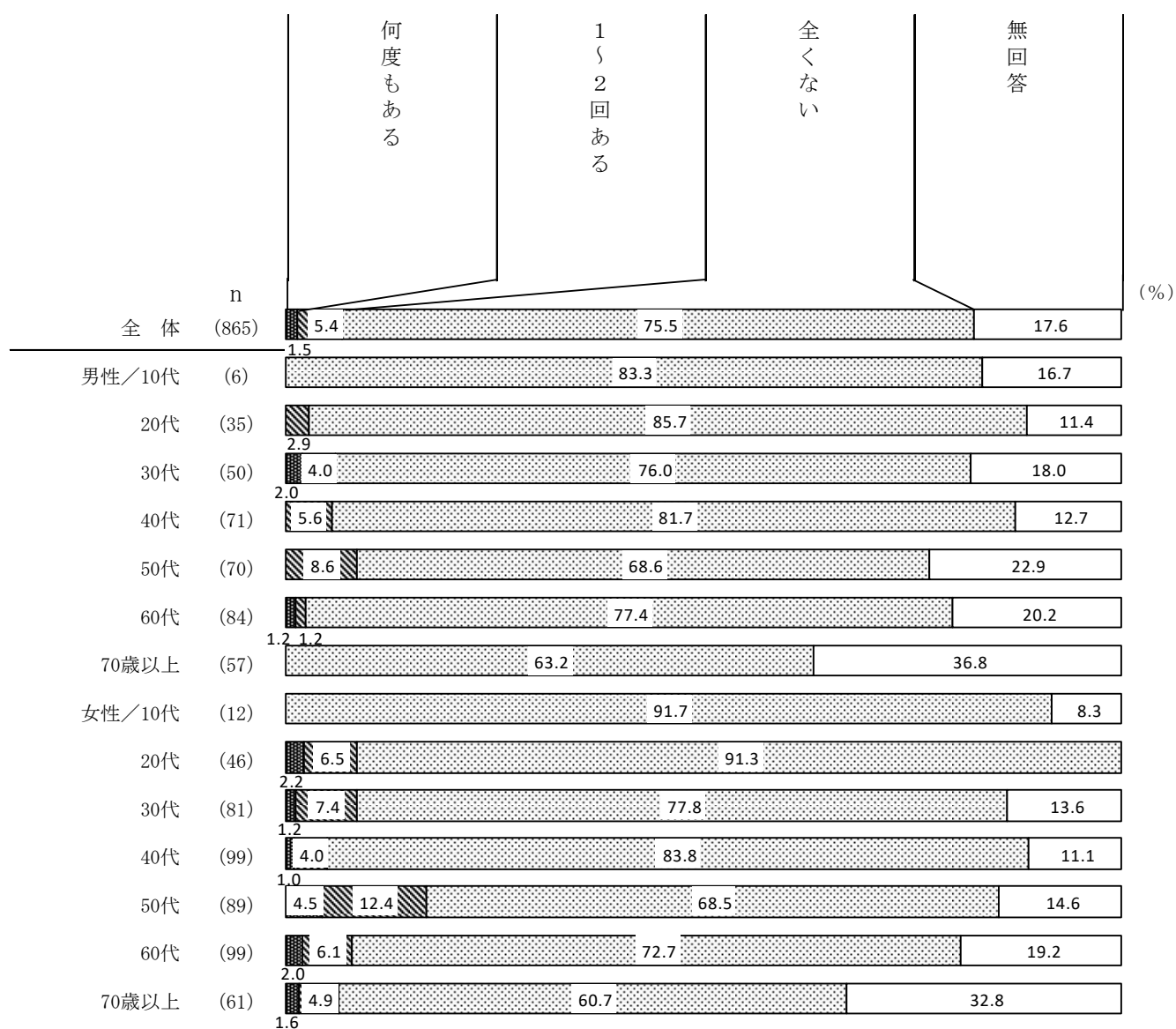
性／年齢別でみると、「経験がある（計）」は女性の50代で2割台、40代、60代、70歳以上で1割台である。

交友関係や電話・メールを細かく監視する



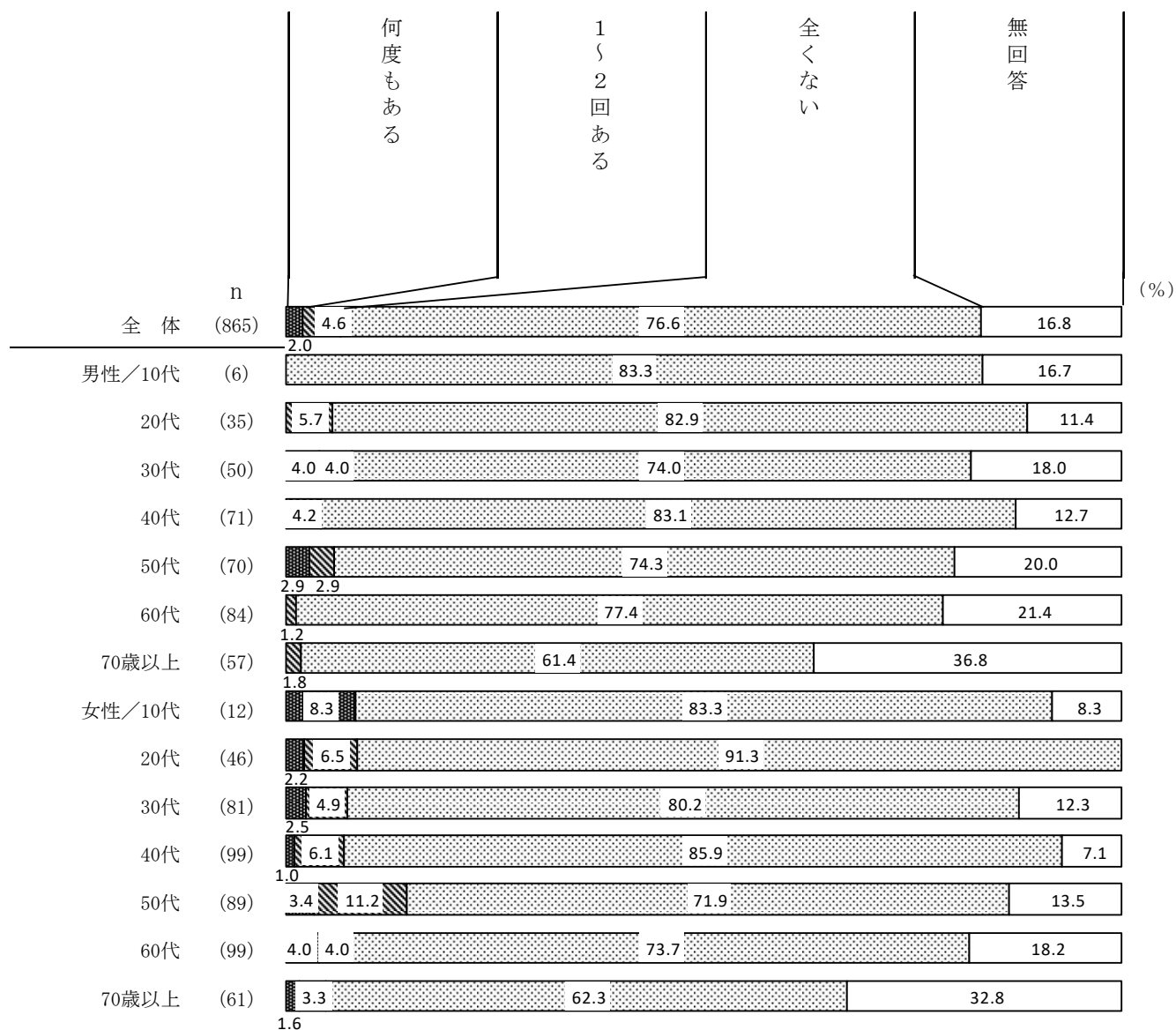
性／年齢別でみると、「経験がある（計）」は男性では20代、30代、50代で1割台である。女性では20代、50代が1割台である

ものを投げつけたり、突き飛ばしたりする



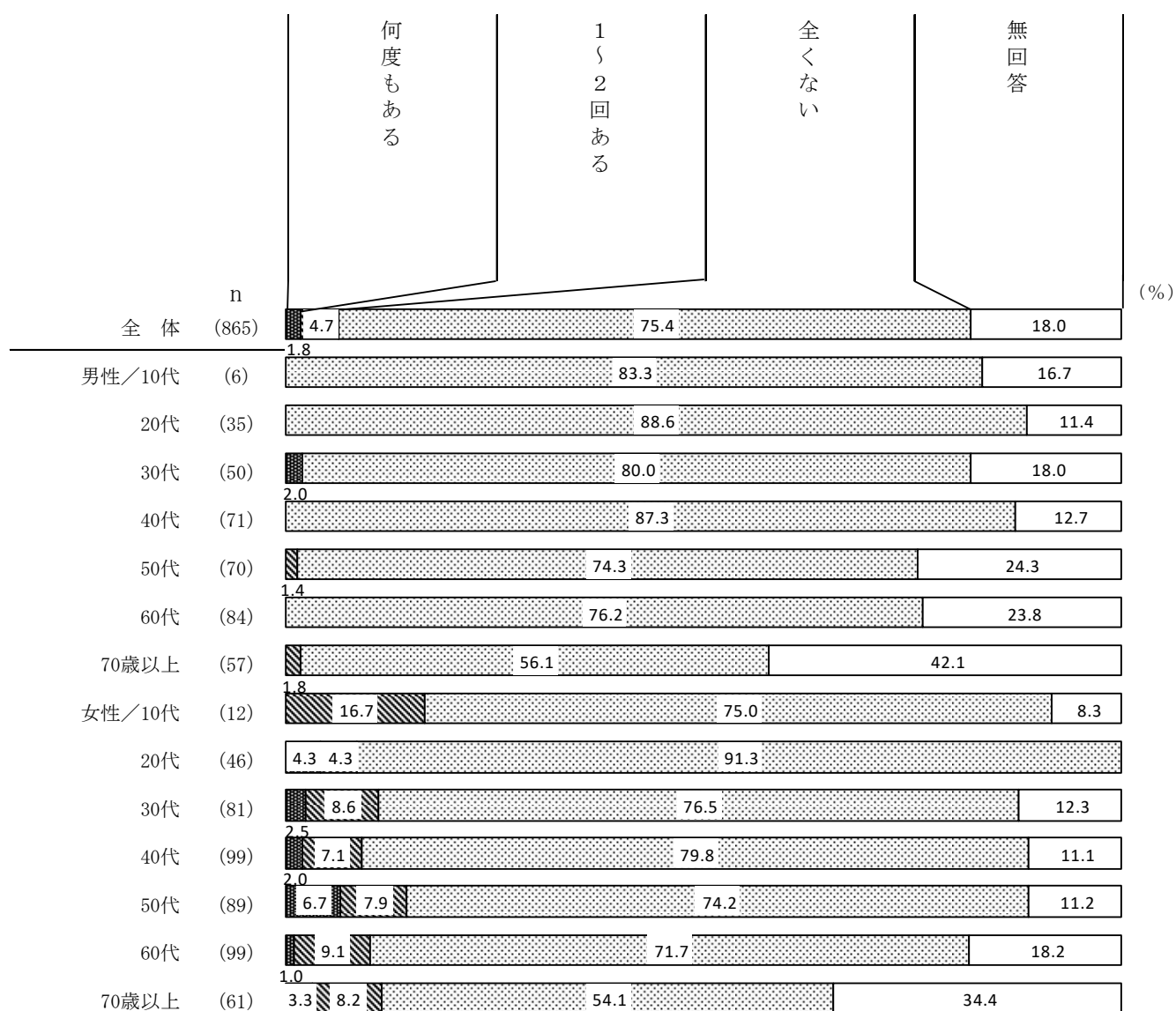
性／年齢別でみると、「経験がある（計）」は女性の50代で1割台である。

たたいたり、殴ったり、蹴ったりする



性／年齢別でみると、「経験がある（計）」は女性の50代で1割台である

嫌がっているのに性的行為を強要する



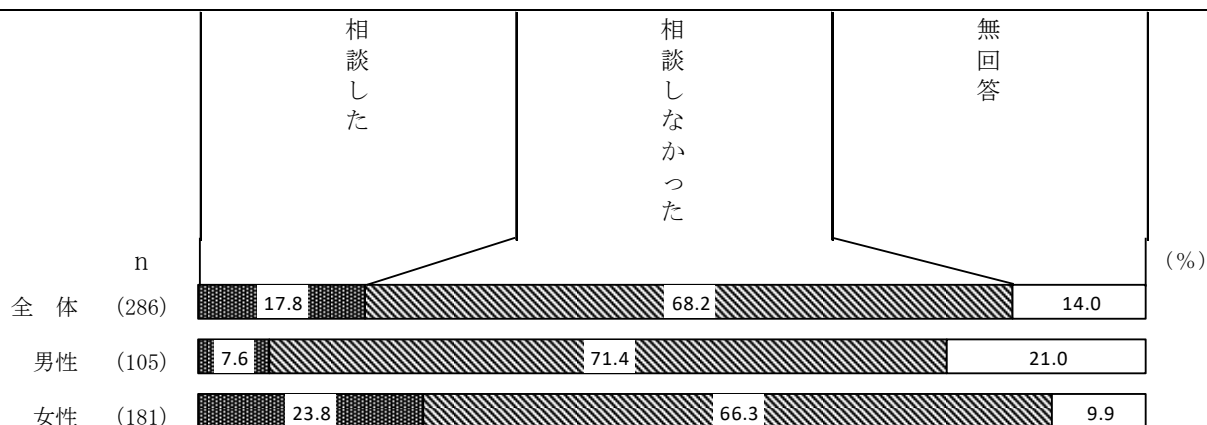
性／年齢別でみると、「経験がある（計）」は女性の30代、50代、60代、70歳以上で1割台である。

(3) 暴力についての相談の有無・相談相手・相談しなかった理由

【問23で「1」または「2」と答えた項目がある方に伺います】

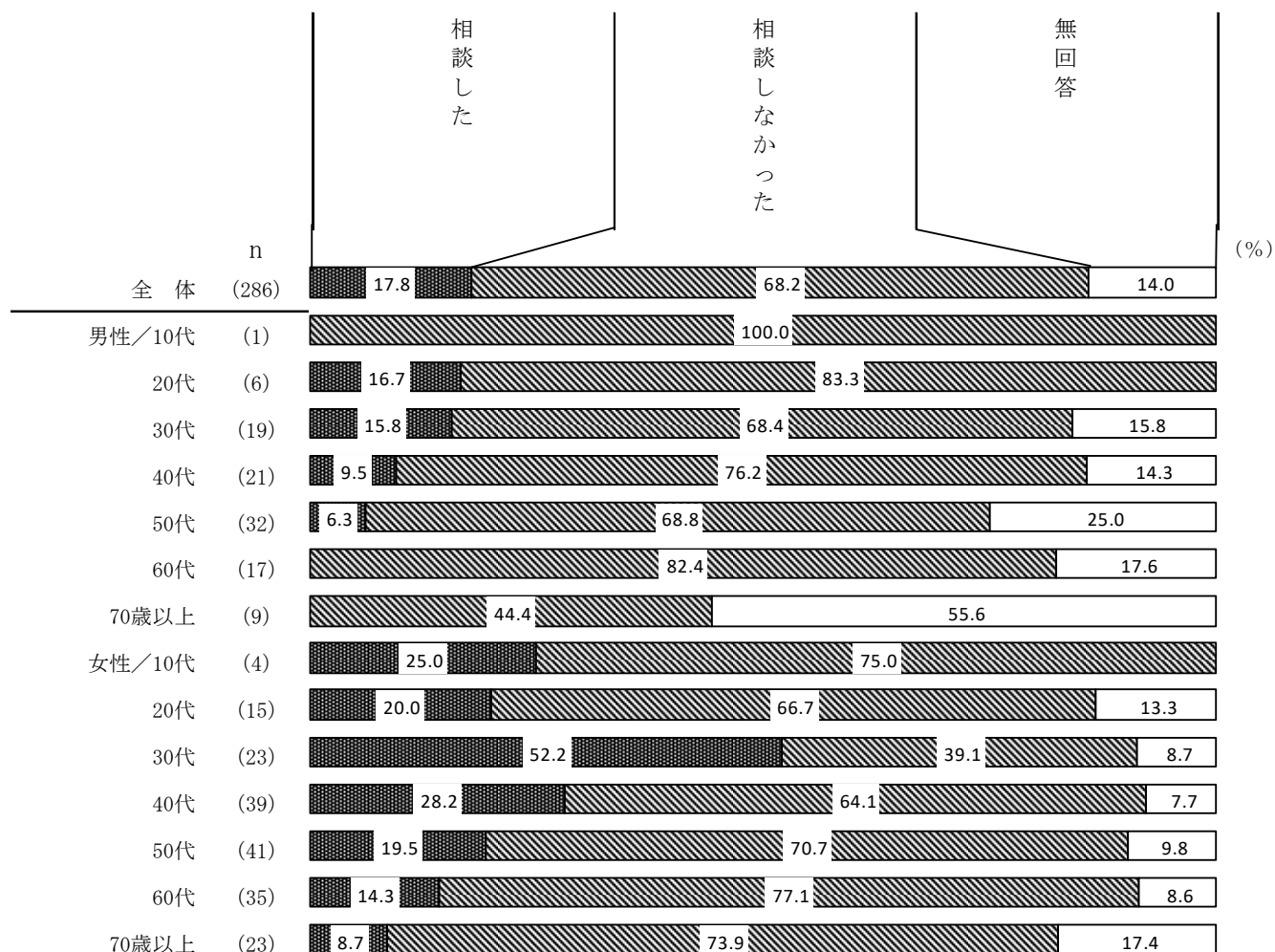
問24 あなたはその行為(暴力)について誰かに相談しましたか。

相談した方は相談した相手を、相談しなかった方はその理由をそれぞれあてはまるもの全てに○をつけてください。



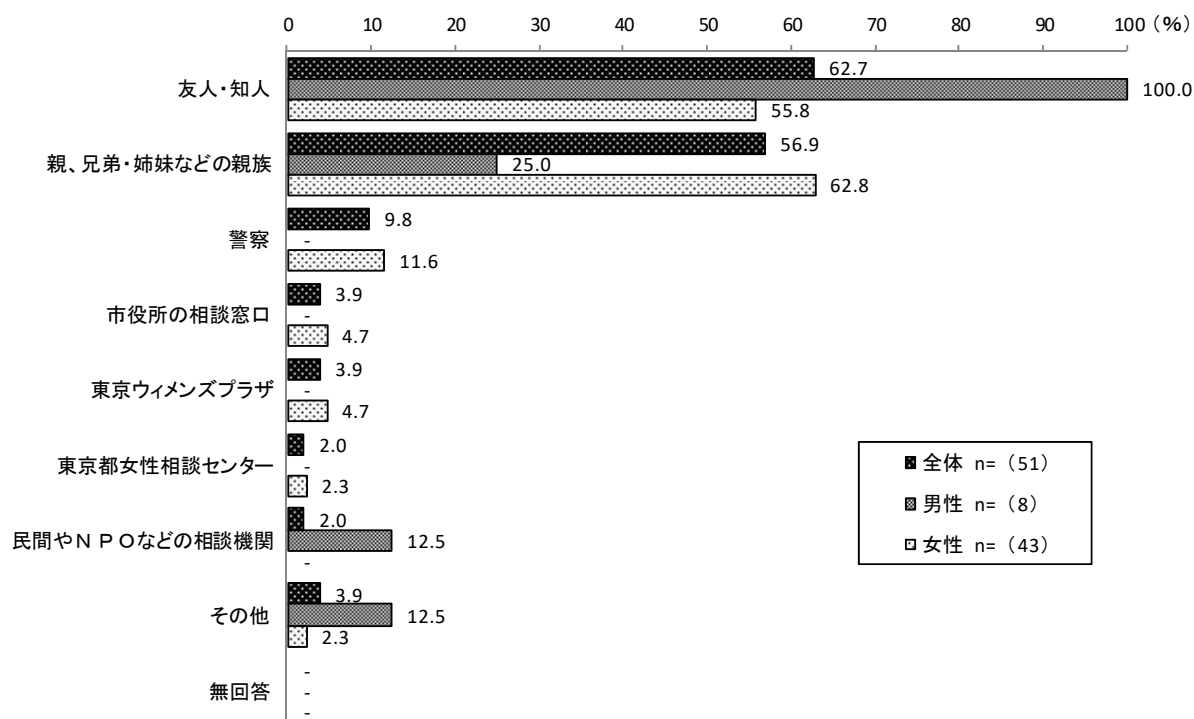
パートナーから暴力を受けた経験のある方に相談の有無について尋ねたところ、「相談しなかった」が68.2%と、「相談した」の17.8%を大きく上回っている。

性別でみると、女性では「相談した」が23.8%と、男性の7.6%を大きく上回っている。



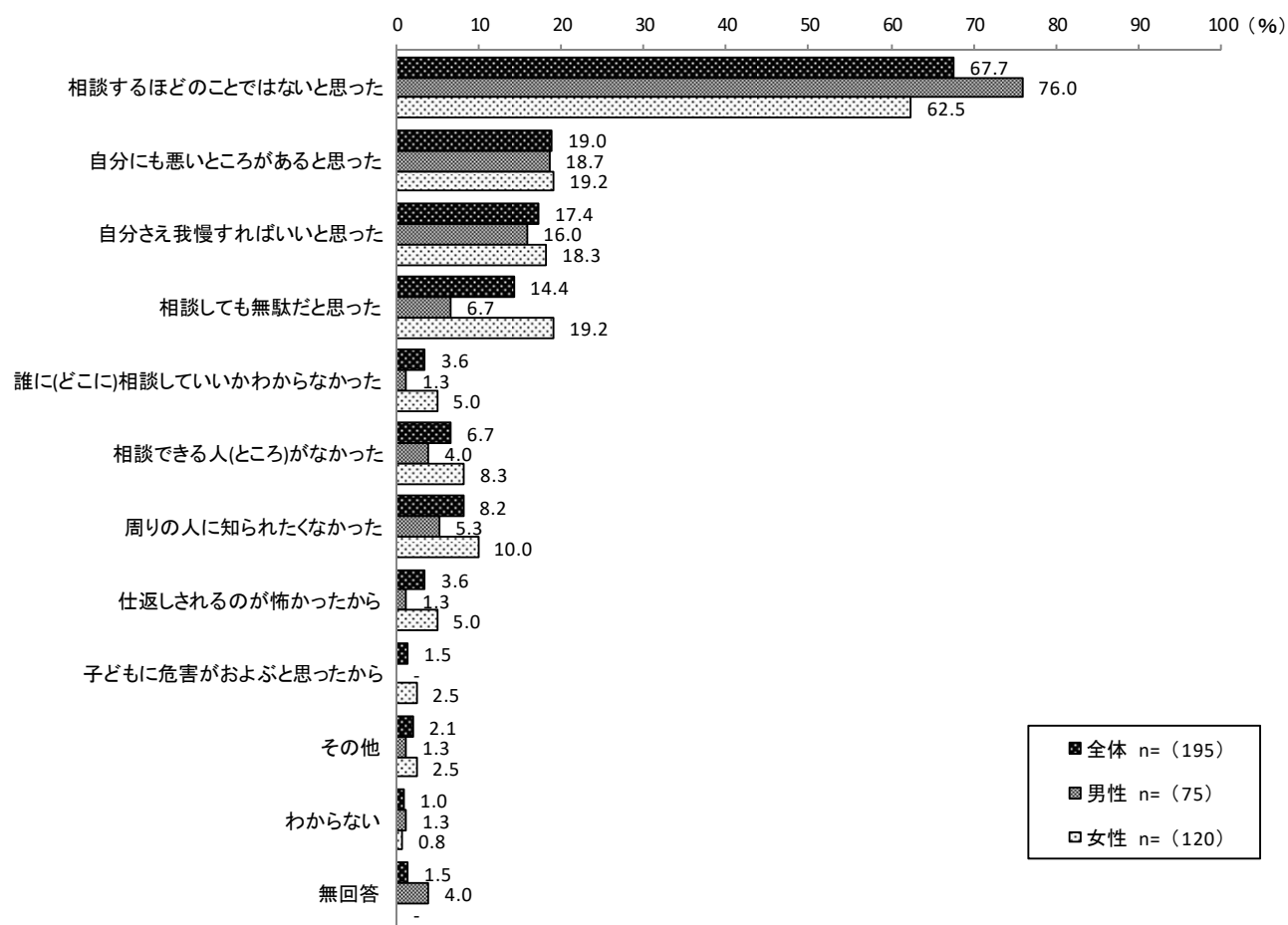
性/年齢別では、回答者数が少ないため、傾向を見るにとどめ、参考扱いとする。

相談相手



暴力について相談した方に、暴力についての相談相手を尋ねたところ、「友人・知人」が62.7%で最も多く、次いで「親、兄弟・姉妹などの親族」が56.9%となっている。

相談しなかった理由

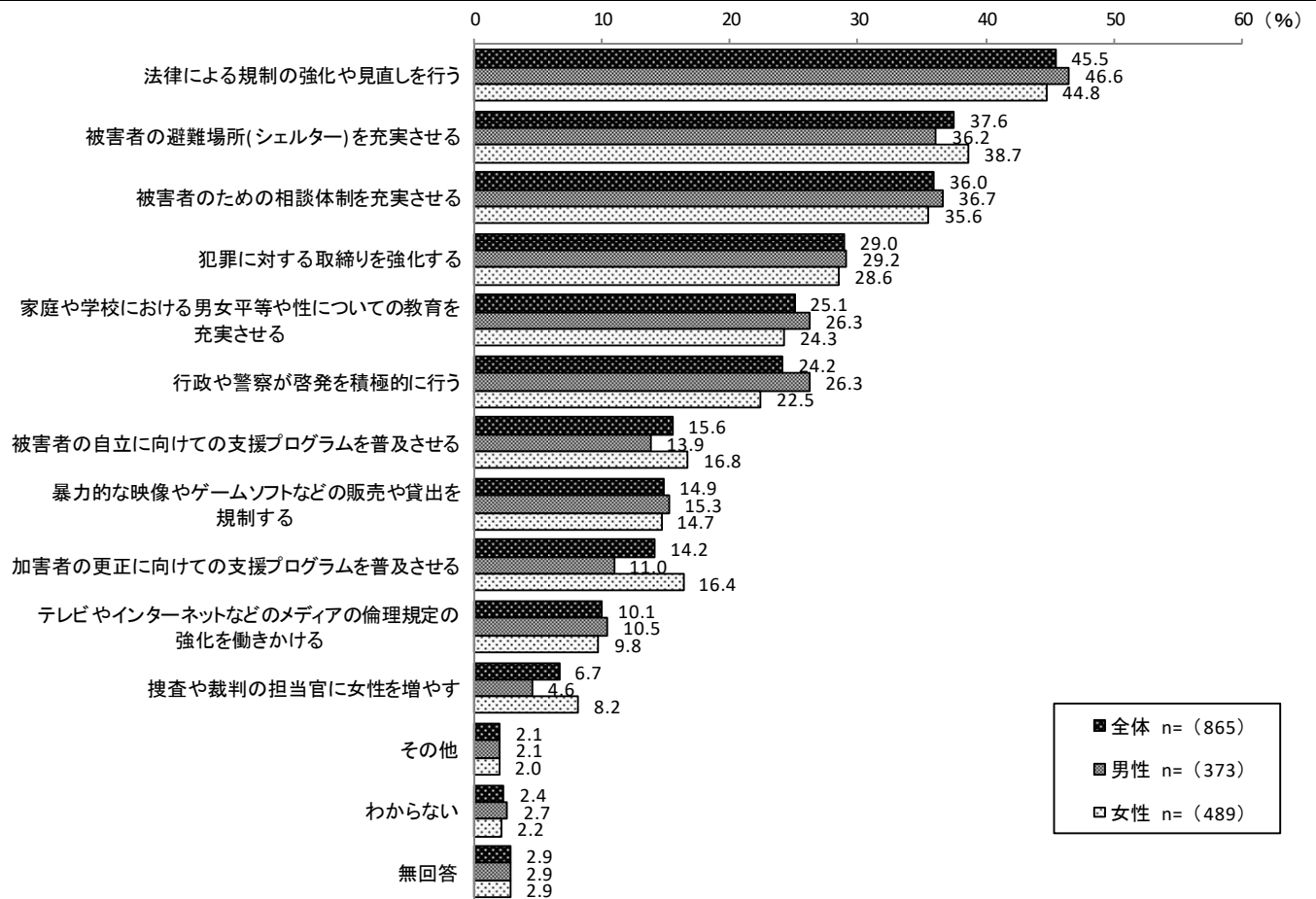


暴力について相談しなかった方に、その理由を尋ねたところ、「相談するほどのことではないと思った」が 67.7%で最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」が 19.0%、「自分さえ我慢すればいいと思った」が 17.4%となっている。

性別でみると、男性では「相談するほどのことではないと思った」が 76.0%と、女性の 62.5%を上回っている。一方、女性では「相談しても無駄だと思った」が 19.2%と、男性の 6.7%を上回っている。

(4) 暴力の防止や被害者の支援のために必要な対策

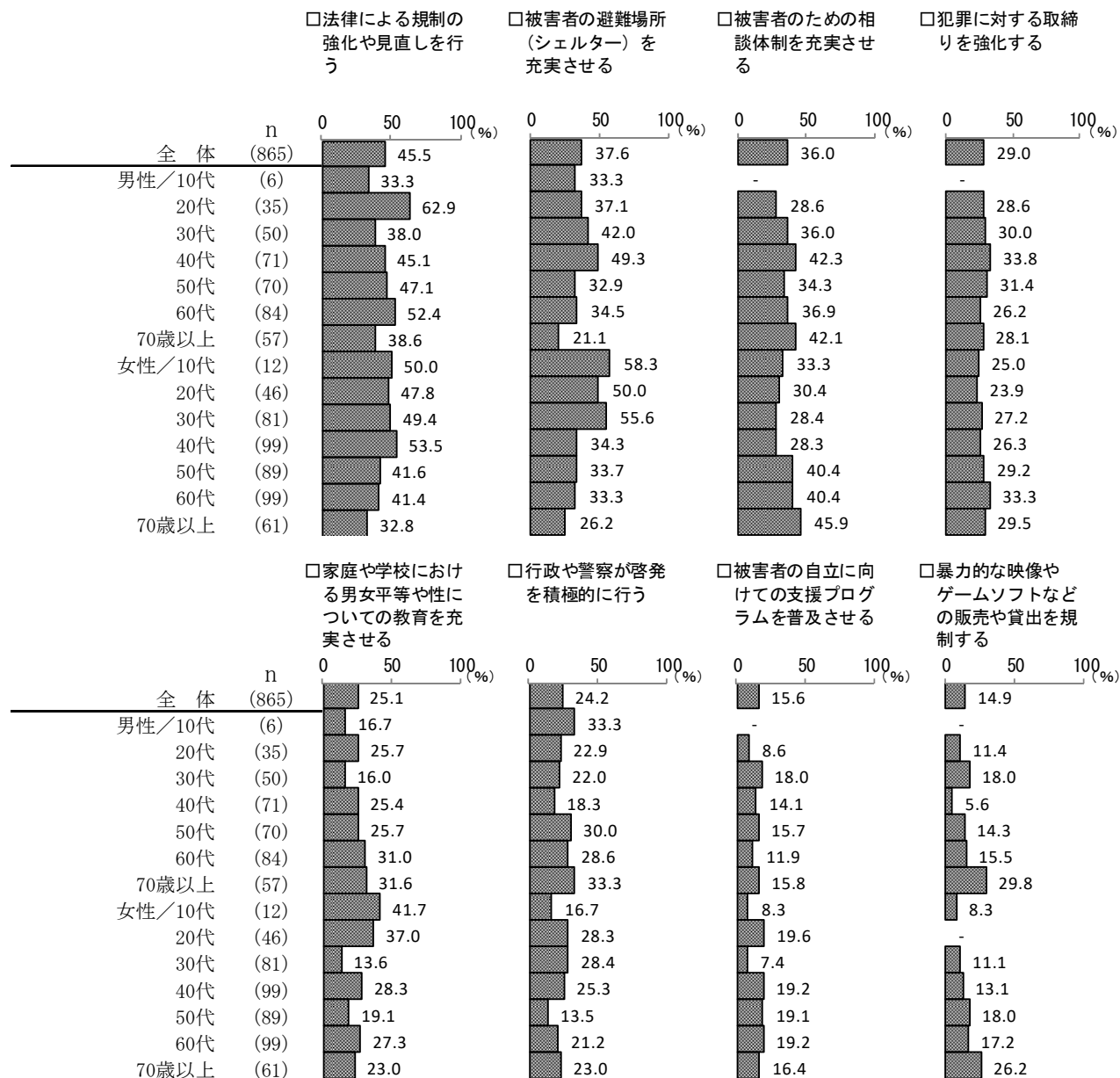
問 25 あなたがドメスティック・バイオレンス（DV）などの暴力の防止および被害者の支援のために必要だと思う対策を3つまで選んでください。



暴力の防止や被害者の支援のために必要な対策について尋ねたところ、「法律による規制の強化や見直しを行う」が45.5%で最も多い。次いで、「被害者の避難場所(シェルター)を充実させる」が37.6%、「被害者のための相談体制を充実させる」が36.0%となっている。

性別でみると、女性では「加害者の更生に向けての支援プログラムを普及させる」が16.4%と、男性の11.0%を上回っている。

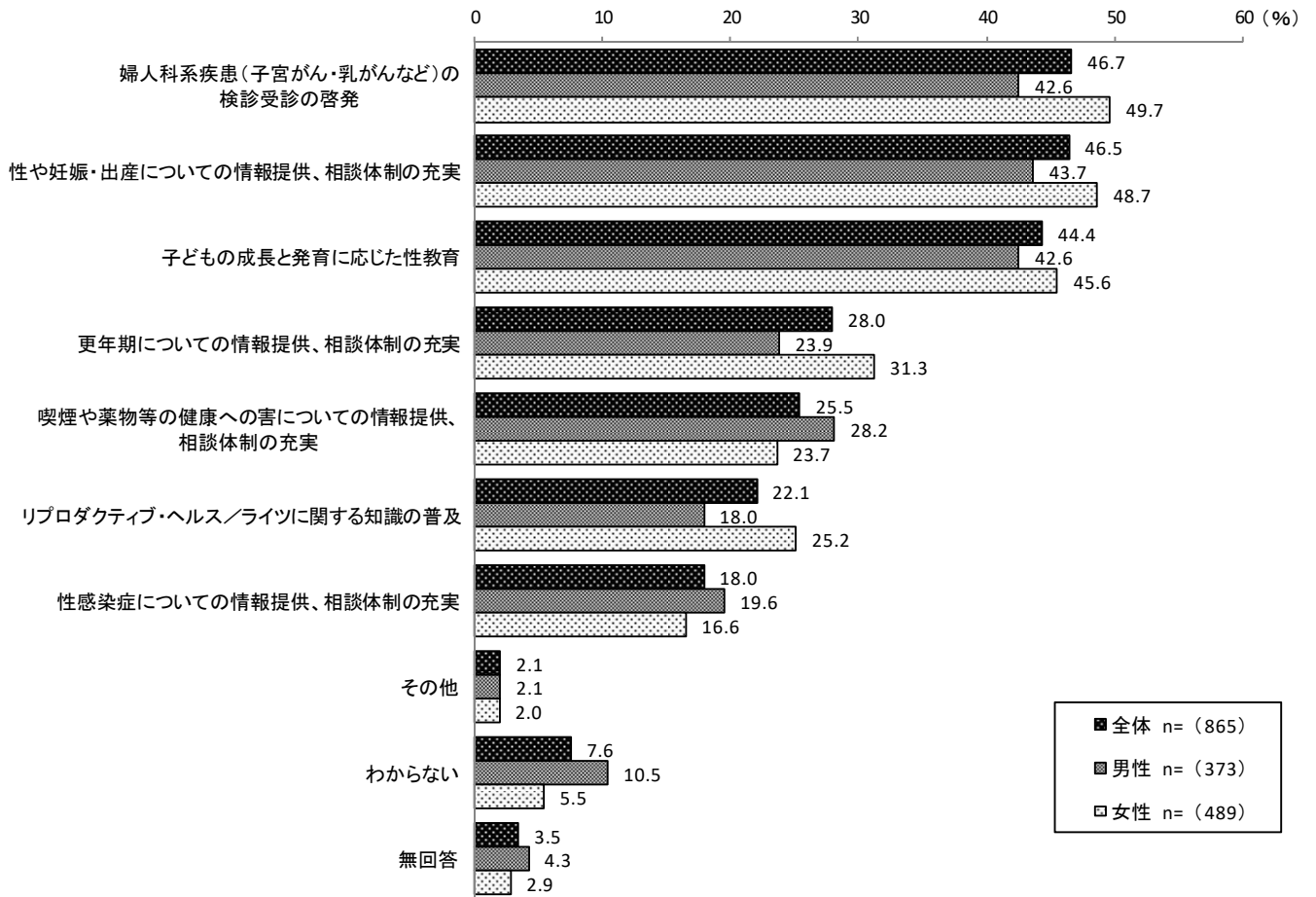
暴力の防止や被害者の支援のために必要な対策（上位8項目）



性／年齢別でみると、「法律による規制の強化や見直しを行う」は男性の20代で6割台、男性の60代、女性の40代で5割台となっている。「被害者の避難場所（シェルター）を充実させる」は女性の20代、30代で5割台、男性の30代、40代で4割台となっている。「被害者のための相談体制を充実させる」は男性の40代、70歳以上、女性の50代、60代、70歳以上で4割台となっている。

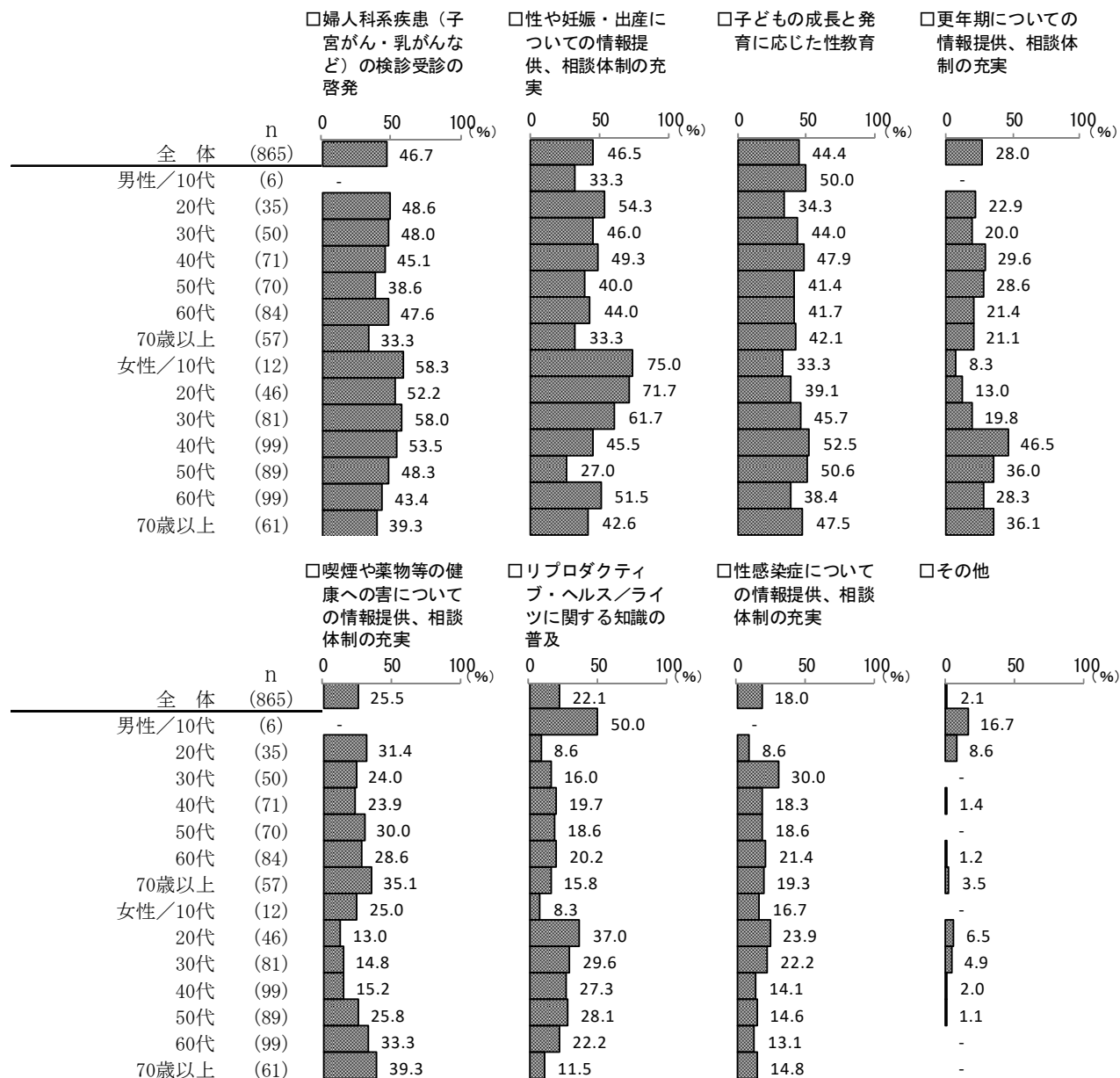
(5) 女性の生涯を通じた健康に関して大切なこと

問 26 女性は妊娠や出産をする可能性があるため、男性とは異なる健康上の問題に直面することがあります。あなたが女性の生涯を通じた健康を考える上で、大切だと思うことを3つまで選んでください。



女性の生涯を通じた健康に関して大切なことについて尋ねたところ、「婦人科系疾患(子宮がん・乳がんなど)の検診受診の啓発」が46.7%で最も多い。次いで、「性や妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」が46.5%、「子どもの成長と発育に応じた性教育」が44.4%となっている。

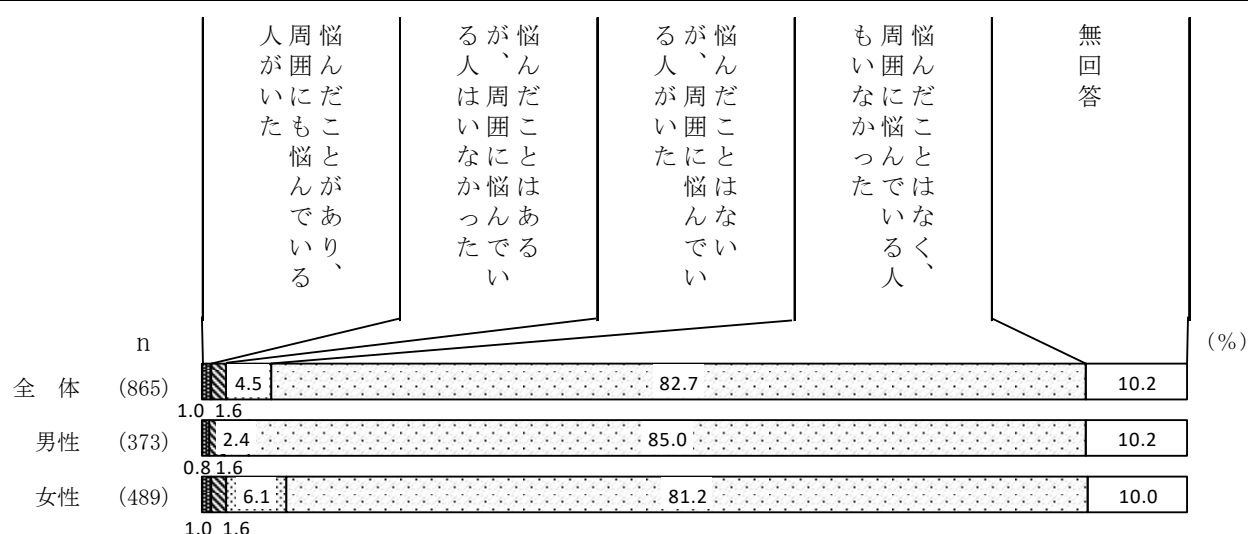
女性の生涯を通じた健康に関して大切なこと（上位8項目）



性／年齢別でみると、「婦人科系疾患(子宮がん・乳がんなど)の検診受診の啓発」は女性の20代、30代、40代で5割台となっている。「性や妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」は女性の20代で7割台、女性の30代で6割台、男性の20代、女性の60代で5割台となっている。

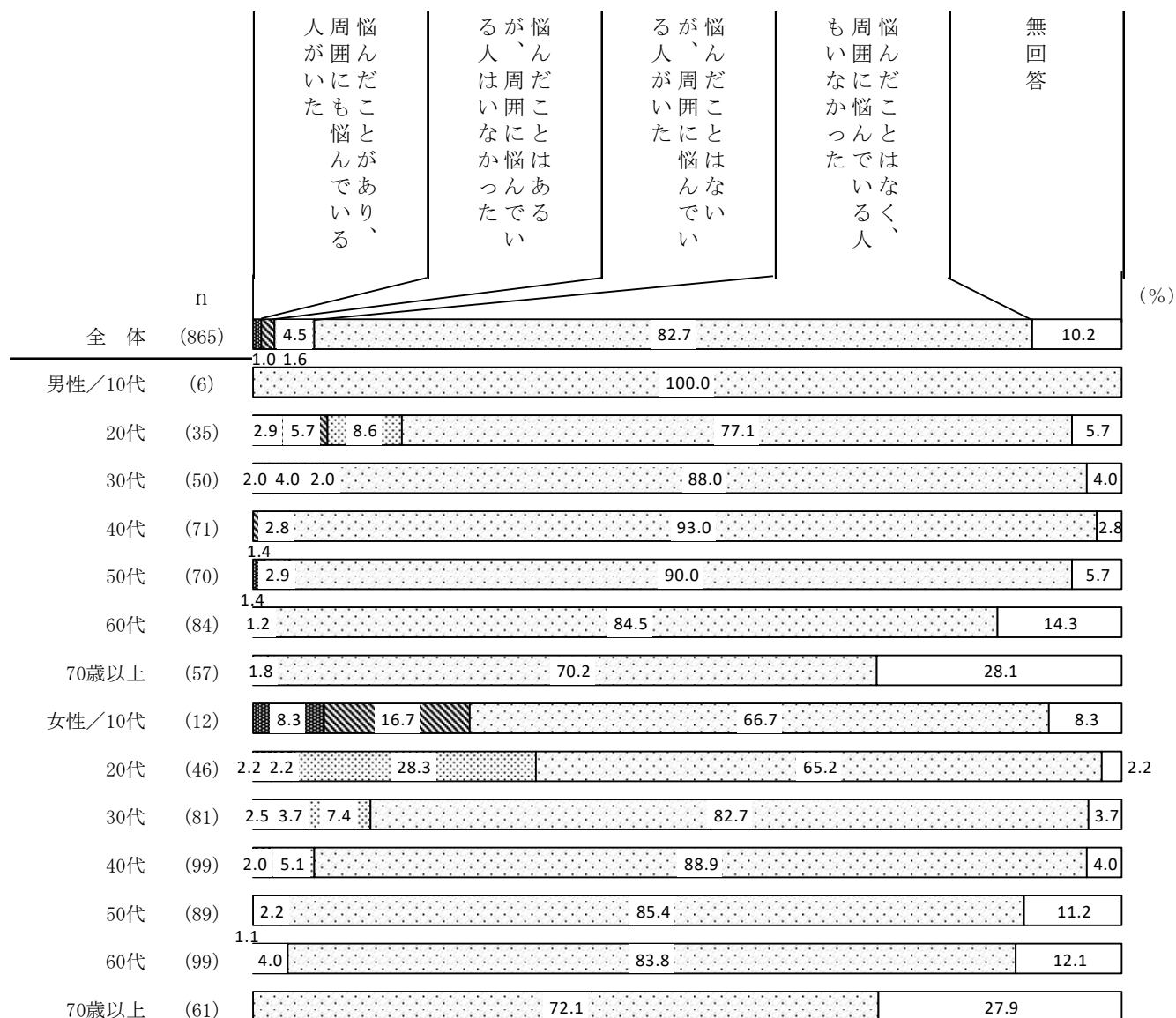
(6) 自身や身近な人の性に関する悩みについて

問 27 あなたは今までに、自分の性別に違和感を覚えたり、恋愛感情が同性に向かうなど、性について悩んだことがありますか。または周囲で悩んでいる人がいましたか。



自身や身近な人の性に関する悩みについて尋ねたところ、「悩んだことはなく、周囲に悩んでいる人もいなかった」が82.7%で最も多い。次いで、「悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた」が4.5%、「悩んだことはあるが、周囲に悩んでいる人はいなかった」が1.6%、「悩んだことがあり、周囲にも悩んでいる人がいた」が1.0%となっている。

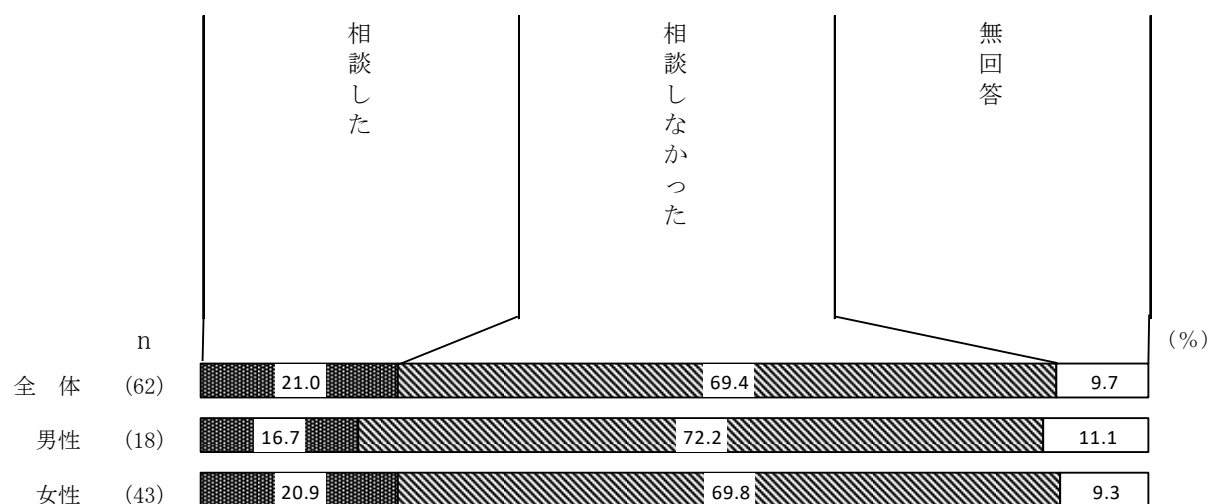
自身や身近な人の性に関する悩みについて



性／年齢別でみると、女性の20代で「悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた」が2割後半となっている。また、本人又は周囲で悩んだことがある方の合計では、男女ともに20代が最も多くなっている。

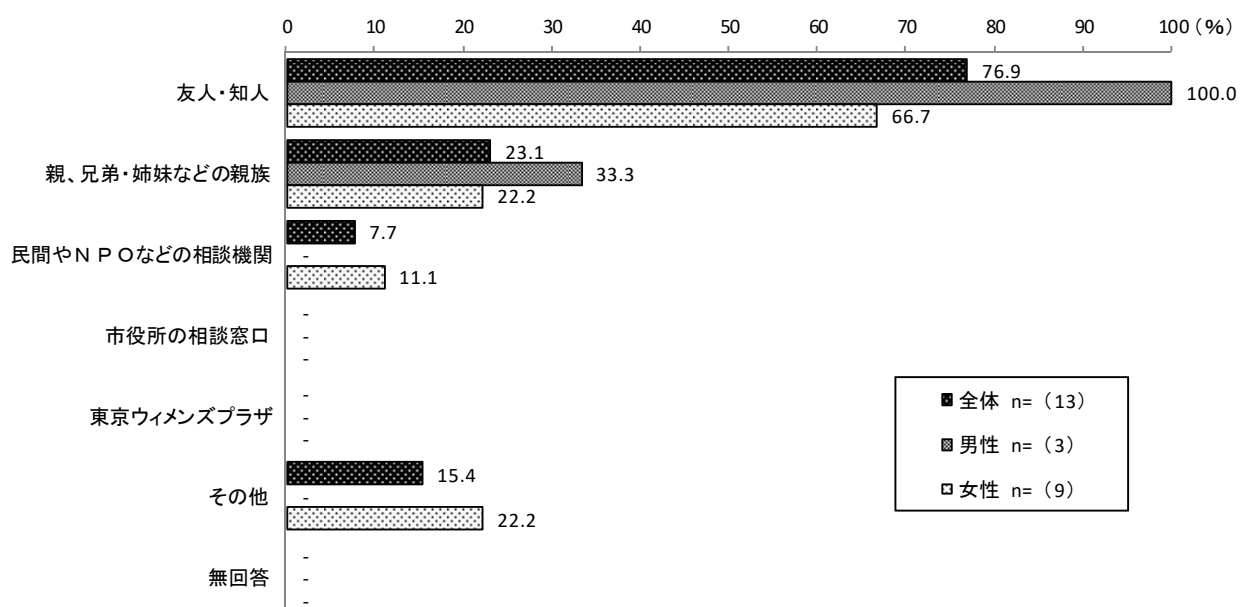
(7) 性の悩みに関する相談の有無・相談相手・相談しなかった理由

問 28 あなたはそのことについて誰かに相談しましたか。
相談した方は相談した相手を、相談しなかった方はその理由をそれぞれあてはまるもの
全てに○をつけてください。



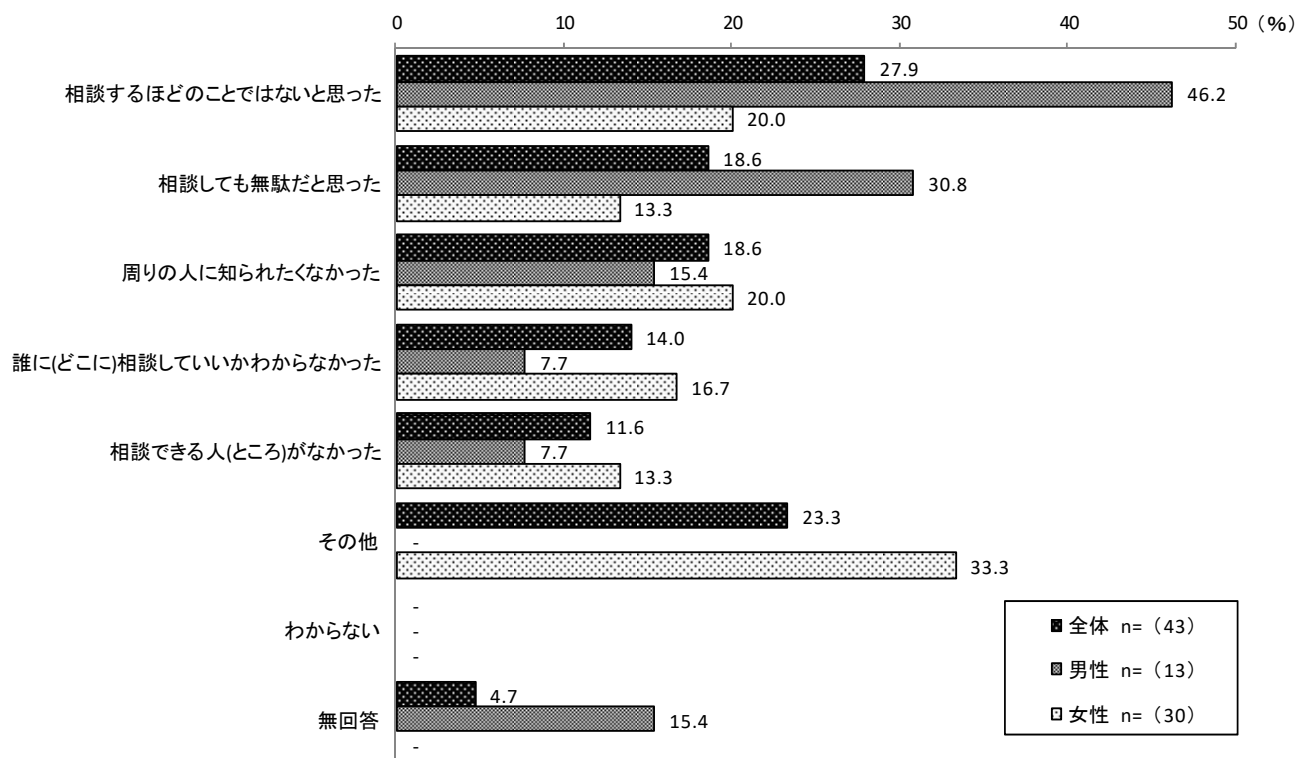
性について悩んだことがある、または周囲に悩んでいる人がいた方に、誰かに相談したかを尋ねたところ、「相談しなかった」が69.4%と、「相談した」の21.0%を大きく上回っている。

相談相手



性の悩みについて相談した方に、性の悩みについての相談相手を尋ねたところ、「友人・知人」が76.9%で最も多く、次いで「親、兄弟・姉妹などの親族」が23.1%となっている。

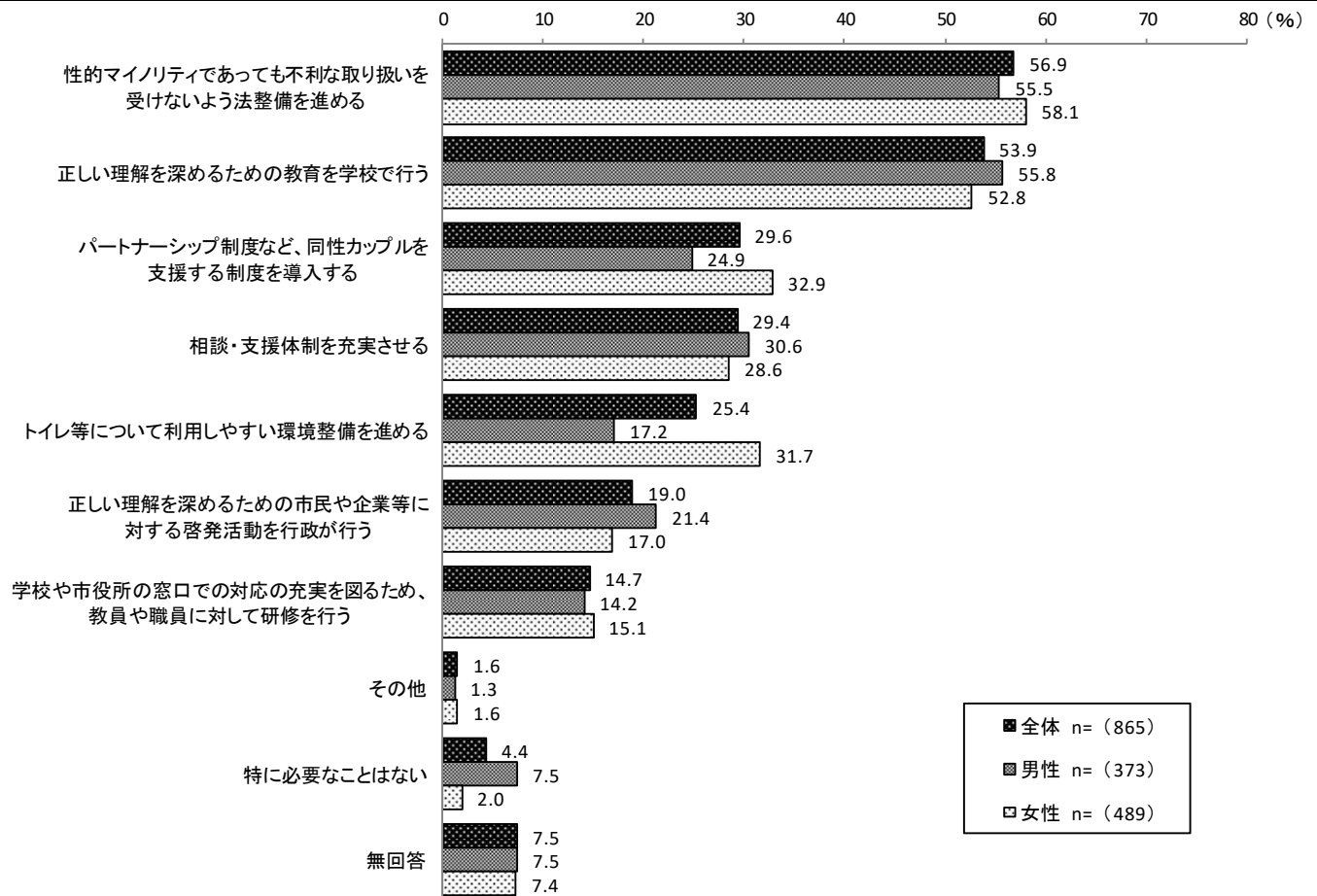
相談しなかった理由



性の悩みについて相談しなかった方に、その理由を尋ねたところ、「相談するほどのことではないと思った」が 27.9%で最も多く、次いで「相談しても無駄だと思った」、「周りの人に知られたくなかった」が、ともに 18.6%となっている。

(8) 性的マイノリティの人権を守るために必要な施策

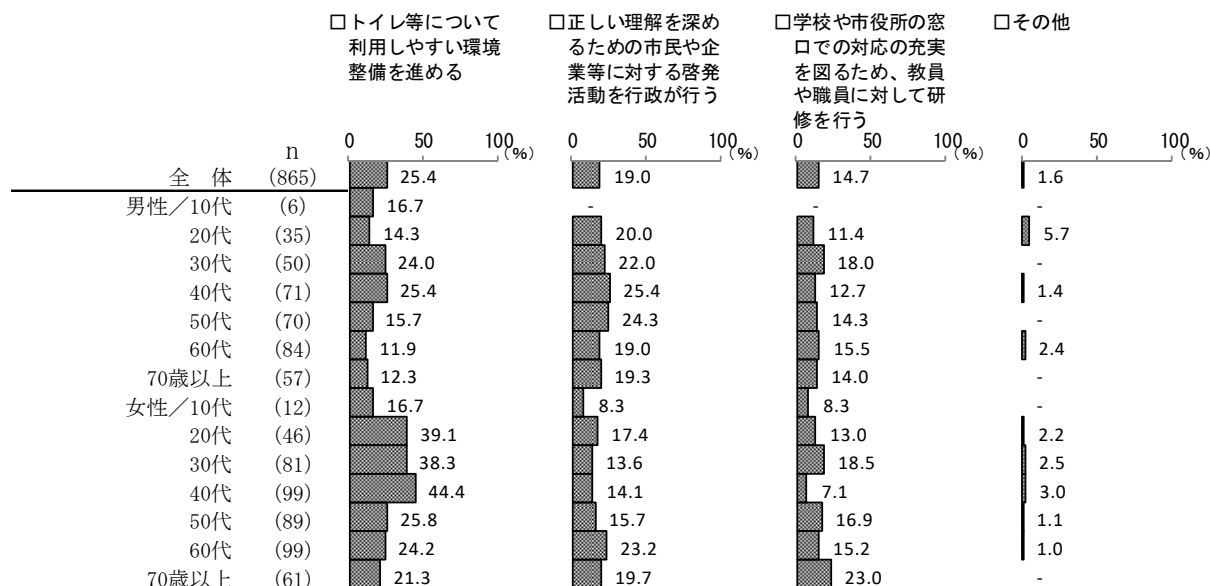
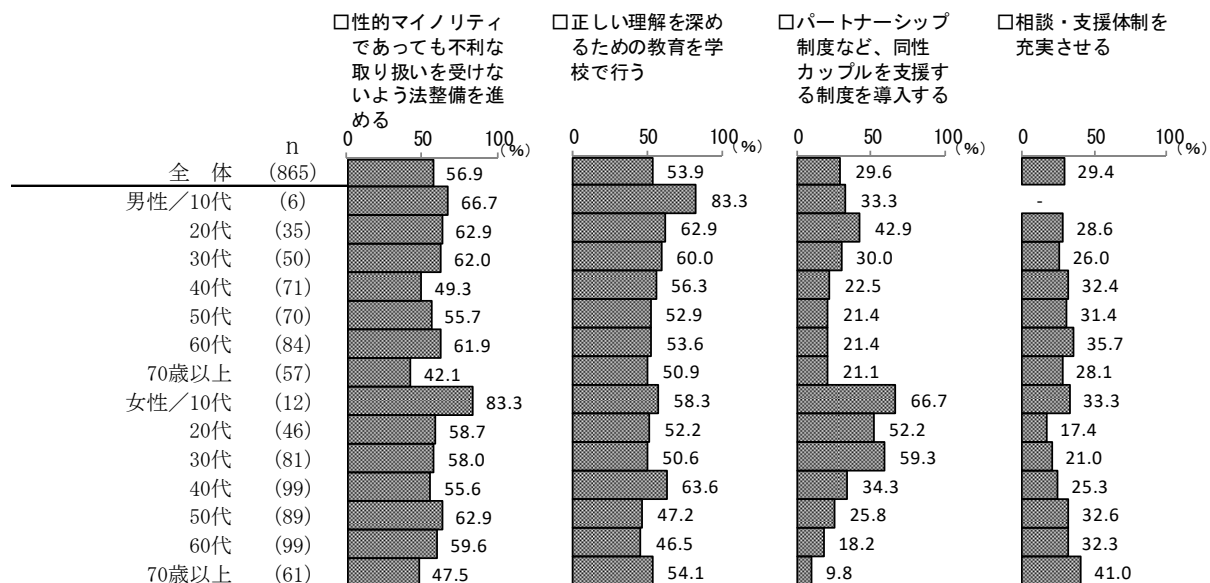
問 29 あなたは性的マイノリティの人々の人権を守るために、特にどのような施策が必要だと思いますか。必要だと思うものを3つまで選んでください。



性的マイノリティの人権を守るために必要な施策について尋ねたところ、「性的マイノリティであっても不利な取り扱いを受けないよう法整備を進める」が56.9%で最も多い。次いで、「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」が53.9%、「パートナーシップ制度など、同性カップルを支援する制度を導入する」が29.6%となっている。

性別でみると、女性では「パートナーシップ制度など、同性カップルを支援する制度を導入する」が32.9%と、男性の24.9%を上回っている。また、「トイレ等について利用しやすい環境整備を進める」が31.7%と、男性の17.2%を上回っている。

性的マイノリティの人権を守るために必要な施策

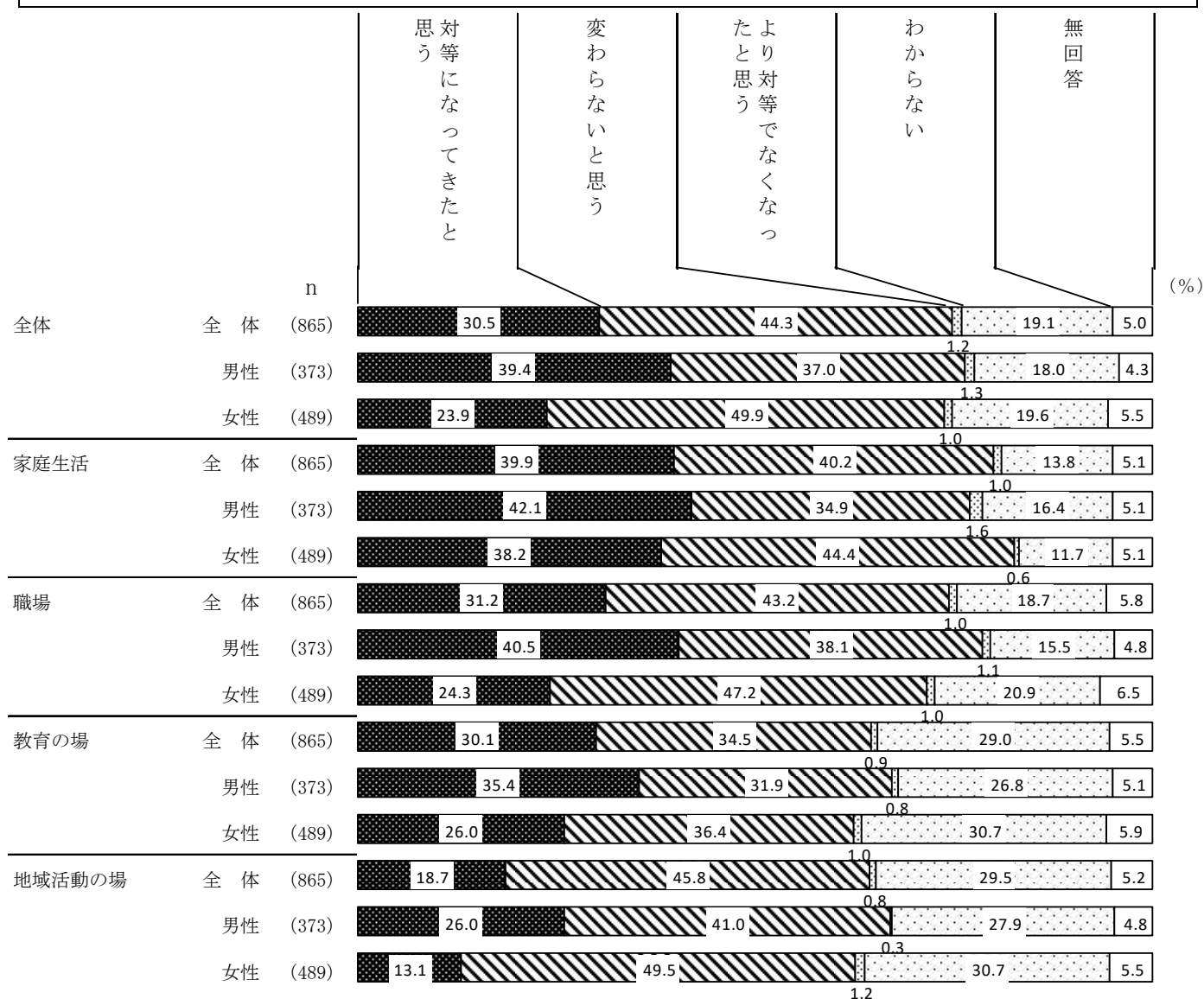


性／年齢別でみると、「性的マイノリティであっても不利な取り扱いを受けないよう法整備を進める」は男性の20代、30代、60代、女性の50代で6割台となっている。「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」は、男性の20代、30代、女性の40代で6割台となっている。「パートナーシップ制度など、同性カップルを支援する制度を導入する」は女性の20代、30代で5割台、男性の20代で4割台となっている。

8. 男女共同参画事業について

(1) 男女共同参画事業の進捗状況

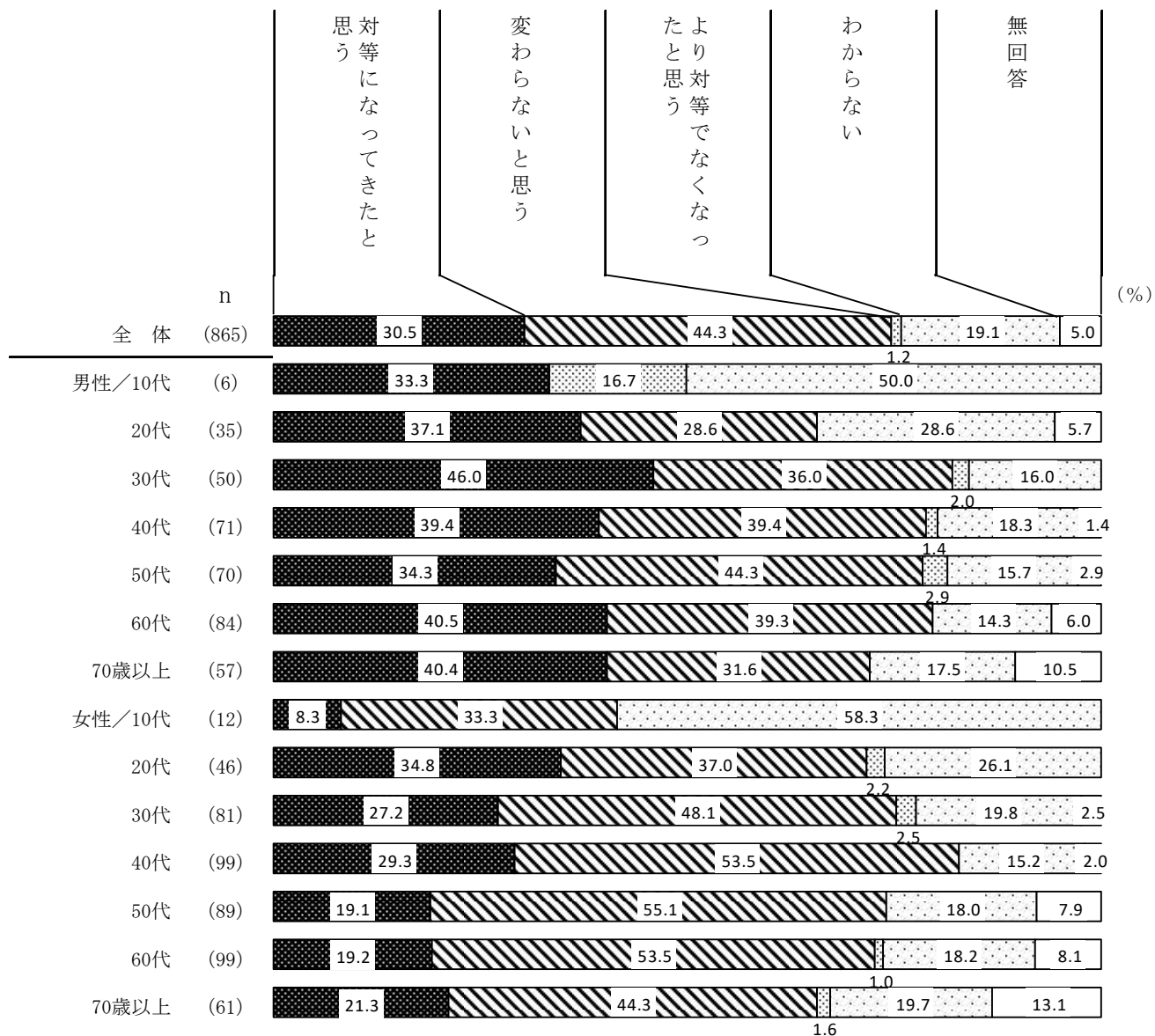
問30 あなたは10年前と比べ、男女の地位は対等になったと思いますか。それぞれの項目についてあなたの感じ方に近いものを1つずつ選んでください。



男女の地位について尋ねたところ、10年前と比べ「対等になってきたと思う」は＜全体＞では30.5%である。項目でみると、＜家庭生活＞が39.9%と最も多く、次いで＜職場＞で31.2%、＜教育の場＞で30.1%となっている。

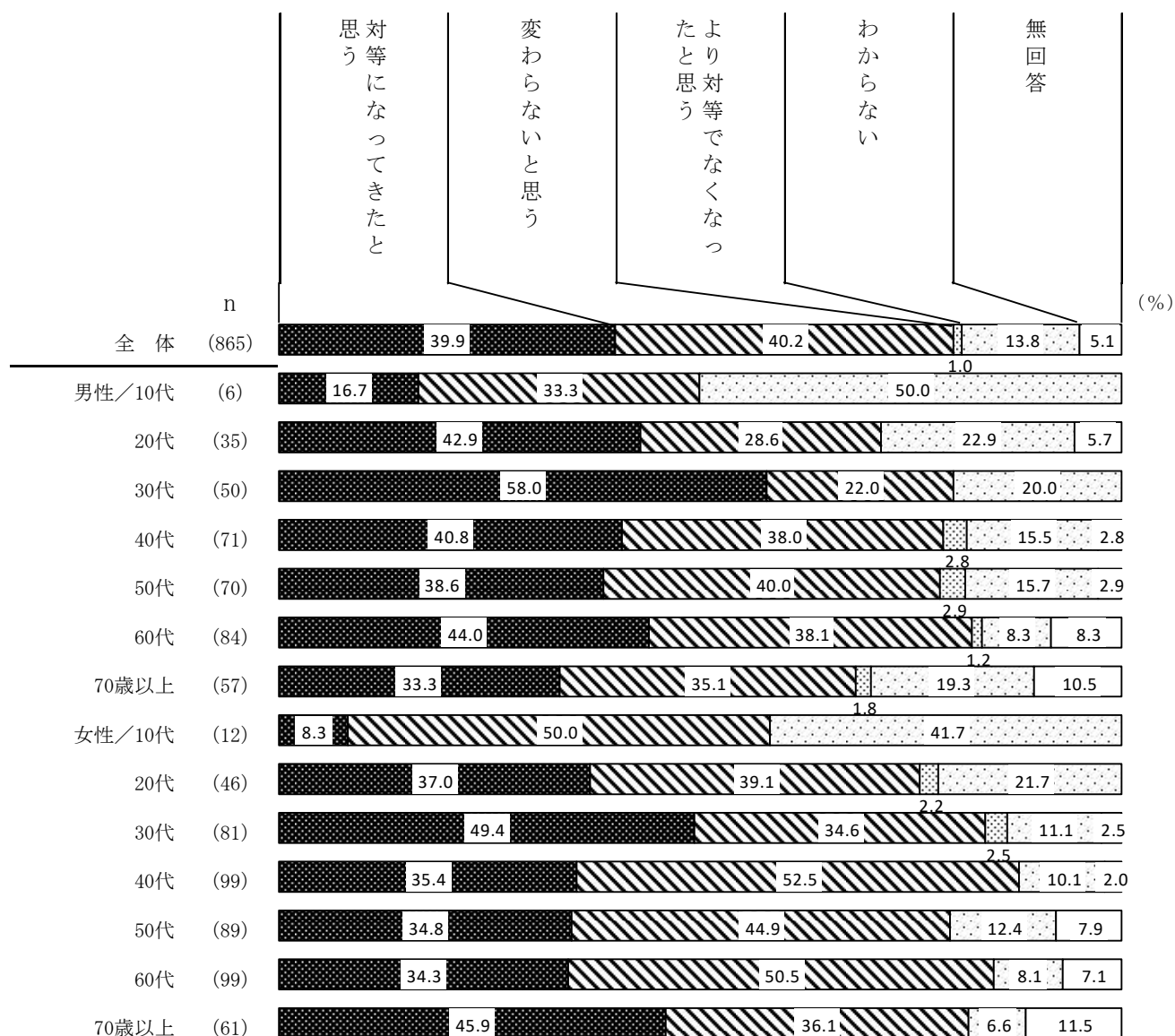
性別でみると、＜全体＞において男性では「対等になってきたと思う」が39.4%と、女性の23.9%を上回っている。また、全ての項目において「対等になってきたと思う」は男性が女性を上回っている。

全体



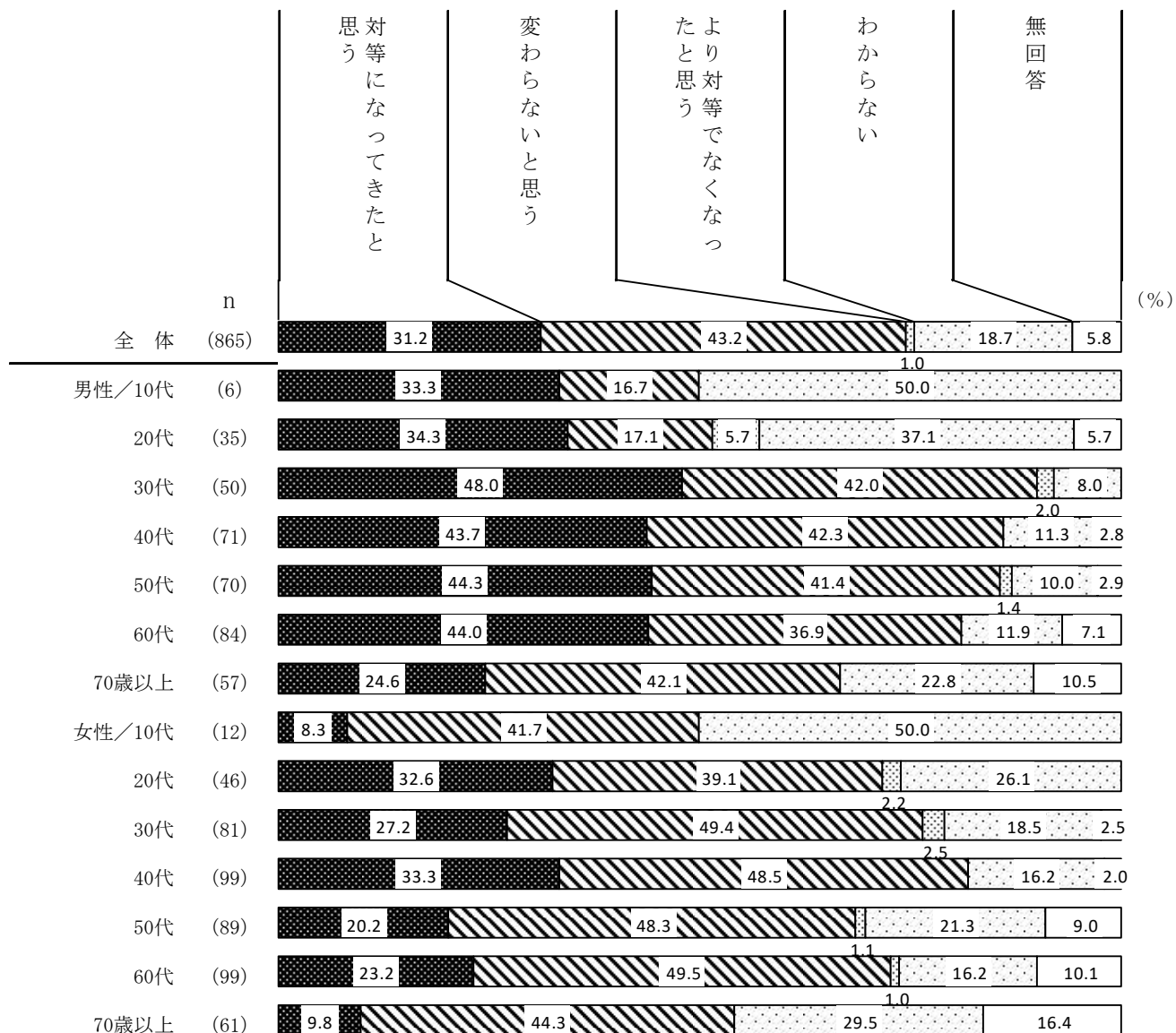
性／年齢別でみると、「対等になってきたと思う」は男性の30代、60代、70歳以上で4割台、男性の20代、40代、50代、女性の20代で3割台となっている。

家庭生活



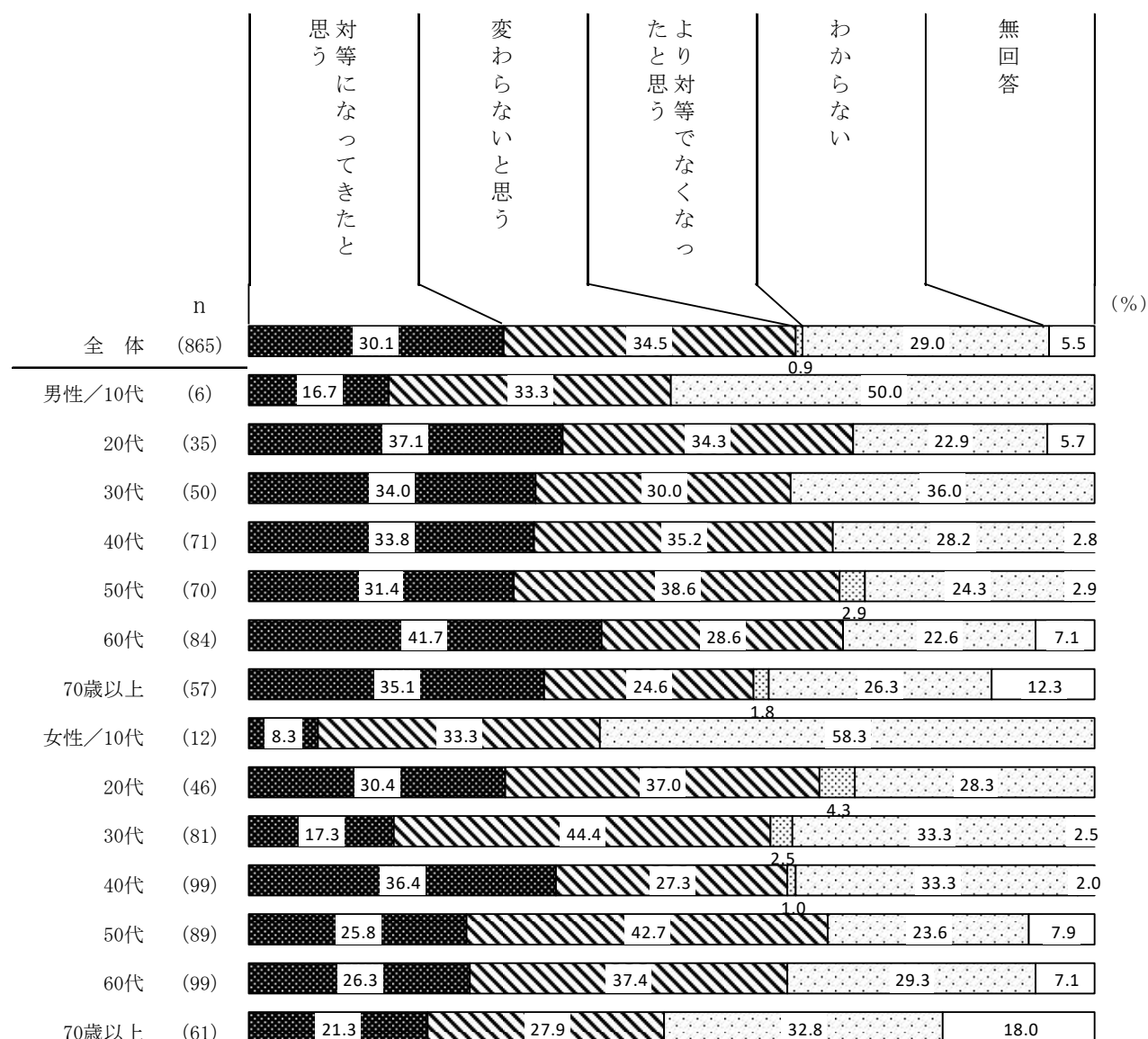
性／年齢別でみると、「対等になってきたと思う」は男性の30代で5割後半、男性の20代、40代、60代、女性の30代で4割台となっている。

職場



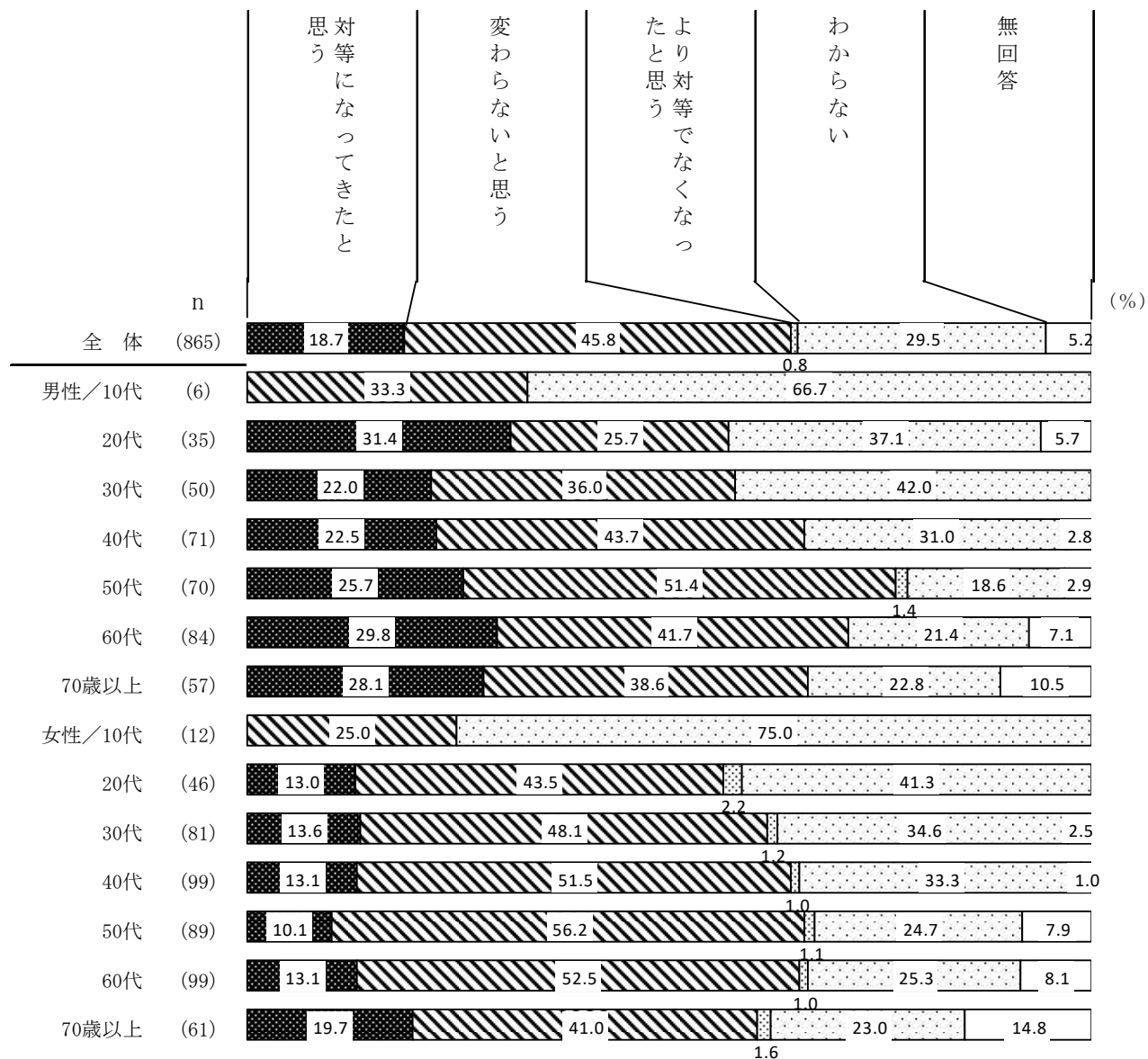
性／年齢別でみると、「対等になってきたと思う」は男性の30代、40代、50代、60代で4割台、男性の20代、女性の20代、40代で3割台となっている。

教育の場



性／年齢別でみると、「対等になってきたと思う」は男性の60代で4割台、男性の20代、30代、40代、50代、70歳以上、女性の20代、40代で3割台となっている。

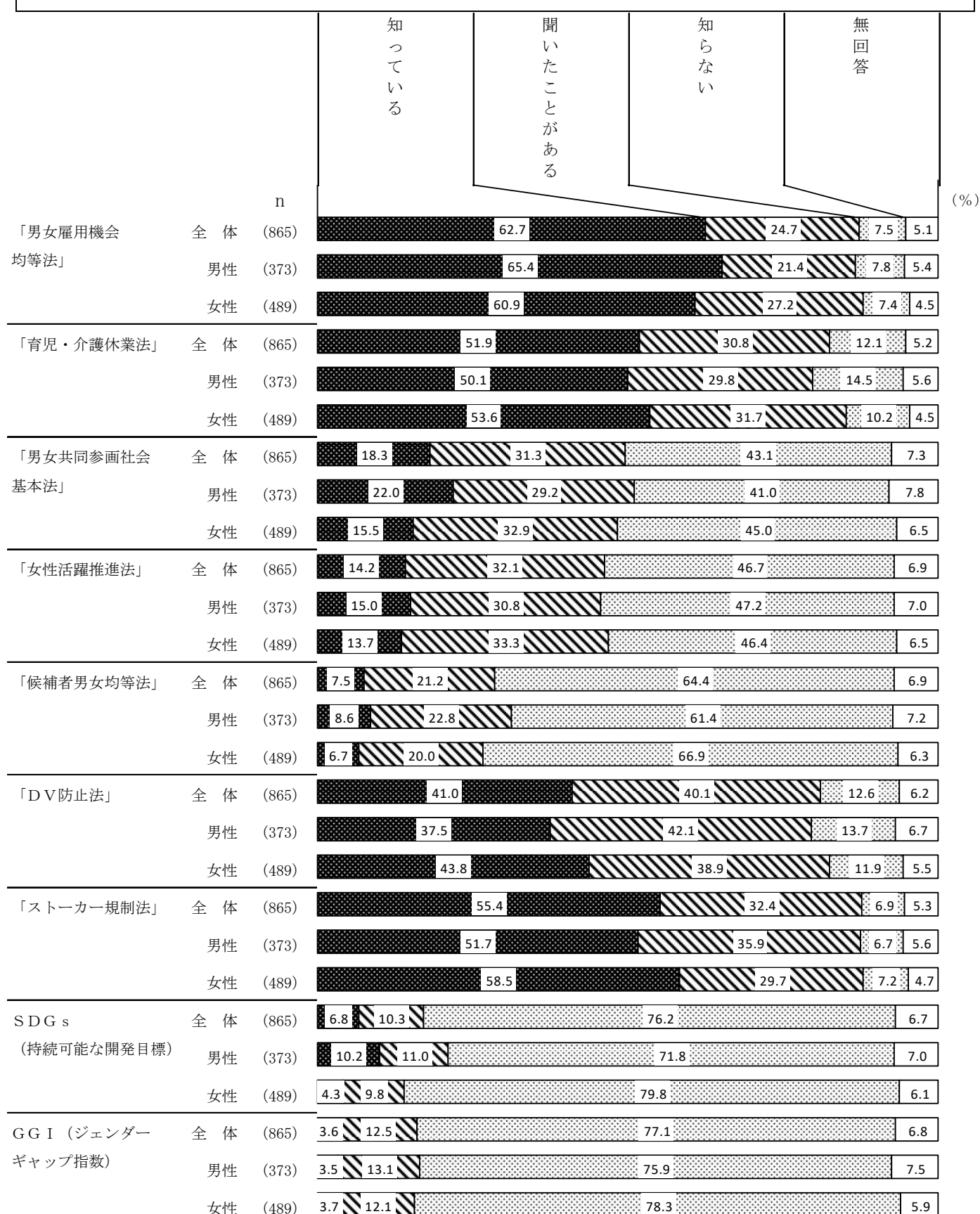
地域活動の場



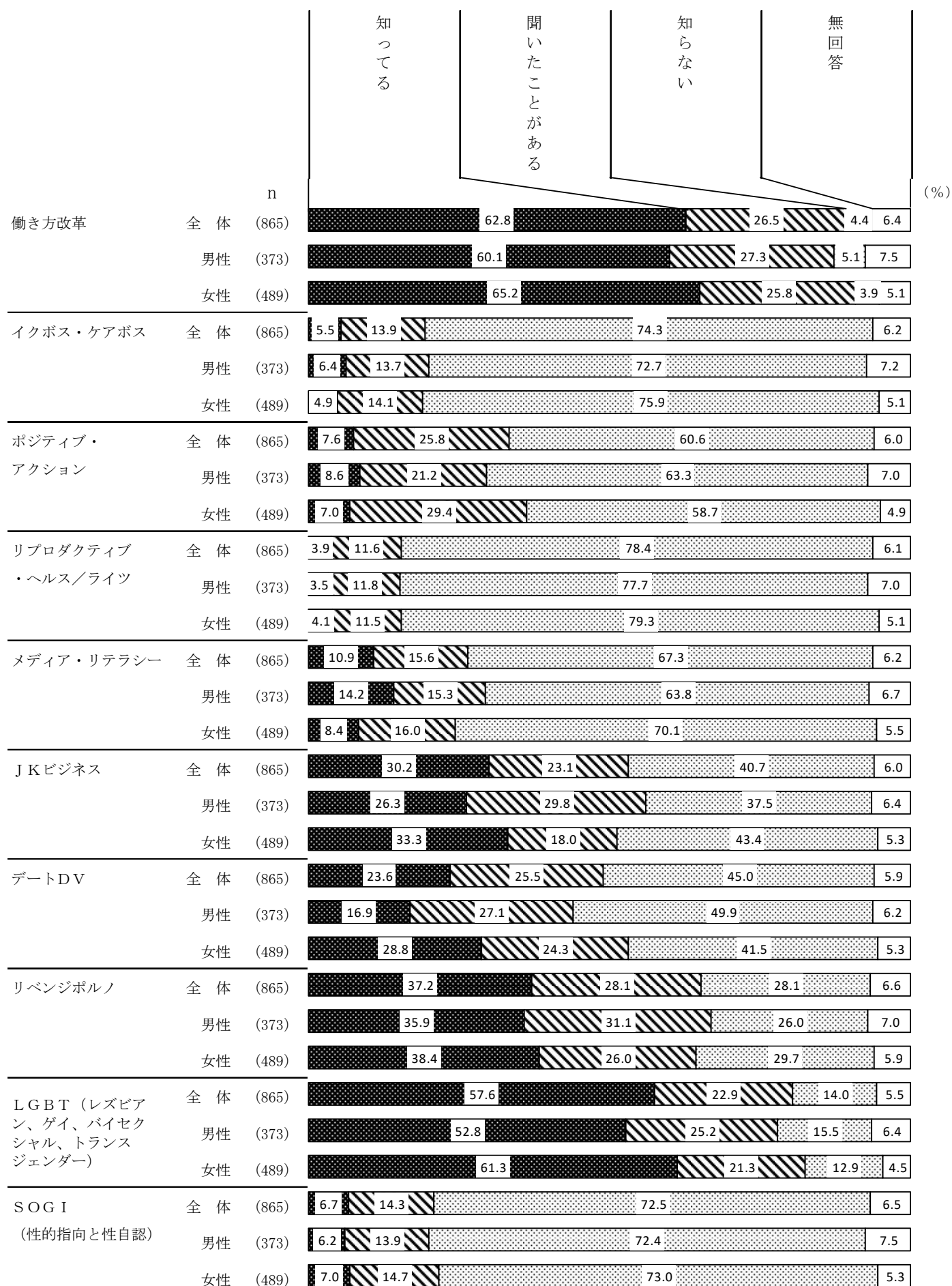
性／年齢別でみると、「対等になってきたと思う」は男性の20代で3割台、男性の30代、40代、50代、60代、70歳以上で2割台となっている。一方、女性では全世代で1割台と男性よりも少なくなっている。

(2) 男女共同参画に関する法律や用語の認知状況

問 31 男女共同参画を進めるために制定された法律や男女共同参画に関する用語について知っていたり、聞いたことがありますか。当てはまるところに○をつけてください。



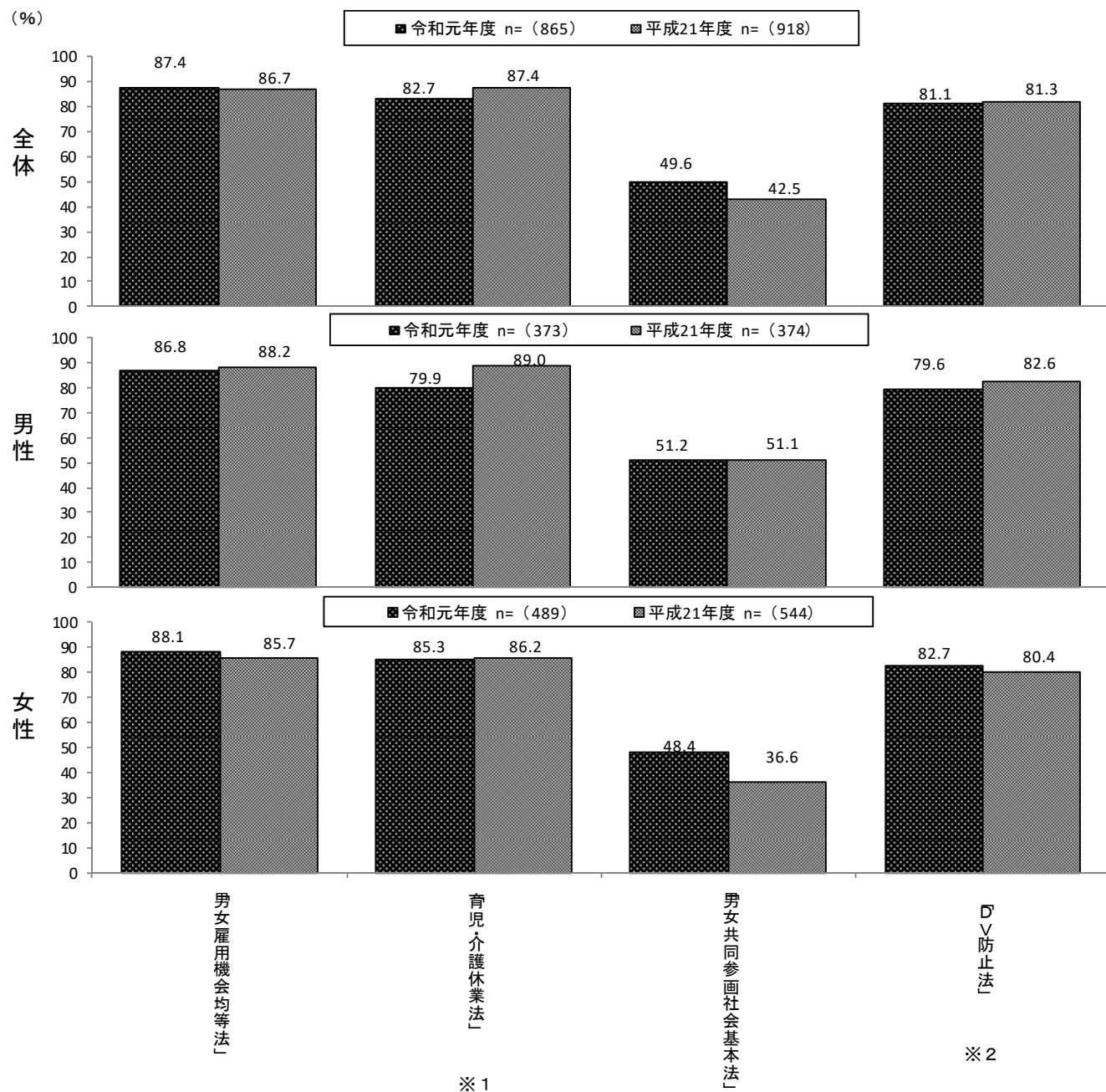
第2章 調査結果の詳細



男女共同参画に関する法律や用語の認知状況について尋ねたところ、「知っている」は＜働き方改革＞で62.8%と最も多く、次いで＜男女雇用機会均等法＞で62.7%、＜LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー）＞で57.6%、「ストーカー規制法」で55.4%、「育児・介護休業法」で51.9%となっている。また、「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた《認知度》は、＜働き方改革＞で89.3%、＜ストーカー規制法＞で87.8%、＜男女雇用機会均等法＞で87.4%、＜育児・介護休業法＞で82.7%、＜DV防止法＞で81.1%、＜LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー）＞で80.5%となっている。

性別でみると、男性では「知っている」は、＜男女雇用機会均等法＞、＜男女共同参画基本法＞、＜SDGs（持続可能な開発目標）＞、＜メディア・リテラシー＞において女性を上回っている。一方、女性では「知っている」は、＜DV防止法＞、＜ストーカー規制法＞、＜働き方改革＞、＜JKビジネス＞、＜デートDV＞、＜LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー）＞において男性を上回っている。

男女共同参画に関する法律や用語の認知状況（《認知度》の割合） 経年比較



平成21年度の調査結果と比較すると、女性では「男女共同参画社会基本法」で《認知度》が大きく増加している。

男女共同参画に関する法律や用語の認知状況（《認知度》の割合）

（％）

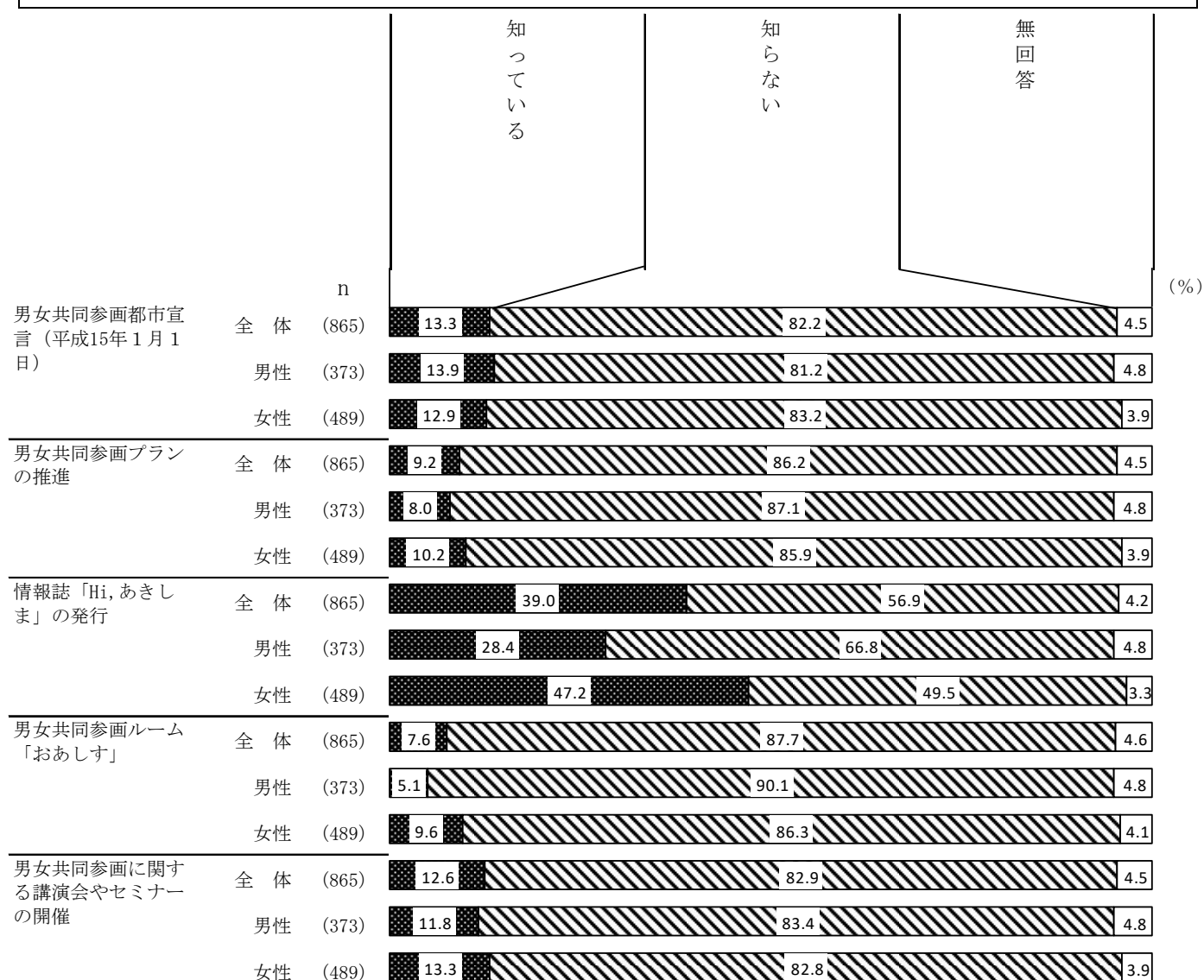
	n	「男女雇用 機会均等 法」	「育児・介 護休業法」	「男女共同 参画社会基 本法」	「女性活躍 推進法」	「候補者男 女均等法」	「DV防止 法」	「ストー カー規制 法」	SDGs (持続可能 な開発目 標)	GGI (ジェン ダーギャッ プ指数)	働き方改革
全体	(865)	87.4	82.7	49.6	46.3	28.7	81.1	87.8	17.1	16.1	89.3
男性／10代	(6)	100.0	100.0	100.0	33.3	33.3	83.3	66.6	33.3	16.7	100.0
20代	(35)	74.3	68.5	60.0	57.1	31.4	71.4	77.1	17.1	22.8	77.1
30代	(50)	94.0	80.0	50.0	48.0	24.0	78.0	98.0	26.0	22.0	96.0
40代	(71)	85.9	77.5	49.3	39.5	19.7	74.7	87.3	31.0	19.7	94.4
50代	(70)	88.6	84.3	51.4	51.4	40.0	88.5	92.9	27.1	18.6	87.1
60代	(84)	88.1	85.8	46.4	42.9	32.1	78.6	88.1	14.2	8.3	86.9
70歳以上	(57)	84.2	73.7	50.8	43.9	40.3	82.5	80.7	8.8	14.1	77.2
女性／10代	(12)	75.0	75.0	25.0	41.6	8.3	75.0	66.6	—	16.6	91.7
20代	(46)	82.6	84.8	71.8	54.3	19.6	73.9	80.5	21.8	13.1	91.3
30代	(81)	90.1	85.2	45.7	49.4	21.0	82.7	93.9	12.3	8.6	96.3
40代	(99)	96.0	90.9	47.4	44.5	30.3	87.8	93.0	22.2	20.2	93.9
50代	(89)	88.7	86.5	48.3	49.4	29.2	91.0	91.0	5.6	15.7	91.0
60代	(99)	87.9	84.9	45.4	46.5	28.3	82.8	87.9	14.1	17.1	88.9
70歳以上	(61)	78.7	77.0	45.9	41.0	31.2	68.9	78.7	11.4	16.4	82.0

	n	イクボス・ ケアボス	ポジティ ブ・アク ション	リプロダク ティブ・ヘ ルス／ライ ツ	メディア・ リテラシー	J K ビジネ ス	デートDV	リベンジボ ルノ	LGBT (レズビアン、ゲイ、 バイセク シャル、ト ランスジェ ンダー)	SOGI (性的指向 と性自認)
全体	(865)	19.4	33.4	15.5	26.5	53.3	49.1	65.3	80.5	21.0
男性／10代	(6)	—	33.4	16.7	50.0	50.0	66.7	100.0	83.3	16.7
20代	(35)	8.6	20.0	14.3	40.0	40.0	48.6	71.4	77.1	28.6
30代	(50)	24.0	30.0	28.0	40.0	68.0	50.0	80.0	84.0	28.0
40代	(71)	25.3	26.7	12.7	42.2	73.2	50.7	87.3	84.5	18.3
50代	(70)	30.0	44.2	17.2	22.9	62.9	51.4	74.3	87.2	27.1
60代	(84)	21.5	28.6	9.5	17.8	48.8	36.9	53.6	72.6	14.3
70歳以上	(57)	5.3	22.8	14.1	21.0	36.8	26.4	35.1	61.4	10.6
女性／10代	(12)	8.3	25.0	—	50.0	50.0	41.7	58.3	83.3	50.0
20代	(46)	6.5	37.0	32.6	45.6	63.0	67.4	78.2	89.1	32.6
30代	(81)	14.8	29.6	18.5	24.7	54.3	58.0	81.4	92.6	20.9
40代	(99)	23.2	42.4	21.2	35.3	65.7	65.6	76.8	90.9	31.3
50代	(89)	22.5	41.6	11.2	22.5	60.6	58.5	69.6	87.6	14.6
60代	(99)	24.2	33.3	12.1	14.1	39.4	39.4	52.5	77.7	16.2
70歳以上	(61)	14.7	32.8	3.3	3.2	21.4	31.2	22.9	52.4	11.5

性／年齢別でみると、《認知度》は＜男女雇用機会均等法＞では男性の30代、女性の30代、40代で、《育児・介護休業法》では女性の40代で、＜DV防止法＞では女性の50代で、＜働き方改革＞では男性の30代、40代、女性の20代、30代、40代、50代で、＜LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー）＞では女性の30代、40代で9割台となっている。

(3) 昭島市の事業の認知状況

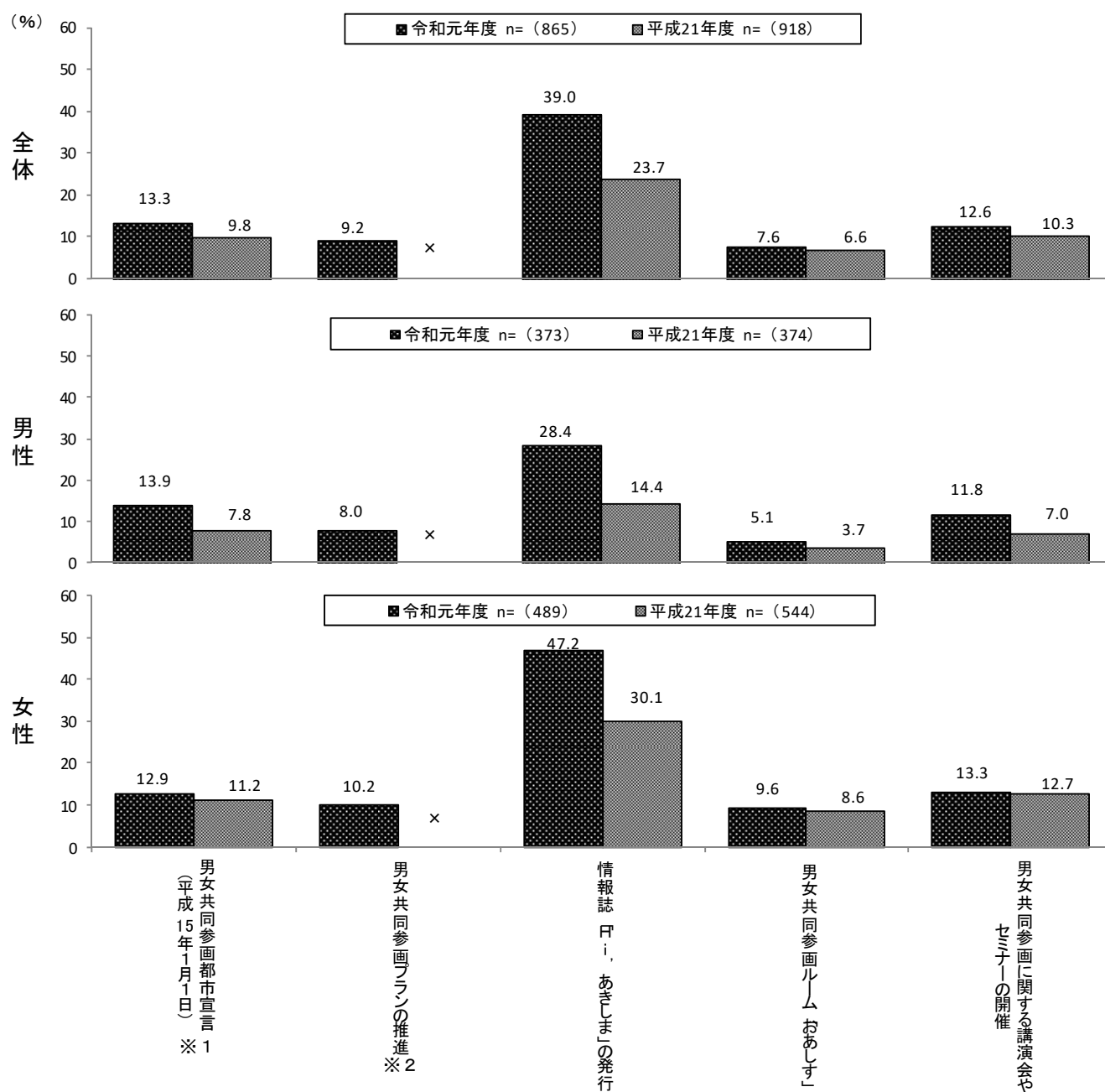
問 32 昭島市で男女共同参画を進めるために行っている次の取組を知っていますか。当てはまるところに○をつけてください。



昭島市の事業の認知状況について尋ねたところ、「知っている」は＜情報誌「Hi, あきしま」の発行＞の 39.0%が最も多く、次いで＜男女共同参画都市宣言（平成 15 年 1 月 1 日）＞で 13.3%、＜男女共同参画に関する講演会やセミナーの開催＞が 12.6%となっている。

性別でみると、＜情報誌「Hi, あきしま」の発行＞において、女性では「知っている」が 47.2%と、男性の 28.4%を大きく上回っている。

昭島市の事業の認知状況（知っているの割合） 経年比較



※1 平成21年度においては「男女共同参画都市宣言をしたこと」である。

※2 平成21年度においては「男女共同参画プラン8 あきしまジェス21」の策定」である。

平成21年度の調査結果と比較すると、男女ともに＜情報誌「Hi, あきしま」の発行＞で増加している。性別でみると、男性では＜男女共同参画都市宣言（平成15年1月1日）＞で増加している。全ての項目で認知度は増加傾向にあるものの、低い状況となっている。

昭島市の事業の認知状況（知っているの割合）

						(%)
	n	男女共同参画 都市宣言（平成15年1月1日）	男女共同参画 プランの推進	情報誌「Hi, あきしま」の 発行	男女共同参画 ルーム「おあ しす」	男女共同参画 に関する講演 会やセミナー の開催
全体	(865)	13.3	9.2	39.0	7.6	12.6
男性／10代	(6)	16.7	16.7	16.7	－	16.7
20代	(35)	11.4	8.6	5.7	－	2.9
30代	(50)	12.0	－	14.0	2.0	4.0
40代	(71)	5.6	2.8	22.5	5.6	7.0
50代	(70)	20.0	14.3	35.7	10.0	15.7
60代	(84)	13.1	7.1	35.7	3.6	10.7
70歳以上	(57)	21.1	14.0	43.9	7.0	26.3
女性／10代	(12)	－	－	8.3	－	－
20代	(46)	4.3	4.3	8.7	2.2	4.3
30代	(81)	6.2	3.7	27.2	6.2	4.9
40代	(99)	11.1	6.1	46.5	10.1	12.1
50代	(89)	14.6	13.5	64.0	12.4	15.7
60代	(99)	18.2	18.2	61.6	17.2	20.2
70歳以上	(61)	23.0	14.8	62.3	4.9	21.3

性／年齢別でみると、「知っている」は＜男女共同参画都市宣言（平成 15 年 1 月 1 日）＞では、男性の 50 代、70 歳以上、女性の 70 歳以上で 2 割台となっている。

＜男女共同参画プランの推進＞では、男性の 50 代、70 歳以上、女性の 50 代、60 代、70 歳以上で 1 割台となっている。

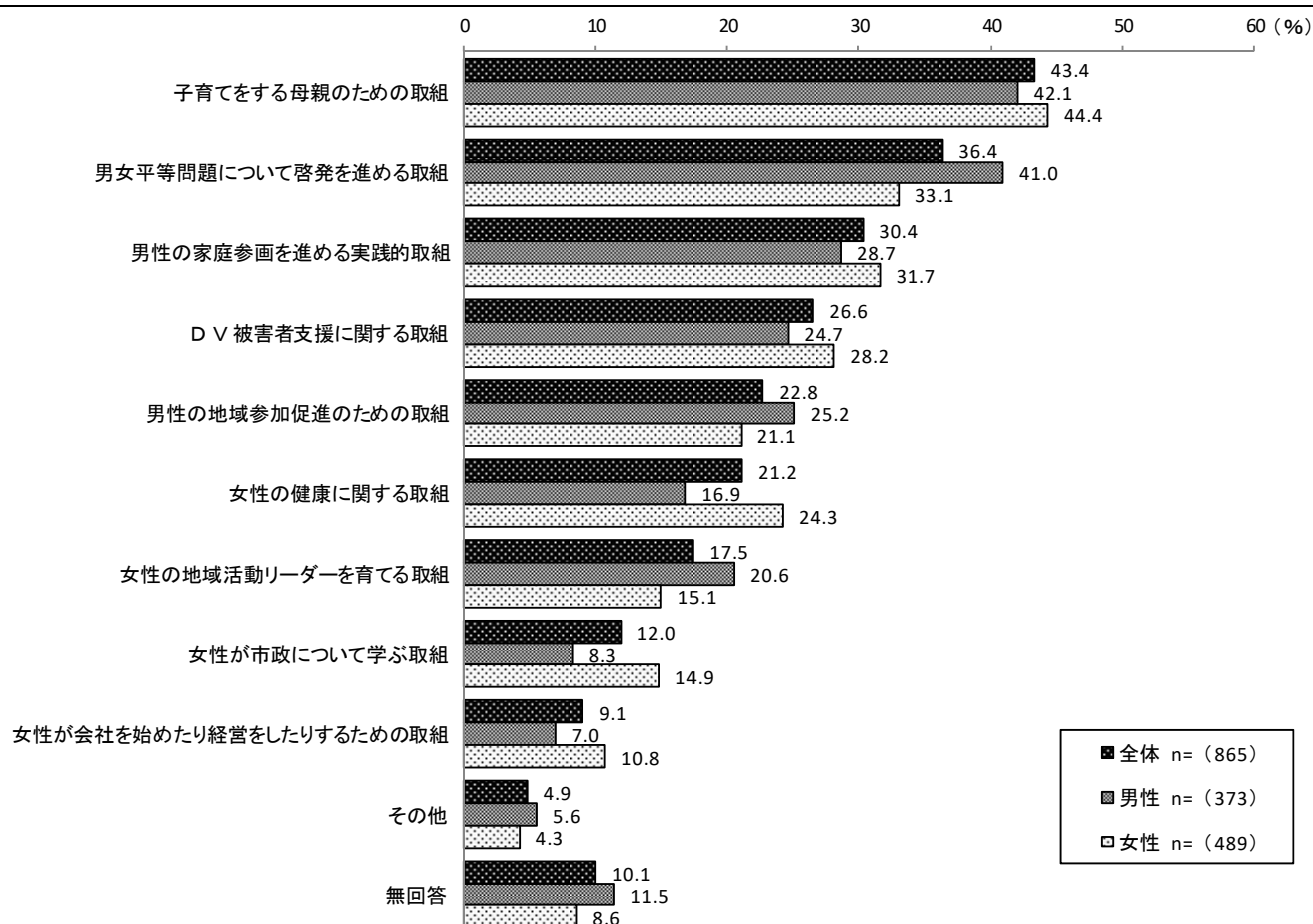
＜情報誌「Hi, あきしま」の発行＞では、女性の 50 代、60 代、70 歳以上で 6 割台、男性の 70 歳以上、女性の 40 代で 4 割台、男性の 50 代、60 代で 3 割台となっている。

＜男女共同参画ルーム「おあしす」＞では、男性の 50 代、女性の 40 代、50 代、60 代で 1 割台となっている。

＜男女共同参画に関する講演会やセミナーの開催＞では、男性の 70 歳以上、女性の 60 代、70 歳以上で 2 割台となっている。

(4) 男女共同参画センターで重点的に行うべきこと

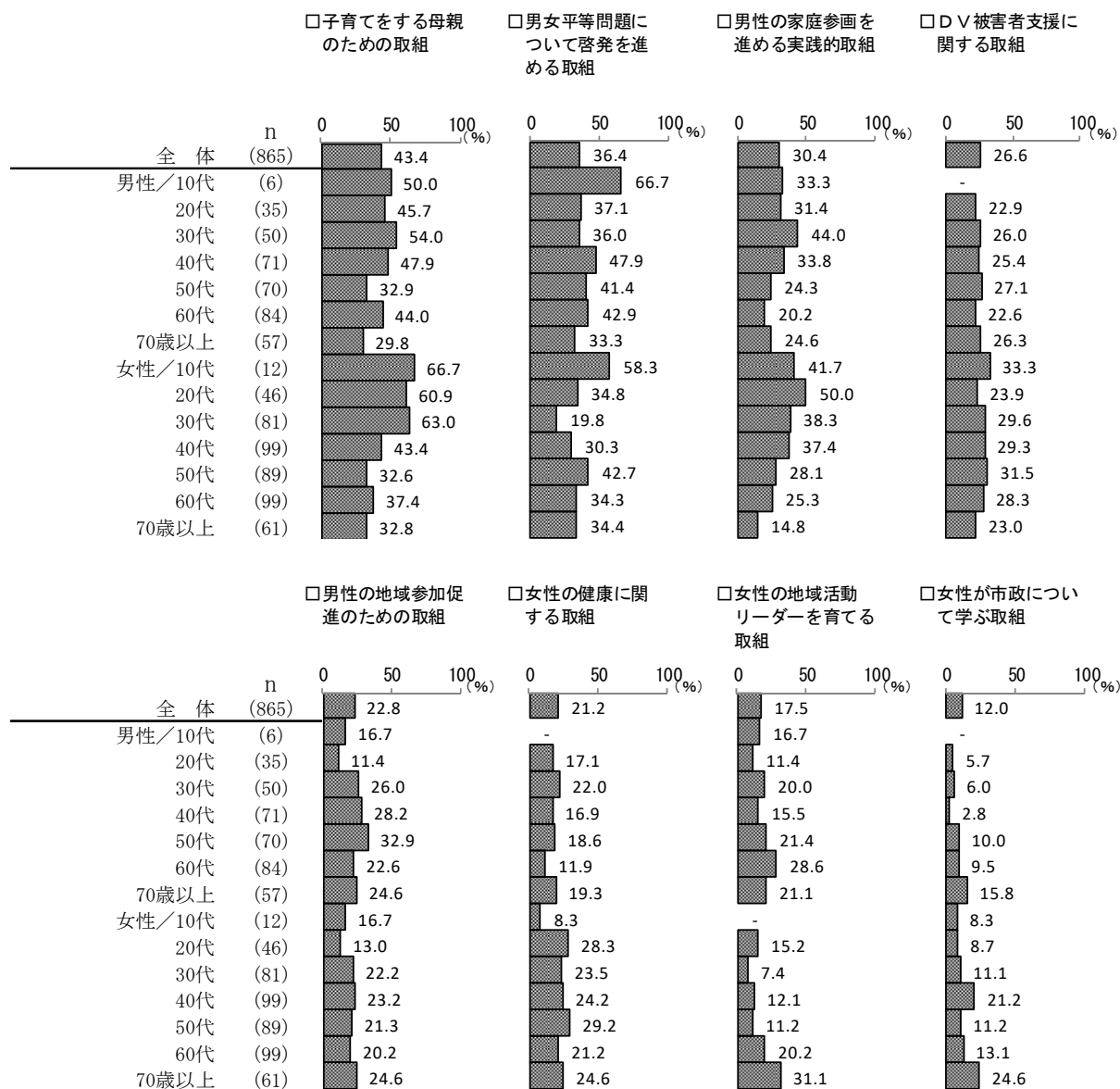
問 33 昭島市では男女共同参画ルーム「おあしす」について、市民の活動と交流の場としての機能を充実させ、また、相談支援機能を拡充した男女共同参画センターを令和2年3月に開設するため現在整備を進めています。あなたが男女共同参画センターで重点的に行うべきだと思う取組を3つまで選んでください。



男女共同参画センターで重点的に行うべきことについて尋ねたところ、「子育てをする母親のための取組」が43.4%で最も多い。次いで、「男女平等問題について啓発を進める取組」が36.4%、「男性の家庭参画を進める実践的取組」が30.4%となっている。

性別でみると、男性では「男女平等問題について啓発を進める取組」が41.0%と、女性の33.1%を上回っている。また、男性では「男性の地域参加促進のための取組」、「女性の地域活動リーダーを育てる取組」でも女性を上回っている。一方、女性では、「女性の健康に関する取組」が24.3%と、男性の16.9%を上回っている。また、女性では「女性が市政について学ぶ取組」でも男性を上回っている。

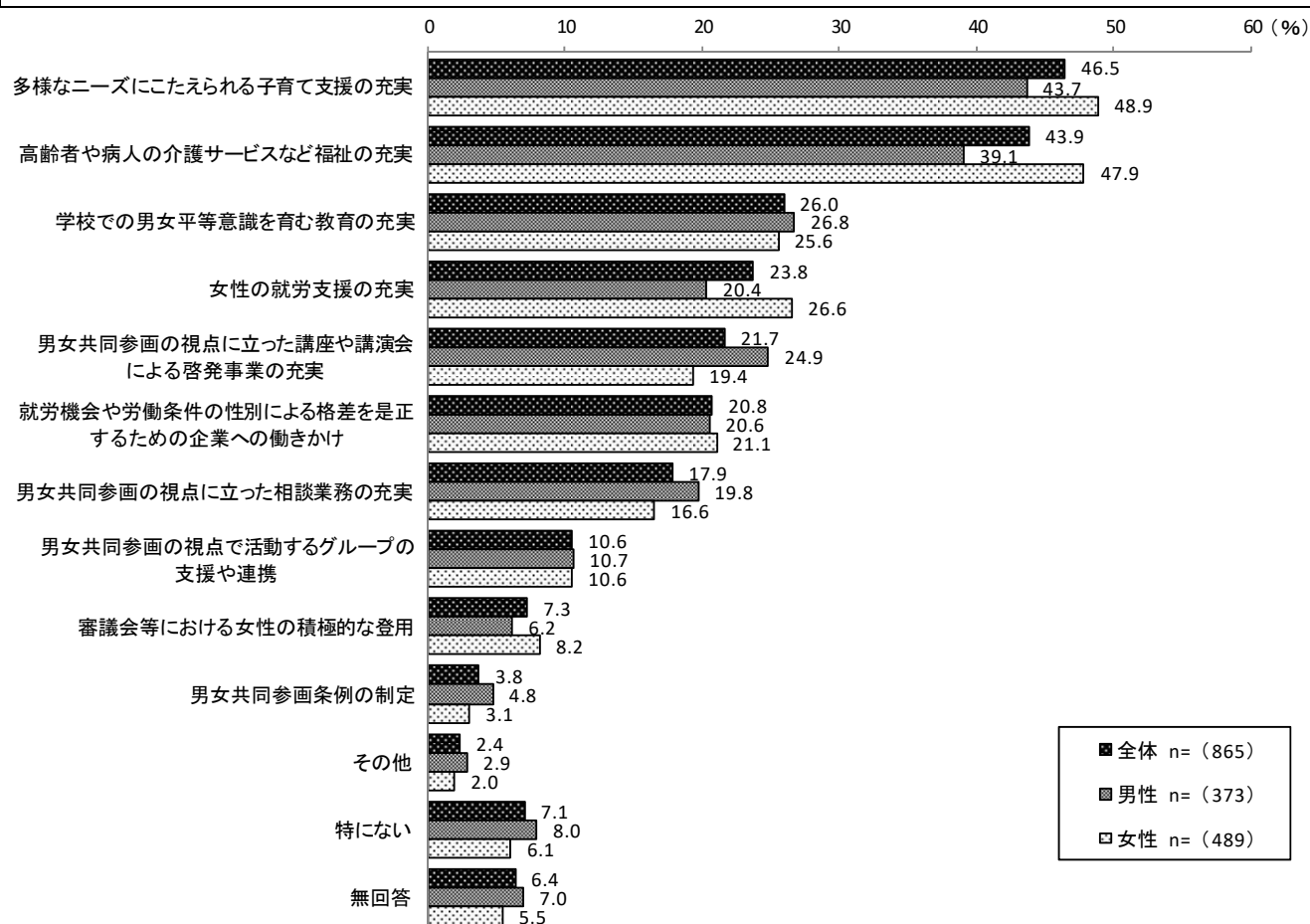
男女共同参画センターで重点的に行うべきこと（上位8項目）



性／年齢別でみると、「子育てをする母親のための取組」は女性の20代、30代で6割台、男性の30代で5割台となっている。「男女平等問題について啓発を進める取組」は男性の40代、50代、60代、女性の50代で4割台となっている。「男性の家庭参画を進める実践的取組」は女性の20代で5割、男性の30代で4割台となっている。

(5) 男女共同参画社会の実現のために市に推進してもらいたいこと

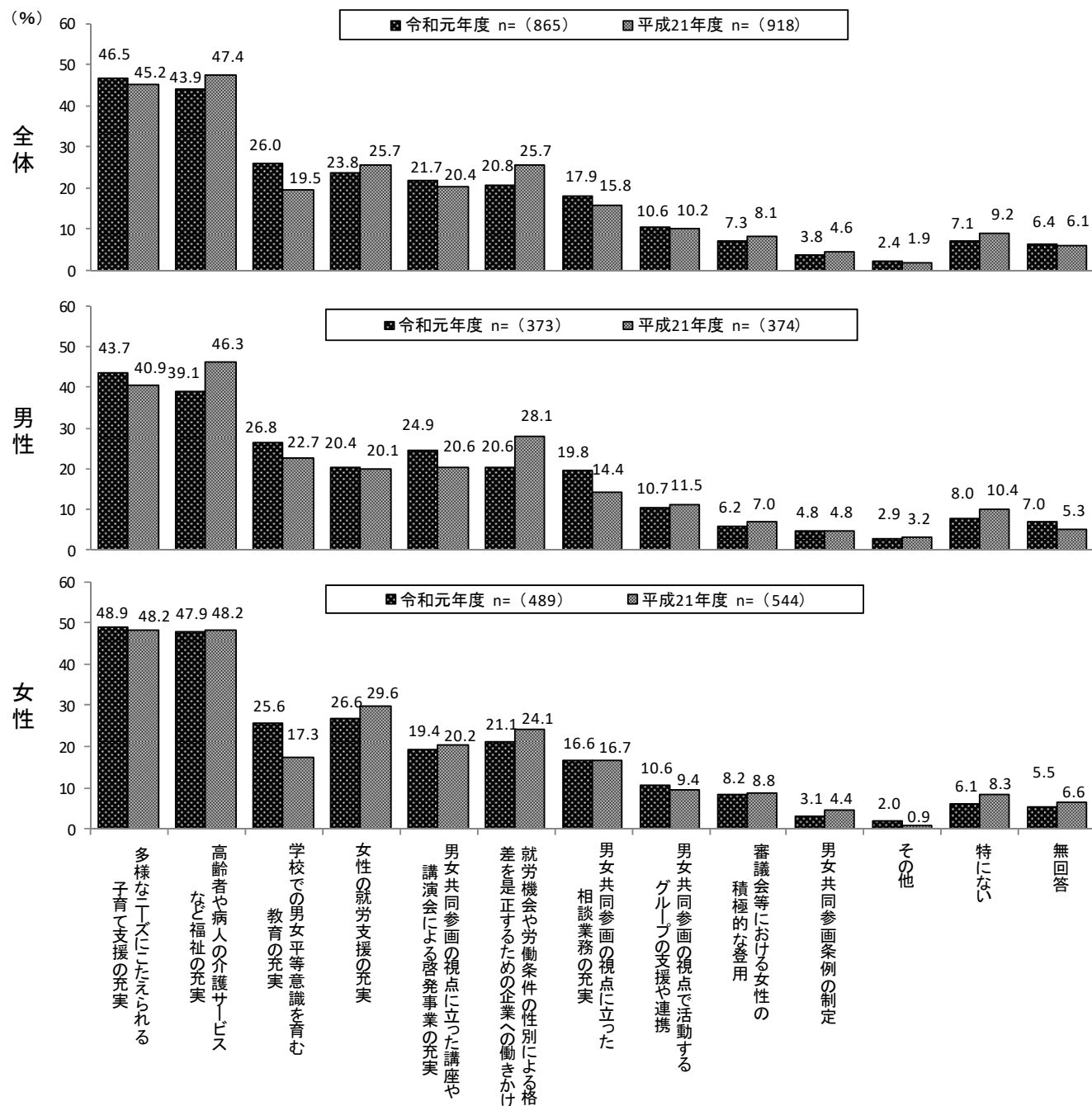
問 34 昭島市における男女共同参画を推進するために特に重要だと思うことを3つまで選んでください。



男女共同参画社会の実現のために市に推進してもらいたいことについて尋ねたところ、「多様なニーズにこたえられる子育て支援の充実」が46.5%で最も多い。次いで、「高齢者や病人の介護サービスなど福祉の充実」が43.9%、「学校での男女平等意識を育む教育の充実」が26.0%となっている。

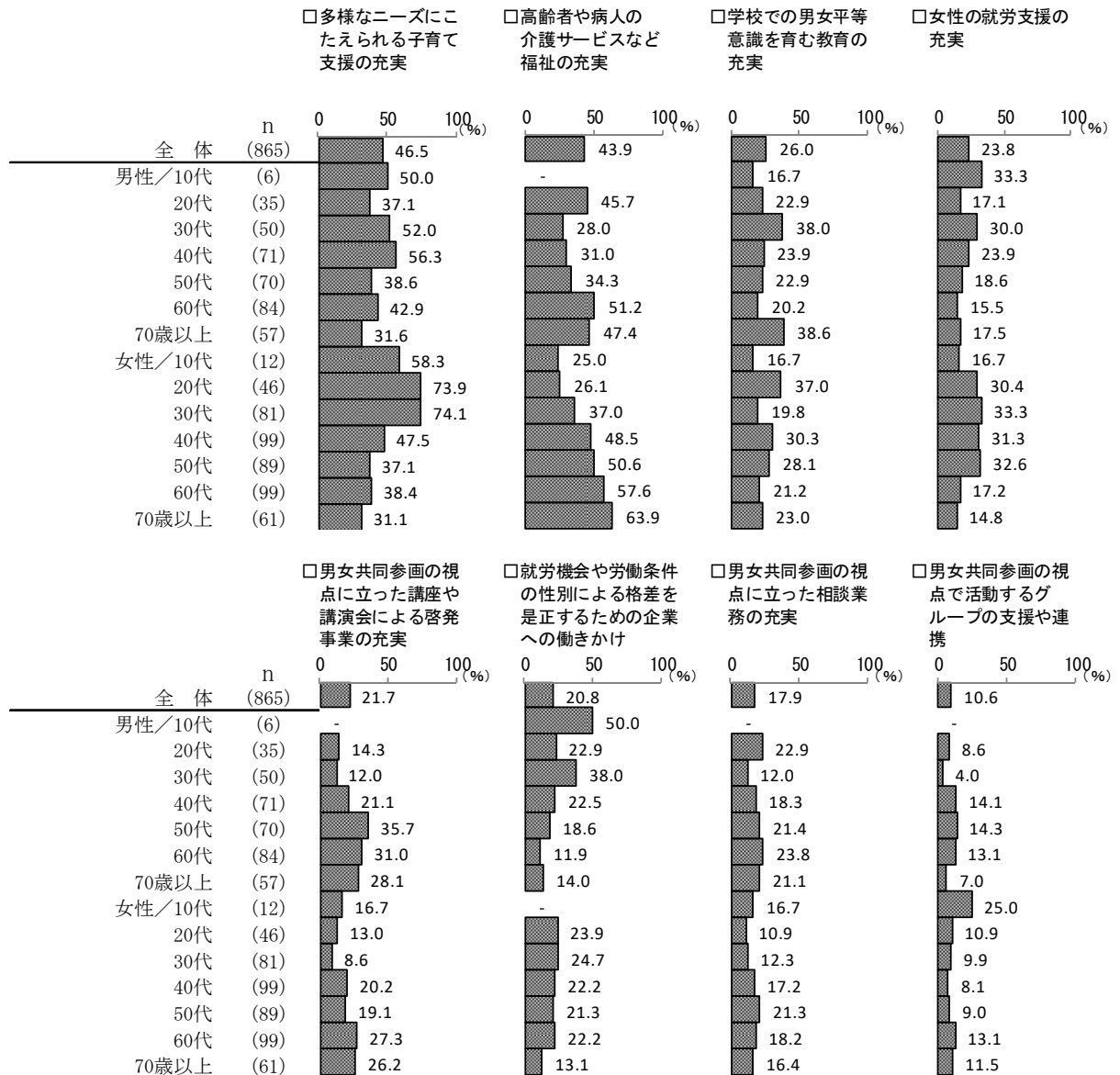
性別でみると、男性では「男女共同参画の視点に立った講座や講演会による啓発事業の充実」が24.9%と、女性の19.4%を上回っている。一方、女性では「多様なニーズにこたえられる子育て支援の充実」、「高齢者や病人の介護サービスなど福祉の充実」、「女性の就労支援の充実」が男性を大きく上回っている。

男女共同参画社会の実現のために市に推進してもらいたいこと 経年比較



平成21年度の調査と比較すると、男性では「高齢者や病人の介護サービスなど福祉の充実」、「就労機会や労働条件の性別による格差を是正するための企業への働きかけ」が減少している。女性では、「学校での男女平等意識を育む教育の充実」が増加している。

男女共同参画社会の実現のために市に推進してもらいたいこと（上位8項目）



性／年齢別でみると、「多様なニーズにこたえられる子育て支援の充実」は女性の20代、30代で7割台、男性の30代、40代で5割台となっている。「高齢者や病人の介護サービスなど福祉の充実」は女性において、年代が上がるにつれ多くなっており、女性の70歳以上で6割台となっている。「学校での男女平等意識を育む教育の充実」は男性の30代、70歳以上、女性の20代、40代で3割台となっている。

(6) 男女平等や男女共同参画に関する意見、要望

問 35 あなたが日頃から男女平等や男女共同参画について感じていることや、市の施策についてのご意見などがありましたらご自由にお書きください。

男女平等や男女共同参画について自由に意見を記述していただいたところ、男性 72 人、女性 85 人、無回答 2 人の合計 159 人の方から 270 件の意見が寄せられました。紙面の都合で、その中からいくつか意見を抜粋して掲載いたします。内容については、意見の趣旨を損なわないように、一部要約したものもあります。

	件数
総数	270
家庭生活と社会生活の両立について	11
家庭生活について	14
子育て・介護について	33
就労について	29
地域活動について	10
人権について	18
男女共同参画事業について	62
その他（今後考えたい、調査内容について、市の職員の仕事について等）	73
特になし	20

●家庭生活と社会の両立について

職場の是正、改善が一番だと思う。職場が良くなれば、自分の時間や家庭の時間等も充実してくると思う。まだまだ日本は、昔の考えのまま。社員の為より会社の為という考え方が多数。(女性・50代)

働く母があたり前のような世の中になってきたが、保育園のお迎えや保護者会の参加は女性ばかり。子どもが病気になった時にまず休むのは母親、病児保育に入れようと奮闘するのも母親ばかり。父親って仕事に集中出来て良いねと思ってしまう。男性が子どもの看病で仕事を休むと「えらいね～」と言われるが、女性が仕事で残業しても「子どもほったらかしにして…」と言われる始末。今は子どもが小さく、かわいい顔を見て癒されるが、反抗期でもきたら私の仕事や生活に対するモチベーションはどうやって維持されるのだろう。人生辛い事ばかり。ほぼ愚痴ばかりで、すみません。(女性・40代)

企業（少なくとも勤め先）には「男性が長時間労働すること」を前提とした、仕事が多く残っていると感じる。一方、家庭では「男女で家事を協力して当然」という意識が高まっていると感じる。この2つから板挟みのようなやりづらさ、世知辛さを感じる。こういった状況を解消していきたい。(男性・20代)

前職にて産休・育休制度を利用後2年間つとめた。保育園に預けることもでき、夫や祖父母の協力にも恵まれていたがフルタイム（時短）でも限界があった。在宅ワークの拡充、時短勤務もだが週3日～でも正社員可能な制度などもっと柔軟な働き方を提供してほしい。子どもが小さいうちは、なるべく母親が面倒をみられるところまでみたいが、仕事も続けたいと私は思う。(女性・30代)

●家庭生活について

適材適所・需要と供給があり、男女平等にはできない部分がある。平等にできる部分で家庭・子育てなど介護も含めて、男性の就労形態が見直されないかぎり、何事も始まらないと思っている。(女性・40代)
私は数年前80才過ぎの両親を同じ時期に介護しました。友人に相談しても「頑張って」と言われるだけで本人が頑張っても親は衰えていくばかりで辛かった。主人も仕事に行くし、姉も遠方でたまに来るばかりで苦勞しました。結局、地域やヘルパーさんにも頼れず父は亡くなり、母は施設に入っています。回りの協力の必要性をつくづく感じました。(女性・60代)
この質問事項の紙がそもそもナンセンス。家庭生活で男女が平等でない事を前提に10年前と比べ〜と書かれているのが不快。うちはずっと平等です。(女性・30代)
(今年4月に昭島市に越してまいりました。)家庭をはじめ、小さな単位での支えあいが豊かに広がっていったら良いと思います。(女性・40代)
兄妹間でも、介護は女性まかせという考えが昭和生まれにはあるような…。介護していると(施設入所していても、入院していても、年金少ないと子どもが支払わないといけない。それが大変。健康なら働けるけど…疲れから体を壊してしまう。頼れる人もいない。なんとかならないでしょうか?)、仕事もできないし、お金がかかる。子育ても大変だけど、介護も大変。生活していくのが本当に大変。こういう方、増えていくのではないのでしょうか?(女性・50代)

●子育て・介護について

市役所の授乳スペースの改善。女性が貸りやすい物件を作り、カフェなど開業しやすくする。赤ん坊が楽しめるイベントを作ってあげてください。(男性・70歳以上)
“イクメン”という言葉がある以上、やはり育児は女性がするもので育児をする男性は「えらい、すごい」という風に捉えられてるのだと感じる。育児や家事を男性もするのがあたり前になっていけばいいと思う。(女性・20代)
子育てに関してはやはり男女平等にというより、お母さんにしか出来ない役割は大きいと思っています。子育て以上に大事な仕事なんてないはず!!昭和な考えでしょうか…?(女性・50代)
男性も育児に関わる機会が増えたが、歩道や路肩がせまく、特に子どもを歩かせる場合やベビーカーを利用する際に危険だと感じる場所が多い。男性にとって、産前産後の妻や子どものケアについて学ぶ機会は多く設けられているが、幼児期等における知識を得られる機会が少なく、育児の多くを妻に頼ってしまう部分がある。(男性・30代)
子どもをほしいと考えていますが、子育て支援の不安や家庭の経済状況により産むのが難しい現実です。安心して子どもが産める市の援助があると嬉しいです。(男性・20代)
若者の経済的な問題で子どもを多く産めない状況を改善する為の施策(保育の無償化などが好例)を最重要視した方が良いと思います。それにより市に若者がより多く集まり、地域を長期にわたり、活性化させることができると感じます。昭島をより、皆が好きになる町にしたいです。(男性・20代)
男性の子育ての参加率はまだまだ低いと思います。母親にばかり負担がかかるのはおかしいことなので、労働時間の短縮や休暇を取得しやすいようにするべきだと思います。(女性・20代)
小学校の職員、市の職員がもっと小さな子どもたちへの温かい目、ゆとりのある目が欲しい。保育料はとても冷たいし、小中学校では子どものとても大切な時期のいじめを見逃している。忙しいを理由にせず、責任を持ってほしい。安心・安全が昭島には足りない。児童館や、公園施設が他の地域に比べて不十分だと思う。教育も遅れている。(かなり)(女性・30代)

大人になってから意識を変えるのはとても大変なことだと思います。TVのCM（洗濯洗剤、食器洗い用洗剤、調味料（調理）など）を見ているとほとんど女性がやっているし、小中学校ではPTAはほぼ母親ばかりがやっています。幼い頃からそのような環境で育てられれば女性が家のことをやるのが当たり前だと思うのではないのでしょうか。小さい頃からの男女平等の意識付けが大事だと思います。（女性・40代）
家庭の中では、様々な場面で、子どもが母親を選ぶので家事・育児の分担は困難な時が多いです。平等とは言っても、結局、男女で役割があるのだなあと、日々痛感しています。（女性・30代）
妊娠・出産を機に、1度退職した場合、社会復帰がしにくいのが、不安です。仕事を探している時→保育園に入園できない（ポイントが少ない等で…）。保育園が決まらなないと、採用してもらえない（会社側は、いつから働けるか知りたいですよ…）。その為、今の所で正社員で働き続けなければならない。（勤務の日々の休みや、勤務時間を子ども基準にしたいと思っても、転職しにくいし退職しても新しい職場探しが大変）（女性・30代）
子育てや介護について女性の負担が大きいと感じている。早急に支援の充実を図ることを希望します。 (女性・60代)

●就労について

企業の雇用形態（新卒一括採用、年功序列、終身雇用）が変わらない限り、男女平等のあらゆる施策は効果がないと思う。男性が組織に従属し、家庭よりも仕事を優先させられ、転勤も長時間労働も受け入れざるを得ないのが、現状である。労働環境の改善に本気で取り組んでもらいたい。（男性・30代）
男尊女卑の風習がまだ残っている日本ですが今は時代が変わりどんどん女性も活躍の場が多くなっています。ぜひこれからはお子様がいる、いないに関係なく女性が気持ちよく仕事が出きる場を作っていただきたいです。（女性・50代）
企業の採用面で、特に実感しているのが、性差別よりも、年齢差別が厳しいこと。実年齢が、40を過ぎると、もう、パートか独立開業の二択しかなくなってしまう。その面で、開業サポートの充実も、行政の施策として重要だと思う。（男性・40代）
経営者の意識が変わらなないと、末端で何をやっても効果はない。（男性・40代）

●地域活動について

男性の地域活動が少ないと感じているため、地域参加の例を教えてください。（男性・50代）
地域活動に参加したら「子どもは何人いるの？」と聞かれ、「もっと産みなさい！」と言われた。そういった無責任な事を言う高齢男性が、考えを改めてくれる啓発活動があれば良いと思う。うんざりします。 (女性・40代)
地域活動・ボランティア 市の開催する諸々の会に参加する。まだまだ気付かされる事が多々有る。まずは出掛けて行く事です。（女性・70歳以上）

●人権について

デートDVなどは正しい性教育で防止できるのではと思います。自分自身、性マイノリティの知識が最近までなかったので、まずは正しい知識を得ることが大切だと思います。そのためには学校、教育現場での子どもに対する偏見のない正しい性教育が重要になるのではないのでしょうか。（女性・40代）
男女参画について自分は不自由を感じたことはないが、DVやLGBTで苦しんでいる人の助けは必要だと思う。（女性・40代）

男女共同参画という言葉自体に異和感を覚える人も居るのではないかと思います。男女でくくれない感性の人にも対応した言葉にならないものかと思う。このアンケートの質問や選択肢自体、何か偏りを感じ、答えにくいところが多々あった。(女性・50代)

パートナーシップ制度など、LGBTに関する支援を行っている自治体が増えている中、昭島市では何もしていないのではないかと。(男性・30代)

●男女共同参画事業について

自治会の仕事等、男性でなければできないと決めつけている人がいた。やりたがる人がいないのであれば、報酬制にするとかすべきだと思う。全部市でやってもらって、税金上げて、雇用を生み出せば良いと思う。実際、体力など超えられない差があるのだから、男女平等は無理だと思う。無理でも啓発をし続けなければならない矛盾が大変だなあ、と思う。働きたくない女性もいるので、その自由や、専業主婦だから、と逆にPTAを押し付けるのも良くないと思う。(女性・30代)

今まで勤務して来た会社は男女平等で、賃金、昇進に差がなかった。又、働き方も共働きでお互い理解してきたつもりです。男女差がいろいろな場面で出ている実感がよく分かりません。色々な方の意見から、課題の抽出と改善を目指して下さい。(男性・60代)

男女平等や男女共同という言葉自体が、女性がもっと上へ社会へという感じがしてしまいます。それと同様に、もっと男性が家庭を顧みるために女性の社会進出をしやすくなる社会になればいいと思います。子どもを産むのは永遠に女性にしか出来ません。そのことをリスクと思わせないようにしてもらいたいです。ちなみに問1・2・3は仕事が好きで優先したいわけでも10時間以上働きたいわけでもありません。働かざるを得ないわけです。(女性・50代)

「女性だから」採用しないというのは変だが、「女性だから」(積極的に)採用するというのも変だと思う。性別に関係なく、その仕事に対し、意欲と能力がある人が就くべきだと思う。同じように、性別に関係なく、家庭生活(家事・育児・介護など)に専念したい人は専念でき、両立したい人は両立できるのが理想的。それぞれの人の生き方の選択が認められる社会であるよう、市も取り組んで下さるのを期待しております。(女性・40代)

日頃、あまり考えようとしなければ思いつかない男女の平等に関して、今回の様な意識調査の回答で、改めて考える機会を得ました。一人一人の意識の向上と啓発によって、少しでも地域社会がより良いものになっていく事に期待します。(男性・40代)

市の施策は情報発進力が低く、市民の誰も知らないことが多い。男女共同参画も本当に必要なのか、もっと他の施策はないのか考えた方がいい。(女性・50代)

「男女平等」だからと、女性議員を増やしたことや、女性リーダーを前面に出してくることに違和感がある。数を増やせばいいってもんじゃないのでは…と、ニュースを見るたび思う。男女平等を盾に、女性であることをアピールすることは、逆に男性を乏しめることになるのではと感ずることがある。私は女だが、最近の「男女平等」には、若干ついていけない。(女性・40代)

昭島市が、日頃から男女平等や男女共同参画についてどう感じているか、市の施策として何をしているか、わからない。(男性・70歳以上)

日常生活における男女平等は難しいと思うので、両性の個性を尊重する視点をもって「平等」に変わる言葉があったら良いのに、と思うことがあります。(男性・20代)

配偶者に対する「扶養」という制度、考え方が特に女性の社会への参画を邪魔していると考えます。成人すれば皆、一人前、一人立ちと考えれば自然と働くことへ気持ちが向かうのではないのでしょうか。

(男性・40代)

何をもって男女平等なのかかわからない。女性を優遇しているだけの様に思われる。男女の人数を等しくするのは意味があるのか？本当の能力だけで女性を評価しないと、結局差別になってしまうと思う。筋力以外の能力はそれほど差はないと思うし、女性の方が精神的にタフだと思うので、このままいくと男性の立場が弱くなってしまうと思います。日本ほど男女平等の社会はないと思います。海外（欧米）の表面的な情報にまどわされないでほしい。(性・年齢不明)

こういった取組があることを知りませんでした。必要なところに必要な情報が届くようになるともっと便利になると思います。(女性・40代)

●その他

今回初めてこの取り組みを知りました。素晴らしいと思います。さらに言うと、紙での回答ではなく、書面での案内→インターネットでの回答などとするとエコで、集計も楽なのではないと思います。(女性・40代)

無作為とはいえ選んで頂きありがとうございます。男女共同参画という言葉は見・聞きしたことはありますが関心はありませんでした。問31の用語を見ますと身近な内容だと分かりました。今回のアンケートをきっかけに目を向けようと思いました。(女性・60代)

アンケートや調査など、“ただ目に見えてやっている感”を市民に示すだけでなく、本当に市民が必要としているものや考え方を、行政が知ることに努力し、実行してほしい。(女性・50代)

集計をマークシートにしてください(男性・20代)

市民意識調査にかかる費用を、もっと、市民に還元した方が良いのでは？無駄遣いな気がする。この調査は市民全体が、知りたい情報なのか？って感じる。(女性・40代)

昭島市男女共同参画プラン策定のロードマップがどのようなになっているのか調査票に書いておいていただきたかった。(男性・50代)

回答はマークシートなどに記載して返却してもらったら集計・分析が容易。通信費も安くなるのでは。

(男性・60代)

「Hi あきしま」の内容のなさ、あれだけの紙質で作る内容ではないと思う。経費のムダとしか思えない。何かをやっているという形だけを市では行なっていますという他へのただのアプローチでしかない。その様な所に人員を配置したりこの様なアンケートしか考えられない担当の職員は必要ないと思います。

(女性・50代)

昭島市に住んで3年。友人知人に語れるもの（魅力）がない。(男性・70歳以上)

普段の生活で気付かなかった問題を知り、また、なんとなくだった自分の考えも見つめ直すいい機会になりました。ありがとうございます。(男性・40代)

相談できる場所をもっとふやしてほしいです。あるいは、専門の相談員を、月ごとに周回するなど、悩みを打ち明けたい人のために、もっと場所や機会を設けてほしいです。(女性・50代)

第 3 章 調査票

男女共同参画に関する市民意識調査 報告書
令和元年 11 月

発 行：昭島市企画部企画政策課 男女共同参画担当
〒196-8511 昭島市田中町一丁目 17 番 1 号
電話：042-544-5111（代表）

調査実施：株式会社タイム・エージェント